S-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。記載されているすべての機能がお客様の車両には装備されていない場合があることにご留意ください。

表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書には 100km/h を上回る車両速度での性能データおよび車両状況も記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度に従ってください。

メルセデス・ベンツは車両を最先端にする改良を絶えず行なっています。

そのため、デザイン、装備などが予告なく変更されることがあり、 この取扱説明書に含まれる記述やイラストと異なる場合があります。

以下のものは、車両の一部ですので、 常に車両に搭載してください。

- 取扱説明書
- 整備手帳
- 車両に搭載されているすべての補足版

次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべての書類をお渡しください。

スマートフォンアプリの S クラスガイドアプリを使用することもできます。

Apple® iOS

Android ™

メルセデス・ベンツのガイドアプリは必ずしも日本仕様の車両に適したコンテンツではないことに留意してください。

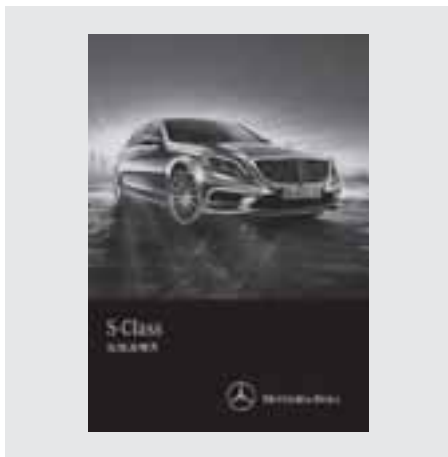
Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

車両に搭載されている取扱説明書について

本車両には、以下の取扱説明書が搭載されています。

- 印刷版取扱説明書（本書）
- デジタル版取扱説明書（COMAND システムに収録）

印刷版取扱説明書

印刷版取扱説明書には、車両の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置など車両の取り扱いに関する全ての情報が記載されています。

デジタル版取扱説明書

デジタル版取扱説明書には、車両およびCOMAND システムの取り扱いに関する情報が記載されています。

ただし、本国仕様の内容など、お車と異なる記載が含まれています。

デジタル版取扱説明書の操作方法は 3 ページをご覧ください。

デジタル版取扱説明書の内容に関する訂正事項は 529 ページ以降に記載しています。

ⓘ デジタル版取扱説明書のご利用に当たり、お客様には一切費用はかかりません。デジタル版取扱説明書はインターネットに接続せずに作動します。

デジタル版取扱説明書の項目にアクセスするためには、3 つの方法があります。

- **イメージ検索**

  イメージ検索により、車両を " システム上で " 調べることができます。車両のエクステリア画像、あるいはインテリア画像のいずれかから開始し、デジタル版取扱説明書に記載されているさまざまな項目にアクセスすることができます。車両のインテリアの項目にアクセスするためには、" 車内 " の画像を選択します。

- **キーワード検索**

  キーワード検索は、文字入力によりキーワードの検索ができます。さらなる情報は、デジタル版取扱説明書の "COMAND システム " の項目における、キーワード " 文字入力 " にあります。

- **目次**

  目次の個別の項目を選択できます。

ⓘ 安全上の理由のため、走行中はデジタル版取扱説明書は作動しません。

操作

デジタル版取扱説明書の呼び出し

▶ センターコンソールの [車] スイッチを押します。

車両に関連した概要が開きます。

▶ COMAND コントローラーをまわすか ◎、スライドして ←◎→、メニュー項目の " 取扱説明書 " を選択します。

▶ 警告および安全上の注意事項に関するメッセージを確認します ◎。

デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

デジタル版取扱説明書の操作

全体的な注意事項

COMAND コントローラーの操作に関する情報に従ってください(▷410ページ)。

コンテンツページ

イメージ検索、キーワード検索により、または目次を使用してコンテンツページにアクセスすることができます。

▶ **前 / 後にスクロールする：** COMAND コントローラーをまわします ◎。

▶ **拡大表示する：** 画像がある場合は、COMAND コントローラーを左にスライドします ←◎ ①。

▶ **注意事項のメッセージを選択する / ブックマークを保存する：** COMAND コントローラーを右にスライドします ◎→ ②。

▶ **リンクを選択する：** COMAND コントローラーを下にスライドします ↓◎ ③。

▶ **デジタル版取扱説明書の基本メニューを呼び出す：** ⌂ ⑤ マークを選択します。

▶ **センターコンソールのスイッチを使用して、機能を COMAND システムに切り替える：** RADIO、TEL、MEDIA または NAVI スイッチを押します。

選択されたメニューが開きます。デジタル版取扱説明書はバックグラウンドで開いたままになります。

▶ **デジタル版取扱説明書を閉じる：** COMAND コントローラー横のリターンスイッチ ⮌ を押して保持します。

あ

か

さ

た

ま

や

ら

わ

英字

環境保護

全体的な注意事項

環境に関する注意事項

Daimler は、包括的な環境保護の一つとしての対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境に配慮した方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の使用状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。以下のことにご留意ください。

使用状況

- 短距離の走行は燃料消費を増やす原因となります。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 必要でないときは、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速やブレーキ操作は避けてください。
- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の 2/3 までにとどめてください。
- 渋滞しているときは、エンジンを停止してください。
- 車両の燃費に注意してください。

環境に関する注意事項

故障した高電圧バッテリーの廃棄は、環境に配慮した方法で行なってください。必要な専門知識と専用ツールを備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。この目的のため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼することを、メルセデス·ベンツは推奨します。

メルセデス・ベンツ純正部品

環境に関する注意事項

Daimler AG では、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

! 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリーを取り付けないでください。修理や板金作業を行なわないでください。乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない安全性に関わる部品、タイヤおよびホイール、ならびにアクセサリーなどを使用する場合は、車両の操作に関する安全性を損なうおそれがあります。ブレーキシステムなどの安全に関連したシステムが故障するおそれがあります。メルセデス・ベンツ純正部品または同等の品質の部品のみを使用してください。タイヤやホイール、アクセサリーなどは必ず、車両用に明確に承認された製品のみを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や交換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。メルセデス・ベンツでは、継続的に市場調査を行なっていますが、純正でない部品の使用を認めていません。公的に承認されている、または試験機関によって独自に承認されている場合でも、メルセデス・ベンツ車でのそのような部品の使用については、メルセデス・ベンツは責任は負いかねます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号（▷520 ページ）を確認する必要があります。

取扱説明書

車両の装備

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

使用に関する安全性

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

規定の点検整備または必要な修理を行なっていないと、故障やシステムの不具合を引き起こすおそれがあります。事故の危険性があります。

規定の点検整備や必要な修理は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できないか、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

排気システムの熱くなった部品に触れた場合は、葉、草または小枝のような可燃性の物質が発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

オフロードまたは舗装されていない道路を走行するときは、車両の下側を定期的に点検してください。特に、挟まった植物や他の可燃物を取り除いてください。車両の下側が損傷している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

電子部品、ソフトウェア配線への改造は、それらの機能およびネットワークでつながっているその他の構成部品の機能を損なうことがあります。特に、安全にかかわるシステムに影響が生じるおそれがあります。結果として、車両の機能が適切に作動しなくなったり、あるいは走行安全性が危険にさらされることがあります。けがや事故の危険が高まります。

決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。電気装備および電子機器に関するすべての作業および改造は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

車両の電子部品に変更を行なった場合は、車両の使用許可が無効になります。

! 以下のときは、車両が損傷する危険性があります。

- 高い縁石や舗装されていない道路で車両が立ち往生した
- 縁石や道路のくぼみなどの障害物の上を速すぎる速度で走行した
- 重量のある障害物がボディ下部やシャーシの部品にぶつかった

このような状況では、目に見える損傷はなくても、ボディ、ボディ下部、シャーシ部品、ホイール、タイヤが損傷しているおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあり、事故の場合には、設計されている負荷に耐えることができなくなるおそれがあります。

そのような場合には、すぐにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検および修理を受けてください。走行している場合に、走行安全性が損なわれていると感じた場合は、道路や交通状況に注意しながらすみやかに移動し、停車してください。そして、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ハイブリッド車両は内燃エンジンと電気モーターを備えています。車両を電気的に作動させるときの電圧供給は、車両の高電圧電気システムによって行なわれます。

⚠ **危険**

車両の高電圧電気システムには高電圧がかかっています。車両の高電圧電気システムの構成部品を改造したり、損傷した構成部品に触れた場合は、感電するおそれがあります。事故の際は、損傷が目に見えなかったとしても車両の高電圧電気システムの構成部品が損傷していることがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

事故の後は、いかなる高電圧構成部品にも触れないでください。また、車両の高電圧電子システムの改造を決して行なわないでください。事故の後は車両をけん引し、車両の高電圧電気システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

車両の高電圧電気システムの構成部品には、黄色の警告ステッカーが貼付されています。車両の高電圧電気システムのケーブルはオレンジ色です。

電気モーターを装備したハイブリッド車両は、内燃エンジン装備車両に比べて走行音が非常に小さくなります。結果として、特定の状況で車両が他の道路使用者に聞こえないことがあります。これは、駐車しているときなど、お客様の車両が他の道路使用者から認識されていないときに起こることがあります。他の道路使用者が予期せぬ行動を行なう可能性を考慮し、特に予測運転のスタイルをとる必要があります。

診断器接続部

診断器接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で診断機器のみを接続するように想定されています。

⚠ **警告**

機器を診断器接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。車両の走行安全性が損なわれることがあります。事故の危険性があります。

いかなる機器も車両の診断器接続部に接続しないでください。

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

! エンジンが停止しているときに診断器接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機器を診断器の接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。これにより、次回の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなることにつながります。

日常点検および定期点検

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの操作

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

オートマチックトランスミッションの特徴

クリープ現象

エンジンがかかっていてトランスミッションがポジション**D**または**R**のときは、駆動輪に動力が伝達されています。その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に必要とされる適切な作業を行なうための、必要とされる専門的な知識、工具および資格があります。これは特に安全に関する作業に当てはまります。

整備手帳にある注意に従ってください。以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業
- ハイブリッドシステムの作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

正しく使用するために

警告ステッカーをはがすと、お客様や他の方々が危険を認識できないことがあります。警告ステッカーははがさないでください。

車両を運転しているときは以下の情報に従ってください。

- 本説明書の安全に対する注意点
- 本説明書のサービスデータ
- 道路交通法
- 自動車に関係する法律と安全基準

車両に記載されているデータ

車両に装備されている数多くの電子部品はデータメモリーを装備しています。これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します。

- 車両の作動状態
- 発生した事象
- 故障

一般的に、この技術情報は構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態について記録します。

例えば、以下を含みます。

- フルードレベルなどのシステム構成部品の作動状況
- 車輪回転数 / 速度、車両の減速度、横方向の加速度、アクセルペダルの位置などの車両の作動内容および個別の構成部品の作動状況
- ライト、ブレーキなどの重要なシステム構成部品の故障および異常
- エアバッグの作動、走行安全システムの介入などの特殊な走行状態での車両の反応および作動条件
- 外気温度などの外気条件

このデータは以下の技術的なことにのみ使用されます。

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 事故後などの車両機能の解析
- 車両機能の最適化

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報が発生事象データメモリーおよび故障データメモリーから読み出されます。

例えば以下の整備が含まれます。

- 修理整備
- 整備処理
- 保証作業
- 品質保証

この情報は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断器を使用して読み出します。必要に応じて、より詳細な情報を取得します。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

車両を操作する場合、その他の情報と併せて（必要に応じて､該当機関に相談し）､この技術データから個人を特定することができる場合があります。

以下の例が含まれます。

- 事故レポート
- 車両への損傷
- 目撃者証言

お客様と合意したその他の追加機能によっても、特定の車両データを車両から取得することができます。追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

著作権の情報

全体的な注意事項

車両およびその電子部品に使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスに関する情報は、下記のウェブサイトで入手できます。

http://www.mercedes-benz.com/opensource

お車をご使用いただく際の注意事項

保証の適用

! 車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

走行する前に

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水レベルを点検してください。

エアコンディショナーの臭いについて

車室内外のさまざまな汚れやほこりがエアコンディショナー内に取り込まれることにより、エアコンディショナーからの送風に臭いがする場合があります。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンを始動したとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供には操作させない

思わぬけがの原因となりますので、子供にドアやトランク、サイドウインドウやパノラミックスライディングルーフなどを開閉させないでください。

必要に応じて、チャイルドプルーフロックを使用してください。

開口部から身体を出さない

子供がサイドウインドウやパノラミックスライディングルーフなどの開口部から身体を出さないように注意してください。

走行時の注意事項

エンジンの始動前

ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。

停車

停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、トランスミッションのポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。

駐車

- 後退したあとは、すぐにトランスミッションをポジション P か N にするように心がけてください。R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。
- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。

寒冷時の取り扱い

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクの凍結

- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ウインドウ、パノラミックスライディングルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

スタッドレスタイヤについて

スタッドレスタイヤを装着した場合、正しい空気圧に調整してあっても、マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧警告システムに関する警告メッセージが表示されることがあります。

空気圧を点検して必要に応じて調整した上で、取扱説明書を参照してタイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、トランスミッションをポジション **P** にシフトして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

全体的な注意事項

運転するときの注意事項

服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災の危険性があります。

キーに関する注意事項

キーをポケットやバッグなどに入れたときに意図せずにスイッチが押され、トランクが開くことがあります。キーを携帯する際は十分注意してください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

取扱説明書に記載されている装備・機能

お客様の車両の装備や機能はオプションや仕様により異なる場合があります。
オプションや仕様により異なる装備・機能については、以下の表をご覧ください。

安全性

ハイブリッドシステム
ベルトバッグ（後席）
アクティブベルトバックル（後席）
クッションエアバッグ

開閉

クロージングサポーター（ドア）
パノラミックスライディングルーフ（電動ブラインドを含む）

シート、ステアリングとミラー

リアリクライニングシート
イージーアジャストラグジュアリーヘッドレスト
リアからの助手席シートの調整
ショーファーモード
ラグジュアリーヘッドレスト
マルチコントロールシートバック
後席のマルチコントロールシートバック
シートヒーター（リアシート）
シートベンチレーター
ステアリングヒーター
後席のメモリー機能

ライトおよびワイパー

マジックビジョンコントロール

エアコンディショナー

後席専用クライメートコントロール（後席サイド送風口を含む）
パフュームアトマイザー
イオン発生（空気清浄機能）

走行と駐車

- マニュアル走行モード
- ECO 表示
- AMG 強化ブレーキシステム
- マジックボディコントロール
- AIR マティックサスペンション
- 4MATIC（フルタイム 4 輪駆動システム）
- 360° カメラシステム
- ナイトビューアシストプラス

マルチファンクションディスプレイと表示

- 燃料消費の表示
- 冷却水温度の表示
- AMG メニュー

COMAND システム

- デジタルリモコン
- デジタルコードレスヘッドホン
- リアエンターテインメントシステム

収納と機能

- ウッドテーブル
- 後席の温度制御式カップホルダー
- 電動ブラインド（後席左右）
- 電動ブラインド（リアウインドウ）
- フロントセンターコンソール内の電源ソケット
- 後席のクーリングボックス
- フロアマット
- 赤外線反射フロントウインドウ

万一のとき

- MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）
- タイヤフィットキット

ホイールとタイヤ

- ハブキャップ
- ジャッキポイントカバー

運転席

	機能	ページ
①	ステアリングのギアシフトパドル	232
②	コンビネーションスイッチ	180
③	ホーン	
④	メーターパネル	42
⑤	DIRECT SELECT レバー	236
⑥	オーバーヘッドコントロールパネル	48
⑦	以下のコントロールパネル：	
	リアシートのヘッドレストの上昇 / 下降	160
	電動ブラインド（リアウインドウ）の展開 / 格納	433
	助手席エアバッグオン / オフ表示灯	57
	メーターパネル照明および COMAND ディスプレイの明るさの調整	
⑧	エンジンスイッチ	216
	キーレスゴースイッチ	216

	機能	ページ
⑨	エアコンディショナーコントロールパネル	195
⑩	ステアリングの調整	166
	ステアリングヒーター	167
⑪	クルーズコントロールレバー	250 253 258
⑫	電気式パーキングブレーキ	241
⑬	診断器接続部	29
⑭	ボンネットを開く	444
⑮	ライトスイッチ	178
⑯	以下のコントロールパネル：	
	ステアリングアシストの設定	268
	アクティブブレーンキーピングアシストの作動	308
	パークトロニックの解除	279
	360° カメラシステムの作動	293
	ナイトビューアシストの作動	300

	機能	ページ
①	オーバーヘッドコントロールパネル	48
②	コンビネーションスイッチ	180
③	ホーン	
④	メーターパネル	42
⑤	DIRECT SELECT レバー	226
⑥	ステアリングのギアシフトパドル	232
⑦	ボンネットを開く	444
⑧	診断器接続部	29
⑨	以下のコントロールパネル：	
	ステアリングアシストの設定	268
	アクティブレーンキーピングアシストの作動	308
	パークトロニックの解除	279
	360° カメラシステムの作動	293
	ナイトビューアシストの作動	300
⑩	ライトスイッチ	178

	機能	ページ
⑪	電気式パーキングブレーキ	241
⑫	エンジンスイッチ	216
	キーレスゴースイッチ	216
⑬	ステアリングの調整	166
	ステアリングヒーター	167
⑭	クルーズコントロールレバー	250 253 258
⑮	エアコンディショナーコントロールパネル	195
⑯	以下のコントロールパネル：	
	リアシートのヘッドレストの上昇 / 下降	160
	電動ブラインド（リアウインドウ）の展開 / 格納	433
	助手席エアバッグオン / オフ表示灯	57
	メーターパネル照明および COMAND ディスプレイの明るさの調整	

メーターパネル

ディスプレイ

	機能	ページ
①	スピードメーター	
②	マルチファンクションディスプレイ	325
③	タコメーター	326

	機能	ページ
④	冷却水温度	326
⑤	燃料計	

ℹ ハイブリッド車両の電気モーター用のエナジーフローディスプレイおよびパワーディスプレイに関する情報は、(▷309 ページ）をご覧ください。

警告および表示灯

	機能	ページ
①	ABS	393
②	ESP® 解除 ESP®	397 395
③	方向指示灯、左	180
④	ロービームヘッドライト	179
⑤	ハイビームヘッドライト	181
⑥	リアフォグランプ	179
⑦	この表示灯には機能はありません。	
⑧	車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明	180
⑨	方向指示灯、右	180

	機能	ページ
⑩	距離警告	403
⑪	電気式パーキングブレーキ（黄色）	397
⑫	電気式パーキングブレーキ（赤色）	397
⑬	エンジン診断	399
⑭	パワーステアリング	404
⑮	ブレーキ（赤色）	391
⑯	ブレーキ（黄色）	391
⑰	シートベルト	390
⑱	乗員保護装置	398
⑲	この警告灯には機能はありません。	

ℹ ハイブリッド車両の警告および表示灯についての情報は、（▷312 ページ）をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイ /COMAND システム

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	328
②	メーターパネル照明とCOMAND ディスプレイの照度の調整	
③	COMAND ディスプレイ デジタル版取扱説明書をご覧ください	
④	CD および DVD プレーヤー / チェンジャー デジタル版取扱説明書をご覧ください	
⑤	COMAND コントローラーおよびスイッチ デジタル版取扱説明書をご覧ください	

	名称	ページ
⑥	[通話終了ボタン] 通話の拒否、または終了 電話帳 / 発信履歴の終了	328
	[通話ボタン] 発信、または受話 発信履歴への切り替え	328
	[+] [−] 音量の調整	328
	[ミュートボタン] ミュート	328
	[音声認識ボタン] 音声認識の作動 デジタル版取扱説明書をご覧ください	328

	名称	ページ
⑦	[⌂] メインメニューの呼び出し	327
	[▲] [▼] メニュー / サブメニューの選択またはリストのスクロール	327
	[OK] 選択の確定	327
	ディスプレイメッセージの消去	348
	[↩] 戻る	328
	[OFF] 音声認識の停止	328
	デジタル版取扱説明書をご覧ください	

センターコンソール

センターコンソール

	機能	ページ
①	COMAND システムの作動 / 停止の切り替え デジタル版取扱説明書をご覧ください	
②	音量の調整 / ミュート デジタル版取扱説明書をご覧ください	
③	ECO ECO スタートストップ機能	220
④	テレフォンキーパッド デジタル版取扱説明書をご覧ください	
⑤	車高を調整する	271 274
⑥	サスペンション設定を調整する	272 275
⑦	走行モードを選択する 走行モードを選択する（AMG 車両）	231 231

	機能	ページ
⑧	リターンスイッチ デジタル版取扱説明書をご覧ください	
⑨	シート調整メニュー呼び出しスイッチ デジタル版取扱説明書をご覧ください	
⑩	ナビゲーションスイッチ デジタル版取扱説明書をご覧ください	
⑪	ラジオスイッチ デジタル版取扱説明書をご覧ください	
⑫	非常点滅灯	181
⑬	メディアスイッチ デジタル版取扱説明書をご覧ください	

	機能	ページ
⑭	電話、アドレス帳およびインターネットのスイッチ デジタル版取扱説明書をご覧ください	
⑮	車両およびシステム設定スイッチ デジタル版取扱説明書をご覧ください	

ハイブリッド車両の ECO スタートストップ機能に関する情報は、（▷320 ページ）をご覧ください。

	機能	ページ
⑯	COMAND コントローラー デジタル版取扱説明書をご覧ください	
⑰	* お気に入りスイッチに切り替える デジタル版取扱説明書をご覧ください	

オーバーヘッドコントロールパネル

	機能	ページ
①	左側読書灯の点灯 / 消灯の切り替え	185
②	ルームライト自動コントロールのオン / オフの切り替え	185
③	フロントルームライトの点灯 / 消灯の切り替え	185
④	リアルームライトの点灯 / 消灯の切り替え	185

	機能	ページ
⑤	右側読書灯の点灯 / 消灯の切り替え	185
⑥	サングラスケース	423
⑦	リア電動ブラインドの開閉	139
⑧	パノラミックスライディングルーフの開閉	136
	フロント電動ブラインドの開閉	138

ドアコントロールパネル

	機能	ページ
①	シートベンチレーター	164
②	シートヒーター	162
③	運転席からの助手席シートの調整	149
④	M 1 2 3 シート、ドアミラー、ステアリング位置の設定登録	173
⑤	パワーシートの調整	146
⑥	ドアミラーの電動調整および格納 / 展開	170 171
⑦	右フロントサイドウインドウの開閉	130

	機能	ページ
⑧	右リアサイドウインドウの開閉	130
⑨	トランクリッドの開閉	128
⑩	後席操作のチャイルドプルーフロック	92
⑪	ドアを開く	120
⑫	車両の解錠 / 施錠	120
⑬	左リアサイドウインドウの開閉	130
⑭	左フロントサイドウインドウの開閉	130

リアシート

例：リアエンターテインメントシステム装備車両

	機能	ページ
①	CD/DVD プレーヤー デジタル版取扱説明書をご覧ください	
②	ライター 12V 電源ソケット	435 436
③	カップホルダー	429

	機能	ページ
④	リアシートアームレスト内の小物入れ	425
⑤	シートバックレスト内の収納ボックス クーリングボックス	426 438

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

ハイブリッド車両

全体的な注意事項

ハイブリッドテクノロジーは、燃料効率に優れた内燃エンジンと強力な電気モーターを組み合わせています。

重要な安全上の注意事項

感電の危険

⚠ **危険**

車両の高電圧電気システムは高電圧下にあります。車両の高電圧電気システムの構成部品を改造したり、損傷した構成部品に触れた場合は、感電するおそれがあります。事故の際は、損傷が目に見えなかったとしても車両の高電圧電気システムの構成部品が損傷していることがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

事故の後は、いかなる高電圧構成部品にも触れず、また車両の高電圧電子システムの改造を決して行なわないでください。事故の後は車両をけん引し、車両の高電圧電気システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

事故後に車両をけん引するときは、以下の項目に従ってください。

- 車両の運搬（▷485 ページ）
- リアアクスルを上げての車両のけん引（▷484 ページ）
- 両アクスルを接地させての車両のけん引（▷485 ページ）

けん引およびけん引始動に関する安全上の説明をお読みください(▷482 ページ)。

P08.00-2054-31

ハイブリッドシステムのすべての構成部品は、高電圧の危険を警告する黄色の警告ステッカーでマークされています。車両の高電圧電気システムのケーブルはオレンジ色です。

電球の交換、または冷却水レベルの点検のような、一般的な作業を実施するときは、イグニッションがオフでなければなりません。

ハイブリッドシステムの自動解除

⚠ **危険**

乗員保護装置が故障している場合、保護システムの構成部品が不意に作動したり、または車両の減速度が高い事故の際にまったく作動しないことがあります。そのため、例えば、シートベルトテンショナーまたはエアバッグが機能しない場合があります。さらに、事故の際に、車両の高電圧電気システムが意図したように解除されないことがあります。車両の高電圧電気システムの損傷した構成部品に触れると感電することがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検および修理を受けてください。事故の後は、ただちにイグニッションをオフにするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

ハイブリッドシステムは以下の場合に自動的に解除されます。

- 事故の際に乗員保護装置の構成部品が作動した。
- ハイブリッドシステムでショートが検知された。
- ハイブリッドシステムの接続が切断された。

これにより、高電圧に接触しないようにします。

ハイブリッドシステムの手動解除

高電圧解除装置を使用して、ハイブリッドシステムを手動で解除することができます。

! ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために、以下の指示に従ってください。

以下の状況でのみハイブリッドシステムを手動で解除してください。

- 事故後にメーターパネルの乗員保護装置警告灯 [表示灯] が点灯している場合
- 事故後のように車両が著しく損傷していて、乗員保護装置の構成部品が作動しない場合
- 車両が著しく損傷していて、けん引または運搬しなければならない場合
- 手動で解除したときでも、ハイブリッドシステムの作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ行なってください。

▶ **可能な場合は、車両を危険な範囲から移動させます：**オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。

▶ 車両を安全な場所まで移動し、安全に駐車します。必要な場合は、他の人に救援を求めてください。

ⓘ イグニッションがオンで車輪が回転したときは、車両は自動的に施錠されます。そのため、車両を押すときやダイナモメーターでテストを行なう場合は、閉め出される危険性があります。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** にシフトします（▷227 ページ）。

電気式パーキングブレーキを効かせます（▷242 ページ）。

動き出さないように車両を固定します（▷502 ページ）。

▶ **高電圧解除装置を使用する**：トランクリッドを開きます。

▶ トランクフロアを上方に持ち上げます（▷427 ページ）。

▶ 右側のトランクカバーを取り外します。

▶ リリースクリップ ① を矢印の方向に押して、引き出します。

▶ 停止位置に固定されるまで、高電圧解除装置 ② を引き離します。

上記の理由によりハイブリッドシステムが解除された場合は、再始動の前にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

高電圧バッテリー

⚠ **警告**

車両火災の場合は、高電圧バッテリーの内部電圧が限界値を超えることがあります。この場合は、車両のアンダーボディの排気弁から可燃性ガスが漏れます。ガスは発火するおそれがあります。けがの危険性があります。

ただちに危険なエリアから離れてください。法規制に従いながら、危険なエリアとの適切な距離を確保してください。

⚠ **警告**

高電圧バッテリーのケースが損傷した場合は、電解液およびガスが漏れ出すことがあります。これらは毒性および腐食性があります。けがの危険性があります。

皮膚、眼または衣服への付着を防いでください。ただちに電解液のはねを水で洗い流し、すぐに治療を受けてください。

! 車両を長期間使用しないことにより引き起こされるバッテリーの放電は、高電圧バッテリーを損傷することがあります。

車両を長期間使用しない場合は、6 週間ごとに数分間作動させて高電圧バッテリーを充電してください。

充電処理中は、オートエアコンディショナーまたはシートヒーターなどのすべての電気装備を停止してください。

高電圧バッテリーの充電に関する情報は（▷477 ページ）をご覧ください。

エンジンルーム

ボンネットを開く前に：

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。

▶ オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** にシフトします。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します（▷218 ページ）。

または

- ▶ **キーがエンジンスイッチに差し込まれている場合：**エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 感電の危険性に関する警告の注意事項に注意してください（▷52 ページ）。
- ▶ ボンネットに関する警告の注意事項に注意してください（▷442 ページ）。

RBS 走行安全システム（回生ブレーキシステム）

RBS は、電子制御ブレーキのブーストモードでのブレーキ時に運転者を支援し、運動エネルギーの回収を可能にします（回生）。

⚠ 警告

RBS が故障している場合は、ブレーキの抵抗が減少し、ブレーキペダルの踏みしろが通常より長くなることがあります。ブレーキシステムはまだ十分に機能しています。必要であれば、ブレーキペダルをさらに踏んでください。状況に応じて、運転スタイルと車両の速度を調整してください。

⚠ 警告

RBS に関する作業は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。再始動操作など、RBS の修理作業には守るべき要点があります。

この目的のためメルセデス・ベンツは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。特に、安全装備や安全にかかわるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

RBS システムに関するさらなる情報は（▷309 ページ）をご覧ください。

乗員の安全性

保護システムの説明

乗員保護装置は、事故の際に車両乗員が車内部品にぶつかる危険性を低減します。乗員保護装置は、事故の間に車両乗員が受ける衝撃を低減することもできます。

乗員保護装置には以下が含まれます。

- シートベルトシステム
- エアバッグ
- チャイルドセーフティシート
- チャイルドセーフティシート固定装置

乗員保護装置の構成部品は、相互に関連して作動します。車両乗員全員が常に以下の場合にのみ、保護機能を発揮することができます。

- シートベルトを正しく着用している（▷57 ページ）
- シートおよびヘッドレストが正しく調整されている（▷145 ページ）

運転者では、ステアリングが正しく調整されていることも確認しなければなりません。正しい運転席シートの位置に関する情報に注意してください（▷144 ページ）。

さらに、作動する場合にエアバッグが正しく膨らむようにしなければなりません（▷63 ページ）。

エアバッグは正しく着用されたシートベルトの補助を行なうものであり、対応する事故状況で車両乗員の保護を高める補助的な安全装置です。例えば、事故の際にシートベルトによる保護が十分な場合は、エアバッグは作動しません。事故が発生したときは、特定の事故状況での保護を高めるエアバッグのみが作動します。ただし、シートベルトとエアバッグは外側から車両に入り込んだ物に対する保護は通常は行ないません。

乗員保護装置の作動方法に関する情報は、" シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動 " にあります (▷67 ページ)。

車両に乗車している子供、ならびにチャイルドセーフティシートに関するさらなる情報は、" 子供を乗せるとき " をご覧ください (▷72 ページ)。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

改造が行なわれた後は、乗員保護装置が正しく機能しなくなることがあります。例えば、事故のときに作動しなかったり、または予期せず作動することにより、乗員保護装置が意図した保護機能を発揮しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

乗員保護装置の部品を改造しないでください。また、配線、電子部品やソフトウェアを決して改造しないでください。

エアバッグシステムは障害のある方にも適合しています。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

乗員保護装置警告灯

乗員保護装置の機能は、イグニッションがオンになった後およびエンジン作動中に定期的に点検されます。そのため、不具合は適時検出することができます。

メーターパネルの乗員保護装置警告灯 [警告灯] は、イグニッション位置を **1** にすると数秒間点灯します。また、イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。エンジンがかかっている間に乗員保護装置警告灯 [警告灯] が消灯したときは、乗員保護装置の構成部品の作動準備が整っています。

乗員保護装置警告灯 [警告灯] が以下の場合は、不具合が発生しています。

- イグニッションをオンにした後、点灯しない
- エンジンを始動して数秒後に消灯しない
- エンジンがかかっている間に、再度点灯する

⚠ 警告

乗員保護装置が故障している場合は、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、車両の減速度が大きい事故の際にまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検を受けて修理してください。

助手席エアバッグオフ / オン表示灯

助手席エアバッグオフ ① および助手席エアバッグオン ② 表示灯は、助手席チャイルドセーフティシート自動検知システムの一部です。

助手席エアバッグオフ表示灯の常時点灯は、助手席エアバッグが無効になっていることを示しています。

イグニッションをオンにしたときは、助手席エアバッグオン表示灯は以下のように点灯します。

- 助手席シートトランスポンダーを装備しているメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートをチャイルドセーフティシート自動検知システムが検知した場合は短時間
- 乗員が助手席で検知された場合は 60 秒

  助手席エアバッグオフ表示灯は点灯しません。

助手席シートの以下の乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。走行前および走行中のいずれのときも、確認しなければなりません。

- **チャイルドセーフティシートにいる子供：**助手席エアバッグが有効または無効かどうかは、取り付けられているチャイルドセーフティシートおよび子供の体格によって異なります。そのため、" 子供を乗せるとき " の注意事項に従っていることを確認してください（▷72 ページ）。そこには、助手席シートの後ろ向き、および前向きチャイルドセーフティシートに関する説明もあります。
- **他のすべての乗員：**助手席エアバッグオフ表示灯が消灯していなければなりません。" シートベルト "（▷57 ページ）および " エアバッグ "（▷63 ページ）にある注意事項に従っていることを確認してください。そこには、適切なシート位置に関する情報もあります。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知システムに関する情報に注意してください（▷78 ページ）。

シートベルト

はじめに

正しく着用したシートベルトは、事故の際に、または車両が横転した場合に車両乗員の動きを抑制する最も効果的な方法です。これにより、車両乗員が車内の部品にぶつかったり、車両から投げ出される危険性を低減します。シートベルトは、作動するエアバッグに対して最適な位置に車両乗員を留める補助も行ないます。

シートベルトシステムは以下で構成されています。

- シートベルト
- フロントシートベルト用およびリアの外側シートベルト用シートベルトテンショナー

- フロントシートベルトおよびリアの外側シートベルト用のベルトフォースリミッター
- 車両の装備により、後席の外側シートベルトのベルトバッグ

ベルトガイドからシートベルトを素早く、または急に引いた場合は、リトラクターがロックします。それ以上、シートベルトを引き出すことはできません。

シートベルトテンショナーは、衝突の際にお客様の身体に密着するようにシートベルトを締め付けます。ただし、車両乗員の背面をシートバックレストに引き戻すことはしません。

シートベルトテンショナーは不適切なシート位置、または不適切に着用されているシートベルトの位置の修正も行ないません。

ベルトフォースリミッターが作動した場合は、シートベルトによって乗員にかかる力が低減されます。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと連動しています。これにより、車両乗員が事故の間に受ける衝撃を低減することができます。

! 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

シートベルトが正しく装着されていない場合は、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。誤ったシートベルトの装着により、事故のときやブレーキを効かせたとき、急な方向転換のときなどの、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。

⚠ **警告**

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図された保護性能を発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

⚠ **警告**

フロントシートのベルトバックル、またはベルトアンカーの移動を妨げる物は、ベルトテンショナーの機能を損なうことがあります。ベルトテンショナーが意図したように機能せず、シートベルトが意図した保護を発揮しなくなることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、ベルトバックルの周囲またはフロントシートとドアの間に物がないことを確認してください。

⚠ **警告**

身長が約 150cm 未満の乗員は、追加の適切な乗員保護装置を使用しないとシートベルトを正しく装着できません。正しく装着しないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。誤ったシートベルトの装着により、事故のときやブレーキを効かせたとき、急な方向転換のときなどの、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

そのため身長約 150cm 未満の乗員は、必ず適切な乗員保護装置を使用してください。

年齢が 12 歳以下で、身長が 150cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツの車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応していなくてはいけません。
- 後席の外側シートベルトのベルトバッグの説明および安全上の注意事項に常に注意してください（▷61 ページ）。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、本取扱説明書の " 子供を乗せるとき " の説明および安全上の注意事項（▷72 ページ）に常に従ってください。

⚠ **警告**

以下の場合は、シートベルトは意図された保護機能を発揮しないことがあります：

- 損傷している、改造されている、極端に汚れている、漂白されている、または着色されている
- シートベルトのバックルが損傷している、または極端に汚れている
- シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターが改造されている

ガラスの破片などにより、損傷が目に見えないとしても、事故のときにシートベルトが損傷しているおそれがあります。改造または損傷したシートベルトは事故のときなどに裂けたり、または作動しないおそれがあります。改造されたシートベルトテンショナーは不意に作動したり、または必要なときに作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルト、シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターを改造しないでください。シートベルトが損傷していない、擦り切れていない、そして汚れていないことを確認してください。事故後はただちに、シートベルトをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

お客様の車両用にメルセデス・ベンツにより特別に承認されたシートベルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

シートベルトの正しい着用方法

シートベルトの安全上の注意事項に従ってください（▷58 ページ）。

走行を開始する前に、すべての車両乗員が正しくシートベルトを着用していなければなりません。走行中も常に、すべての車両乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認しなければなりません。

シートベルトを着用しているときは、常に以下のことを確認してください。

- シートベルトのプレートがシートに装備されているシートベルトバックルにのみ差し込まれている。
- 身体に沿ってシートベルトが締め付けられている。

  冬用コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- シートベルトにねじれがない。

  そのときにのみ、発生した力をベルト周囲に分散させることができます。
- ベルトの肩部分が肩の中央にかかっている。

  ベルトの肩部分が首に接触していたり、腕の下を通っていてはいけません。可能であれば、シートベルトを適切な高さに調整します。
- 腰ベルトが張っていて、できるだけ低く腰にかかっている。

  腰ベルトは常に腰骨にかかるように、そして腹部にかからないようにしなければなりません。妊娠している女性は特に、このことに注意しなければなりません。必要な場合は腰ベルトを腰骨に押し下げ、ベルトの肩部分を使用して強く引きます。
- 鋭利な、先の尖った、または壊れやすい物の上にシートベルトがかかっていない。

  ペン、キー、めがねなどのようなものが衣服に入っている場合は、それらを適切な場所に収納してください。
- それぞれのシートベルトは、必ず 1 人の乗員のみが使用してください。

  乳児や子供を他の車両乗員の膝の上に座らせて走行しないでください。事故の際に、車両乗員とシートベルトの間でつぶされるおそれがあります。
- シートベルトがいずれかの車両乗員により使用されている場合は、そのシートベルトで物を固定しないでください。

シートベルトは乗員を固定し、保護するためにのみ意図されています。物、手荷物または積載物を固定するためには常に、" 積載のガイドライン " に従ってください（▷422 ページ）。

ベルトバッグ（後席）

ℹ " 重要な安全上の注意事項 " に従ってください（▷64 ページ）。

車両の装備によって、外側リアシートベルトにはベルトバッグが装備されています。

⚠ 警告

事故のときに、ベルトバッグが未承認のチャイルドセーフティシートを損傷することがあります。結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護性能をもたらさないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

安全性の理由のため、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたチャイルドセーフティシートのみを、ベルトバッグと組み合わせて使用することをメルセデス・ベンツは推奨します。

チャイルドセーフティシートについてのさらなる情報は（▷74 ページ）をご覧ください。

ベルトバッグが作動するときは、乗員の胸部の保護エリアを増やすようにベルトバッグ ① が開きます。それらは、事故の種類と大きさに応じて作動します。

シートベルトの着用および調整

シートベルトに関する安全上の注意事項（▷58 ページ）、およびシートベルトの正しい使用に関する情報（▷60 ページ）に注意してください。

▶ シートを調整します（▷145 ページ）。シートバックレストはほぼ垂直の位置になければなりません。

▶ ベルトガイド ③ からシートベルトをゆっくりと引き出し、ベルトプレート ② をシートベルトバックル ① に固定します。

運転席および助手席のシートベルトは自動的に締め付けられます。" シートベルト調整 " をご覧ください（▷63 ページ）。

▶ 必要な場合は、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

シートベルトの肩部分は、常に肩の中央を通ってかかっていなければなりません。必要な場合は、ベルトガイドを調整してください。

▶ **上げる：**ベルトガイドを上方にスライドします。ベルトガイドはさまざまな位置でロックされます。

▶ **下げる：**ベルトガイドのリリース ① を持ち、ベルトガイドを下方にスライドします。

▶ 希望の位置でベルトガイドのリリース ① を放し、ベルトガイドがロックされていることを確認します。

アクティブベルトバックル（後席）

アクティブベルトバックルは、PRE-SAFE® コンビニエンス機能の一部です。外側リアシートで作動します。シートベルトバックルを自由に動かすことができることを常に確認してください。荷物は常に、車内に正しく収納してください。

シートベルトバックルを見つけ、シートベルトの着用を補助するために：

- ベルトバックルは容易な位置に前方に動きます
- ベルトバックルが点灯します

シートベルトを着用した後は、シートベルトバックルは通常の位置に戻ります。その後に、シートベルトは腰部や胸部周囲で締め付けられます。

PRE-SAFE® システムとの組み合わせ：特定の危険な状況ではシートベルトバックルが素早く下がります。これによりシートベルトの張力が上がります。

事故後の自動措置との組み合わせ：この状況では、リアドアが開いた後にシートベルトバックルが点灯し、引き出されます。

シートベルトの解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

▶ ロック解除スイッチ ① を押して、ベルトのプレート ② をシートベルトの引き出し口 ③ の方向に戻します。

シートベルト調整

シートベルト調整は、PRE-SAFE® コンビニエンス機能の一部です。この機能は、運転席および助手席シートベルトが乗員の上半身に密着するようにシートベルトを調整します。

以下のときに、シートベルトが少し締まります。

- シートベルトのプレートがベルトバックルに固定されている、そして
- イグニッションがオンである

乗員とシートベルトの間にたるみを検知した場合に、シートベルト調整は一定の力で締め付けをおこないます。調整している間は、シートベルトを強くつかまないでください。

シートベルト調整の設定および解除に関する情報は、別冊の COMAND システムの取扱説明書にあります。

運転者および助手席乗員のシートベルト警告

[警告灯] メーターパネルのシートベルト警告灯は、すべての乗員にシートベルトの着用を促します。点灯し続けるか、または点滅します。さらに、警告音が鳴ることがあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用したときは、シートベルト警告灯 [警告灯] が消灯し、警告音が停止します。

ⓘ シートベルト警告灯 [警告灯] についての詳細は、" メーターパネルの警告および表示灯、シートベルト "（▷390 ページ）を参照ください

エアバッグ

はじめに

エアバッグの取り付け位置は、AIRBAG の表示で確認できます。

エアバッグは適切に装着されているシートベルトを補助するものです。シートベルトの機能を代用するものではありません。エアバッグは事故の状況下で補助的な保護機能を果たします。

事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

ただし、現在装備されているどのシステムも、けがや死亡の危険性を完全になくすことはできません。

エアバッグは高速で作動する必要があるため、エアバッグを原因とするけがの危険性を完全に排除することはできません。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

正しいシート位置から外れている場合、エアバッグは本来の保護機能を発揮できず、作動によりさらに負傷の原因となるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

危険な状態を防ぐために、すべての乗員は以下の項目について確認してください。

- シートベルトを正しく着用していること（妊娠中の女性を含む）
- 正しい位置に座り、エアバッグからできるだけ離れていること
- 以下の注意事項に従っていること

エアバッグと乗員との間に何も物が置かれていないことを必ず確認してください。

- 走行を開始する前にシートを正しく調整してください。シートバックレストがほぼ垂直の位置にあることを常に確認してください。ヘッドレストの中央は、ほぼ目の高さで頭部をサポートしていなければなりません。
- 運転席および助手席シートをできるだけ後方に動かします。運転席シートの位置は、車両を安全に運転できるものでなければなりません。
- ステアリングは外側のみを握ってください。それにより、エアバッグを十分に作動させることができます。
- 車両が動いているときは、常にシートバックレストにもたれかかるようにしてください。前方に倒れたり、ドアまたはサイドウインドウにもたれかからないでください。さもないと、エアバッグの作動範囲に入ることになります。
- 足は常に、シート前方の足元に置いてください。ダッシュボードなどの上に足を置かないでください。さもないと、足がエアバッグの作動範囲に入ることになります。
- 身長が 150cm 以下の方は常に、適切な乗員保護装置に固定してください。正しくシートベルトを着用することができません。

車両に子供が乗車する場合は、以下の注意事項にも従ってください。

- 年齢が 12 歳未満または身長が 150cm 以下の子供は、常に適切なチャイルドセーフティシートに固定してください。
- できれば、チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。
- 助手席エアバッグが無効の場合にのみ、助手席シートの後ろ向きチャイルドセーフティシートに子供を固定してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し続けている場合は、助手席エアバッグは無効になっています (▷57 ページ)。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、" 子供を乗せるとき "（▷72 ページ）、および " 助手席のチャイルドセーフティシート "(▷80 ページ）の説明および安全上の注意事項に常に従ってください。

車室内にある物により、エアバッグの適切な作動が妨げられることがあります。

速い速度でエアバッグが作動することによる危険を避けるために、走行を開始する前に以下を確認してください。

- 車両乗員とエアバッグの間に、人、動物または物がない。
- シートとドアまたは B ピラーの間に物がない。
- グリップハンドルまたはコートフックに、コートハンガーなどのかたい物がない。
- ドア、サイドウインドウ、リアサイドトリムパネルまたはサイドウォールなどのエアバッグの作動範囲内に、ドリンクホルダーのようなアクセサリーが取り付けられていない。
- 衣類のポケットに、重い、鋭利な、または壊れやすい物が入ってない。そのような物は適切な場所に収納してください。

⚠ **警告**

エアバッグのカバーを改造したり、ステッカーのような物を貼付している場合は、エアバッグが正しく機能しなくなるおそれがあります。けがの危険性が高まります。

エアバッグのカバーを改造したり、物を貼付しないでください。

⚠ **警告**

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。ドアまたはドアパネルに改造が行なわれていたり、損傷したドアの作業が正しく行なわれていないと、センサーの機能が損なわれることがあります。したがって、エアバッグは正しく機能しなくなることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。けがをするおそれが高まります。

ドアまたはドアの部品を改造しないでください。ドアまたはドアパネルの作業は常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エアバッグと装着位置

エアバッグ	装着位置
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード
サイドバッグ	運転席 / 助手席シートのバックレストの外側クッションおよびリアシートの外側部分
ウインドウバッグ	A ピラー側方から C ピラーのルーフフレーム
クッションエアバッグ	シートクッション下部

運転席 / 助手席エアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。助手席シートに同乗者がいるとシステムが誤って判断する原因になります。衝突の際に助手席側の乗員保護装置が作動して交換する必要が出るおそれがあります。

運転席エアバッグ ① はステアリング前面で作動し、助手席エアバッグ ② はグローブボックスの前面および上部で作動します。

作動するときは、運転席 / 助手席エアバッグは前席乗員の頭部および胸部の補助的な保護を行ないます。

助手席エアバッグオフ表示灯の常時点灯は、助手席エアバッグが無効になっていることを示しています（▷57 ページ）。

サイドバッグ

⚠ 警告

シートカバーによって、シート内蔵のエアバッグの作動を遮る、または妨げることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。加えて、チャイルドセーフティーシート自動検知システムの機能が制限されることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントシートには、シートカバーを使用しないでください。

フロントサイドバッグ ① およびリアサイドバッグ ② は、シートバックレストの外側クッション脇で作動します。

作動するときは、サイドバッグは胸部の補助的な保護を行ないます。前席シート乗員の骨盤の補助的な保護も行ないます。ただし、以下の保護は行ないません。

- 頭部
- 頸部
- 腕部

側面衝突の際は、サイドバッグは衝撃が発生した側で作動します。

ウインドウバッグ

ウインドウバッグ ① はルーフフレーム側面に内蔵され、A ピラーから C ピラー間の範囲で作動します。

作動するときは、ウインドウバッグは頭部を保護します。ただし、胸部および腕部の保護は行ないません。

側面衝突の際は、ウインドウバッグは衝撃が発生した側で作動します。

ウインドウバッグの作動がシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断すると、ウインドウバッグは他の事故状況下で作動する場合があります。

クッションエアバッグ

ⓘ " 重要な安全上の注意事項 " に従ってください（▷64 ページ）。

ショーファーパッケージ装備車両にはクッションエアバッグが装備されています。シートバックレストがリクライニングしている場合は、正面衝突の状況でクッションエアバッグによって乗員を補助的に保護できます。

作動するときは、クッションエアバッグはシートクッションの下で作動します。このようにして、乗員がシートクッションから滑り出すことを防ぎます。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートが装着されていて、シートのバックレストが後方いっぱいに倒されている場合は、事故のときにクッションエアバッグが誤って作動することがあります。けがをするおそれが高まります。

チャイルドセーフティシートを使用するときは、シートが正しく調整されていて、バックレストがほぼ垂直であることを常に確認してください。

後席パワーシートにチャイルドセーフティシートを装着している場合は、常に以下に従ってください。

- " 子供を乗せるとき " にある説明と安全上の注意事項（▷72 ページ）
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エアバッグの作動後は、エアバッグの部品が熱くなっています。火傷の危険性があります。

エアバッグの部品に触れないでください。できるだけすみやかに、作動したエアバッグをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

⚠ **警告**

作動した火薬式シートベルトテンショナーは作動しなくなり、意図した保護機能を発揮できなくなります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

そのため、作動した火薬式シートベルトテンショナーは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

事故後は車両をメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引することを、メルセデス・ベンツは推奨します。このことは、シートベルトテンショナーまたはエアバッグが作動した場合に特に重要です。

PRE-SAFE® で使用されている電気モーターは、危険な状況でシートベルトの締め付けを行ないます。この作動は何回でも行なわれます。

シートベルトテンショナーまたはエアバッグが作動した場合は、作動音が聞こえ、少量の粉末が放出されることもあります。乗員保護装置警告灯 [警告灯] が点灯します。

作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。放出される粉末は、一般的には健康被害をもたらすことはありませんが、ぜんそくや他の肺疾患のある方は、短期間呼吸障害の原因となることがあります。安全な場合は、呼吸困難を防止するためにただちに車両から離れるか、ウインドウを開いてください。

作動

衝突の初期段階の間、乗員保護装置のコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関する以下のような重要な物理的データの評価を行ないます。

- 時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、正面衝突または追突の際に乗員保護装置のコントロールユニットはシートベルトテンショナーを作動させます。

シートベルトテンショナーは以下の場合にのみ作動します。

- イグニッションがオンである
- 乗員保護装置の構成部品が作動可能である。" 乗員保護装置警告灯 " をご覧ください（▷56 ページ）。
- シートベルトのプレートがフロントシートのそれぞれのベルトバックルに固定されている

後席のシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態とは独立して作動します。

ベルトバッグ装備車両：事故の種類や大きさによって、ベルトバッグも作動します。

後席パワーシート装備車両：シートベルトのプレートがシートのベルトバックルに固定されている場合にのみ、シートベルトテンショナーは作動します。

シートバックレストがリクライニングしている場合は、事故の種類や大きさによってクッションエアバッグも作動することがあります。

重大な事故であることを乗員保護装置のコントロールユニットが検知した場合は、特定の正面衝突の状況では以下の乗員保護装置の補助的構成部品が互いに独立して作動します。

- 運転席 / 助手席エアバッグ
- シートベルトによるものに補助的な保護を行なうことができるとシステムが判断した場合はウインドウバッグ

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合にのみ、事故の際に助手席エアバッグが作動します。助手席エアバッグオフ表示灯に関する情報に注意してください（▷57 ページ）。

お客様の車両には 2 段階式の運転席 / 助手席エアバッグが装備されています。最初の作動段階では、けがの危険性を低減させるために火薬ガスで運転席 / 助手席エアバッグが充填されます。その後数ミリ秒以内に 2 回目の作動規定値に達した場合は、最大量の火薬ガスで運転席 / 助手席エアバッグが充填されます。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両のさまざまな箇所で発生する車両の減速度または車両の加速度を評価することで決定されます。この処理は事前に実行されます。作動処理は、衝突の初期段階で迅速に行なわれなければなりません。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝突の角度
- 車両の変形特性
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを作動させる基準とはなりません。

エアバッグが作動せずに車両が著しく変形することがあります。変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。反対に車両が軽度にのみ変形したにも関わらず、エアバッグが作動することがあります。縦方向のボディメンバーなどの高剛性の部品が衝撃を受けたため、結果として大きな減速度が発生した場合などです。

側面衝突または横転の状況を乗員保護装置のコントロールユニットが検知した場合は、事故の形態によっては以下の関連する乗員保護装置の構成部品が互いに独立して作動します。この状況で車両乗員に補助的な保護を行なうことができるとシステムが判断した場合は、シートベルトテンショナーも作動します。

- シートベルトテンショナーおよびシートベルトの使用とは独立して、衝撃が発生した側のサイドバッグ

  チャイルドセーフティシート自動検知システム装備車両：助手席側のサイドバッグは以下の条件下で作動します。

  - 助手席シートで乗員が検知された、または
  - シートベルトのプレートが助手席シートのシートベルトバックルに固定されている

- シートベルトの使用とは独立して、そして助手席シートに乗車しているかどうかとは独立して、衝撃が発生した側のウインドウバッグ

- シートベルトによるものに補助的な保護を行なえるとシステムが判断した場合の、特定の横転状況における運転席および助手席側のウインドウバッグ

ℹ 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムの作動は、検知された事故の大きさ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転

PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）

はじめに

特定の危険な状況で、PRE-SAFE® は車両乗員を保護するために予防的な措置を行ないます。

重要な安全上の注意事項

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

車両に PRE-SAFE® システムが装備されていても、事故のときのけがの可能性をなくすことはできません。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

機能

PRE-SAFE® は以下のときに作動します。

- BAS が作動しているときなど、緊急ブレーキ状態のとき
- 物理的な限界を超えて車両が著しくアンダーステアやオーバーステアになるなど、危機的な走行状況になったとき
- レーダーセーフティシステムの各システムが強力に介入した、または特定の状況でレーダーセンサーシステムが切迫した衝突の危険を検知したとき

PRE-SAFE® は検知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトの張力をあらかじめ高めます。
- 車両が横滑りすると、パノラミックスライディングルーフが完全に閉じ、サイドウインドウが少しの隙間を残して閉じます。
- 助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。
- 後席パワーシート装備車両：好ましくない位置にある場合は、外側のリアシートは調整されます。
- マルチコントロールシートバック装備車：バックレストのサイドサポートの空気圧が増加します。
- アクティブベルトバックル装備車両：外側リアシートのシートベルトの張力があらかじめ上がります。

事故につながることなく危険な状況が過ぎた場合は、PRE-SAFE® がシートベルトの張力を緩めます。マルチコントロールシートバック装備車両では、サイドサポートの空気圧が再び低下します。PRE-SAFE® により行なわれたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まない場合

▶ 車両が停止しているときに、シートバックレストまたはシートを後方に少し動かします。あらかじめ高められていたシートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整は、PRE-SAFE® コンビニエンス機能の一部です。コンビニエンス機能に関する情報は " シートベルト調整 " にあります（▷63 ページ）。

PRE-SAFE® プラス（予期乗員保護措置プラス）

全体的な注意事項

レーダーセンサーシステムを使用して、PRE-SAFE® プラスは正面衝突または追突が差し迫っていることを検知します。特定の危険な状況では、PRE-SAFE® プラスは乗員を保護するために予防的な措置を行ないます。

重要な安全上の注意事項

PRE-SAFE® プラスの介入は、切迫した衝突を避けることはできません。

PRE-SAFE® プラスが介入したときは、運転者は警告されません。

PRE-SAFE® プラスは、以下のときは介入しません。

- 車両が後退している場合
- 車両がトレーラーをけん引していて、追突の危険があるとき

PRE-SAFE® プラスは、車両が動いているとき、またはアクティブパーキングアシストが作動しているときは、ブレーキ操作を行ないません。

機能

切迫した正面衝突または追突をレーダーセンサーシステムが検知した場合は、PRE-SAFE® プラスは特定の状況で介入します。

PRE-SAFE® プラスは、検知された危険な状況によって以下の措置を行ないます。

- 正面衝突が差し迫っているとレーダーセンサーシステムが検知した場合は、

シートベルトの張力があらかじめ上がります。

- 追突が差し迫っているとレーダーセンサーシステムが検知した場合
  - リアの非常点滅灯が作動し、高い頻度で点滅します。
  - 車両が停止しているときに運転者がブレーキを効かせた場合は、ブレーキ圧が増加します。
  - シートベルトの張力が事前に上がります。

PRE-SAFE® プラスのブレーキの適用は以下の状況では中止されます。

- ギアが入っているときにアクセルペダルが踏まれた場合
- 衝突の危険性が過ぎた、または検知されなくなった場合
- ディストロニック・プラスにより発進する意図が示された場合

事故につながることなく危険な状態が過ぎた場合は、元の設定に戻ります。

事故後の自動措置

衝突の種類および大きさによって、事故の後はただちに以下の措置が行なわれます。

- 非常点滅灯が作動します
- 緊急ライトが作動します
- 車両ドアが解錠されます
- フロントサイドウインドウが下がります
- 電動調整式ステアリングが上がります
- エンジンが停止します
- **アクティブベルトバックル装備車両：**外側リアシートのシートベルトバックルが点灯し、前方に出ます。
- **ハイブリッド走行システム装備車両：**ハイブリッドシステムが解除されます。

事故の後で

▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。

▶ 非常点滅灯を作動させます。

▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。

▶ 車両から出るときは乗員が危険にさらされていないことを確認してください。

▶ 危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。フェンスなど区切った安全な場所に乗員を退避させます。

▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車道路や高速道路では、停止表示板を使用して後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

車両が動かなくなったとき

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。

▶ 安全な場所まで車両を押してください。必要な場合は、他の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

ⓘ イグニッションがオンで車輪が回転したときは、車両は自動的に施錠されます。そのため、車両を押すときやダイナモメーターでテストを行なう場合は、閉め出される危険性があります。

ⓘ 踏切内で車両が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急な状況では、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき

重要な安全上の注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席シートに固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のためメルセデス・ベンツは、チャイルドセーフティシートをリアシートに取り付けることを強く推奨します。子供の安全性が高くなります。

12 歳以下で、身長が 150cm 以下の子供を乗せて車両を走行する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツ車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応していなくてはいけません。
- チャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書に加えて、本項目の説明および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。

⚠ 警告

付き添いのない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に付き添いのない状態で子供を車両に残さないでください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。これは特に子供にあてはまります。

シートベルトの安全上の注意事項（▷58 ページ）とシートベルトの正しい使用に関する情報に注意してください（▷60 ページ）。

チャイルドセーフティシート

チャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください（▷84 ページ）。

安全上の理由から、メルセデス・ベンツが推奨するチャイルドセーフティシートのみをご使用になることをお勧めします（▷88 ページ）。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートが適切なシート位置に正しく取り付けられていない場合は、意図した保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに子供を保護することができません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に常に従ってください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常にシートクッションに接触していることを確認してください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでください。チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていない、または固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに外れるおそれがあります。チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員にぶつかるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

着座していないチャイルドセーフティシートも常に正しく取り付けてください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

荷物の収納に関する詳細は " 積載のガイドライン " をご覧ください（▷422 ページ）。

⚠ **警告**

事故で負荷を受けたチャイルドセーフティシートやその固定装置は、意図した保護機能を発揮できないことがあります。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに、子供が保護されません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

事故で損傷したり、または負荷を受けたチャイルドセーフティシートはただちに交換してください。チャイルドセーフティシートを再度取り付ける前に、チャイルドセーフティシートの固定装置をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

どうしても子供を助手席シートに乗せる必要がある場合は、" 助手席シートのチャイルドセーフティシート " の情報を必ずご覧ください（▷80 ページ）。助手席エアバッグの無効に関する情報も記載されています。

車内およびチャイルドセーフティシートに貼付されている警告ラベルをご確認ください。

アクティブベルトバックル装備車両：リアシートのチャイルドセーフティシートに子供を固定しているときは、以下の指示に従ってください。

- チャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書に従って、チャイルドセーフティシートのシートベルトが着用されていることを確認します。
- ベルトクランプ付きチャイルドセーフティシート：ベルトクランプを使用してシートベルトを締める前に、シートベルトのプレートをバックルに固定します。

後席パワーシート装備車両：チャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストをほぼ垂直位置に動かします。バックレストがチャイルドセーフティシートに接していなければなりません。クッションエアバッグに関する注意事項に従ってください（▷67 ページ）。

ベルトバッグ装備車両：メルセデス・ベンツによって承認されたチャイルドセーフティシートのみを使用してください。" 推奨チャイルドセーフティシート " にある注意事項に常に注意してください（▷88 ページ）。

ⓘ チャイルドセーフティシートを清掃するためには、メルセデス・ベンツが推奨する純正のカーケア用品をご利用できます。このことに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ **警告**

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートは、体重が 22kg 以上でチャイルドセーフティシートに内蔵されたセーフティベルトを使用して固定されている子供には十分な保護効果をもたらしません。例えば、事故のときに子供が正しく固定されないなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

子供の体重が 22kg 以上の場合は、必ず子供が車両のシートベルトでも固定される ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。使用可能であれば、チャイルドセーフティシートをテザーアンカーベルトでも固定してください。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着指示および取扱説明書、チャイルドセーフティシートの正しい使用に関する説明に常に注意してください（▷84 ページ）。

各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートが両方の ISOFIX 固定リングに正しく固定されていることを確認します。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央リアシートのシートベルトを挟み込まないように注意してください。シートベルトが損傷するおそれがあります。

リアシートの ISOFIX 固定リング ② は、ベルクロファスナーで固定された内装ライニング ① によって覆われています。

▶ **後席パワーシート装備車両：**ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付ける前に、バックレストを少し下に調整します。

▶ シート表面のライニング ① を開きます。

▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを左右の ISOFIX 固定リング ② に取り付けます。

▶ **後席パワーシート装備車両：**バックレストを垂直位置に動かします。バックレストがチャイルドセーフティシートに接していなければなりません。

⚠ **警告**

後席パワーシート装備車両：チャイルドセーフティシートを装着した後にシートを調整する場合：

- シートベルトが緩む、または非常にきつくなることがあります。
- チャイルドセーフティシートが緩む、正しく位置しなくなる、または損傷するおそれがあります。

結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護レベルをもたらさないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートを装着した後にシートを調整しないでください。

ISOFIX は、リアシート用に専用設計されたチャイルドセーフティシートの規格化された固定システムです。ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用の 2 つの ISOFIX 固定リング ② は、リアシートの左および右に取り付けられています。

リアシートアームレスト装備車両：ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用 ISOFIX 固定リング ② に手が届くようにリアシートアームレストを調整します。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に対応していないチャイルドセーフティシートは、車両のシートベルトで固定してください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着指示および取扱説明書、チャイルドセーフティシートの正しい使用に関する説明に常に注意してください（▷84 ページ）。

テザーアンカー

はじめに

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと車両を接続するための補助的な固定装置です。これにより、けがの危険性をさらに低減する補助を行ないます。チャイルドセーフティシートにテザーアンカーベルトが装備されている場合は、常に使用してください。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

後席パワーシート装備車両：チャイルドセーフティシートを装着した後にシートを調整する場合：

- シートベルトが緩む、または非常にきつくなることがあります。
- チャイルドセーフティシートが緩む、正しく位置しなくなる、または損傷するおそれがあります。

結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護レベルをもたらさないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートを装着した後にシートを調整しないでください。

テザーアンカー

テザーアンカーは後席外側ヘッドレスト後方のパーセルシェルフに取り付けられています。

▶ ヘッドレストを上方に動かします。

▶ テザーアンカーのカバー ① を開きます。

▶ テザーアンカーを装備した ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。その場合は、常にチャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書に従ってください。

▶ ヘッドレストの下の 2 本のヘッドレストの支柱の間にテザーアンカーベルト ④ を通します。

▶ テザーアンカーベルト ④ のテザーアンカーフック ③ をテザーアンカー ② に掛けます。

テザーアンカーベルト ④ にねじれがないことを確認します。

▶ テザーアンカーベルト④をピンと張ります。その場合は、常にチャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書に従ってください。

▶ テザーアンカーのカバー①を倒します。

▶ 必要に応じて、ヘッドレストを再度下方に少し動かして戻します（▷160ページ）。テザーアンカーベルト④の正しい取り回しを妨げていないことを確認してください。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム

助手席シートのチャイルドセーフティシート用センサーシステムは、チャイルドセーフティシート自動検知システム用トランスポンダーを装備したメルセデス・ベンツ専用のチャイルドセーフティシートが取り付けられているかどうかを検知します。この場合は、イグニッションをオンにしたときに、助手席エアバッグオン表示灯が短時間点灯します。助手席エアバッグオフ表示灯は点灯し続けません。助手席エアバッグが無効になります。

ℹ チャイルドセーフティシート自動検知システムにより助手席エアバッグが無効になっている場合でも、助手席側の以下の物は有効なままになります：

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

⚠ 警告

子供を助手席のチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

⚠ 警告

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグは無効になっています。事故のときに作動せず、意図した保護機能を発揮できません。そして、特にダッシュボードのすぐ近くに乗員が着座している場合は、助手席にいる乗員が車両のインテリアに接触するなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

この場合は、助手席シートを使用しないでください。適切な後ろ向きまたは前向きチャイルドセーフティシートのみを助手席シートに取り付けてください。本取扱説明書ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください。

⚠ **警告**

子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くにした場合は、事故のときに、子供が以下のようになることがあります。

- 例えば助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合に、車両のインテリアに接触する
- 助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合に、エアバッグにぶつかる

これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席シートはできるだけ後方に移動してください。シートベルトの肩部分のストラップが、ベルトガイドからチャイルドセーフティシートの肩部分のシートベルトガイドに向かって、正しく取り回されていることを常に確認してください。

シートベルトの肩部分のストラップは、車両のベルトガイドから前方および下方に取り回されていなければなりません。必要な場合は、それに応じて車両のシートベルトガイドおよび助手席を調整します。本取扱説明書ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください。

ⓘ 車両に助手席用チャイルドセーフティシート自動検知システムが装備されていることを確認します（▷81 ページ）。それ以外の場合は、チャイルドセーフティシートは常に、適切なリアシートに取り付けてください（▷84 ページ）。

① 助手席エアバッグオフ表示灯
② 助手席エアバッグオン表示灯

助手席エアバッグオフ表示灯 ① は、助手席エアバッグが無効であるかどうかを示しています。

▶ キーレスゴースイッチを 1 度または 2 度押すか、またはエンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。システムは自己診断を実行します。

約 6 秒間、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しなければなりません。

システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が以下の場合

- **点灯している：**助手席エアバッグは無効になっています。事故のときには作動しません。
- **点灯していない：**チャイルドセーフティシート自動検知システム用トランスポンダーを装備しているチャイルドセーフティシートをセンサーシステムが検知していません。すべての作動基準が満たされている場合に、事故の場合に助手席エアバッグは作動します。

⚠ **警告**

例えば以下のような助手席シートの上にある電子機器が、チャイルドセーフティシート自動検知システムの機能に影響を与えるおそれがあります。

- ノートパソコン
- 携帯電話
- IC カードまたは磁気カードのような電波を送受信するカード

助手席エアバッグが不意に作動したり、事故の間に意図されたように機能しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

上記に記載された機器または類似の機器を助手席シートに置かないでください。走行前および走行中のいずれのときも、助手席エアバッグの状況に注意してください。

助手席でのチャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

事故の統計では、後席に固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム装備車両：どうしても助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付ける必要がある場合は常に、" 助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム " にある情報に従ってください (▷78 ページ)。

これにより、以下のために発生するおそれのある危険性を防ぐことができます。

- チャイルドセーフティシート自動検知システムのセンサーによって検知されないチャイルドセーフティシート
- 助手席エアバッグの意図しない無効化
- ダッシュボードのすぐ近くなど、チャイルドセーフティシートの不適切な位置

助手席サンバイザーの警告ステッカーに注意してください。イラストをご覧ください。

⚠ **警告**

子供を助手席のチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

前方にある有効になっているエアバッグによって保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。子供に致命的な、または重大なけがを引き起こすことがあります。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム非装備車両

車両の助手席にチャイルドセーフティシート自動検知システムが装備されていない場合は、専用のステッカーによって示されます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開いたときに、このステッカーが見えます。

イグニッション位置を **2** にしたときは、助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯します。しかし機能はなく、助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されていることは示していません。この場合は常に、後ろ向きチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに取り付けてください（▷84 ページ）。

" 後ろ向きチャイルドセーフティシート " および " 前向きチャイルドセーフティシート " にある情報、ならびにチャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に注意してください（▷84 ページ）。

後ろ向きチャイルドセーフティシート

後ろ向きチャイルドセーフティシートの警告マーク

どうしても後ろ向きチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付ける必要がある場合は常に、助手席エアバッグが無効になっていることを確認しなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し続けている場合にのみ（▷57 ページ）、助手席エアバッグは無効になっています。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱の説明に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に注意してください（▷84 ページ）。

前向きチャイルドセーフティシート

どうしても助手席シートの前向きチャイルドセーフティシートに子供を固定する必要がある場合は常に、助手席シートをできるだけ後方に動かさなければなりません。シートベルトの肩部分のストラップが、車両のベルトガイドからチャイルドセーフティシートの肩部分のベルトガイドに向かって、正しく取り回されていることを常に確認してください。シートベルトの肩部分のストラップは、車両のベルトガイドから前方および下方に取り回されていなければなりません。必要な場合は、それに応じて車両のベルトガイドおよび助手席を調整してください。

チャイルドセーフティシートの適切な位置（▷84 ページ）、ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着および操作説明に関する情報に常に注意してください。

チャイルドセーフティシート自動検知システムのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。	チャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーを装備している、特別なメルセデス・ベンツチャイルドセーフティシートが助手席シートに取り付けられている。 そのため、希望通りに助手席エアバッグが無効になっている。
	助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。例えば、助手席シートにある電子機器により、チャイルドセーフティシート自動検知システムに不具合がある。 ▶助手席シートから以下のような電子機器を取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • IC カードまたは磁気カードのような電波を送受信するカード 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席シートは使用できません。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
イグニッションをオンにしたとき、乗員保護装置警告灯 [icon] が点灯し、さらに / または • 助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯しない、または • 助手席エアバッグオン表示灯が短時間点灯しない、または • 助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、60 秒後に消灯しない。	⚠ **警告** チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。 助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けないでください。 チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。 ▶乗員保護装置警告灯に関する注意事項も参照してください（▷398 ページ）。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

はじめに

車内での使用には、ECE 基準 ECE R44 により承認されたチャイルドセーフティシートのみが許可されています。

助手席シートのチャイルドセーフティシート - 助手席シートのチャイルドセーフティシートにどうしても子供を固定する必要がある場合は以下に従ってください。

▶ " 助手席シートでのチャイルドセーフティシート " にある指示に常に注意してください（▷80 ページ）。

そこには、シートベルトの肩部分のストラップを車両のベルトガイドからチャイルドセーフティシートの肩部分のシートベルトガイドに向かって正しく取り回す方法に関する説明があります（▷82 ページ）。

▶ 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。助手席シートの前向きチャイルドセーフティシートに子供を固定する場合は、助手席シートも最も低い位置に動かします。

▶ バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。

前向きチャイルドセーフティシートの底面と背面が、助手席シートのクッションおよびバックレストに完全に接していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかってはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にも注意してください。

▶ シートクッションの角度を最も高く、および最も垂直の位置に動かします。

体重カテゴリー II または III のいくつかのチャイルドセーフティシートでは、このことにより使用範囲が制限されることがあります。ルーフへの接触の可能性により、チャイルドセーフティシートを最大サイズに設定することができません。

" ユニバーサル " カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルで判別できます。

例：チャイルドセーフティシートの認証ラベル

" ユニバーサル " カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、" ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性 " または "ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性 " の表にしたがって、U、UF または IUF と表示されたシートで使用できます。

セミユニバーサルチャイルドセーフティシートは、認可ラベルの "semi universal" の文字で示されています。これらは、車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合に使用できます。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシート、または後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、チャイルドセーフティシートに接触しないように運転席および助手席シートを調整しなければなりません。

表の凡例

X　この体重カテゴリーの子供に適合していないシート。

U　この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合。

UF　この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーに属している前向きチャイルドセーフティシートに適合。

L　推奨チャイルドセーフティシートに適合："推奨チャイルドセーフティシート" の表をご覧ください (▷88 ページ)。車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合、セミユニバーサルチャイルドセーフティシートに適合。

(▲)　助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム装備車両："ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシート自動検知システム用のトランスポンダー付きチャイルドセーフティシートが取り付けられていなければなりません。センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

(◆)　ベルトバッグ装備リアシート：ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置への装着は、メルセデス・ベンツにより承認されたチャイルドセーフティシートのみを使用してください。

(●)　ベルトバッグ装備リアシート：承認された KIDFIX チャイルドシートのみを使用してください。

助手席シート

体重カテゴリー	助手席エアバッグが無効になっていない	助手席エアバッグが無効になっている
カテゴリー 0：10kg 以下	X	U、L（▲）
カテゴリー 0+：13kg 以下	X	U、L（▲）
カテゴリー I：9 ～ 18kg	UF、L	U、L
カテゴリー II：15 ～ 25kg	UF、L	U、L
カテゴリー III：22 ～ 36kg	UF、L	U、L

ベルトバッグ非装備リアシート

体重カテゴリー	左、右	センター部
カテゴリー 0：10kg 以下	U	U
カテゴリー 0+：13kg 以下	U	U
カテゴリー I：9 ～ 18kg	U	U
カテゴリー II：15 ～ 25kg	U	U
カテゴリー III：22 ～ 36kg	U	U

ベルトバッグ装備リアシート

体重カテゴリー	左、右
カテゴリー 0：10kg 以下	L（◆）
カテゴリー 0+：13kg 以下	L（◆）
カテゴリー I：9 ～ 18kg	L（◆）
カテゴリー II：15 ～ 25kg	L（●）
カテゴリー III：22 ～ 36kg	L（●）

ベルトバッグ装備リアシート：外側リアシートのチャイルドセーフティシートに子供を固定しているときは、以下の指示に常に注意してください。

- メルセデス・ベンツによって承認されたチャイルドセーフティシートのみを使用してください。" 推奨チャイルドセーフティシート " にある注意事項に常に注意してください（▷88 ページ）。
- 後ろ向きチャイルドセーフティシートは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置によって固定してください。
- 前向きチャイルドセーフティシートは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置および、装備されている場合はテザーアンカーで固定してください。

後席パワーシート装備車両：前向きチャイルドセーフティシートの底面と背面がシートのクッションおよびバックレストに完全に接していなければなりません。チャイルドセーフティシートはルーフに接触してはいけません。それに応じて、バックレストの角度を調整します。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にも注意してください。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシート、または後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、チャイルドセーフティシートに接触しないように運転席および助手席シートを調整しなければなりません。

表の凡例

X　この体重カテゴリーおよび / または サイズカテゴリーで、ISOFIX 対応 チャイルドセーフティシートに適合していない ISOFIX の位置。

IUF　この体重カテゴリーに適合する " ユニバーサル " の前向き ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適しています。

IL　推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表 " 推奨チャイルドセーフティシート "（▷88 ページ）をご覧ください。

メーカーは、適合している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートも推奨しています。そのためには、お客様の車両とシートがチャイルドセーフティシートメーカーのモデルリストに掲載されていなければなりません。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

(◆)　サイズカテゴリー C（ISO/R3）のチャイルドセーフティシートを使用している場合は、フロントシートを最も高い位置に、およびフロントシートのバックレストを起こした位置に動かします。フロントシートのシートバックレストがチャイルドセーフティシートに接していないことを確認してください。

幼児用ベッドの体重カテゴリー

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

体重カテゴリー 0：10kg 以下、約 6 ヶ月以下

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
E	ISO/R1	IL

体重カテゴリー 0+：13kg 以下、約 15 ヶ月以下

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
E	ISO/R1	IL
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL（◆）

体重カテゴリー 1：9 ～ 18kg 以下、約 9 ヶ月～ 4 歳

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL（◆）
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

後席パワーシート装備車両：

"ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置 " にある指示に常に注意してください（▷75 ページ）。シートのバックレストがチャイルドセーフティシートに接していなければなりません。

チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっていてはいけません。可能であれば、それに応じてヘッドレスト位置およびシートバックレストの角度を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示にも従ってください。

推奨チャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

" 助手席のチャイルドセーフティシート "（▷80 ページ）および " チャイルドセーフティシートの適切な位置 "（▷84 ページ） の情報に常に注意してください。

適切なチャイルドセーフティシートに関するさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ベルトバッグ装備リアシート：外側リアシートのチャイルドセーフティシートに子供を固定しているときは、以下の指示に常に注意してください。

- メルセデス・ベンツによって承認されたチャイルドセーフティシートのみを使用してください。
  - 体重カテゴリー 0、 0+ または I：チャイルドセーフティシートは ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に取り付けなければなりません。
  - 体重カテゴリー II/III：承認された KIDFIX チャイルドシートのみを使用してください。
- 後ろ向きチャイルドセーフティシートは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置によって固定してください。
- 前向きチャイルドセーフティシートは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置および、装備されている場合はテザーアンカーで固定してください。
- " ベルトバッグ（後席）" にある説明に常に注意してください（▷61 ページ）。

推奨チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー 0：10kg 以下、約 6 ヶ月以下

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス	ベビーセーフプラスⅡ
認証番号 (E1...)	03 3011 46 04 3011 46	04 3011 46
注文番号 (A000...)	970 10 0 0 カラーコード：9H95	970 20 0 0 カラーコード：9H95
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	対応

体重カテゴリー 0+：13kg 以下、約 15 ヶ月以下

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス	ベビーセーフプラスⅡ
認証番号 (E1...)	03 301 146 04 301 146	04 301 146
注文番号 (A000...)	970 10 00 カラーコード：9H95	970 20 00 カラーコード：9H95
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	対応

体重カテゴリー I：9 ～ 18kg、約 9 ヶ月～ 4 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
認証番号 (E1...)	03 301133 04 301133	03 301133 04 301133
注文番号 (A000...)	970 11 00 カラーコード：9H95	970 16 00 カラーコード：9H95
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	非対応

メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号 (E1...)	04 301133
注文番号 (A000...)	970 21 00 カラーコード：9H95
チャイルドセーフティシートセンサー	対応

体重カテゴリー II/III：15 ～ 36kg、約 4 ～ 12 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッド	キッド
認証番号 (E1...)	03 301148 04 301148	03 301148 04 301148
注文番号 (A000...)	970 12 00	970 17 00
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	非対応

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッドフィックス	キッドフィックス
認証番号 (E1...)	04 301198	04 301198

注文番号（A000...）	970 18 00 カラーコード：9H95	970 19 00 カラーコード：9H95
チャイルドセーフティシート自動検知システム	対応	非対応

メーカー	Britax Römer
タイプ	キッドフィックス
認証番号（E1...）	04 301198
注文番号（A000...）	970 22 00 カラーコード：9H95
チャイルドセーフティシートセンサー	対応

推奨される " ユニバーサル "/" セミユニバーサル " カテゴリーの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート

幼児用ベッドの体重カテゴリー

サイズ等級	F、G
メーカー	–
タイプ	–
認証番号（E1...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシートセンサー	–

カテゴリー 0：10kg 以下

サイズ等級	E
メーカー	–
タイプ	–
認証番号（E1...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシートセンサー	–

カテゴリー 0+：13kg 以下

サイズ等級	E	D、C
メーカー	Britax Römer	–
タイプ	ベビーセーフ ISOFIX プラス	–
認証番号（E1...）	03 3011 46 04 3011 46	–
注文番号（A000...）	B6 6 86 8224	–
チャイルドセーフティシートセンサー	非対応	–

カテゴリー I：9 ～ 18kg

サイズ等級	D、C、B、A
メーカー	–
タイプ	–
認証番号（E1...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート自動検知システム	–

サイズ等級	B1	B1
メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
認証番号 (E1...)	03 301133 04 301133	03 301133 04 301133
注文番号 (A000...)	A 000 970 11 00	A 000 970 16 00
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	非対応

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号（E1...）	04 301133
注文番号	A000 970 21 00
チャイルドセーフティシートセンサー	対応

チャイルドプルーフロック

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行ない、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

事故やけがの危険性があります。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に付き添いのない状態で子供を車両に残さないでください。

⚠ **警告**

子供を車両に乗せて走行している場合は、以下のおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、対向交通にぶつかる
- 車両装備を操作するなどして、挟まれる

事故やけがの危険性があります。

子供を車両に乗せて走行する場合は、使用可能なチャイルドプルーフロックを常に作動させてください。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

以下のチャイルドプルーフロックを作動させることができます：

- リアドア
- リアサイドウインドウ

リアドアのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックで、各ドアを個別にロックできます。チャイルドプルーフロックでロックされているドアは、車内から開くことができません。車両が解錠されているときは、車外からドアを開くことができます。

▶ **設定する：**チャイルドプルーフロックレバーを矢印 ① の方向に押し上げます。

▶ チャイルドプルーフロックが正常に作動していることを確認します。

▶ **解除する：**チャイルドプルーフロックレバーを矢印 ② の方向に押し下げます。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロック

▶ **設定 / 解除する**：スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯している場合は、リアサイドウインドウの操作はできません。運転席ドアのスイッチを使用してのみ、操作が可能です。表示灯 ① が消灯しているときは、後席のスイッチを使用しての操作が可能です。

後席では、以下の操作を無効にすることができます。

- リアサイドウインドウ
- 後席からの助手席シートの調整
- ブラインド
  - ルーフ
  - リアウインドウ
  - リアサイドウインドウ

ペットを乗せるとき

⚠ **警告**

ペットを車内に放置または固定していない場合は、スイッチ類を押してしまう場合があります。

その結果：

- 車両装備を作動させて、挟まれる
- システムを作動または停止して、他の道路交通者を危険にさらす

さらに、事故、急ブレーキや急な進路変更の際に、固定されていないペットが投げ出されて、乗員が負傷するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

付き添いのない状態でペットを車内に残さないでください。走行中は常に、適切なキャリーケースなどを使用して、ペットを正しく固定してください。

走行安全システム

走行安全システムの概要

この章では、以下の走行安全システムについての情報を記載しています。

- ABS（**A**nti-lock **B**raking **S**ystem：アンチロック・ブレーキング・システム）（▷94 ページ）
- BAS（**B**rake **A**ssist **S**ystem：ブレーキアシスト）（▷95 ページ）
- BAS（**B**rake **A**ssist **S**ystem）プラス：BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）（▷95 ページ）
- CPA（衝突警告システム）（アダプティブブレーキアシストおよび車間距離警告機能）（▷97 ページ）
- アダプティブブレーキライト（▷100 ページ）
- ESP®（**E**lectronic **S**tability **P**rogram：エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）（▷101 ページ）
- EBD（**E**lectronic **B**rake force **D**istribution：エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）（▷103 ページ）
- アダプティブブレーキ（▷104 ページ）
- PRE-SAFE® ブレーキ（▷104 ページ）
- ステアコントロール（▷107 ページ）

重要な安全上の注意事項

ℹ ハイブリッド車両の安全上の取り扱いに従ってください（▷107 ページ）。

適切な運転スタイルをとっていない場合や注意が散漫な場合は、走行安全システムは事故の危険性を低減させることはできません。また走行安全システムは物理的法則を無効にすることもできません。走行安全システムは、運転の補助のために設計された単なる支援にすぎません。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候、交通状況に応じて運転スタイルを合わせ、先行車両との間に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

ⓘ 記載されている走行安全システムは、タイヤと路面との間に十分な接触があるときにのみ、可能な限り効果的に作動します。タイヤ、およびタイヤの溝の推奨最小深さなどの注意事項に特に注意してください（▷493 ページ）。

冬の走行状況では、常にウインタータイヤ（M+S タイヤ）を、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることでのみ、本章に記載されている走行安全システムが可能な限り効果的に作動します。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

全体的な注意事項

ABS は、ブレーキを効かせたときに車輪がロックしないようにブレーキ圧を制御します。これにより、ブレーキを効かせているときに、ステアリング操作を続けることができます。

メーターパネルの ABS 警告灯 [ABS] は、イグニッションをオンにすると点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

重要な安全上の注意事項

ⓘ " 重要な安全上の注意事項 " の項目に従ってください（▷93 ページ）。

⚠ **警告**

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。

さらに、他の走行安全システムが解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。注意して運転してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で ABS の点検を受けてください。

ABS が故障している場合は、走行安全システムを含めた他のシステムも作動しません。ABS 警告灯（▷393 ページ）およびメーターパネルに表示されるディスプレイメッセージ（▷350 ページ）に関する情報に従ってください。

路面の状況に関わらず、ABS は約 8km/h 以上の速度で作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを効かせただけでも ABS は作動します。

ブレーキ操作

▶ **ABS が作動した場合**：ブレーキ操作の状況が終わるまで、ブレーキペダルをいっぱいの力で踏み続けてください。

▶ **最大限のブレーキを効かせる**：ブレーキペダルをいっぱいの力で踏んでください。

ブレーキ時に ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに振動を感じます。ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

BAS（ブレーキアシスト）

全体的な注意事項

BAS は、緊急ブレーキの状況で作動します。ブレーキペダルを素早く踏んだ場合は、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

重要な安全上の注意事項

ℹ " 重要な安全上の注意 " に従ってください（▷93 ページ）。

⚠ **警告**

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキ操作

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。BAS は解除されます。

BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）

全体的な注意事項

ℹ " 重要な安全上の注意事項 " の項目に従ってください（▷93 ページ）。

走行しているときに BAS プラスが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムが作動可能でなければなりません。

センサーシステムおよびカメラシステムの支援で、BAS プラスは以下の障害物を検知できます。

- 長時間車両の進路にある物
- 車両の進路を横切る物

加えて、車両の進路にいる歩行者を検知することができます。BAS プラスは、身体の輪郭および直立している人の姿勢のような特有な特徴を使用して歩行者を検知します。

レーダーセンサーシステムまたはカメラシステムが故障している場合は、BAS プラスの機能は制限されるか、または使用できなくなります。その場合もブレーキシステムは使用でき、ブレーキ倍力装置および BAS は十分に機能します。

ℹ " 重要な安全上の注意事項 " の項目に記載されている制限に従ってください（▷95 ページ）。

BAS プラスは、車両および歩行者との衝突の危険性を最小限にし、そのような衝突の影響を減少させることができます。BAS プラスが衝突の危険を検知した場合は、ブレーキ操作時に支援されます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

BAS プラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。そのような場合は、BAS プラスは以下のようになります：

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

⚠ 警告

BAS プラスは、以下では反応しません。

- 子供などの小柄な人
- 動物
- 対向車
- カーブを走行するとき

そのため、BAS プラスはすべての危険な状況下で作動するとは限りません。事故の危険性があります。常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 他のレーダー送信機による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- レーダーセンサーシステムの検知範囲内に急に車両が入り込んだ

カメラシステムによる検知は以下のときも困難になります。

- カメラが汚れている、またはカメラが覆われている
- 空の低いところにある太陽からなどの、カメラシステムへの眩惑がある
- 暗い
- 以下の場合
  - 例えば、車両の進路に歩行者が急に入り込んだ
  - 特殊な衣服または他の物により、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなった
  - 歩行者が他の障害物により隠れている
  - 人特有の輪郭が背景と区別できない

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。フロントウインドウが損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラシステムの設定と作動の点検を行なってください。

機能

衝突を避けるために、BAS プラスは以下の場合に必要な制動力を計算します。

- 障害物に接近している
- BAS プラスが衝突の危険を検知している

30km/h 以下の速度で走行しているとき： ブレーキペダルを踏んだ場合は、BAS プラスが作動します。BAS プラスからのブレーキ操作の支援は、できる限り最後の瞬間に行なわれます。

30km/h 以上の速度で走行しているとき： ブレーキペダルを急に踏んだ場合は、BAS プラスは交通状況に適した度合いにブレーキ圧を自動的に高めます。BAS プラスは、7km/h ～ 250km/h の間の速度域で、先行車両との危険な状態のときにブレーキ操作の支援を行ないます。約 70km/h 以下の速度では、BAS プラスは以下に反応します。

- 停止している、または駐車している車両など、車両の進路にある静止している障害物
- 車両の進路にいる歩行者
- 進路を横切る障害物

ⓘ BAS プラスが特に強力な制動力を要求する場合は、予期乗員保護措置（PRE-SAFE®）が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS プラスは以下の状況では解除され、ブレーキは通常通り再度作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった
- アクセルペダルを踏んだ
- キックダウンを作動させた

CPA（衝突警告システム）

全体的な注意事項

CPA（衝突警告システム）は、以下の項目に記載されている距離警告機能およびアダプティブブレーキアシストから構成されています。

距離警告機能

重要な安全上の注意事項

ⓘ " 重要な安全上の注意事項 " の項目に注意してください （▷93 ページ）。

⚠ **警告**

距離警告機能は、以下では反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

⚠ 警告

距離警告機能は、常に障害物および複雑な交通状況を明確に識別できるわけではありません。

そのような場合は、距離警告機能は以下のようになることがあります。

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、距離警告機能のみに頼らないでください。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- 新しい車両で、または CPA（衝突警告システム）の点検整備を受けた後で

  慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください（▷214 ページ）。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

機能

▶ **設定 / 解除する**：マルチファンクションディスプレイで距離警告機能を設定または解除します。

距離警告機能が設定されていない場合は、アシスト一覧表示に [OFF] マークが表示されます。

距離警告機能は、先行車両との追突事故の危険性を最小限にしたり、そのような衝突の影響を低減させることで運転者を支援します。距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。距離警告機能は、運転者の操作なしに衝突を避けることはできません。

距離警告機能は、以下の速度で警告を発します。

- 約 30km/h またはそれ以上で、数秒間にわたり前方を走行している車両との間に保たれている距離が不十分な場合

  メーターパネルの距離警告灯 [△] が点灯します。

- 約 7km/h またはそれ以上で、先行車両に急激に接近した場合断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯 [△] が点灯します。

▶ 先行車両との車間距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

システムの特性により、危険ではなくとも、特に複雑な走行状況がシステムが警告を表示する原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの支援で、距離警告機能は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

約 70km/h 以上では、距離警告機能は停車または駐車した車両などの静止物にも反応できます。

障害物に接近し、距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的両方で運転者に警告を行ないます。

アダプティブブレーキアシスト

" 重要な安全上の注意事項 " の項目に注意してください（▷93 ページ）。

⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を常に明確に識別できるとは限りません。

そのような場合は、アダプティブブレーキアシストは以下のようになることがあります。

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは、以下では反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- 静止している障害物
- カーブを走行するとき

その結果、アダプティブブレーキアシストはすべての危険な状況では作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

システムの特性により、危険ではないけれど、特に複雑な走行状況もブレーキアシストが介入する原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが作動しない場合は、ブレーキシステムは完全なブレーキ倍力効果および BAS とともに作動可能なままになります。

特に以下の場合は、障害物の検知が困難になるおそれがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している

- 数 km 走行するまでの新車で、または CPA（衝突警告システム）の点検整備を受けた後で

慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください（▷214 ページ）。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキアシストは、7km/h 以上の速度での危険な状況の間にブレーキを効かせる支援を行ない、レーダーセンサーシステムを使用して交通状況を判断します。

レーダーセンサーシステムの支援で、アダプティブブレーキアシストは車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

障害物に接近して、アダプティブブレーキアシストが衝突の危険性を検知した場合は、アダプティブブレーキアシストは、衝突を回避するために必要な制動力を計算します。ブレーキを強く効かせた場合は、アダプティブブレーキアシストは交通状況に適したレベルまで制動力を自動的に増加させます。

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、ブレーキは再度通常通り作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

アダプティブブレーキアシストが特に高いブレーキ圧を必要としている場合は、PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）が同時に作動します。

約 250km/h の車両速度までは、検知期間の間に 1 度は検知された動いている障害物にも、アダプティブブレーキアシストは反応することができます。アダプティブブレーキアシストは静止している障害物には反応しません。

アダプティブブレーキライト

アダプティブブレーキライトは緊急ブレーキ状況で以下のように後続の車両に警告します。

- ブレーキライトの点滅
- 非常点滅灯が作動

約 50km/h 以上の速度から車両に急ブレーキを効かせた場合や、ブレーキアシストまたは BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）によりブレーキ操作が支援された場合は、ブレーキライトが素早く点滅します。このようにして、より注意を引きやすい方法で後方の車両に警告を行ないます。

約 70km/h 以上の速度で停止するまで急ブレーキを効かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。再度ブレーキを効かせると、ブレーキライトが点灯し続けます。非常点滅灯は、約 10km/h 以上で走行すると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ（▷181 ページ）を押して、消灯させることもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

全体的な注意事項

ⓘ " 重要な安全上の注意 " に従ってください（▷93 ページ）。

ESP® は走行安定性およびトラクション（タイヤおよび路面の間の動力伝達）をモニターします。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本または複数のタイヤにブレーキを効かせ、車の走行姿勢を安定させます。また、エンジン出力を調整して、物理的限界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。

ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作を支援します。また、ESP® はブレーキ時の車両の姿勢も安定させることができます。

ETS/4ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）

ⓘ " 重要な安全上の注意事項 " の項目に従ってください（▷93 ページ）。

ETS トラクションコントロールは、ESP® の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転したときに、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などの滑りやすい路面での発進や加速を可能にします。さらに、駆動力のある 1 本または複数の車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP® を解除した場合でも、トラクションコントロールは設定されたままになります。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ESP® が故障している場合は、ESP® は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全システムは解除されます。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。

4MATIC 非装備車両：リアアクスルを上げた状態でけん引するときは、ESP® に関する注意事項に注意することが重要です（▷484 ページ）。

エンジンがかかっているときにメーターパネルの ESP® 解除警告灯 [OFF] が点灯している場合は、ESP® が解除されています。

ESP® 警告灯 [ ] が点灯し続けている場合は、故障のため ESP® は使用できません。

警告灯（▷395 ページ）およびメーターパネルに表示されるディスプレイメッセージ（▷350 ページ）に関する情報に従ってください。

以下の場合は、マルチファンクションディスプレイに故障および警告のメッセージが表示されることがあります。

- エンジンをかけた状態で立体駐車場などのターンテーブルで車両を回転させた、または
- 立体駐車場に進入するときなど、長くて狭いらせん状の走行路を走行した

以下のような警告灯も点灯することがあります。

- ESP® 警告灯
- ABS 警告灯

▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。

▶ エンジンを停止します。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ エンジンを再始動してください。しばらくすると、メッセージが消え、警告灯が消灯します。消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

ℹ 推奨されたタイヤサイズの車輪のみを使用してください。そのときにのみ、ESP® は正しく機能します。

ESP® の特性

全体的な注意事項

走行を開始する前に ESP® 警告灯 が消灯した場合は、ESP® は自動的に設定されています。

ESP® が作動すると、メーターパネルの ESP® 警告灯 が点滅します。

ESP® が作動する場合

▶ どのような状況でも ESP® を解除しないでください。

▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。

▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ECO スタートストップ機能

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンを停止します。再び発進するときに、自動的にエンジンが始動します。ESP® は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前に ESP® が解除されていた場合は、エンジンを再度始動したときに ESP® は解除されたままになります。

ESP® の解除 / 設定

重要な安全上の注意事項

ℹ " 重要な安全上の注意事項 " に従ってください （▷93 ページ）。以下の ESP® の状態を選択することができます：

- ESP® を設定する
- ESP® を解除する

⚠ **警告**

ESP® を解除すると、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

以下の状況では、ESP® を解除したほうが良いことがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき

ℹ 上記に記載されている状況でなくなったら、ただちに ESP® を設定してください。車両が横滑りしたり車輪が空転し始めたときに、ESP® が車両を安定させることができません。

ESP® の解除 / 設定

マルチファンクションディスプレイでESP® を解除または設定させることができます。

▶ **解除する：**（▷341 ページ）

メーターパネルの ESP® 解除警告灯 [ESP OFF] が点灯します。

▶ **設定する：**（▷341 ページ）

メーターパネルの ESP® 解除警告灯 [ESP OFF] が消灯します。

ESP® が解除されているときの特性

ESP® が解除されている場合、1 本または複数の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP® 警告灯 [ESP] が点滅します。このような状況では、ESP® は車両を安定させません。ESP® を解除すると、以下のようになります。

- ESP® は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。

  やわらかい路面では、掘る動作につながる車輪の空転により、駆動力が向上します。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- ブレーキを効かせたときは、ESP® は引き続き支援を行ないます。

クロスウインドアシスト

全体的な注意事項

マジックボディコントロール装備車両：横風の際の車両を安定させるための情報は（▷271 ページ）をご覧ください。

直進走行時は、強い横風の突風により車両の走行安定性を損なうおそれがあります。ESP® に内蔵されているクロスウインドアシスト機能は、これらの影響を顕著に減少させます。

横風の方向と強さに応じて、ESP® が自動的に作動します。

ESP® はブレーキの介入で車両を安定させ、車両を車線内にとどめる支援を行ないます。

クロスウインドアシストは、直線または緩やかなカーブを走行しているときに、80km/h 以上の車両速度で作動します。

重要な安全上の注意事項

ESP® が解除されている、または不具合のために作動できない場合は、クロスウインドアシストは作動しません。

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

全体的な注意事項

EBD は、後輪のブレーキ圧をモニターしてコントロールを行ない、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

重要な安全上の注意

ⓘ " 重要な安全上の注意事項 " の項目に注意してください（▷93 ページ）。

⚠ 警告

EBD が故障した場合には、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯（▷394 ページ）、およびディスプレイメッセージ（▷354 ページ）に関する情報に注意してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作をもたらします。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能（▷269 ページ）およびヒルスタートアシスト機能（▷220 ページ）も備えています。

PRE-SAFE® ブレーキ（歩行者検知機能付）

全体的な注意事項

ⓘ " 走行安全システム " の項目の重要な安全上の注意事項に注意してください（▷93 ページ）。

走行時に PRE-SAFE® ブレーキが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムが作動可能でなければなりません。

レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムの支援で、PRE-SAFE® ブレーキは車両の前方に長時間ある障害物を検知することができます。

加えて、車両の進路にいる歩行者を検知することができます。

PRE-SAFE® ブレーキは、身体の輪郭および直立している人の姿勢のような特徴により歩行者を検知します。

ⓘ " 重要な安全上の注意事項 " の項目に記載されている制限に従ってください。

PRE-SAFE® ブレーキは先行車両または歩行者との衝突の危険性を最小限にし、そのような衝突の影響を低減するために運転者を支援します。PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険を検知した場合は、自動的にブレーキを効かせるとともに、視覚的および聴覚的な警告を行ないます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

衝突の危険を検知すると、PRE-SAFE® ブレーキはまず部分的にブレーキを効かせて車両を制動します。運転者がブレーキを効かせない場合は衝突することがあります。ブレーキをいっぱいに効かせた後であっても、特に非常に速い速度で接近しているときは、必ずしも衝突を避けられるとは限りません。事故の危険性があります。

常にブレーキをご自身で効かせ、安全確認をしながら、危険回避の操作を行なってください。

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキを効かせる
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキを効かせる準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

先行車両との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐためには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

PRE-SAFE® ブレーキは以下の条件下で車両に自動的にブレーキを効かせることができます。

- 運転者および助手席乗員がシートベルトを着用している

および

- 車両速度が約 7km/h および 200km/h の間である

約 70km/h 以下の速度では、PRE-SAFE® ブレーキは以下を検知することもできます。

- 停止している、または駐車している車両など、車両の進路にある静止している障害物
- 車両の進路にいる歩行者

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、以下では反応しません。

- 子供などの小柄な人
- 動物
- 対向車
- 交差交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況で、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 他のレーダー送信機による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している

カメラシステムによる検知は以下のときも困難になります。

- カメラが汚れている、またはカメラが覆われている
- 空の低いところにある太陽からなどの、カメラシステムへの眩惑がある
- 暗い

- 以下の場合
  - 例えば、車両の進路に歩行者が急に入り込んだ
  - 特殊な衣服または他の物により、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなった
  - 歩行者が他の障害物により隠れている
  - 人特有の輪郭が背景と区別できない

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

フロントトウインドウが損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラシステムの設定と作動の点検を行なってください。

機能

▶ **設定 / 解除する：**マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキを設定または解除します（▷342 ページ）。

PRE-SAFE® ブレーキが設定されていない場合は、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に [OFF] マークが表示されます。

この機能は、以下の場合に警告を発します。

- 約 30km/h またはそれ以上の速度で、数秒間に渡り、前方を走行している車両との間に保たれている距離が不十分である。

  メーターパネルの距離警告灯 [⚠] が点灯します。
- 約 7km/h またはそれ以上の速度で、先行車両または歩行者に急に接近している。

  断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯 [⚠] が点灯します。

▶ ただちにブレーキを効かせ、状況を回避してください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

ℹ 衝突の危険性が高まった場合は、PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）が作動します。

先行車両との衝突の危険性がそのままで、ブレーキを効かせる、回避操作をとる、または著しく加速することを運転者が行なわなかった場合は、フルブレーキを適用する度合いまで、車両が自動緊急ブレーキを効かせることがあります。自動緊急ブレーキは、切迫した事故の直前までは作動しません。

PRE-SAFE® ブレーキの介入は、以下によりいつでも解除することができます。

- アクセルペダルをさらに踏む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルを放す

以下では、PRE-SAFE® ブレーキのブレーキ操作は自動的に解除されます。

- 障害物を回避する操作を行なった
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知されている障害物がなくなった

ステアコントロール

全体的な注意事項

ステアコントロールは、車両を安定させるために必要な向きの操舵力をステアリングに伝達することにより運転者を支援します。

操舵支援は、特に以下で行なわれます。

- ブレーキ時に、両方の右側車輪または両方の左側車輪が濡れた、または滑りやすい路面にある。
- 車が横滑りをし始めた。

重要な安全上の注意事項

ⓘ " 重要な安全上の注意事項 " の項目に注意してください（▷93 ページ）。

以下の場合は、ステアコントロールからの操舵支援は行なわれません。

- ESP® が故障している
- ステアリングが故障している

ただし、パワーステアリングは作動し続けます。

盗難防止警報システム

イモビライザー

イモビライザーにより、正規のキー以外で車両を始動することを防止します。

▶ **キー操作で待機状態にする：**エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴー操作で待機状態にする：**イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。

▶ **解除する：**エンジンを始動します。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。有効なキーが車内に残されていると、誰でもエンジンを始動することができます。

ⓘ エンジンを始動したときは常に、イモビライザーは解除されます。

ATA（盗難防止警報システム）

▶ **待機状態にする：**キーまたはキーレスゴー操作で車両を施錠します。

表示灯 ① が点滅します。警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。

▶ **解除する：**キーまたはキーレスゴー操作で車両を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

システムが待機状態のときに以下を開いた場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。

- ドア
- エマージェンシーキーでの車両
- トランクリッド
- ボンネット

▶ **キーを操作して警報を停止する：**キーの [解錠] または [施錠] スイッチを押します。

警報が停止します。

または

▶ エンジンスイッチからキーレスゴーキーを抜きます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

警報が停止します。

▶ **キーレスゴー操作で警報を停止させる：**車外のドアハンドルを握ります。キーは車外にある必要があります。

警報が停止します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。

警報が停止します。

警告を発した開いたドアなどを閉じた場合でも、警報は停止しません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きが変化した場合は、聴覚的および視覚的な警報が発せられます。たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

待機状態にする

▶ 以下のことを確認してください。

- ドアが閉じている
- トランクリッドが閉じている

この後にのみ、けん引防止機能が待機状態になります。

▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。

約 60 秒後に、けん引防止機能は待機状態になります。

解除する

▶ キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

けん引防止機能は自動的に解除されます。

待機状態を解除する

けん引防止機能の待機状態の解除に関する情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

室内センサー

機能

室内センサーが待機状態のときに車内で動きが検知された場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。誰かが車内に手を伸ばした場合などに起こります。

待機状態にする

▶ 以下のことを確認してください。

- サイドウインドウが閉じている
- パノラミックスライディングルーフが閉じている
- ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの掛かっている物がない

このことは、警報の誤作動を防ぎます。

▶ 以下のことを確認してください。

- ドアが閉じている
- パノラミックスライディングルーフが閉じている
- トランクリッドが閉じている

この場合にのみ、室内センサーは待機状態になります。

▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。

約 30 秒後に、室内センサーが待機状態になります。

解除する

▶ キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

室内センサーが自動的に解除されます。

待機状態を解除する

室内センサーの待機状態の解除に関する情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

キー

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。また、以下のような操作を行ない、車両を動かす場合もあります。
- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ **警告**

キーに、重い物や大きなアクセサリー等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。そのため、エンジンが停止するおそれがあります。事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリー等を付けないでください。操作の邪魔になるアクセサリー等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

! 強い磁場を発生する物の近くにキーを保管しないでください。磁場の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い磁場は、強力な電気設備の近くで発生します。

以下にはキーを近付けないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの内部が金属の物
  キーが正常に機能しなくなるおそれがあります。

温度制御式カップホルダー（▷431 ページ）にキーを保管しないでください。また、パーセルシェルフの上またはトランク内に保管しないでください。さもないと、キーレスゴースイッチを使用してのエンジン始動時などに、キーが検知されないことがあります。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる電波交信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。以下のときなどに行なわれます：

- エンジンの始動時
- 走行している間
- 車外のドアハンドルに触れたとき
- コンビニエンスクロージングの間

キーの機能

① 🔒 車両の施錠
② トランクリッドを開く
③ 🔓 車両の解錠

▶ **集中解錠する**：スイッチ ③ を押します。

解錠して約 40 秒以内に車両を開かない場合：

- 車両が再度施錠されます
- 盗難防止警報システムが再度待機状態になります

▶ **集中施錠する**：スイッチ ① を押します。

キーで以下を集中施錠 / 解錠操作できます。

- ドア
- トランクリッド
- 燃料給油口フラップ

解錠したときは、方向指示灯が 1 回点滅します。施錠したときは、3 回点滅します。

ℹ 施錠時のアンサーバック機能を設定することもできます。COMAND システムを使用して、確認音を設定および解除することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

ℹ COMAND システムでロケイターライティングを設定しているときは、暗いときにリモコンを使用して車両を解錠すると、一部の車外ライトが点灯します。ロケイターライティングの設定および解除に関する情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

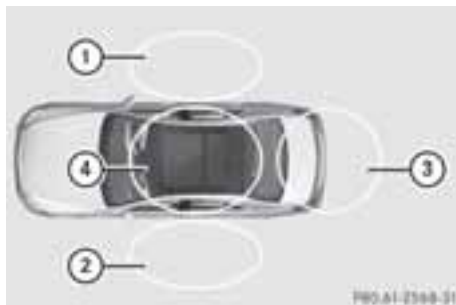
▶ **車外からトランクリッドを自動的に開く**：トランクリッドが開くまで、スイッチ ② を押して保持します。

キーレスゴー

重要な安全上の注意事項

⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：キーレスゴーを使用するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

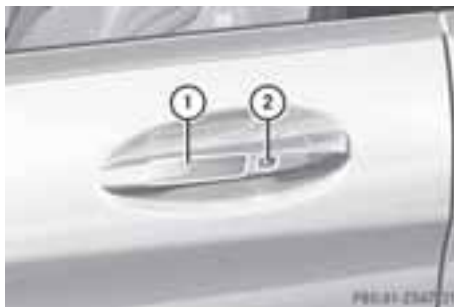
車両を操作する前に、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。

キーレスゴーアンテナの検知範囲
① 右側外部アンテナの検知範囲
② 左側外部アンテナの検知範囲
③ リアアンテナの検知範囲
④ 車内アンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

集中施錠および解錠

キーレスゴーを使用して、始動、車両の施錠または解錠ができます。このために必要なのはキーを携帯することのみです。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせることができます。たとえば、キーレスゴー操作で車両を解錠し、キーの 🔒 スイッチで施錠することができます。キーレスゴーで施錠または解錠するときは、キーと対応するドアハンドルの間の距離が 1m 以上になってはいけません。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる電波交信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。以下のときなどに行なわれます：

- エンジンの始動時
- 走行している間
- 車外のドアハンドルに触れたとき
- コンビニエンスクロージングの間

▶ **車両を解錠する：**ドアハンドルの内側面に触れます。

▶ **車両を施錠する：**センサーの表面 ① または ② に触れます。

▶ **コンビニエンスクロージング機能：** センサー面の凹部 ② に一定時間触れます。

コンビニエンスクロージング機能に関するさらなる情報は（▷131 ページ）をご覧ください。

▶ **トランクリッドを解錠する：** トランクリッドのハンドルを引きます。

ロックシステムの設定変更

ロックシステムの設定を変更することができます。車両を解錠したときは、運転席ドアと燃料給油口フラップのみが解錠されるようになります。運転者のみで頻繁に走行する場合は、この設定が便利です。

▶ **設定を変更する：** バッテリー表示灯が 2 度点滅するまで [解錠] および [施錠] スイッチを同時に約 6 秒間押して保持します（▷116 ページ）。

ⓘ 車両の信号範囲内でロックシステムの設定を変更したときは、[施錠] または [解錠] スイッチを押すと、以下になります。

- 車両が施錠されます、または
- 車両が解錠されます

このとき、キーは以下のように作動します。

▶ **運転席ドアを解錠する：** [解錠] スイッチを 1 回押します。

▶ **すべてを解錠する：** [解錠] スイッチを 2 回押します。

▶ **すべてを施錠する：** [施錠] スイッチを押します。

キーレスゴー機能は以下のように切り替わります。

▶ **運転席ドアを解錠する：** 運転席ドアのドアハンドルの内側面に触れます。

▶ **すべてを解錠する：** 助手席ドアまたはリアドアのドアハンドルの内側面に触れます。

▶ **すべてを施錠する：** いずれかのドアハンドルの外側面に触れます。

▶ **工場出荷時の設定に戻す：** バッテリーチェックライトが 2 回点滅するまで、[解錠] および [施錠] スイッチを約 6 秒間同時に押して保持します（▷116 ページ）。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車両を施錠または解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください（▷108 ページ）。

エマージェンシーキーで車両を解錠しても、燃料給油口フラップは自動的に解錠されません。

▶ **燃料給油口フラップを解錠する：** エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し

▶ ロック解除キャッチ ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから取り外します。

詳しい情報は、以下をご覧ください。

- 運転席ドアの解錠（▷122 ページ）
- トランクの解錠（▷128 ページ）
- 車両の施錠（▷122 ページ）

エマージェンシーキーの挿入

▶ 固定されるまでエマージェンシーキー ② をキーに完全に押すと、ロック解除キャッチは基本の位置に戻ります。

キーの電池

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

環境保護に関する注意事項

バッテリーには汚染物質が含まれています。家庭ごみと一緒に廃棄することは法律で禁止されています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

バッテリーは環境保護の観点から責任を持って適切に廃棄してください。使用済みのバッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場または使用済みバッテリーの収集場までお持ちください。

バッテリーの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

電池の点検

▶ 🔒 または 🔓 スイッチを押します。

バッテリーチェックライト ① が短時間点灯した場合は、電池は正常です。

バッテリーチェックライト ① が短時間点灯しない場合は、電池が消耗しています。

▶ 電池を交換してください（▷117 ページ）。

ⓘ 車両の信号受信範囲内で 🔒 または 🔓 スイッチを押してキーの電池を点検したときは以下のようになります：

- 車両が施錠されます、または
- 車両が解錠されます

ⓘ 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手することができます。

電池の交換

CR2025 3V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷116 ページ）。

▶ 電池収納部カバー ① が開くまで、キーの開口部にエマージェンシーキー ② を押し込みます。このときは、電池収納部カバー ① を押さえて閉じないようにしてください。

▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。

▶ 電池 ③ が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返したたきます。

▶ プラス面が上になるようにして、新しい電池を差し込みます。このときは、毛羽立ちのない布を使用してください。

▶ 電池の表面に糸くず、脂分、汚れがないことを確認してください。

▶ 電池収納部カバー ① の前側にある凸部を本体に差し込み、押して閉じます。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに差し込みます。

▶ 車両で、キーのすべてのスイッチが正常に機能することを確認します。

キーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーを使用して車両を施錠または解錠できなくなった	キーの電池が放電している、またはほぼ放電している。 ▶キーの電池（▷116 ページ）を点検し、必要であれば交換してください（▷117 ページ）。 作動しない場合： ▶エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠（▷122 ページ）または施錠（▷122 ページ）します。
	強い電波源からの干渉を受けている。 ▶エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠（▷122 ページ）または施錠（▷122 ページ）します。
	キーが故障している。 ▶エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠（▷122 ページ）または施錠（▷122 ページ）します。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴーを使用して施錠 / 解錠できない	キーの電池が放電している、またはほぼ放電している。 ▶キーの電池（▷116 ページ）を点検し、必要であれば交換してください（▷117 ページ）。 作動しない場合： ▶エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠（▷122 ページ）または施錠（▷122 ページ）します。
	強い電波源からの干渉を受けている。 ▶エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠（▷122 ページ）または施錠（▷122 ページ）します。
キーレスゴーを使用して施錠 / 解錠できない	キーレスゴーが故障している。 ▶キーのリモコン機能を使用して車両を施錠 / 解錠してください。 ▶車両およびキーをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。 リモコン機能を使用しても車両を施錠 / 解錠できない場合： ▶エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠（▷122 ページ）または施錠（▷122 ページ）します。 ▶車両およびキーをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーを使用してエンジンを始動することができない。	バッテリーの電圧が非常に下がっている。 ▶シートヒーター、ルームライトなどの必要としない電気装備を停止してから、再度エンジン始動操作を行なってください。 作動しない場合： ▶スターターバッテリーを点検し、必要であれば交換してください（▷476 ページ）。 または ▶ジャンプスタートを行なってください（▷478 ページ）。 または ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
キーレスゴースイッチを使用して、エンジンを始動することができない。キーが車内にある。	車両が施錠されている。 ▶車両を解錠して、再度車両を始動するよう試みてください。
	強い電波源からの干渉を受けている。 ▶エンジンスイッチのキーで、車両を始動してください。
キーを紛失した	▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ただちに自動車保険会社へ紛失を報告してください。 ▶必要な場合は、キーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ただちに自動車保険会社へ紛失を報告してください。 ▶必要な場合は、キーシリンダーも交換してください。

ドア

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行ない、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンを始動する

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

荷物はなるべくトランクに収納してください。積載のガイドライン(▷422 ページ)をお守りください。

車内からドアを解錠して開く

施錠されている場合でも、車内からドアを開くことができます。チャイルドプルーフロックによってロックされていない場合にのみ、車内からリアドアを開くことができます（▷92 ページ）。すでにキーまたはキーレスゴーで車両が施錠されている場合は、車内からドアを開くと盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください(▷108 ページ)。

▶ ドアハンドル ② を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がります。ドアが解錠され開きます。

車内からの車両の集中施錠および解錠

車内から車両を集中して施錠および解錠できます。スイッチは両方のフロントドアにあります。

▶ **解錠する：**スイッチ ① を押します。

▶ **施錠する：**スイッチ ② を押します。

運転席ドアおよび助手席ドアが閉じているときは、車両が施錠されます。

燃料給油口フラップは施錠または解錠されません。キーまたはキーレスゴーで車両が施錠されている場合は、車内からドアロックスイッチで集中解錠することはできません。

ドアは車内から開くことができます。チャイルドプルーフロックによってロックされていない場合にのみ、車内からリアドアを開くことができます（▷92 ページ）。

すでにキーまたはキーレスゴーで車両が施錠されている場合は、車内からドアを開くと盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください（▷108 ページ）。

ℹ 集中施錠のロックスイッチを使用して車両が施錠がされている、または自動的に施錠されている場合は、車内からドアを開くと以下のようになります：

- あらかじめすべてが解錠されていた場合は、車両は完全に解錠されます。
- あらかじめ運転席ドアのみが解錠されていた場合は、車内から開いたドアのみが解錠されます。

車速感応ドアロック

▶ **解除する：**音が鳴るまで、スイッチ ① を約 5 秒間押し続けます。

▶ **待機状態にする：**音が鳴るまでスイッチ ② を約 5 秒押して保持します。

ℹ いずれかのスイッチを押しても音が聞こえない場合は、その設定はすでに選択されています。

イグニッションがオンのときに車輪が回転すると、車両は自動的に施錠されます。

そのため、以下では閉め出されるおそれがあります。

- 車両を押す
- けん引される
- ダイナモメーターで車両をテストする

ℹ COMAND システムを使用して、車速感応ドアロックの設定および解除を切り替えることができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

クロージングサポーター

クロージングサポーターは、ドアやトランクリッドが完全に閉じていないときでも自動的にロックまで作動する機能です。

- **クロージングサポーターでドアを閉じる：**最初に止まる位置までドアをロックに押し込みます。クロージングサポーターがドアを確実に閉じます。
- **クロージングサポーターでトランクリッドを閉じる**：トランクリッドを軽く押して閉じます。クロージングサポーター機能がトランクリッドを引いて閉じます。

運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠または解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用してください。

- キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷116 ページ）。
- エマージェンシーキーの先端部を運転席ドアのキーシリンダーにある保護キャップの溝に差し込み、保護キャップが外れるまでまわします。
- 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。

- エマージェンシーキーを 1 の位置まで時計回りにいっぱいまでまわします。

  ロックノブが上がり、ドアが解錠されます。

ℹ 左ハンドル車両では、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。

- エマージェンシーキーを元の位置にまわして戻し、抜きます。
- エマージェンシーキーをキーに差し込みます。
- 厚みがある端部が車両前方を向くようにして、運転席ドアのキーシリンダーの上に保護キャップをおさえ、押して固定します。保護キャップの溝が水平になっていることを確認します。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠して開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください（▷108 ページ）。

車両の施錠（エマージェンシーキー）

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用します。

- 運転席ドアを開きます。
- 助手席ドア、リアドアおよびトランクリッドを閉じます。
- ロックスイッチ（▷120 ページ）を押します。
- 助手席ドアおよびリアドアのロックノブがまだ見えているかどうかを確認してください。必要な場合は、ロックノブを手で押し込みます。
- 運転席ドアを閉じます。
- キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷116 ページ）。
- 必要な場合は、エマージェンシーキーの先端を運転席ドアのキーシリンダーにある保護キャップの溝に差し込み、保護キャップが外れるまでまわします。

▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置まで反時計回りにいっぱいまでまわします。

ロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

ⓘ 左ハンドル車両では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして戻し、抜きます。

▶ ドアとトランクリッドが施錠されていることを確認します。

▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

▶ 厚みがある端部が車両前方を向くようにして、運転席ドアのキーシリンダーの上に保護キャップをおさえ、押して固定します。保護キャップの溝が水平になっていることを確認します。

ⓘ 上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油口フラップは施錠されません。盗難防止警報システムは待機状態になりません。

トランク

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

! トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ トランクリッドを開いたときの寸法については、" サービスデータ " の (▷527 ページ) をご覧ください。

トランクの中にキーを残したままにしないでください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。

荷物はなるべくトランクに収納してください。積載のガイドライン(▷422 ページ)をお守りください。

トランクリッドのリバース機能付障害物検知

自動開閉トランクリッド装備車両は、トランクリッドにリバース機能付自動障害物検知が装備されています。自動開閉時にかたい障害物がトランクリッドをブロックした、または妨げた場合は、この動作は停止します。閉じている動作の間にトランクリッドが停止した場合は、再度自動的に開きます。リバース機能付自動障害物検知は単なる支援にすぎません。トランクリッド開閉時のお客様の注意の代わりになるものではありません。

⚠ **警告**

以下では、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 8mm 以下となったとき

リバース機能は、これらの状況で挟まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。
閉じている動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。挟まれたときは以下のいずれかを行なってください：

- キーの [トランク] スイッチを押してください、または
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押してください、または
- トランクリッドのクローザースイッチまたはロックスイッチを操作してください、または
- トランクリッドのハンドルを引いてください

手動開閉

開く

▶ キーの [トランク] スイッチを押します。

▶ ハンドル ① を引きます。

▶ トランクリッドが自動で開きます。

閉じる

▶ トランクリッドを軽く押して閉じます。クロージングサポーター機能がトランクリッドを引いて閉じます。

▶ 必要な場合は、キーの [施錠] スイッチまたはキーレスゴー（▷114 ページ）で車両を施錠します。

ℹ キーレスゴーがトランク内でキーを検知した場合は、トランクリッドは施錠されません。再度開きます。

車外からの自動開閉

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

トランクリッドが自動で閉じている間に、身体の一部が挟まれるおそれがあります。

さらに、閉じている動作中に、お子様などが閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。けがの危険性があります。

閉じている動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉じている動作を停止させるためには、以下のいずれかを行なってください：

- キーの ⌴ スイッチを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを操作します。
- トランクリッドのクローザースイッチまたはロックスイッチを押します。
- トランクリッドのハンドルを手前に引きます。

⚠ 警告

トランクリッドのクローザースイッチまたはロックスイッチを押すと、トランクリッドは自動で閉じます。

トランクリッドを閉じるときは、身体や物を挟まれないように注意してください。

! トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ トランクリッドを開いたときの寸法については、" サービスデータ " の（▷527 ページ）をご覧ください。

開く

キーまたはトランクリッドのハンドルを使用して、トランクリッドを自動的に開くことができます。

▶ トランクリッドが開くまで、キーの ⌴ スイッチを押し続けます。

または

▶ トランクリッドが解錠されているときは、トランクリッドのハンドルを引いてすぐに手を放します。

閉じる

▶ **閉じる**：トランクリッドのクローザースイッチ ① を押します。

すべてのドアが閉じているときは、トランクリッドを閉じて、同時に車両を施錠することができます。キーレスゴーキーは車両後方の検知範囲になければなりません。

▶ トランクリッドのロックスイッチ ② を押します。キーレスゴーが車両の外側でキーを検知した場合は、トランクリッドが閉じ、車両が施錠されます。

ⓘ キーレスゴーがトランク内のキーを検知した場合は、トランクリッドは閉じた後に再度開きます。キーレスゴーが車両の外側で 2 番目のキーを検知した場合は、トランクリッドは閉じたままになります。

ハンズフリーアクセス

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

車両の排気システムが非常に熱くなることがあります。ハンズフリーアクセスを使用する場合は、排気システムに触れるとやけどをするおそれがあります。けがの危険性があります。センサーの検知範囲内でのみ、足を動かす動作をしていることを常に確認してください。

! キーがキーレスゴーの後方検知範囲内にある場合は、例えば以下の状況ではトランクが不意に開くことがあります。

- 洗車機の使用
- 高圧式スプレーガンの使用

キーが車両より最低約 2m 離れていることを確認してください。

全体的な注意事項

キーレスゴーとハンズフリーアクセスにより、手を使用しないでトランクリッドを開閉したり、動作を停止することができます。両手がふさがれているときなどに便利です。そのためにはバンパーの下で、足で蹴る動作を行なってください。

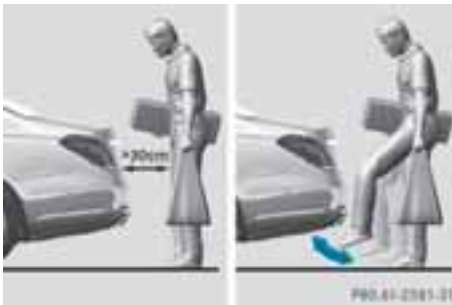
以下の点に注意してください。

- お客様自身がキーレスゴーキーを携帯してください。キーレスゴーキーは車両後方の検知範囲になければなりません。
- 足で蹴る動作を行なうときは、地面にしっかりと立ち、車両の後方に十分な空き空間があることを確認してください。さもないと、凍結しているところなどでバランスを失なうおそれがあります。

- センサー ① の検知範囲内でのみ、足で蹴る動作をしていることを常に確認してください。
- そうしている間は、後方エリアから少なくとも 30cm 離れて立ちます。
- 足で蹴る動作を行なっている間は、バンパーと接触しないようにしてください。さもないと、センサーが正しく機能しないことがあります。
- エンジンがかかっているときは、ハンズフリーアクセスは作動しません。
- キーレスゴーキーが車両後方のキーレスゴー検知範囲にある場合、ハンズフリーアクセスが作動することがあります。例えば以下のときに、トランクリッドが不意に開いたり閉じたりする可能性があります。
  - 車両後方で物を降ろす、または持ち上げる
  - 車両後部を清掃する

そのような状況では、キーレスゴーキーを他の方に渡さないでください。これはトランクが不意に開いたり閉じたりすることを防ぎます。

- 路面の塩分によるセンサー ① 周辺の汚れは、機能を制限することがあります。
- 義足でのハンズフリーアクセスの使用では、機能が制限されることがあります。

使用

▶ **開閉する：**バンパー下のセンサー ① 検知範囲内に足で蹴る動作をします。トランクリッドの開閉時、警告音が鳴ります。

▶ **何度試みても、トランクリッドが開かないとき：**10 秒間待ち、その後もう一度バンパーの下で、足で蹴る動作をしてください。

ℹ 長時間バンパー下に足を入れている場合は、トランクリッドは開閉しません。この場合は、再度より速く足を動かしてください。

開閉操作を停止させるためには、以下のいずれかを行なってください。

- バンパー下のセンサー検知範囲内で足を動かす
- トランクリッド外側のハンドルを引く
- トランクリッドのクローザースイッチを操作する
- キーの [⊐] スイッチを押す

トランクリッドの閉じる動作が停止した場合は：

- バンパー下で再度足を動かすと、トランクリッドが開きます。

トランクリッドの開く動作が停止した場合は：

- バンパー下で再度足を動かすと、トランクリッドが閉じます。

車内からの自動開閉

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

トランクリッドが自動で閉じている間に、身体の一部が挟まれるおそれがあります。

さらに、閉じている動作中に、お子様などが閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。けがの危険性があります。

閉じている動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉じている動作を停止させるため、以下のいずれかを行なってください：

- キーの [⊐] スイッチを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。
- トランクリッドのクローザースイッチまたはロックスイッチを操作します。
- トランクリッドのハンドルを手前に引きます。

! トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ トランクリッドを開いたときの寸法については、" サービスデータ " の（▷527 ページ）をご覧ください。

開閉

車両が停車していて、解錠されているときは、運転席からトランクリッドを開閉できます。

- ▶ **開く：**トランクリッドが開くまで、トランクスイッチ ① を引き続けます。
- ▶ **閉じる：**トランクリッドが完全に閉じるまで、トランクスイッチ ① を押します。

トランクの独立解錠

トランクを独立施錠することができます。トランクを独立施錠しているときは、セントラルロックシステムで車を解錠しても、トランクは施錠されたままで開くことはできません。

トランクを独立して施錠する機能を作動させる

- ▶ トランクリッドを閉じます。
- ▶ グローブボックスを開きます。
- ▶ スイッチを ② の位置に押します。

  車両が集中して解錠された場合は、トランクは施錠されたままです。

ⓘ グローブボックスを施錠することもできます（▷423 ページ）。

トランクを独立して施錠する機能を解除する

- ▶ グローブボックスを開きます。
- ▶ スイッチを ① の位置に押します。

  車両が集中して解錠された場合は、トランクも解錠されます。

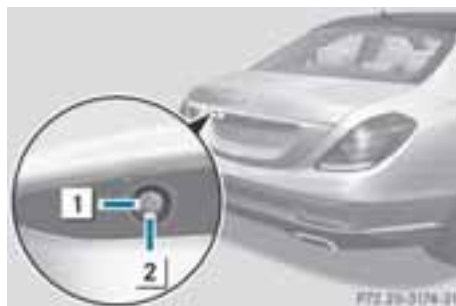
トランクの解錠（エマージェンシーキー）

! トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

キー、キーレスゴー、またはハンズフリーアクセスでトランクを解錠できない場合は、エマージェンシーキーを使用します。

エマージェンシーキーを使用してトランクリッドを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください（▷108 ページ）。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷116 ページ）。

▶ エマージェンシーキーをトランクリッドのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを反時計回りにまわして、1 の位置から 2 の位置にします。

トランクが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置に戻して、抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

ⓘ 車両を施錠したときは（▷113 ページ）、トランクも施錠されます。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

サイドウインドウを開けているときに、サイドウインドウが動くにつれて、体の一部がサイドウインドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

開いている最中は、サイドウインドウに触れないようにしてください。挟まれた場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてサイドウインドウを閉じてください。

⚠ **警告**

閉じる範囲に身体を近づけていると、サイドウインドウが閉じる際に挟まれるおそれがあります。けがをする危険があります。

閉じている動作の間は、閉じる範囲に身体を近づけないようにしてください。挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを押してサイドウインドウを開いてください。

⚠ **警告**

とくに付き添いのない状態で子供を車内に残すと、サイドウインドウを操作して挟まれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを作動させます。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

サイドウインドウのリバース機能

サイドウインドウには自動リバース機能が装備されています。閉じる動作中にかたい障害物がサイドウインドウをブロックした、または制限した場合は、サイドウインドウは再度自動的に開きます。ただし、自動リバース機能は補助に過ぎず、サイドウインドウを閉じるときの注意に代わるものではありません。

⚠ **警告**

以下では、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 4mm 以下となったとき
- リセット中
- リバース機能が作動したすぐ後に、再度サイドウインドウを閉じるとき

リバース機能は、これらの状況で挟まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉じている動作の間は、閉じる範囲に身体を近づけないようにしてください。挟まれたら、スイッチを押して、サイドウインドウを開いてください。

サイドウインドウの開閉

運転席ドアには、すべてのサイドウインドウのスイッチがあります。各ドアにも対応するサイドウインドウのスイッチがあります。

運転席ドアのスイッチ操作が優先されます。

▶ イグニッション位置のキーを **1** または **2** にします。

▶ **手動で開く**：対応するスイッチを押します。

▶ **完全に開く**：手応えがあるところを越えるまで、対応するスイッチを押します。自動で開く作動が開始します。

▶ **手動で閉じる**：対応するスイッチを引きます。

▶ **完全に閉じる**：手応えがあるところを越えるまで、対応するスイッチを引きます。

自動で閉じる作動が開始します。

▶ **自動開閉を中断する**：該当するスイッチを再度操作します。

ⓘ 手応えがあるところを越えるまでスイッチを操作した場合は、対応する方向で自動開閉作動が開始します。再度操作することにより、自動作動を停止できます。

ⓘ エンジンを停止するか、エンジンスイッチからキーを抜いてからも、サイドウインドウを開閉できます。この機能は 5 分間、またはフロンドドアを開くまで作動したままになります。

ⓘ サイドウインドウのチャイルドプルーフロックが作動しているときは、リアからはサイドウインドウは操作できません（▷92 ページ）。

ℹ リアサイドウインドウの電動ブラインドの開閉に関する情報は（▷432 ページ）をご覧ください。

コンビニエンスオープニング機能

全体的な注意事項

走行を開始する前に、車両を換気することができます。

キーが車両のすぐ近くにある場合は、コンビニエンスオープニング機能を使用することができます。

このとき、キーを使用して以下の機能が同時に行なわれます。

- 車両を解錠する
- サイドウインドウを開く
- パノラミックスライディングルーフおよび電動ブラインドを開く
- 電動ブラインド（リアウインドウ、リアサイドウインドウ）を開く
- 運転席シートのシートベンチレーターを作動させる

コンビニエンスオープニング機能

▶ サイドウインドウおよびパノラミックサンルーフが希望の位置になるまで、🔓 スイッチを押して保持します。

パノラミックスライディングルーフの電動ブラインド、または電動ブラインド（リアウインドウ、リアサイドウインドウ）が閉じているときは、それらが先に閉じます。

▶ サイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフが希望の位置になるまで、再度 🔓 スイッチを押して保持します。

▶ **コンビニエンスオープニングを中断する**：🔓 スイッチを放します。

コンビニエンスクロージング機能

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

コンビニエンスクロージング機能が作動している場合、身体の一部がサイドウインドウおよびスライディングルーフの閉じる範囲に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

コンビニエンスクロージング機能を操作しているときは、最後まで閉じる動作に注意してください。閉じている間は、閉じる範囲に身体を近づけないようにしてください。

挟まれた場合は、以下のように対処してください：

キーを使用して

▶ 🔒 スイッチを放します。

▶ サイドウインドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが再度開くまで、🔓 スイッチを押して保持します。

キーレスゴーキーを使用して

▶ ドアハンドルのセンサー面を放します。

▶ ただちにドアハンドルを引いて保持します。

サイドウインドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが開きます。

操作

車両を施錠したときに、以下のことを同時にすることができます。

- サイドウインドウを閉じる
- パノラミックスライディングルーフを閉じる

パノラミックスライディングルーフ装備車両では、その後に電動ブラインドを閉じることができます。

また、電動ブラインド（リアウインドウ、リアサイドウインドウ）を閉じることができます。

ℹ 以下の自動リバース機能に関する注意事項

- サイドウインドウ（▷130 ページ）
- パノラミックスライディングルーフ（▷136 ページ）

キーを使用して

▶ サイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、🔒 スイッチを押して保持します。

▶ すべてのサイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

パノラミックスライディングルーフ装備車両

▶ パノラミックスライディングルーフの電動ブラインドが閉じるまで、🔒 スイッチを再度押して保持します。

▶ **コンビニエンスクロージングを中断する：** 🔒 スイッチを放します。

キーレスゴーを使用して

キーは車外にある必要があります。すべてのドアが閉じている必要があります。

▶ サイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、ドアハンドルのセンサー表面の凹部 ① に触れます。

ℹ センサー表面の凹部 ① のみに触れるようにしてください。

▶ すべてのサイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

▶ パノラミックスライディングルーフの電動ブラインドが閉じるまで、ドアハンドルのセンサー表面の凹部 ① に再度触れます。

▶ **コンビニエンスクロージング機能を中断する：** ドアハンドルのセンサー表面の凹部 ① を放します。

サイドウインドウのリセット

サイドウインドウが完全に閉じないときは、リセットしてください。

▶ すべてのドアを閉じます。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ サイドウインドウが完全に閉じるまで、ドア操作パネルの対応するスイッチを引きます（▷130 ページ）。

▶ さらに数秒間スイッチを引いたまま保持します。

サイドウインドウが再度少し下降したら、以下の操作を行なってください。

▶ サイドウインドウが完全に閉じるまで、ただちにドア操作パネルの対応するスイッチを引きます（▷130 ページ）。

▶ さらに数秒間スイッチを引いたまま保持します。

▶ スイッチを放した後サイドウインドウが閉じたままになれば、サイドウインドウのリセットが正しく行なわれています。そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

サイドウインドウのトラブル

サイドウインドウをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、サイドウインドウはより大きなまたは最大の力で閉じます。リバース機能は作動しません。この手順のとき、身体の一部を閉じる部分に挟まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉じている間は、身体の一部を閉じる部分に近づけないようにしてください。閉じている動作を止めるには、スイッチを放すか、サイドウインドウを再度開くためにスイッチをもう一度押します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ガイドレールなどに落ち葉などの障害物が挟まっているため、サイドウインドウが全閉しない。	▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウインドウを閉じます。
サイドウインドウが全閉しない、また原因がわからない。	サイドウインドウを閉じているとき、ウインドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは、より強い力で閉じます。 サイドウインドウを閉じているときに、ウインドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

パノラミックスライディングルーフ

重要な安全上の注意事項

この項目では、" スライディングルーフ " という言葉はパノラミックスライディングルーフに該当します。

⚠ **警告**

スライディングルーフを開閉するときに、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、挟まれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。開閉動作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

挟まれたときは以下のように対処してください :

- ただちにスイッチを放す

または

- 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間操作します。

開閉手順が中断されます。

⚠ **警告**

とくに付き添いのない状態で子供を車内に残すと、スライディングルーフを操作して挟まれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない子供を車内に残さないでください。

⚠ **警告**

走行速度が上がると、チルトアップしているスライディングルーフの後部が自動的に下がります。乗員が挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両が走行している間は、スライディングルーフの可動範囲内に近づいていないことを確認してください。

挟まれた場合は、すぐにスライディングルーフスイッチを上方に押すか、または後方に引いてください。

スライディングルーフがチルトアップするか、または開きます。

! パノラミックスライディングルーフに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフが故障する原因になります。

スライディングルーフの開口部から物を出さないようにしてください。スライディングルーフのシール部が損傷するおそれがあります。

i スライディングルーフが開いているときは、通常の風切り音に加えて空気の振動が発生する可能性があります。これらは、車内の圧力変動が原因で発生します。これらを低減または除去するためには、スライディングルーフの開口具合を変更するか、サイドウインドウを少し開いてください。

スライディングルーフのリバース機能

スライディングルーフには自動リバース機能が装備されています。スライディングルーフが閉じている間に障害物が挟まる、または動作が制限される場合、スライディングルーフは自動的に再度開きます。ただし、自動リバース機能は補助に過ぎず、スライディングルーフを閉じるときの注意に代わるものではありません。

⚠ 警告

以下では、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 4mm 以下となったとき
- リセット中
- リバース機能が作動したすぐ後に再度手動でスライディングルーフを閉じるとき

リバース機能は、これらの状況で挟まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉じている動作の間は、閉じる範囲に身体を近づけないようにしてください。挟まれたときは以下のように対処してください：

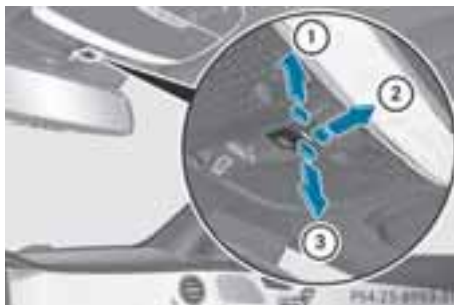
- ただちにスイッチを放す

または

- 自動で閉じている間は、いずれかの方向にスイッチを操作します。

閉じる動作が停止します。

スライディングルーフの操作

開閉

① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる / チルトダウン

▶ イグニッション位置のキーを **1** または **2** にします。

▶ [スイッチ] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ℹ 手ごたえがある位置を越えるまで [スイッチ] スイッチを操作した場合は、対応する方向で自動開閉動作が開始されます。再度操作することにより自動動作を中止することができます。

ℹ スライディングルーフをチルトアップさせたまま走行速度が上がると、スライディングルーフの後部が少し下がります。これにより、車内のノイズが減少します。

速度が下がると、自動的に再度上がります。

ℹ エンジンを停止するか、キーを抜いた後は、スライディングルーフの操作を続けることができます。この機能は 5 分間、またはフロントドアを開くまで作動したままになります。

ⓘ ルーフキャリアが取り付けられている場合は、スライディングルーフを開くことはできません。車内を換気するために、スライディングルーフを上げることができます。メルセデス・ベンツにより承認されたルーフキャリアが接触する場合は、スライディングルーフは少し下がり、後部で上がったままになります。

エンジンが停止しているときのレインクローズ機能

イグニッション位置が**0**になっているか、エンジンスイッチからキーが取り外されたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 外気温度が極端なとき
- 約 6 時間経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

車内を換気するために、スライディングルーフは後部が上がったままになります。

以下のときは、スライディングルーフは閉じません。

- パノラミックスライディングルーフをチルトアップさせているとき
- 物が挟まったとき
- 車両が橋の下などにあるときなど、レインセンサーによってモニターされているフロントウインドウの範囲に雨が落ちないとき

ⓘ レインクローズ機能により閉じているときにスライディングルーフが妨げられると、再度少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

走行時のレインクローズ機能

走行時に雨が降り始めた場合は、上がっていたスライディングルーフの後部が自動的に下がります。スライディングルーフは以下に応じて下がります。

- 走行速度および
- 雨滴量

自動的に閉じる動作を手動で中止することができます。[スイッチ記号] スイッチをいずれかの方向に押すか、または引きます。スライディングルーフを再度上げるためには、[スイッチ記号] スイッチを ① の方向に押します。レインクローズ機能は作動したままになります。

スライディングルーフの電動ブラインドの操作

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

電動ブラインドが開閉しているときは、身体の一部が電動ブラインドとフレームまたはスライディングルーフ間に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

開閉している間は、身体を電動ブラインドの可動範囲に近づけないようにしてください。

挟まれたときは以下のように対処してください：

- ただちにスイッチを放す

または

- 自動開閉動作中に、いずれかの方向にスイッチを操作します。開閉動作が停止します。

電動ブラインドは日射しから車内を守ります。スライディングルーフが閉じているときにのみ、フロント電動ブラインドを開閉することができます。

電動ブラインドのリバース機能

電動ブラインドには、自動リバース機能が装備されています。閉じている動作の間に障害物が電動ブラインドをブロックした、または制限した場合、電動ブラインドは自動的に再度開きます。ただし、自動リバース機能は単なる補助に過ぎず、電動ブラインドを閉じているときの注意の代わりになるものではありません。

⚠ 警告

特に、リバース機能は小さな指のように柔らかい、軽いおよび薄いものには反応しません。リバース機能は、これらの状況で挟まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉じている間は、身体の一部を電動ブラインドの可動範囲内に近づけないようにしてください。

挟まれたときは以下のように対処してください：

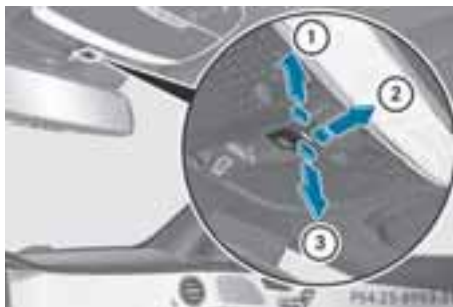
- ただちにスイッチを放す

または

- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを操作します。

閉じる動作が停止します。

フロント電動ブラインドの開閉

① 開く
② 開く
③ 閉じる

ⓘ スライディングルーフを閉じているときにのみ、フロント電動ブラインドを閉じることができます。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** のにします。

▶ スイッチ [▤] を①の方向に押します。フロント電動ブラインドが開き、スライディングルーフが上がります。

▶ [▤] スイッチを②の方向に引きます。

フロント電動ブラインドが開きます。

▶ [▤] スイッチを③の方向に引きます。スライディングルーフが閉じている場合は、フロント電動ブラインドが閉じます。

ⓘ 手応えがあるところを越えるまで [▤] スイッチを押す、または引くと、対応する方向で自動開閉動作が開始されます。再度押すか、または引くことにより自動動作を中止することができます。

リア電動ブラインドの開閉

フロントからの操作

▶ **開く、または閉じる：**スイッチ ① を押します。

リア電動ブラインドが完全に開く、または閉じます。

▶ **停止する：**スイッチ ① を再度押します。

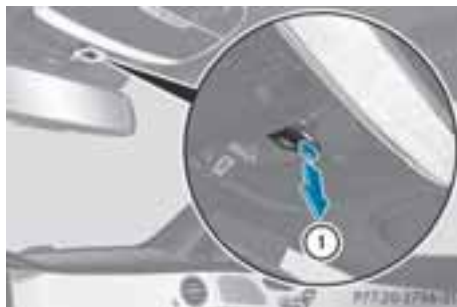
ⓘ 反対の方向に動かすためには、まずリア電動ブラインドを完全に開く、または閉じてください。

後席からの操作

▶ **手動で開く / 閉じる：**リア電動ブラインドが希望の位置になるまで、手応えがあるところまでスイッチ ① を押す、または引いて保持します。

▶ **完全に開閉する：**手応えがあるところを越えるまで、スイッチ ① を押す、または引いて、放します。

スライディングルーフと電動ブラインドのリセット

スライディングルーフまたはフロント電動ブラインドのリセット

スライディングルーフまたはフロント電動ブラインドが滑らかに動かない場合は、スライディングルーフまたはフロント電動ブラインドをリセットしてください。

▶ イグニッション位置のキーを **1** または **2** にします。

▶ スライディングルーフが完全に閉じるまで、[スイッチ記号] スイッチを矢印 ① の方向に抵抗があるところまで繰り返し引きます。

▶ [スイッチ記号] スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ フロント電動ブラインドが閉じるまで、[スイッチ記号] スイッチを矢印 ① の方向に繰り返し引きます。

▶ [スイッチ記号] スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ スライディングルーフ（▷136 ページ）およびフロント電動ブラインド（▷138 ページ）が再度完全に開くことを確認してください。

▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

リアブラインドのリセット

- ▶ イグニッション位置のキーを **1** または **2** にします。
- ▶ リア電動ブラインドが完全に閉じるまで、スイッチ ① を繰り返し引きます。
- ▶ さらに 1 秒間スイッチ ① を引いたままにします。
- ▶ リア電動ブラインドが再度完全に開くことを確認してください (▷139 ページ)。
- ▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

スライディングルーフのトラブル

⚠ 警告

スライディングルーフをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、スライディングルーフはより大きなまたは最大の力で閉じます。リバース機能は作動しません。この手順のとき、身体を閉じる部分に挟まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉じている動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。

挟まれたときは以下のように対処してください：

- ただちにスイッチを放す

または

- 自動開閉動作中に、どの方向でもよいのでスイッチを押します。閉じている動作が停止します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
スライディングルーフを閉じることができず、原因が分からない。	スライディングルーフが閉じている途中でさえぎられ、再び少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ 抵抗を感じた後はただちに、スライディングルーフが閉じるまで、[スイッチ] スイッチを抵抗があるところまで再度引き下げます。 スライディングルーフは、より強い力で閉じます。 スライディングルーフが再度抵抗を挟み込みの検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ 抵抗を感じた後はただちに、スライディングルーフが閉じるまで、[スイッチ] スイッチを抵抗があるところまで再度引き下げます。 挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフが閉じます。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

運転席の適切な位置

⚠ **警告**

運転中に以下を行なうと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを着用する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを着用してください。

▶ シート調整に関する安全上のガイドラインを守ってください（▷145 ページ）。

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください（▷146 ページ）。

シートを調整するときは、以下を確認してください：

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている。
- 通常の起こした位置で着座している。
- シートベルトを正しく装着できる。
- ほぼ垂直の位置になるようにバックレストを調整している。
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している。
- ペダルを正しく踏むことができる。

▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください。そのときは、ヘッドレストの中央部によって、後頭部が目の高さで支えられていることを確認してください。

▶ ステアリング調整に関する安全上のガイドラインを守ってください（▷166 ページ）。

▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください（▷166 ページ）。

ステアリングを調整するときは、以下を確認してください。

- 腕に適度な余裕があるまま、ステアリングを握ることができる。
- 足を自由に動かすことができる。
- メーターパネル内のすべての表示がはっきり確認できる。

▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインを守ってください（▷58 ページ）。

▶ シートベルト ② を正しく着用しているかどうかを確認します (▷60 ページ)。

シートベルトは、以下のように着用してください。

- 身体に密着させる。
- 肩の中央にかかるように通っている。
- 骨盤部分の腰にかかるように通っている。

▶ 走行する前に、ルームミラーおよびドアミラーを道路と交通状況がよく見える角度に調整してください(▷170 ページ)。

▶ メモリー機能を使用してシート、ステアリング、ドアミラーの設定を保存します (▷173 ページ)。

シート

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

付き添いのない状態で、お子様がシートを調整すると、挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ **警告**

運転中に以下を行なうと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを着用する

事故の危険性があります。エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを着用してください。

⚠ **警告**

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

⚠ **警告**

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないことを確認してください。

⚠ **警告**

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

⚠ **警告**

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがをするおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。" 日常の手入れ " をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、ジュニアシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

シートの調整

標準ヘッドレストまたはラグジュアリーヘッドレスト装備車両

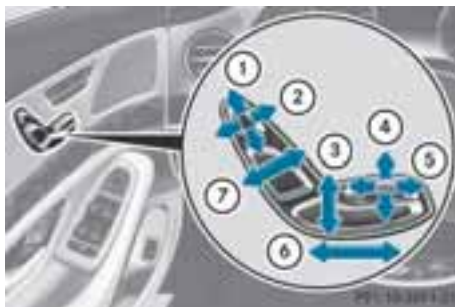
① ヘッドレストの高さ
② ヘッドレストの前後位置
③ シートの高さ
④ シートクッションの角度
⑤ シートクッションの長さ
⑥ シートの前後位置
⑦ バックレストの角度

ℹ PRE-SAFE® が作動した場合、望ましくない位置にあった場合は、助手席シートがより良い位置に移動します（▷70 ページ）。

ℹ シート位置はメモリー機能（▷173 ページ）で記憶させることができます。

ℹ 特定のシート調整機能は、最適なシート調整の範囲を得るため、自動的に他のシート調整機能を作動させることがあります。

ℹ シートの高さ、またはシートの前後位置を調整したときは、ヘッドレストの高さが自動的に調整されます。

イージーアジャストラグジュアリーヘッドレスト装備車両

① ヘッドレストの高さ
② ヘッドレストの前後位置
③ シートの高さ
④ シートクッションの角度
⑤ シートクッションの長さ
⑥ シートの前後位置
⑦ バックレストの角度

ℹ PRE-SAFE® が作動した場合、望ましくない位置にあった場合は、助手席シートがより良い位置に移動します（▷70 ページ）。

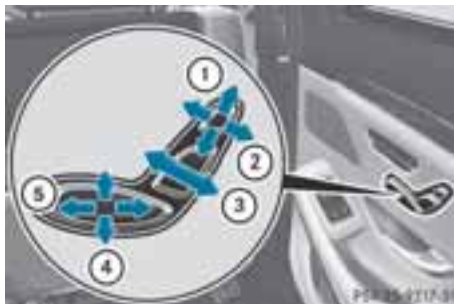
ℹ シート位置はメモリー機能（▷173 ページ）で記憶させることができます。

ℹ 特定のシート調整機能は、最適なシート調整の範囲を得るため、自動的に他のシート調整機能を作動させることがあります。

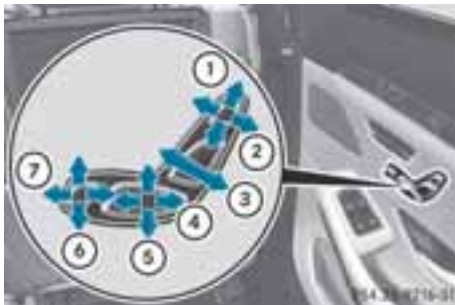
ℹ シートの高さ、またはシートの前後位置を調整したときは、ヘッドレストの高さが自動的に調整されます。

ℹ バックレストを調整したときは、ヘッドレストの前後位置が自動的に調整されます。

リアシートの調整

リアシートの調整

① ヘッドレストの高さ
② ヘッドレストの前後位置
③ バックレストの角度
④ シートクッションの角度および長さ
⑤ シートクッションの角度および長さ

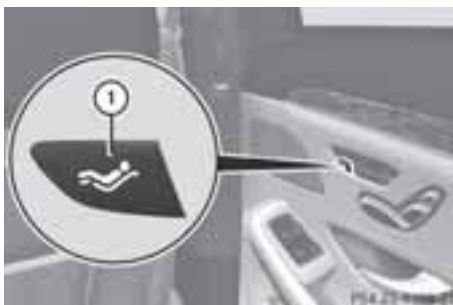
リアでは、外側シートのみを電動で調整することができます。

リアリクライニングシートの調整

① ヘッドレストの高さ
② ヘッドレストの前後位置
③ バックレストの角度
④ シートクッションの角度および長さ
⑤ シートクッションの角度および長さ
⑥ レッグレストの角度
⑦ レッグレストの長さ

リアリクライニングシートは、ロングホイールベース車両もしくはリアシートコンフォートパッケージ装備車両で使用することができます。リアリクライニングシート非装備車両では、レッグレスト角度および長さの設定のためのスイッチには機能がありません。

ロングホイールベースかつショーファーパッケージ装備車両にはフットレストもあります。これは、助手席シートのバックレスト下部にあります(▷152 ページ)。

荷重がかかりすぎている場合は、レッグレストは下に倒れます。このような場合は、レッグレストを上に起こし、ロックさせます。

リクライニングポジションの設定

この機能はロングホイールベース車両で使用することができます。

後席のチャイルドプルーフロックスイッチを使用して、この機能を無効にすることができます（▷92 ページ)。

▶ シートがリクライニングポジションになるまで、スイッチ ① を押して保持します。

リアシートはリクライニングポジションに動き、助手席シートはショーファーモードの位置に動きます(▷152 ページ)。助手席シートの下から、フットレストが動いて出てきます。

以下により、リクライニングポジションを終了し、シート位置を調整することができます

- メモリースイッチ **1** または **2** を使用して保存した位置を呼び出す（▷175 ページ)
- 希望の位置へのシートの手動調整(▷146 ページ)

ℹ リクライニングポジションへの設定手順は、常に同時には実行されません。荷重がかかりすぎている場合は、レッグレストは下に倒れます。このような場合は、レッグレストを上に起こし、ロックさせます。

運転席シートからの助手席シートの調整

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

フロントシートがダッシュボードまたはステアリングに非常に近い位置にある場合は、フロントエアバッグにより前席乗員がけがをするおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントエアバッグからできるだけ離れるように、フロントシートを常に調整します。シートの正しい調整に関する注意事項に従ってください。

⚠ 警告

付き添いのない状態で、お子様がシートを調整すると、挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないことを確認してください。

! 助手席足元のラゲッジネットに物が入っているときは、助手席を完全に前に出さないでください。その物を損傷する原因になります。

助手席シートの調整

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチ ① の表示灯が点灯しているときに、助手席シートでは以下を調整することができます：

- シート調整（▷146 ページ）
- シートヒーター / ベンチレーション
- メモリー機能での設定の呼び出し、または保存（▷173 ページ）

リアからの助手席シートの調整

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

フロントシートがダッシュボードまたはステアリングに非常に近い位置にある場合は、フロントエアバッグによりフロント乗員がけがをするおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントエアバッグからできるだけ離れるように、フロントシートを常に調整します。シートの正しい調整に関する注意事項に従ってください。

⚠ 警告

付き添いのない状態で、お子様がシートを調整すると、挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

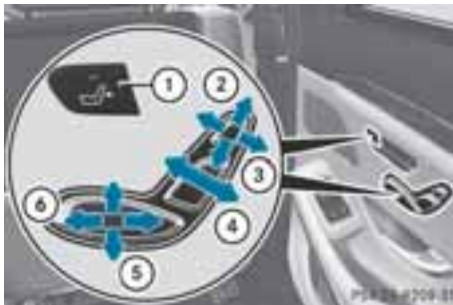
車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないことを確認してください。

! 助手席足元のラゲッジネットに物が入っているときは、助手席を完全に前に出さないでください。その物を損傷する原因になります。

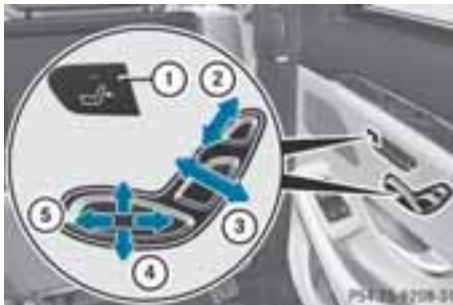
i 後席のチャイルドプルーフロックスイッチを使用して、リアからの助手席シートの設定を無効にすることができます（▷92 ページ）。

リアシートの調整

① リアシートの選択
② ヘッドレストの高さ
③ ヘッドレストの前後位置
④ バックレストの角度
⑤ シートクッションの角度および長さ
⑥ シートクッションの角度および長さ

▶ **リアシートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯しなくなるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯していない場合は、リアシートが選択されています。

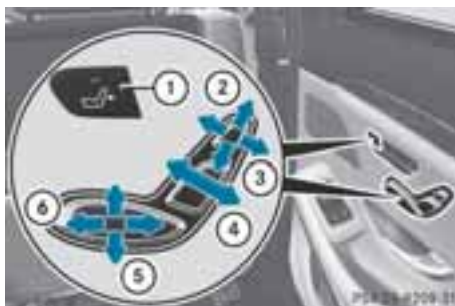
▶ スイッチ ② ～ ⑥ でリアシートを調整します。

助手席シートの調整

① 助手席シートの選択
② ヘッドレストの高さ
③ バックレストの角度
④ シートの高さ
⑤ シートの前後位置

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② ～ ⑤ で助手席シートを調整します。

イージーアジャストラグジュアリーヘッドレスト装備車両の助手席シートの調整

① 助手席シートの選択
② ヘッドレストの高さ
③ ヘッドレストの前後位置
④ バックレストの角度
⑤ シートの高さ
⑥ シートの前後位置

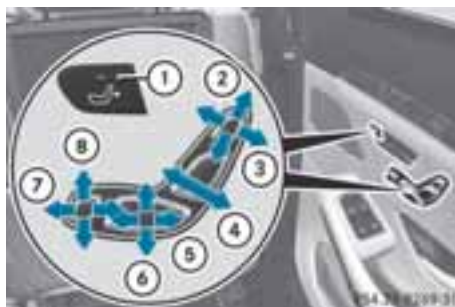
▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② ～ ⑥ で助手席シートを調整します。

イージーアジャストラグジュアリーヘッドレストはオプション装備です。

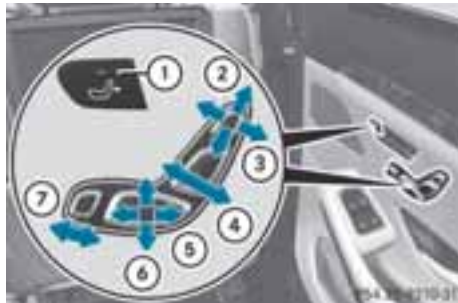
ショーファーモードのシートおよびロングホイールベース装備車両

リアシートの調整

① リアシートの選択
② ヘッドレストの高さ
③ ヘッドレストの前後位置
④ バックレストの角度
⑤ シートクッションの角度および長さ
⑥ シートクッションの角度および長さ
⑦ リアリクライニングシートが装着されている場合のレッグレストの前後方向
⑧ リアリクライニングシートが装着されている場合のレッグレストの角度

▶ **リアシートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯しなくなるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯していない場合は、リアシートが選択されています。

▶ スイッチ ② ～ ⑧ でリアシートを調整します。

助手席シートの調整

① 助手席シートの選択
② ヘッドレストの高さ
③ ヘッドレストの前後位置
④ バックレストの角度
⑤ シートの前後位置
⑥ シートの高さ
⑦ フットレスト

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② ～ ⑦ で助手席シートを調整します。

フットレストは以下の場合にのみ調整できます。

- 助手席シートをいっぱいまで前方に動かした
- 助手席シートがショーファーモードの位置にある（▷152 ページ）。

ショーファーモード

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

⚠ 警告

助手席シートがショーファーモードにあり、助手席のヘッドレストが格納されている場合は、助手席側のドアミラーの視界が損なわれることがあります。事故の危険性があります。

ドアミラーの視界を確保するためには、助手席のヘッドレストを取り外します。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

全体的な注意事項

ショーファーモードでは以下のようになります。

- 助手席シートは前方に動きます
- バックレストは前方に傾きます
- ヘッドレストは前方に倒れます

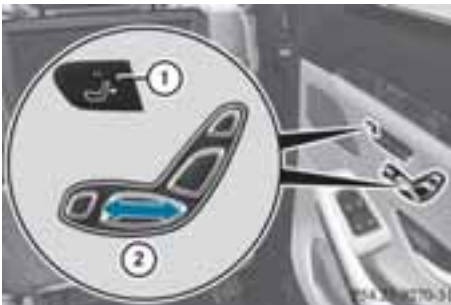
以下の場合は、助手席シートはショーファーポジションから通常の位置へ自動的に動いて戻ります。

- 助手席ドアのシート調整スイッチを使用して助手席シートが調整された
- 助手席シートベルトが着用された
- 助手席シートで乗員が検知された
- 助手席シートのヘッドレストが差し込まれ、イグニッションがオンになった
- リアシートまたは運転席シートから助手席のヘッドレストが後方に起こされた（▷157 ページ）

ショーファーモードの助手席シートの位置合わせ

全体的な注意事項

重要な安全上の注意事項に注意してください（▷152 ページ）。走行前にシートをショーファーモードに調整してください（▷153 ページ）。走行中に助手席シートのヘッドレストを取り外さないでください。

後席からの調整

後席のチャイルドプルーフロックスイッチを使用して、この機能を無効にすることができます（▷92 ページ）。

助手席シートをショーファーモードの位置にするためには：

- 助手席ドアが閉じていなければならない
- イグニッション位置が **1** または **2** でなければならない
- 助手席シートに乗車していない
- 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていない

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② を前方に押し、この位置で保持します。

シートが前方に動きます。

ショーファーモードが開始する位置でシートが停止します。

▶ スイッチ ② を放します。

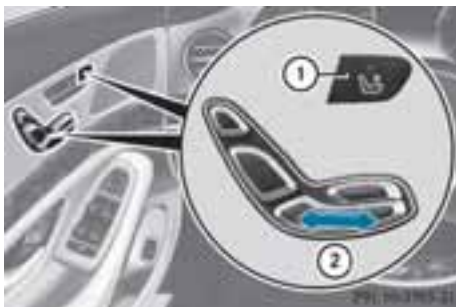
▶ 助手席シートがショーファーモードの位置になるまで、スイッチ ② を再度前方に押して保持します。

助手席シートのヘッドレストが前方に倒れます。シートが前方に動きます。

マルチファンクションディスプレイにﾄﾞｱﾐﾗｰが見にくい場合は、助手席を移動させるか、ﾍｯﾄﾞﾚｽﾄをはずしてください （▷386 ページ）というメッセージが表示されます。

ℹ 助手席シートがショーファーモードの開始位置にすでにある場合は、ただちにショーファーモードの位置が設定されます。

ⓘ ショーファーモードの位置は、リアシートのメモリー機能を使用して保存または設定することができます(▷175 ページ)。このためには、スイッチ ① の表示灯が点灯していなければなりません。

運転席シートからの調整

助手席シートをショーファーモードの位置にするためには：

- 助手席ドアが閉じていなければならない
- イグニッション位置が **1** または **2** でなければならない
- 助手席シートに乗車していない
- 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていない

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② を前方に押して保持します。シートが前方に動きます。

ショーファーモードが開始する位置でシートが停止します。

▶ スイッチ ② を放します。

▶ 助手席シートがショーファーモードの位置になるまで、スイッチ ② を再度押して保持します。

助手席シートのヘッドレストが前方に倒れます。シートが前方に動きます。

マルチファンクションディスプレイにドアミラーが見にくい場合は、助手席を移動させるか、ﾍｯﾄﾞﾚｽﾄをはずしてください（▷386 ページ）というメッセージが表示されます。

ⓘ 助手席シートがショーファーモードの開始位置にすでにある場合は、ただちにショーファーモードの位置が設定されます。

ⓘ 運転席シートのメモリー機能でショーファーモードの位置を保存または設定することはできません。

助手席のヘッドレストを前方に倒す

リアシートから前方に倒す

後席のチャイルドプルーフロックスイッチを使用して、この機能を無効にすることができます（▷92 ページ）。

助手席のヘッドレストを前方に倒すためには：

- 助手席ドアが閉じていなければならない
- イグニッション位置が **1** または **2** でなければならない

- 助手席シートに乗車していない
- 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていない

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② を前方に押し、この位置で保持します。

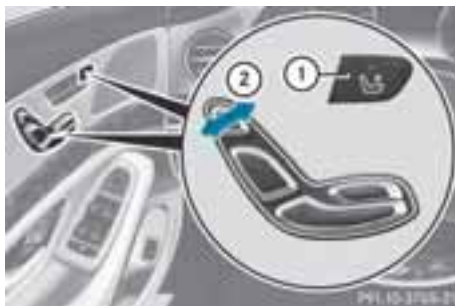
ヘッドレストが前方に少し動き、停止します。

▶ スイッチ ② を放します。

▶ スイッチ ② を再度前方に押します。

助手席シートのヘッドレストが前方に倒れます。

ℹ 助手席のヘッドレストがすでに最も前方の位置にある場合は、ただちに前方に倒れます。

運転席シートから前方に倒す

助手席のヘッドレストを前方に倒すためには：

- 助手席ドアが閉じていなければならない
- イグニッション位置が **1** または **2** でなければならない
- 助手席シートに乗車していない
- 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていない

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② を前方に押し、この位置で保持します。

ヘッドレストが前方に少し動き、停止します。

▶ スイッチ ② を放します。

▶ スイッチ ② を再度前方に押します。

助手席シートのヘッドレストが前方に倒れます。

ℹ 助手席のヘッドレストがすでに最も前方の位置にある場合は、ただちに前方に倒れます。

助手席のヘッドレストを所定の位置に起こす

リアシートから所定の位置に起こす

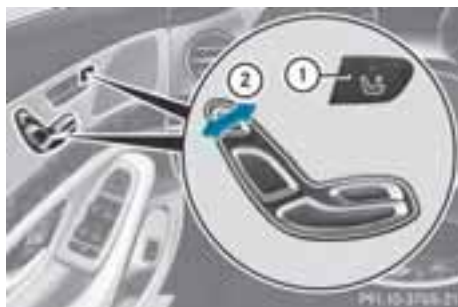
後席のチャイルドプルーフロックスイッチを使用して、この機能を無効にすることができます（▷92 ページ）。

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② を後方に少し押します。

ヘッドレストが所定の位置に起きます。

運転席シートから所定の位置に起こす

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ② を後方に軽く押します。

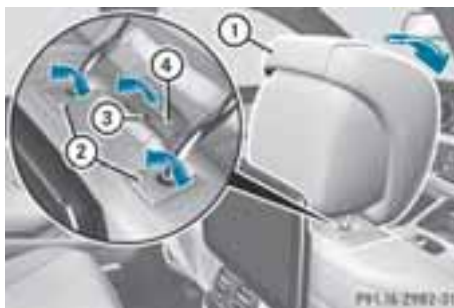
ヘッドレストが所定の位置に起きます。

助手席シートからの調整

▶ いずれかのシート調整スイッチを押します。

ヘッドレストが所定の位置に起きます。

ヘッドレストの取り付け / 取り外し

取り外し

▶ ヘッドレストを前方に倒します（▷154 ページ）。

▶ ヘッドレストの支柱のカバー ② を後方に倒します。

▶ 調整レバー ④ を後方に引き、この位置で保持します。そうしている間はヘッドレスト ① をおさえます。

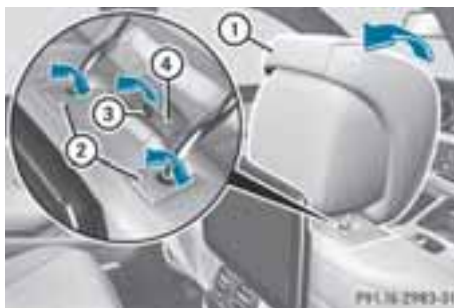
▶ ヘッドレスト ① を取り外します。

▶ 調整レバー ④ を放します。

赤色のピン ③ が調整レバーから突き出てきます。

▶ 赤色のピン ③ を下に押します。

▶ カバー ② を前方に倒して閉じます。

取り付け

▶ カバー ② を後方に倒します。

▶ 調整レバー ④ を後方に引き、この位置で保持します。

赤色のピン ③ が調整レバーから突き出てきます。

▶ ヘッドレスト ① をブラケットに差し込みます。ヘッドレストが両側で固定されていなければなりません。

▶ 調整レバー ④ を放します。

▶ 赤色のピン ③ を下に押します。

ピンが押し下げられ、見えなくなった場合は、ヘッドレストが正しく固定されています。

▶ カバー ② を前方に倒して閉じます。

所定の位置にヘッドレストが自動的に起きます。

助手席シートの通常位置への移動

後席からの調整

後席のチャイルドプルーフロックスイッチを使用して、この機能を無効にすることができます（▷92 ページ）。

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ③ を後方に押し、この位置で保持します。

助手席シートがショーファーモード開始位置の通常調整範囲に動きます。

スイッチ ③ を後方に保持し続けた場合は、シートが後方に動き続け、ヘッドレストが所定の位置に起きます。

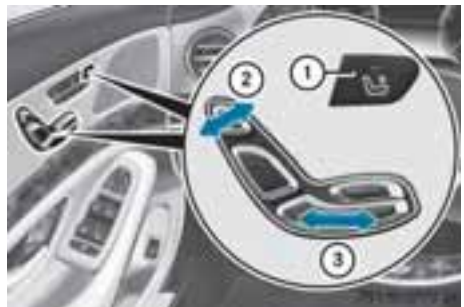
または

▶ スイッチ ② を後方に軽く押します。

助手席シートがショーファーモード開始エリアの通常調整範囲に動きます。ヘッドレストが所定の位置に起きます。

ℹ 以下の場合は、メモリー調整スイッチでさらなる調整を行なうことができます。

- 通常設定での位置がすでに保存されている
- スイッチ ① で助手席シートが選択されている

運転席シートからの調整

▶ **助手席シートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ スイッチ ③ を後方に押し、この位置で保持します。

助手席シートがショーファーモード開始位置の通常調整範囲に動きます。

スイッチ ③ を後方に保持し続けた場合は、シートが後方に動き続け、ヘッドレストが所定の位置に起きます。

または

▶ スイッチ ② を後方に少し押します。

助手席シートがショーファーモード開始エリアの通常調整範囲に動きます。ヘッドレストが所定の位置に起きます。

ℹ 助手席シートがスイッチ ① で選択されている場合は、メモリー調整スイッチでさらなる調整を行なうことができます。

助手席シートからの調整

▶ いずれかのシート調整スイッチを押します。

助手席シートがショーファーモード開始エリアの通常調整範囲に動きます。ヘッドレストが所定の位置に起きます。

助手席シートのフルリクライニングポジション

フルリクライニングポジションに調整する

この機能は後席パワーシート装備車両でのみ使用可能です。

助手席シートをフルリクライニングポジションまで動かすことができます。

以下のように操作します：

- リアシートのシートクッションをできるだけ後方に動かします（▷148 ページ）。
- 助手席シートをショーファーモードの位置に動かします（▷153 ページ）。
- 助手席シートのヘッドレストを取り外します（▷156 ページ）。
- バックレストがフルリクライニングポジションになるように助手席シートを動かします（▷146 ページ）。

フルリクライニングポジションを終了する

以下のように操作します：

- バックレストを適切な位置に起こします。
- ヘッドレストを取り付けます（▷156 ページ）。

ヘッドレストの調整

フロントヘッドレストの調整

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転中に以下を行なうと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを着用する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを着用してください。

⚠ **警告**

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

全体的な注意事項

重要な安全上の注意事項に注意してください(▷145ページ)。フロントとリアシートのヘッドレストを入れ替えないでください。さもないと、ヘッドレストの高さ、および角度を正しい位置に調整することができません。

ヘッドレストの調整

この機能を使用して、ヘッドレストと後頭部との間の距離を調整できます。

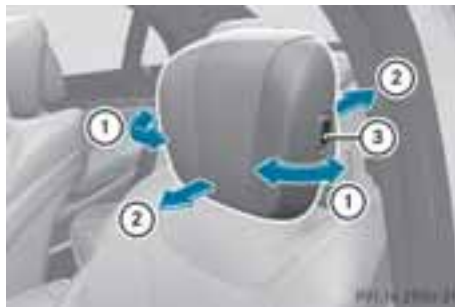
▶ **前方に移動する：**希望の位置で固定されるまで、ヘッドレストを矢印の方向に前方に引きます。

▶ **後方に移動する：**ロック解除スイッチ①を押して保持します。

▶ ヘッドレストを押して戻します。

▶ ヘッドレストが希望の位置になったら、ロック解除スイッチを放します。

▶ ヘッドレストが正しく固定されていることを確認します。

ラグジュアリーヘッドレストの調整

▶ **ヘッドレストのサイドサポートを調整する：**右側および / または左側のサイドサポート①を希望の位置に押すか、または引きます。

▶ **前方に移動する：**希望の位置に固定されるまで、ヘッドレストを矢印②の方向に前方に引きます。

▶ **前後位置を後方に調整する：**ロック解除スイッチ③を押して保持します。

▶ ヘッドレストを矢印②の方向に後方に倒します。

▶ ヘッドレスト③が希望の位置になったら、ロック解除スイッチを放します。

▶ ヘッドレストが正しく固定されていることを確認します。

イージーアジャストラグジュアリーヘッドレストの調整

このヘッドレストはショーファーパッケージ装備車両で使用可能です。

▶ **ヘッドレストのサイドサポートを調整する：**右側および / または左側のサイドサポート ① を希望の位置に押すか、または引きます。

▶ **前後位置を調整する：**ヘッドレスト前後調整用スイッチを矢印の方向に前方または後方にスライドします（▷146 ページ）。

▶ ヘッドレストの高さはシート調整スイッチを使用して調整することができます（▷146 ページ）。

ℹ シートスイッチを使用してシートのバックレストの角度を調整するときに、ヘッドレストの前後位置は自動的に調整されます。

フロントヘッドレストの電動調整

フロントヘッドレストの高さ、および前後位置はシート調整スイッチで調整することができます（▷146 ページ）。

外側リアシートヘッドレストの調整

フロントから電動で下げる

この機能は後席パワーシート装備車両で使用することができます。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ スイッチ ① を軽く押します。ヘッドレストが下がります。

フロントから電動で上げる

この機能は後席パワーシート装備車両で使用することができます。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ ヘッドレストが完全に上がるまで、スイッチ ① を押し下げたまま保持します。

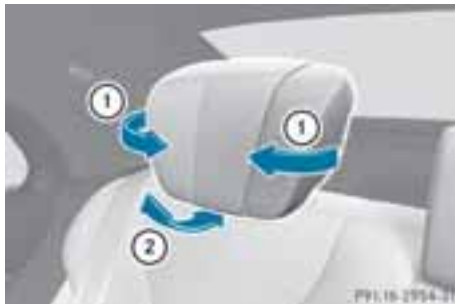
最後に保存した位置に外側のヘッドレストを上げる

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします（▷216 ページ）。

▶ スイッチ ① を軽く押します。
ヘッドレストが下がります。

▶ スイッチ ① を再度軽く押します。
最後に保存した位置にヘッドレストが動きます。

ℹ すべての外側ヘッドレストがすでに下がっている場合は、最後の位置までそのまま動きます。

後席のラグジュアリーヘッドレストの手動調整

- **ヘッドレストのサイドサポートを調整する：**右側および / または左側のサイドサポート ① を希望の位置に押すか、または引きます。
- **ヘッドレストの角度を調整する：**ヘッドレストを矢印 ② の方向に押すか、引きます。

ℹ リアヘッドレストの高さ、および前後位置は、シート調整スイッチで調整できます（▷147 ページ）。

リアヘッドレストの電動調整

リアヘッドレストの高さ、および前後位置は、シート調整スイッチで調整できます（▷147 ページ）。

ラグジュアリーヘッドレストの補助クッション

補助クッションは後席パワーシート装備車両で使用することができます。

補助クッションは 3 つのホックによってヘッドレストに固定されています。

補助クッションを取り外す：

- ヘッドレストをできるだけ前方にします（▷147 ページ）。
- ホック ① を外し、補助クッション ② を取り外します。

補助クッションを取り付ける：

- ヘッドレストをできるだけ前方にします（▷147 ページ）。
- 補助クッション ② をヘッドレストに押し付け、ホック ① を留め具に押し込みます。

リア中央のヘッドレストの調整

電動で下げる、または上げる

この機能は後席パワーシート装備車両で使用することができます。

▶ ヘッドレストが完全に上がるか、下がるまで、スイッチ ① を押して保持します。

所定の位置へ手動で倒す

この機能はリアベンチシート装備車両で使用することができます。

▶ ロックされるまでヘッドレストを引き上げます。

マルチコントロールシートバックの調整

マルチコントロールシートバックは、COMAND システムを使用して調整することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

アクティブマルチコントロールシートバックの調整

アクティブマルチコントロールシートバックは、COMAND システムを使って調整することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

後席のマルチコントロールシートバックの調整

リアエンターテインメントシステムを使用して外側シートのマルチコントロールシートバックを調整することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

電動ランバーサポートの調整

電動ランバーサポートは、COMAND システムで調整できます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

シートヒーターの作動 / 停止の切り替え

作動 / 停止

⚠ **警告**

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが異常に過熱する原因となります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温に対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。

シートヒーター・プラス装備車両：いずれかのシートヒーターを作動させたときは、ドアとセンターコンソールのアームレストも暖められます。これは COMAND システムで設定することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

スイッチの 3 つの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

約 8 分後に、レベル **3** からレベル **2** へ、システムが自動的に切り替えます。

約 10 分後に、レベル **2**（中）からレベル **1**（弱）へ、システムが自動的に切り替わります。

レベル **1** に設定した約 20 分後に、システムが自動的に停止します。

シートヒーター・プラス装備車両：COMAND システムで、シートクッションとバックレストの暖房部分の配分を設定できます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

リアエンターテインメントシステムおよびパワーシート装備車両：リアエンターテインメントシステムで、リアシートクッションおよびバックレストの暖房部分の配分を設定できます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

フロントシート

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ **作動させる**：希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：** すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

ⓘ バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

リアシート

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ **作動させる**：希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：** すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

ⓘ バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターが作動しないとき

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
シートヒーターが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が作動しているため、バッテリー電圧が非常に低下している。 ▶ リアデフォッガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、シートヒーターを手動で再度作動させることができます。

シートベンチレーターの作動 / 停止の切り替え

フロントシート

スイッチの 3 つの青い表示灯は、選択したレベルを表します。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ **作動させる：**好みのレベルになるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：**表示灯がすべて消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

ⓘ バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートベンチレーターが停止することがあります。

ⓘ コンビニエンスオープニング機能（▷131 ページ）で、サイドウインドウやスライディングルーフを開くことができます。運転席のシートベンチレーターが最も強いレベルで自動的に作動します。

ⓘ 車両が停止しているときは、ファンの回転速度が自動的に減少することがあります。これにより、シートベンチレーターのノイズが減少します。

リアシート

後席のシートベンチレーターの作動 / 停止の切り替え

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ **作動させる：**好みのレベルになるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：**すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

ⓘ バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートベンチレーターが停止することがあります。

ⓘ コンビニエンスオープニング機能（▷131 ページ）で、サイドウインドウやスライディングルーフを開くことができます。運転席のシートベンチレーターが最も強いレベルで自動的に作動します。

ⓘ 車両が停止しているときは、ファンの回転速度が自動的に減少することがあります。これにより、シートベンチレーターのノイズが減少します。

シートベンチレーターのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響び ▶ 解決方法
シートベンチレーターが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が作動しているため、バッテリー電圧が非常に低下している。 ▶ リアデフォッガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、シートベンチレーターを再度作動させることができます。

ステアリング

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転中に以下を行なうと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを着用する

事故の危険性があります。エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを着用してください。

⚠ 警告

子供がステアリングを調整するとステアリングに挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

ステアリングの調整

① ステアリングの前後位置の調整
② ステアリングの上下位置の調整

ℹ その他の関連事項：

- イージーエントリー機能（▷168 ページ）
- メモリー機能の設定（▷173 ページ）
- マルチファンクションディスプレイの操作（▷327 ページ）

ステアリングヒーター

作動 / 停止

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動 / 停止の切り替え：**レバーを矢印 ① または ② の方向にまわします。表示灯 ③ が点灯または消灯します。

キーレスゴーを使用していないとき：エンジンスイッチからキーを抜いたときは、ステアリングヒーターは停止します。

キーレスゴーを使用しているとき：イグニッションをオフにして運転席ドアを開いたときは、ステアリングヒーターは停止します。

ステアリングヒーターのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響び ▶ 解決方法
ステアリングヒーターが短時間で停止したり、作動しない	多くの電気装備が作動しているため、バッテリー電圧が非常に低下している。 ▶リアデフォッガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。

イージーエントリー機能

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

イージーエントリー機能によりステアリングおよび運転席が調整されているときは、お客様および乗員、特にお子様が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

イージーエントリー機能により調整が行なわれている間は、シートおよびステアリングの可動範囲内に身体の一部が入っている人がいないことを確認してください。

以下により、挟まれる危険性がある場合には：

- ステアリング：ステアリング調整レバーを動かします。
- シート：シート調整用スイッチを押します。

調整動作が停止します。

⚠ 警告

付き添いのない状態で、お子様がイージーエントリー機能を作動させた場合、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

イージーエントリー機能で調整されている間に、発進すると、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

発進する前に、調整プロセスが終了するまで必ずお待ちください。

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

COMAND システムを使用して、イージーエントリー機能を設定および解除することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

イージーエントリー機能が設定されているときのステアリングおよび運転席シートの位置

以下の場合にステアリングは上方に動き、運転席シートが後方に動きます。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **1** または **0** のとき、またはエンジンスイッチからキーが抜かれているときに運転席ドアを開く

ⓘ シートまたはステアリングの調整後にドライビングポジションが保存された場合にのみ、ステアリングは上方に傾き、運転席シートは後方に動きます（▷173 ページ）。

以下の場合は、ステアリングまたはシートの最後の位置が記憶されます。

- イグニッションをオフにした。
- メモリー機能を使用して設定が保存された（▷173 ページ）。

ⓘ いっぱいまで上がっていない場合にのみ、ステアリングは上方に動きます。最後方の位置になっていない場合にのみ、運転席シートは後方に動きます。

走行する際のステアリングおよび運転席シートの位置

以下の場合は、ステアリングおよび運転席シートが以前に設定した位置に動きます。

- 運転席ドアを閉じた状態で、エンジンスイッチにキーを差し込んだ
- 運転席ドアを閉じて、イグニッション位置を **0** から **1**、または **1** から **2** にした

ⓘ シートまたはステアリングの調整後にドライビングポジションが保存されたときにのみ、ステアリングと運転席シートは最後の設定位置に戻ります（▷173 ページ）。

以下の場合は、ステアリングまたはシートの最後の位置が記憶されます。

- イグニッションをオフにした。
- メモリー機能を使用して設定が保存された（▷173 ページ）。

クラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能

事故のときにクラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能が作動した場合は、運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜いたときに、ステアリングコラムが上方に動きます。これにより、車外への脱出や乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能は、COMAND システムでイージーエントリー機能が設定されている場合にのみ作動します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

ミラー

ドアミラー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転中に以下を行なうと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを着用する

事故の危険性があります。エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを着用してください。

⚠ 警告

ドアミラーに写る像は実際よりも小さく見えます。実際には、ドアミラーで見るよりも近くにあります。これは、車線を変更する際など、後続の道路使用者との距離感を見誤る可能性があるということです。事故の危険性があります。

そのため、肩ごしに直接斜め後方を見て、実際の距離を確認してください。

ドアミラーの調整

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ 右側ドアミラー用スイッチ ② または左側ドアミラー用スイッチ ③ を押します。

押したスイッチの表示灯が点灯します。

しばらくすると、表示灯は再度消灯します。表示灯が点灯しているときに、調整スイッチ ① を使用して選択されているドアミラーを調整できます。

▶ 調整スイッチ ① を上下方向、左右方向に押して、ドアミラーを正しい位置に調整します。交通状況が良く視認できなければなりません。

凸面のドアミラーにより、より広い視界を確保しています。

エンジンを始動した後に、外気温度が低いときにリアデフォッガーを作動させた場合は、ドアミラーが自動的に温められます。

ドアミラーを電動で格納 / 展開する

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ スイッチ ① を軽く押します。
左右のドアミラーが格納または展開します。

ℹ 走行中は常に、ドアミラーが完全に展開していることを確認してください。さもないと、ドアミラーが振動することがあります。

ℹ 47km/h 以上で走行している場合は、ドアミラーを格納することはできなくなります。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が外されたり、完全に放電した場合は、ドアミラーをリセットする必要があります。さもないと、マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " 機能が選択されていても、ドアミラーは格納されません。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ スイッチ ① を軽く押します。

ドアミラーを自動で格納 / 展開する

COMAND システムで " 自動ミラー格納 / 展開 " 機能を設定しているとき（デジタル版取扱説明書をご覧ください）

- 車外から車両を施錠するとただちに、ドアミラーが自動的に格納されます。
- 車両を解錠するとただちに、ドアミラーが自動的に展開します。

ℹ 手動でドアミラーを格納した場合は、展開しません。

ドアミラーが所定の位置から押し出されたとき

ドアミラーが所定の位置から押し出された（前方または後方）場合は、以下のように進めてください。

▶ クリック音が聞こえ、音とともにミラーが所定の位置に固定されるまで、スイッチ ① を押して保持します（▷171 ページ）。

ミラー本体が再度固定され、通常通りドアミラーを調整できます（▷170 ページ）。

自動防眩ミラー

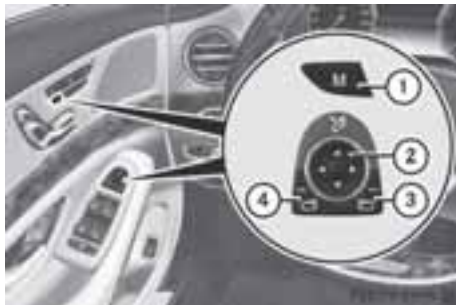
以下の条件が同時に満たされると、ルームミラーと運転席側のドアミラーは自動的に自動防眩モードになります。

- イグニッションがオンになっている
- 後続車のライトがルームミラーのセンサーに当たる

リバースギアに入っている場合、またはフロントルームライトが点灯している場合は、ミラーは防眩になりません。

リバースポジション機能付ドアミラー（助手席側）

駐車位置の設定と記憶

リバースギアを使用して

① メモリースイッチ M
② 調整スイッチ
③ 助手席側ドアミラースイッチ
④ 運転席側ドアミラースイッチ

リバースギアに入れたときにすぐ、その側の後輪が見えるように助手席側ドアミラーを設定できます。その位置を記憶させることができます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラースイッチ ③ を押します。

▶ リバースギアに入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

▶ ドアミラー調整スイッチ ② を使用して、ドアミラーから後輪と路肩が見える位置に調整します。

駐車位置が記憶されます。

ⓘ トランスミッションを他の位置にシフトした場合は、助手席側ドアミラーは走行時の角度に戻ります。

メモリースイッチを使用して

リバースギアに入れたときにすぐ、その側の後輪が見えるように助手席側ドアミラーを設定できます。この設定は、メモリースイッチ **M**① を使用して保存することができます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラースイッチ ③ を押します。

▶ ドアミラー調整スイッチ ② を使用して、ドアミラーから後輪と路肩が見える位置に調整します。

▶ メモリースイッチ **M**① を押し、約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ ② をいずれかの方向に押します。
助手席側ドアミラーが動かない場合は、駐車位置が記憶されています。

▶ 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

記憶させた駐車位置の設定の呼び出し

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スイッチ ③ を使用して助手席側ドアミラーを調整します。

▶ リバースギアに入れます。
助手席側ドアミラーが記憶された駐車位置になります。

次のときに、助手席側ドアミラーは元の角度に戻ります。

- 速度が 15km/h を超えるとすぐに
- リバースギア以外にして約 10 秒後
- 運転席側ドアミラースイッチ ④ を押した場合

メモリー機能

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

走行中に運転席側のメモリー機能を使用すると、調整をした結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

車両が停車しているときにのみ運転席側のメモリー機能を使用してください。

⚠ **警告**

メモリー機能がシートまたはステアリングを調整するとき、ご自身だけでなく、他の乗員、特に子供が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

メモリー機能が調整を行なっている間、シートまたはステアリングの動いている箇所にだれも近づかないように注意してください。挟み込まれた場合、すぐにメモリー機能ポジションスイッチを放してください。調整プロセスが停止します。

⚠ **警告**

付き添いのない状態で、子供がメモリー機能を作動させると、挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

メモリーの設定

メモリー機能で、例えば 3 人の方のために、3 つまでの異なる設定を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シート、バックレスト、ヘッドレストの位置とバックレストの腰部の形状
- マルチコントロールシートバック：バックレストのサイドサポート、バックレストの腰部と肩部の形状
- アクティブマルチコントロールシートバック：バックレストのサイドサポート、バックレストのショルダー部、バックレストの形状、ドライビングダイナミックシートのレベル
- シートヒーター：シートクッションおよびバックレストの暖房部分の配分
- 運転席側：運転席および助手席側のドアミラーの角度、ステアリングの位置

▶ 対応するシートを調整します（▷146 ページ）。

▶ 運転席側では、ステアリング（▷166 ページ）とドアミラー（▷170 ページ）を調整します。

▶ メモリースイッチ **M** を押し、それから 3 秒以内にポジションスイッチ **1**、**2**、**3** のいずれかを押します。

選択したポジションスイッチにそのときの位置が記憶されます。メモリーの設定が完了すると確認音が鳴ります。

記憶された位置を呼び出す

▶ 対応するポジションスイッチ **1**、**2** または **3** を押して保持します。

- シート
- ステアリング
- ドアミラー

これらが保存された位置になります。

ⓘ ポジションスイッチから指を放すと、シート、ステアリング、ミラーの調整機能はただちに停止します。マルチコントロールシートバックの設定および電動ランバーサポートは実行されたままになります。

後席のメモリー機能

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

メモリー機能がシートまたはステアリングを調整するとき、ご自身だけでなく、他の乗員、特に子供が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

メモリー機能が調整を行なっている間、シートまたはステアリングの動いている箇所にだれも近づかないように注意してください。挟み込まれた場合、すぐにメモリー機能ポジションスイッチを放してください。調整プロセスが停止します。

 警告

付き添いのない状態で、子供がメモリー機能を作動させると、挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

全体的な注意事項

リアシートおよび助手席シートの設定は、後席のメモリー機能を使用して保存することができます。

- スイッチの表示灯が点灯していない場合は、リアシートの設定を保存できます。
- スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートおよびリアシートの設定を保存できます。助手席シートおよびリアシートの両方がこの設定で対象になります。車両の装備によって、2 つまたは 3 つのメモリー位置を助手席およびリアシート用に保存することができます。

メモリーの設定

全体的な注意事項

後席のメモリー機能では、例えば異なる 3 人のために 3 つまでの異なる設定を保存することができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シートとバックレスト、ヘッドレストの位置
- マルチコントロールシートバック：バックレストのサイドサポート、バックレストの腰部と肩部の形状
- シートヒーター：スイッチの表示灯が点灯していない場合のシートクッションおよびバックレストの暖房部分の配分

スイッチの表示灯が点灯している場合は、以下の設定がメモリー位置に保存されます。

- 可能な場合は、助手席シートのフットレストの位置
- 可能な場合は、画面の位置

リアリクライニングシート非装備車両

▶ **リアシートの位置を記憶させる：** スイッチの表示灯が点灯しなくなるまで、スイッチを繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯していない場合は、リアシートが選択されています。

▶ 対応するリアシートを調整します (▷147 ページ)。

または

▶ **助手席シートとリアシートの位置を記憶させる：** 表示灯が点灯するまで、スイッチを繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ リアシートおよび助手席シートを調整します (▷146、147 ページ)。

▶ メモリースイッチ **M** を押し、それから 3 秒以内にポジションスイッチ **1**、**2**、**3** のいずれかを押します。

選択したポジションスイッチに設定が記憶されます。

シート、ステアリングとミラー

リアリクライニングシート装備車両

- **リアシートの位置を記憶させる：**スイッチの表示灯が点灯しなくなるまで、[シートアイコン]スイッチを繰り返し押します。

  スイッチの表示灯が点灯していない場合は、リアシートが選択されています。
- 対応するリアシートを調整します（▷147 ページ）。

または

- **助手席シートとリアシートの位置を記憶させる：**スイッチの表示灯が点灯するまで、[シートアイコン]スイッチを繰り返し押します。

  スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。
- リアシートおよび助手席シートを調整します（▷146、147 ページ）。
- メモリースイッチ **M** を押し、それから 3 秒以内にメモリースイッチ **1** または **2** のいずれかを押します。

  選択したポジションスイッチに設定が記憶されます。

リクライニングポジションの設定のために、スイッチに設定を保存することはできません。

ショーファーモードエリア内のメモリー位置は、ショーファーモードの条件が満たされているときにのみ、設定することができます（▷152 ページ）。

記憶された位置を呼び出す

リアリクライニングシート非装備車両

- リアシートまたは助手席シートが保存された位置になるまで、対応するポジションスイッチ **1**、**2** または **3** を押して保持します。

ⓘ ポジションスイッチを放すと、ただちにシート調整処理が中断します。マルチコントロールシートバックの設定および電動ランバーサポートは実行されたままになります。

リアリクライニングシート装備車両

- リアシートまたは助手席シートが保存された位置になるまで、ポジションスイッチ **1** または **2** を押して保持します。

ⓘ ポジションスイッチを放すと、ただちにシート調整処理が中断します。マルチコントロールシートバックの設定および電動ランバーサポートは実行されたままになります。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください (▷30 ページ)。

車外ライト

全体的な注意事項

日中にライトを点灯しないで走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで " デイタイムドライビングライト " 機能をオフにしてください (▷344 ページ)。

車外ライトの設定

設定方法

ライトは以下を操作して設定できます。

- ライトスイッチ
- コンビネーションスイッチ (▷180 ページ)
- マルチファンクションディスプレイ (▷344 ページ)

ライトスイッチ

操作

1 ◄P 左側パーキングライト
2 P► 右側パーキングライト
3 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO ヘッドライトのオートモード、ライトセンサーによる制御
5 ロービーム / ハイビームヘッドライト
⑥ 0‡ リアフォグランプ

車両から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトが点灯していることがあります。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

ヘッドライトはエンジンを停止すると消灯します。

車幅灯は、以下の操作を行なうと消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- キーが **0** の位置のときに運転席ドアを開く

ヘッドライトのオートモード

⚠ **警告**

ライトスイッチを AUTO に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。

このような状況のときは、ライトスイッチを ≣D にまわします。

ライトのオートモード機能は単なる支援にすぎません。車両の照明に関する責任は、常に運転者にあります。

車幅灯およびロービームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの緑色の表示灯 ⅁OO⅁（車幅灯）および ≣D（ロービームヘッドライト）が点灯します。

通常は、ライトスイッチを AUTO に設定することをお勧めします。ライト設定は、周囲の明るさに応じて以下のように自動的に選択されます（例外：霧、雪、霧雨などの天候による視界不良の場合）。

- イグニッション位置が 1 のとき：周囲の明るさに応じて車幅灯が自動的に点灯または消灯します。
- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイでデイタイムドライビングライト機能を設定していない場合は、車幅灯およびロービームヘッドライトが周囲の明るさの度合いによって自動的に点灯または消灯に切り替わります。

▶ **ヘッドライトのオートモードを作動させる：**ライトスイッチを AUTO にまわします。

ロービームヘッドライト

イグニッションがオンで、ライトスイッチが ≣D の位置にあるときは、周囲の明るさの状況が暗いことをライトセンサーが検知していなくても、車幅灯とロービームヘッドライトが点灯します。これは、霧や雨のときに便利です。

▶ **ロービームヘッドライトを点灯する：**イグニッション位置を 2 にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ≣D にまわします。

メーターパネルの緑色の表示灯 ≣D が点灯します。

リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃霧の交通でのお客様の車両の被視認性を改善します。リアフォグランプの使用に関する、国ごとに規定された法律に従ってください。

▶ **リアフォグランプを点灯する：**イグニッション位置を 2 にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ≣D または AUTO にまわします。

▶ O‡ スイッチを押します。

メーターパネルの黄色の表示灯 O‡ が点灯します。

▶ **リアフォグランプを消灯する：**O‡ スイッチを押します。

メーターパネルの黄色の表示灯 O‡ が消灯します。

車幅灯

❗ バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングライトが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 [車幅灯] を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、[P右] 右側または [P左] 左側パーキングライトを点灯してください。

- ▶ **点灯する：**ライトスイッチを [車幅灯] にまわします。
  メーターパネルの緑色の表示灯 [車幅灯] が点灯します。

パーキングライト

パーキングライトを点灯すると、車両の対応する側が点灯します。

- ▶ **パーキングライトを点灯する：**キーがエンジンスイッチにないか、またはイグニッション位置が **0** になっていることを確認します。
- ▶ ライトスイッチを [P左]（車両の左側）または [P右]（車両の右側）にまわします。

コンビネーションスイッチ

方向指示灯

① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯
③ パッシングライト
④ 左側の方向指示灯

- ▶ **短時間点滅させる：**コンビネーションスイッチを矢印 ② または ④ の方向に軽く押します。

  対応する方向指示灯が 3 回点滅します。
- ▶ **点滅させる：**コンビネーションスイッチを矢印 ② または ④ の方向に押します。

ハイビームヘッドライト

- ▶ **ハイビームヘッドライトを点灯する：**イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] または [AUTO] にまわします。

▶ 手応えのあるところを越えるまで、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に押します。

AUTO の位置のとき、ハイビームヘッドライトは、周囲が暗くエンジンがかかっているときにのみ点灯します。ハイビームヘッドライトを点灯させたときは、メーターパネルの青色の表示灯 ≣D が点灯します。

▶ **ハイビームヘッドライトを消灯する：**コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。

メーターパネルの青色の表示灯 ≣D が消灯します。

アダプティブハイビームアシスト・プラスが作動している場合は、ハイビームヘッドライトの作動および解除を制御します（▷183 ページ）。

パッシングライト

▶ **作動させる：**イグニッション位置を **1** または **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ③ の方向に引きます。

非常点滅灯

▶ **非常点滅灯を作動させる：**スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させた場合は、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

▶ **非常点滅灯を解除する：**スイッチ ① を再度押します。

非常点滅灯は、以下のときに自動的に作動します。

- エアバッグが作動した、または
- 車両が 70km/h 以上の速度から急減速して停止した

フルブレーキを効かせた後に車両が 10km/h 以上の速度に再度達した場合は、非常点滅灯は自動的に解除されます。

イグニッションをオフにした場合でも、非常点滅灯は作動し続けます。

インテリジェントライトシステム

重要な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる先端機能を提供します。システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して " インテリジェントライトシステム " 機能を作動させたり解除したりできます（▷343 ページ）。

アクティブライトシステム

アクティブライトシステムは、ステアリングを切る角度に応じてヘッドライトの向きを変化させるシステムです。そのため、走行中はステアリングを操作した方向が常に照射されます。このシステムにより、歩行者、自転車、動物などを容易に認識することができます。

以下のときに作動します：ライトが点灯しているとき

コーナリングライト

コーナリングライトは、コーナリング時に進行方向の路面を広く照射し、夜間の交差点などで運転者の視界を向上させます。ロービームヘッドライトの点灯時のみ作動させることができます。

以下のときに作動します：

- 40km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯をオンにした、またはステアリングをまわした場合
- 40km/h ～ 70km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

以下のときに解除されます：

- 70km/h 以上の速度で走行した場合
- 40km/h ～ 70km/h の間の速度で走行していてステアリングを直進状態にした場合
- 40km/h 以下の速度で走行していて方向指示灯を解除するか、ステアリングを直進位置にまわした場合

コーナリングライトは短時間点灯し続けますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

以下のときに作動します：110km/h以上の速度で走行していて、少なくとも1,000m以上の間、なんらかの大きなステアリングの動きがない場合、または130km/h以上の速度で走行している場合。

上記はライトの機能の説明です。走行するときは必ず法定速度や制限速度に従ってください。

以下のときに解除されます：作動後に、80km/h以下の速度で走行した場合。

フォグランプ強化機能

フォグランプ強化機能は運転者の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

以下のときに作動します：

70km/h以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合

以下のときに解除されます：作動後に100km/h以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合

アダプティブハイビームアシスト・プラス

全体的な注意事項

アダプティブハイビームアシスト・プラスにより、ロービーム、パーシャルハイビームおよびハイビームヘッドライトの間で自動的に切り替えることができます。

パーシャルハイビーム照明は、他の道路使用者を避けるようなハイビームの配光になっています。他の道路使用者は、ハイビームの範囲外になります。これにより眩しさを防ぎます。先行車両がある場合は、例えばハイビームヘッドライトはその右または左の範囲を照射し、先行車両はロービームヘッドライトによって照射されます。

このシステムは、他車との距離に応じてロービームの照射範囲を自動調整します。他車が検知されなくなると、システムは再びハイビームに切り替えます。

ハイビームまたはパーシャルハイビームヘッドライトが交通標識からの非常に強い反射の原因となっている場合は、ライトは自動的に暗くなり、反射によって引き起こされる眩しさが避けられます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側のオーバーヘッドコントロールパネル付近に装着されています。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシスト・プラスは以下の道路使用者を認識しません。

- 歩行者などライトを持っていない人
- 自転車などライトの暗い人
- フェンスなどでライトが遮られている人

ごくまれに、アダプティブハイビームアシスト・プラスはライトを持っている道路使用者を認識しない、または認識が非常に遅れることがあります。このような場合は、他の道路使用者がいるにもかかわらず、自動ハイビームヘッドライトが解除されなかったり、作動したりします。

事故の危険性があります。

道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

アダプティブハイビームアシスト・プラスは、道路、天候または交通状況を考慮に入れることはできません。アダプティブハイビームアシスト・プラスは単なる支援にすぎません。運転者には、そのときの明るさ、視界および交通状況に応じて、車両のライトを調整する責任があります。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている

アダプティブハイビームアシスト・プラスの作動 / 停止の切り替え

① ハイビームヘッドライト
② 方向指示灯（右）
③ パッシングライト
④ 方向指示灯（左）

▶ **作動させる：**ライトスイッチを AUTO にまわします。

▶ 手応えがあるところを越えるまで、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に押します。

周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯 [表示灯] が点灯します。

25km/h 以上の速度で走行している場合：

ヘッドライトの照射範囲は、他の車両や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 30km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されていない場合：

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの表示灯 [≣D] も点灯します。

45km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されている場合：

パーシャルハイビームが自動的に選択されます。メーターパネルの表示灯 [≣D] も点灯します。

約 40km/h 以下の速度で走行している場合：

パーシャルハイビームヘッドライトが自動的に停止します。他の道路使用者が検知されていない場合は、ハイビームヘッドライトが作動します。

約 25km/h 以下の速度で走行しているか、または道路が十分に照らされている場合：

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの表示灯 [≣D] が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯 [≣A] は点灯したままになります。

▶ **停止する：**コンビネーションスイッチを通常の位置に戻す、またはライトスイッチを他の位置に動かします。

メーターパネルの表示灯 [≣A] が消灯します。

ヘッドライト内側の曇り

特定の天候および物理的条件が、ヘッドライトにできる曇りの原因となることがあります。この曇りはヘッドライトの機能に影響を与えません。

ルームライト

ルームライトの概要

前席のオーバーヘッドコントロールパネル

① [icon] 左側フロント読書灯の点灯 / 消灯の切り替え
② [icon] ルームライト自動コントロールのオン / オフの切り替え
③ [icon] フロントルームライトの点灯 / 消灯の切り替え
④ [icon] リアルームライトの点灯 / 消灯の切り替え
⑤ [icon] 右側フロント読書灯の点灯 / 消灯の切り替え

グリップハンドルのコントロールパネル（後席）

ライトおよびワイパー

▶ **対応する側の後席読書灯およびメークアップライトを点灯する：**スイッチ ② を押します。

読書灯 ① およびメークアップライトが点灯します。

▶ **消灯する：**スイッチ ② を押します。
1 度押す：メークアップライトが消灯します。
2 度押す：読書灯 ① が消灯します。

▶ **両側の後席読書灯およびメークアップライトを点灯する：**スイッチ ③ を押します。
読書灯 ① およびメークアップライトが点灯します。

▶ **消灯する：**スイッチ ③ を押します。
読書灯 ① およびメークアップライトが消灯します。

ルームライトの操作

全体的な注意事項

車両のバッテリーの放電を防止するため、イグニッション位置が **2** 以外のときは、ルームライトの機能は一定時間後に自動的に解除されます。

アンビエントライトの色、明るさ、ゾーンは、COMAND システムを使用して設定できます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

ルームライトの操作はフロントのオーバーヘッドコントロールパネルを使用して操作できます。

ルームライトの自動点灯

▶ **設定 / 解除を切り替える：**[OFF] スイッチを押します。

ルームライト自動コントロールが設定されているときは、スイッチはオーバーヘッドコントロールパネルと同じ高さになります。

ルームライトは以下のときに自動的に点灯します。

- 車両を解錠する
- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く

エンジンスイッチからキーを抜いたときは、ルームライトが短時間点灯します。この消灯遅延は、COMAND システムを使用して調整することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

ルームライトの手動点灯

▶ **フロントルームライトを点灯 / 消灯する：**[ ] スイッチを押します。

▶ **リアルームライトを点灯 / 消灯する：**[ ] スイッチを押します。

▶ **読書灯を点灯 / 消灯する：**[ ] スイッチを押します。

緊急時点灯機能

車両が事故に巻き込まれたときに、ルームライトが自動的に点灯します。

▶ **緊急時点灯機能をオフにする：**非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーを使用して、車両を施錠してから解錠します。

電球の交換

車両のフロントおよびリアライトクラスターには LED ライトバルブが装備されています。お客様自身でライトの交換を行なわないでください。必要な専門知識と専用ツールを備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ライトは車両安全性の重要な要素です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

フロントウインドウワイパー

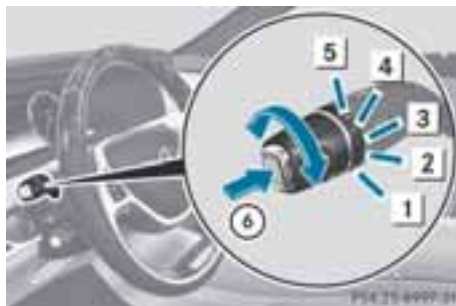
フロントウインドウワイパーの作動 / 停止の切り替え

! ウインドウが乾いているときは、ワイパーを使用しないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。また、ウインドウに付着したほこりなどでウインドウの表面に傷が付くおそれがあります。

乾燥した気候条件でフロントワイパーをオンにする必要がある場合は、必ずウォッシャー液を噴射しながら操作してください。

! 車両を自動洗車機で洗車した後にワイパーを使用しても油膜が残るときは、ウインドウに付着したワックスや洗浄液などが原因と考えられます。ウインドウをウォッシャー液で洗浄してください。

! 乾燥した気候条件でフロントウインドウが汚れた場合は、レインセンサーによりフロントワイパーが不意に作動するおそれがあります。ワイパーブレードを損傷したり、ウインドウに傷が付くおそれがあります。

このため、雨が降っていないときは必ずワイパースイッチを停止の位置にしてください。

1 [0] フロントウインドウワイパーの停止
2 [···] 間欠拭き取り、低速（レインセンサーは低感度に設定）
3 [····] 間欠拭き取り、高速（レインセンサーは高感度に設定）
4 [—] 連続拭き取り、低速
5 [=] 連続拭き取り、高速
6 [ワイパー記号] 1 回の拭き取り / [ウォッシャー記号] ウォッシャー液を使用してのフロントウインドウの拭き取り

▶ キーレスゴースイッチまたはキーでイグニッションをオンにします。

▶ コンビネーションスイッチを対応する位置にまわします。

[···] または [····] の位置では、雨の強さに応じて、適切な拭き取り頻度が自動的に設定されます。[····] の位置では、レインセンサーは [···] の位置よりも高感度となり、フロントウインドウワイパーはより頻繁に拭き取りを行ないます。

i マジックビジョンコントロール装備車両：ウォッシャー液はワイパーブレードを通じて送られ、[ウォッシャー記号] の位置でウォッシャー液を使用してフロントウインドウの拭き取りを行なうときは、ウォッシャー液は直接ブレードから出ます。

ワイパーブレードが摩耗した場合は、フロントウインドウは十分に拭き取られなくなります。交通状況への注意を妨げるおそれがあります。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

! ワイパーアームを起こしているときは絶対にボンネットを開かないでください。

ワイパーブレードが取り付けられていない状態では絶対にワイパーアームをフロントウインドウの元の位置に戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持って作業をしてください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ウインドウに当たってウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

! ワイパーをフロントウインドウから起こす前に、必ずフロントワイパーアームを垂直の位置にしてください。そうすることで、ボンネットへの損傷を避けてください。

ワイパーブレードの交換（標準フロントウインドウワイパー）

ワイパーブレードの垂直位置への移動

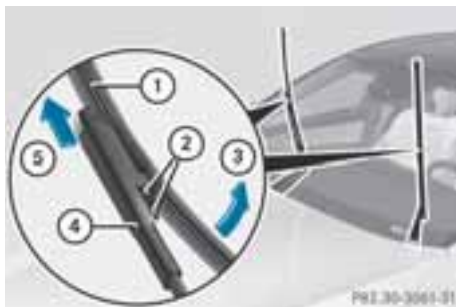
▶ イグニッション位置を **0** にします。

▶ フロントウインドウワイパーを [—] の位置に設定します。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ ボンネットに対してワイパーアームが垂直になったら、ただちにイグニッション位置を **0** にします。

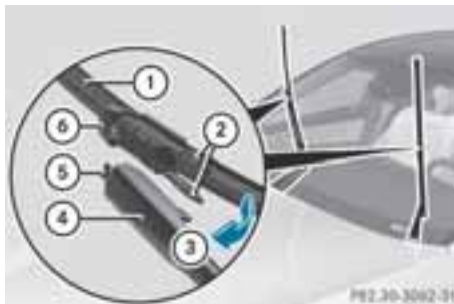
▶ キーを抜いてください。

▶ 所定の位置に止まった手応えがあるまで、ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

ワイパーブレードを取り外す

▶ 両方のロック解除クリップ ② を押します。

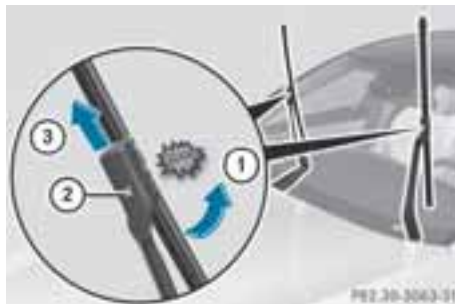
▶ 矢印 ③ の方向に、ワイパーブレード ① をワイパーアーム ④ から起こします。

▶ 矢印 ⑤ の方向に、ワイパーブレード ① を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

- ▶ 新しいワイパーブレード ① の凹部 ⑥ をラグ ⑤ に合わせます。
- ▶ 固定クリップ ② がブラケット ④ に固定されるまで、ワイパーブレード ① を矢印 ③ の方向にワイパーアームに倒します。
- ▶ ワイパーブレード ① が正しく位置していることを確認します。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウに倒して戻します。

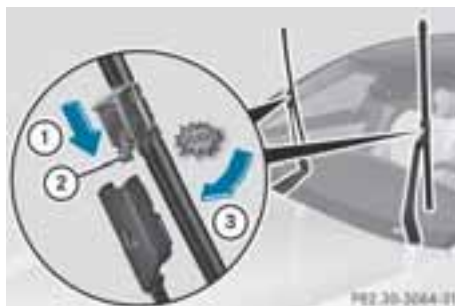
ワイパーブレードの交換（マジックビジョンコントロール）

ワイパーブレードの垂直位置への移動

- ▶ イグニッション位置を **0** にします。
- ▶ フロントウインドウワイパーを [—] の位置に設定します。
- ▶ イグニッション位置を **1** にします。
- ▶ ボンネットに対してワイパーアームが垂直になったら、ただちにイグニッション位置を **0** にします。
- ▶ キーを抜いてください。
- ▶ 所定の位置に止まった手応えがあるまで、ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

ワイパーブレードを取り外す

- ▶ **ワイパーブレードを取り外しの位置にする：**ワイパーアームを片方の手でしっかり持ちます。もう片方の手で、手応えがあるところを越えるまでワイパーブレードを矢印 ① の方向にまわします。

  カチッと音がして、ワイパーブレードが取り外しの位置でロックされます。
- ▶ **ワイパーブレードを取り外す：**ロック解除ノブ ② をしっかり押して、ワイパーブレードを上方 ③ へ引きます。

ワイパーブレードを取り付ける

- ▶ タブ ② が固定されるまで、ワイパーアーム上で新品のワイパーブレードを矢印 ① の方向に押します。

▶ 手応えがあるところを越えるまで、ワイパーブレードを矢印 ③ の方向にまわします。

カチッという音がして、ワイパーブレードのロックが解除され、再び自由に動くようになります。

▶ ワイパーブレードが正しく位置していることを確認します。

▶ ワイパーアームをフロントウインドウに倒して戻します。

フロントウインドウワイパーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
フロントウインドウワイパーが妨げられている。	葉や雪などにより、フロントウインドウワイパーの作動が妨げられていることがある。ワイパーモーターが停止している。 ▶エンジンスイッチのキーをまわすか、キーレスゴースイッチを使用してエンジンを停止し、運転席ドアを開いてください。 ▶妨げている原因を取り除いてください。 ▶再度、フロントウインドウワイパーを作動させてください。
フロントウインドウワイパーが全く作動しない。	フロントウインドウワイパーの駆動系統が故障している。 ▶コンビネーションスイッチでワイパーの他の作動を選択してください。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場でフロントウインドウワイパーの点検を受けてください。
	ワイパーモーターが停止している。 ▶エンジンスイッチのキーをまわすか、キーレスゴースイッチを使用してエンジンを停止し、運転席ドアを開いてください。 ▶妨げている原因を取り除いてください。 ▶再度、フロントウインドウワイパーを作動させてください。
標準ワイパーシステムのみ：噴射ノズルからのフロントウインドウウォッシャー液が、フロントウインドウの中央に当たらなくなっている。	噴射ノズルの角度がずれている。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルを調整してください。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意事項

以下のページで推奨されている設定に従ってください。さもないと、ウインドウが曇るおそれがあります。

ウインドウを曇りから防ぐために、以下のことを行なってください：

- エアコンディショナーは短時間のみ停止する
- 内気循環モードは短時間のみ作動させる
- AC モードを作動させる
- 必要な場合は、フロントウインドウデフロスター機能を短時間作動させる

エアコンディショナーは車内の温度および空気の湿度を制御します。エアフィルターは空気を清浄し、室内の環境を改善します。

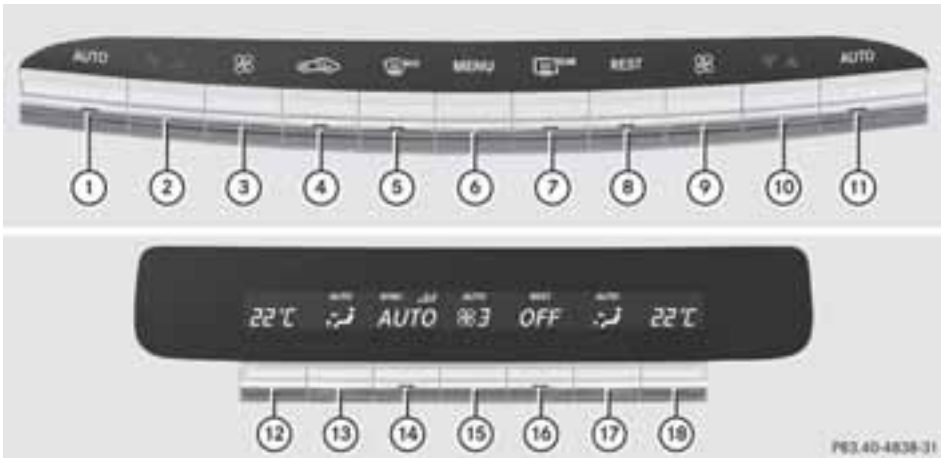
内燃エンジン装備車両では、エンジンがかかっているときにのみ AC モード機能を使用することができます。ハイブリッド車両では、エンジンがかかっていないときは、電気式冷却コンプレッサーで AC モード機能を使用することができます。サイドウインドウおよびルーフが閉じているときにのみ、エアコンディショナーは最適に作動します。

余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときにのみ作動または停止することができます（▷208 ページ）。

ⓘ 暖かい天気のときは、コンビニエンスオープニング機能を使用するなどして、短時間車両を換気してください（▷131 ページ）。これにより、冷却処理が速くなり、より速く希望の車内温度に達します。

ⓘ 内蔵フィルターは、ほこりや煤煙の大部分の粒子をろ過することができます。気体状の汚染物質および臭いも減少させます。詰まったフィルターは車内に供給される空気の量を減らします。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔に必ず従ってください。重度の大気汚染などの環境状況に左右されるため、間隔は整備手帳に記載されているものより短くなることがあります。

ⓘ 外気温度などの様々な要因によっては、キーを抜いた後の 60 分間は自動的に送風が作動することがあります。その後、オートエアコンディショナーを乾燥させるために、車両は 30 分間換気されます。

クライメートコントロール（左右独立調整）コントロールパネル

フロントコントロールパネル

① エアコンディショナーをオートに設定、左（▷199 ページ）
② 温度の設定、左（▷201 ページ）
③ 送風量の設定、左（▷203 ページ）
④ 内気循環モードの設定 / 解除（▷206 ページ）
⑤ フロントウインドウデフロスター（▷204 ページ）
⑥ COMAND システムのエアコンディショナーメニューの呼び出し
⑦ リアデフォッガーの作動 / 停止の切り替え（▷205 ページ）
⑧ 余熱ヒーター機能の作動 / 停止（▷208 ページ）
⑨ 送風量の設定、右（▷203 ページ）
⑩ 温度の設定、右（▷201 ページ）
⑪ エアコンディショナーをオートに設定、右（▷199 ページ）

リアコントロールパネル（後席専用クライメートコントロール装備車両のみ）

⑫ 温度の設定、左（▷201 ページ）
⑬ 送風配分の設定、左（▷202 ページ）
⑭ エアコンディショナーをオートモードに設定（▷199 ページ）
⑮ 送風量の設定（▷203 ページ）
⑯ エアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え（▷197 ページ）
余熱ヒーター機能の作動 / 停止（▷208 ページ）
⑰ 送風配分の設定、右（▷202 ページ）
⑱ 温度の設定、右（▷201 ページ）

エアコンディショナーの使用に関する注意事項

オートエアコンディショナー

以下に、エアコンディショナーシステムを最適に使用するための参考となる、いくつかの注意事項および推奨事項があります。

- AUTO スイッチを使用してエアコンディショナーを作動させます。AUTO スイッチの表示灯が点灯します。
- 温度を 22℃に設定します。
- フロントウインドウデフロスター機能は、フロントウインドウの曇りが取れるまでの短時間のみ使用してください。
- 内気循環モードは、不快な外気の臭いがある場合やトンネル内のときなどの短時間のみ使用してください。さもないと、内気循環モードでは車内に外気が取り込まれないため、ウインドウが曇るおそれがあります。
- イグニッションをオフにした後に車内を暖房または換気したいときは、余熱ヒーター機能を使用してください。余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときにのみ、作動または停止することができます。イグニッションをオンにしたときは、余熱ヒーター機能が停止します。

フロントコントロールパネルを使用してリアエアコンディショナーを操作する場合は、以下に注意してください。

- フロントコントロールパネルを使用して後席のエアコンディショナーを設定する場合は、[icon] マークが後席のコントロールパネルのディスプレイに表示されます。
- フロントコントロールパネルを使用して後席のエアコンディショナーを設定する場合は、同時にリアコントロールパネルを使用して設定することはできません。フロントコントロールパネルからのリアエアコンディショナーの操作がロックされている場合は、5 秒待ちます。その後に、リアコントロールパネルを使用して、リアエアコンディショナーを操作することができます。
- 後席の設定を選択した後は、約 5 秒後に自動的に再度 COMAND システムでフロントエアコンディショナーを操作できます。

  または、COMAND システムのエアコンディショナーバーで " 後席の中止 " を選択することができます。

ECO スタートストップ機能

エンジン自動停止中は、エアコンディショナーは限られた出力でのみ作動します。エアコンディショナーの最大出力が必要な場合は、ECO スイッチを押すことにより、ECO スタートストップ機能を解除することができます(▷222 ページ)。

ハイブリッド車両

車両が作動可能で、緑色または黄色の READY 表示灯が点灯しているときに、AC モードを使用できます(▷317 ページ)。

内燃エンジンが自動的に停止した場合は、設定された車内の温度が一定期間維持されます。

エアコンディショナーシステムの操作

エアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え

全体的な注意事項

エアコンディショナーを停止したときは、空気の供給および空気の循環も停止します。ウインドウが曇るおそれがあります。そのため、エアコンディショナーは短時間のみ停止してください。

主に AUTO スイッチを使用して、エアコンディショナーを作動させてください (▷199 ページ)。

フロントコントロールパネルを使用してのフロントエアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動させる：** MENU スイッチを上または下に押します。

COMAND システムのエアコンディショナーメニューが開きます。

▶ COMAND システムのエアコンディショナーバー経由でエアコンディショナーを作動させます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

▶ **停止する：** MENU スイッチを上または下に押します。

COMAND システムのエアコンディショナーメニューが開きます。

▶ COMAND システムのエアコンディショナーバー経由でエアコンディショナーを停止します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

コントロールパネルを使用してのリアエアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え

フロントコントロールパネルを使用してのリアエアコンディショナーの操作に関する注意事項に従ってください (▷196 ページ)。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動させる：** MENU スイッチを上または下に押します。

COMAND システムのエアコンディショナーメニューが開きます。

▶ エアコンディショナーバーで " 後席の設定 " を選択します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

フロントコントロールパネル、または COMAND システムを使用して後席エアコンディショナーを操作することができます。

▶ エアコンディショナーバーで後席のエアコンディショナーを作動させます。

▶ **停止する：** MENU スイッチを上または下に押します。

COMAND システムのエアコンディショナーメニューが開きます。

▶ エアコンディショナーバーで " 後席の設定 " を選択します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

▶ エアコンディショナーバーで後席のエアコンディショナーを停止します。

リアパネルを使用しての後席のエアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動させる：**スイッチ ⑯ を上または下に押します（▷195 ページ）。

スイッチ ⑯ の表示灯が消灯します。後席ディスプレイにすべての設定が全画面で表示されます。

▶ **停止する：**スイッチ ⑯ を上または下に押します（▷195 ページ）。

スイッチ ⑯ の表示灯が点灯します。

AC モードの設定 / 解除

全体的な注意事項

AC モードを解除した場合は、車内の空気は冷却されません。車内の空気の除湿もされません。より早くウインドウが曇ることがあります。そのため、AC モードは短時間のみ解除してください。

内燃エンジン装備車両では、エンジンがかかっているときに AC モード機能を使用することができます。ハイブリッド車両では、エンジンがかかっていないときは、電気式冷却コンプレッサーで AC モード機能を使用することができます。選択されている温度に応じて、車内の空気は冷却および除湿されます。

AC モードに設定されているときは、車両の下から凝結水が落ちることがあります。これは正常なことで、故障があることの兆候ではありません。

AC モードの設定 / 解除

COMAND システムを使用して、AC モード機能を設定または解除することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

AC モードのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響び ▶ 解決方法
COMAND システムを使用して AC モードを設定することができなくなった（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。	故障のため、AC モードが解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

エアコンディショナーを AUTO モードに設定する

全体的な注意事項

オートモードでは、自動的に一定の設定温度に保たれます。システムは、送風温度、送風量および送風配分を自動的に制御します。

オートモード機能は、AC モード機能が作動しているときに最適に作動します。好みにより、AC モードを解除することができます。

AC モードを解除した場合は、車内の空気は冷却されません。車内の空気の除湿もされません。より早くウインドウが曇ることがあります。そのため、AC モードは短時間のみ解除してください。

フロントコントロールパネルを使用してのフロントエアコンディショナーの自動制御

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ フロントコントロールパネルの [▼▲] スイッチを使用して希望の温度を設定します。

または

▶ COMAND システムを使用して、希望の温度を設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

▶ **作動させる：** [AUTO] スイッチを上または下に押します。

[AUTO] スイッチの表示灯が点灯します。

▶ **手動作動に切り替える：** [送風] スイッチを上または下に押します。

または

▶ COMAND システムを使用して、送風量を設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

または

▶ COMAND システムを使用して、送風配分を設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

[AUTO] スイッチの表示灯が消灯します。

オートモードで送風量または送風配分を手動で調整した場合は、[AUTO] スイッチの表示灯が消灯します。ただし、手動で変更されなかった機能は自動で制御され続けます。手動で設定した機能がオートモードに切り替わったときは、[AUTO] スイッチの表示灯が再度点灯します。

フロントコントロールパネルを使用してのリアエアコンディショナーの自動制御

フロントコントロールパネルを使用しての後席エアコンディショナーの操作に関する注意事項に従ってください(▷196 ページ)。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ MENU スイッチを上または下に押します。

COMAND システムのエアコンディショナーメニューが開きます。

▶ エアコンディショナーバーで " 後席の設定 " を選択します（デジタル版取扱説明書をご覧ください)。

フロントコントロールパネル、または COMAND システムを使用して、後席エアコンディショナーを操作することができます。

▶ フロントコントロールパネルの ▼▲ スイッチを使用して、希望の温度を設定します。

または

▶ COMAND システムを使用して、希望の温度を設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください)。

▶ **作動させる：**フロントコントロールパネルの AUTO スイッチを上または下に押します。

または

▶ COMAND システムのエアコンディショナーバー経由でオートモードを作動させます（デジタル版取扱説明書をご覧ください)。

AUTO スイッチの表示灯が点灯します。

ⓘ その後すぐに、温度およびオートモードを選択します。さもないと、オートモードを作動させる前に、エアコンディショナーバーから " 後席の設定 " を再度選択しなければなりません。

▶ **手動作動に切り替える：**MENU スイッチを上または下に押します。

COMAND システムのエアコンディショナーメニューが開きます。

▶ エアコンディショナーバーで " 後席の設定 " を選択します（デジタル版取扱説明書をご覧ください)。

▶ エアコンディショナーバーを使用して、オートモードを解除します。

または

▶ リアコントロールパネルのスイッチ ⑬ または ⑰ を使用して、送風配分を設定します（▷195 ページ)。

または

▶ リアコントロールパネルのスイッチ ⑮ を使用して、送風量を設定します(▷195 ページ)。

リアディスプレイの表示灯 AUTO が消灯します。

オートモードのときに COMAND システムを使用してリアの送風量または送風配分を手動で調整した場合は、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。ただし、手動で変更されなかった機能は自動で制御され続けます。手動で設定した機能がオートモードに切り替わったときは、AUTO スイッチの表示灯が再度点灯します。

リアコントロールパネルを使用してのリアエアコンディショナーの操作

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スイッチ ⑫ および ⑱（▷195 ページ）を使用して、希望の温度を設定します。

▶ **作動させる：**スイッチ ⑭ を上または下に押します（▷195 ページ）。

スイッチ ⑭ の表示灯が点灯します。

▶ **停止する：**スイッチ ⑭ を上または下に押します（▷195 ページ）。
スイッチ ⑭ の表示灯が消灯します。

オートモードのときに送風量または送風配分を手動で調整した場合は、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。ただし、手動で変更されなかった機能は自動で制御され続けます。手動で設定した機能がオートモードに切り替わったときは、AUTO スイッチの表示灯が再度点灯します。

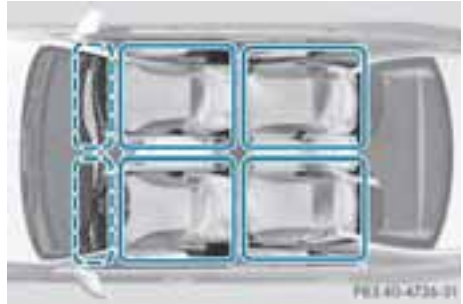
エアコンディショナーモードの設定

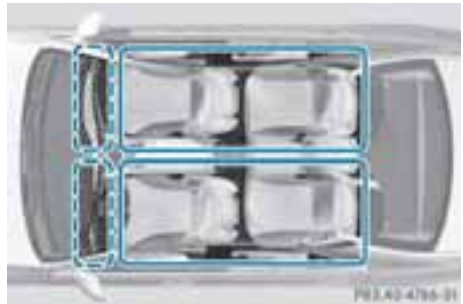
オートマチックモードでは、運転席および助手席エリアの以下の送風量の設定を選択できます。

FOCUS	やや涼しく設定される強い送風
MEDIUM	中程度の送風、標準設定
DIFFUSE	やや暖かく設定され、風の流れも弱くなる弱い送風

▶ **設定する：**COMAND システムを使用して、エアコンディショナーモードを設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

温度の設定

全体的な注意事項

後席エアコンディショナー装備車両では、以下のエリアの温度を個別に設定することができます。

- フロントの足元、左および右
- 運転席および助手席エリア
- 後席左および右

後席エアコンディショナー非装備車両では、以下のエリアの温度を個別に設定することができます。

- フロントの足元、左および右
- 運転席および助手席エリア

フロントコントロールパネルを使用しての前席の温度設定

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **上げる / 下げる：** ▼▲ スイッチを上または下に押します。

または

▶ COMAND システムを使用して温度を設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

温度設定は少しずつ変更してください。22℃から開始してください。

フロントコントロールパネルを使用しての後席の温度の設定

フロントコントロールパネルを使用しての後席エアコンディショナーの制御に関する注意事項に従ってください（▷196 ページ）。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ MENU スイッチを上または下に押します。

COMAND システムのエアコンディショナーメニューが開きます。

▶ エアコンディショナーバーで " 後席の設定 " を選択します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

フロントコントロールパネル、または COMAND システムを使用して後席エアコンディショナーを操作することができます。

▶ **上げる / 下げる：** フロントコントロールパネルの ▼▲ スイッチを上または下に押します。

または

▶ COMAND システムを使用して温度を設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

温度設定は少しずつ変更してください。22℃から開始してください。

リアコントロールパネルを使用しての後席の温度の設定

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **上げる / 下げる：** スイッチ ⑫ または ⑱ を上または下に押します（▷195 ページ）。

温度設定は少しずつ変更してください。22℃から開始してください。

足元の温度の設定

運転席および助手席の足元の温度は、COMAND システムを使用して個別に設定することができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

送風配分の設定

送風配分を設定する

- 曇り取り送風口からの送風にする
- 中央およびサイド送風口からの送風にする
- 足元送風口からの送風にする
- 中央、サイドおよび足元送風口からの送風にする
- 足元および曇り取り送風口からの送風にする
- 曇り取り送風口、中央およびサイド送風口、ならびに足元送風口からの送風にする
- 中央およびサイド、ならびに曇り取り送風口からの送風にする
- AUTO 送風配分のオート設定

COMAND システムを使用してのフロント / リアの送風配分の設定

フロントおよび後席の左および右側の送風配分は、COMAND システムを使用して調整できます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

リアコントロールパネルを使用しての後席の送風配分の設定

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 希望の送風口マークがディスプレイに表示されるまで、スイッチ ⑬ または ⑰ を上または下に繰り返し押します （▷195 ページ）。

送風量の設定

フロントコントロールパネルを使用しての前席の送風量の設定

運転席および助手席側、ならびに後席で異なる送風量の設定を選択できます（後席エアコンディショナー装備車両のみ）。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **上げる / 下げる：** スイッチ [送風] を上または下に押します。

または

▶ COMAND システムを使用して、送風量を設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

フロントコントロールパネルを使用しての後席の送風量の設定

フロントコントロールパネルを使用しての後席エアコンディショナーの操作に関する注意事項に従ってください （▷196 ページ）。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スイッチ [MENU] を上または下に押します。

COMAND システムのエアコンディショナーメニューが開きます。

▶ エアコンディショナーバーで "後席の設定" を選択します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

フロントコントロールパネル、または COMAND システムを使用して、後席エアコンディショナーを操作することができます。

▶ **上げる / 下げる：** フロントコントロールパネルの [送風] スイッチを上または下に押します。

または

▶ COMAND システムを使用して、送風量を設定します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

リアコントロールパネルを使用しての後席の送風量の設定

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **上げる / 下げる：** スイッチ ⑮ を上または下に押します （▷195 ページ）。

同期機能の作動 / 解除

同期機能を使用してエアコンディショナーを集中設定することができます。運転席側の温度、送風配分および送風量の設定が助手席側および後席（後席エアコンディショナー装備車両）に適用されます。

▶ **作動 / 解除する：** COMAND システムを使用して、同期機能の作動または解除を切り替えます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

後席エアコンディショナー装備車両：後席ディスプレイに SYNC が表示されます。

以下の場合は、同期機能が解除されます。
- 助手席側の設定が変更された場合
- 後席エアコンディショナー装備車両：後席の設定が変更された。

または

▶ MENU スイッチを使用して、COMAND システムのエアコンディショナーメニューを呼び出します。

フロントウインドウデフロスター

この機能を使用して、フロントウインドウの霜を取る、またはフロントウインドウの内側およびフロントサイドウインドウの曇りを取ることができます。

フロントウインドウの曇りが取れたら、" フロントウインドウデフロスター " 機能をすみやかに停止してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動させる：**フロントコントロールパネルの MAX スイッチを上または下に押します。

MAX スイッチの表示灯が点灯します。エアコンディショナーが以下のように作動します。

- 高い送風量
- 高い温度
- フロントウインドウおよびフロントサイドウインドウへの送風配分
- 内気循環モードの解除

▶ **解除する：** MAX スイッチを上または下に押します。

MAX スイッチの表示灯が消灯します。以前の設定が再度作動します。内気循環モードは解除されたままになります。

または

▶ AUTO スイッチを上または下に操作します。

ウインドウの曇り取り

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ COMAND システム経由で、AC モード機能を作動させます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

▶ AUTO スイッチを使用してオートモードを作動させます。

▶ ウインドウが曇り続ける場合は、MAX スイッチを使用して、フロントウインドウデフロスター機能を作動させます。

i この設定は、フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ選択してください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ フロントワイパーを作動させます。

▶ AUTO スイッチを使用して、オートモードを作動させます。

i ウインドウを定期的に清掃している場合は、それほど早く曇ることはありません。

リアデフォッガー

全体的な注意事項

リアデフォッガーは大きな電力を消費します。したがって、ウインドウの曇りが取れたら、すぐに停止してください。または、数分後に自動的に停止します。

バッテリーの電圧が非常に低下したときは、リアデフォッガーが停止する場合があります。

作動 / 停止

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ REAR スイッチを上または下に操作します。

REAR スイッチの表示灯が点灯または消灯します。

リアデフォッガーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
リアデフォッガーが短時間で停止したり、または作動させることができない。	バッテリーが十分に充電されていない。 ▶読書灯、ルームライト、シートヒーターなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されたときは、リアデフォッガーを再び自動的に作動させることができます。

内気循環モードの設定 / 解除

全体的な注意事項

不快なにおいが外から車両に入ってくる場合は、外気の送風を手動で一時的に解除することもできます。そして、すでに車内にある空気が循環されます。

内気循環モードを作動させた場合は、特に温度が低いときにウインドウがより早く曇ることがあります。ウインドウの曇りを防ぐため、短時間のみ内気循環モードを使用してください。

作動 / 解除

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動させる：** スイッチを上または下に押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

ℹ 外気の汚れがひどい状態では、または高い外気温度では内気循環モードが自動的に作動します。自動的に内気循環モードが作動しているときは、 スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分後に外気が追加されます。

▶ **解除する**： スイッチを上または下に押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ 以下のときは、内気循環モードが自動的に解除されます：

- 約 5℃以下の外気温度では約 5 分後
- AC モードが解除されている場合は約 5 分後
- AC モード機能が作動している場合で、約 5℃以上の外気温度では約 30 分後

内気循環スイッチを使用してのコンビニエンスオープニング / クロージング

⚠ **警告**

コンビニエンスクロージング機能が作動している場合、身体の一部がサイドウインドウおよびスライディングルーフの閉じる範囲に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

コンビニエンスクロージング機能を操作しているときは、最後まで閉じる動作に注意してください。閉じている間は、閉じる範囲に身体を近づけないようにしてください。

⚠ **警告**

コンビニエンスオープニング機能が作動しているときは、身体の一部が巻き込まれたり、サイドウインドウとウインドウフレームの間に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。開いている最中は、サイドウインドウに触れないようにしてください。挟まれた場合は、ドアにあるサイドウインドウ開閉用の ⌸ スイッチを操作してください。サイドウインドウが停止します。サイドウインドウを閉じるためには、⌸ スイッチを引きます。

▶ **コンビニエンスクロージング機能（パノラミックスライディングルーフ装備車両）：**サイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフが自動的に閉じ始めるまで、⌸ スイッチを上または下に押して保持します。

⌸ スイッチの表示灯が点灯します。内気循環モードが作動します。

▶ **コンビニエンスクロージング機能（パノラミックスライディングルーフ非装備車両）：**サイドウインドウが自動的に閉じ始めるまで、⌸ スイッチを上または下に押して保持します。

⌸ スイッチの表示灯が点灯します。内気循環モードが作動します。

ⓘ コンビニエンスクロージング機能で閉じた後にサイドウインドウまたはパノラミックスライディングルーフを手動で開いた場合、コンビニエンスオープニング機能を使用して開いたときは、それらはこの位置のままになります。

コンビニエンスクロージング機能が作動している間に、身体の一部が閉じる範囲に入った場合は、以下のようにしてください：

▶ サイドウインドウ開閉用の ⌸ スイッチを押します。

サイドウインドウが停止します。

▶ その後にサイドウインドウを開くためには、⌸ スイッチを再度押します。

▶ **パノラミックスライディングルーフ装備車両のみ：**パノラミックスライディングルーフ開閉用の ⌸ スイッチを操作します。
パノラミックスライディングルーフが停止します。

▶ パノラミックスライディングルーフを開くためには、⌸ スイッチを後方に引きます。

ⓘ 自動リバース機能に関する以下の注意事項に従ってください。

- サイドウインドウ（▷130 ページ）
- パノラミックスライディングルーフ（▷136 ページ）

▶ **コンビニエンスオープニング機能（パノラミックスライディングルーフ装備車両）：**サイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフが自動的に開き始めるまで、⌸ スイッチを上または下に押して保持します。
⌸ スイッチの表示灯が消灯します。内気循環モードが解除されます。

▶ **コンビニエンスオープニング機能（パノラミックスライディングルーフ非装備車両）：**サイドウインドウが自動的に開き始めるまで、⌸ スイッチを上または下に押して保持します。

⌸ スイッチの表示灯が消灯します。内気循環モードが解除されます。

余熱ヒーター機能の作動 / 停止

全体的な注意事項

後席エアコンディショナー装備車両：エンジンを停止した後に、エンジンの余熱を利用して約 15 分間、車両の前後席を暖める、または換気し続けることができます。" 余熱ヒーター " 機能が前席のみ、または後席のみで設定されている場合は、約 30 分間暖める、または換気し続けることができます。

後席エアコンディショナー非装備車両：エンジンを停止した後に、エンジンの余熱を利用して約 30 分間、車両の前席を暖める、または換気し続けることができます。

暖める、または換気する時間は設定した温度によります。

フロントコントロールパネルでの操作

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **作動させる：** REST スイッチを上または下に押します。

REST スイッチの表示灯が点灯します。

▶ **停止する：** REST スイッチを上または下に押します。
REST スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 設定された送風量に関係なく、一定の少ない送風量に保たれます。

ⓘ 外気温度が高いときに余熱ヒーター機能を作動させると、換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

リアコントロールパネルでの操作

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

後席ディスプレイに REST が表示されます。

▶ **作動させる：**スイッチ ⑯ を上または下に押します（▷195 ページ）。

スイッチ ⑯ の表示灯が点灯します。

▶ **停止する：**スイッチ ⑯ を上または下に押します（▷195 ページ）。
スイッチ ⑯ の表示灯が消灯します。
後席ディスプレイの REST が消灯します。

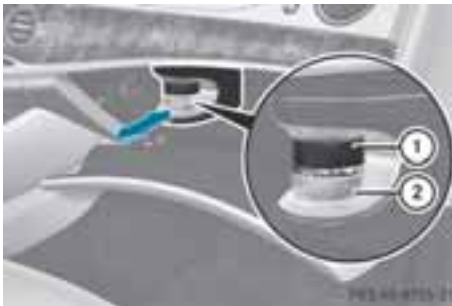
ⓘ 余熱ヒーター機能を作動させない場合は、約 5 分後に後席ディスプレイの REST が自動的に消灯します。余熱ヒーターは、以下のように自動的に停止します。

- 余熱ヒーター機能が前席または後席で作動している場合は約 30 分後
- 余熱ヒーター機能が前席および後席で作動している場合は約 15 分後
- イグニッションをオンにしたとき
- バッテリーの電圧が低下した場合

パフュームアトマイザー

パフュームアトマイザーの操作

⚠ **警告**

子供が香水のビンを開けた場合は、香水を飲んだり、または目に触れるおそれがあります。けがの危険性があります。子供だけを車内に残さないでください。香水の液体を飲んだ場合は、医師に相談してください。香水が目または皮膚に触れた場合は、目を清潔な水で洗い流してください。問題が続く場合は、医師に相談してください。

① 香水のふた
② 香水の容器

パフュームアトマイザーは、走行時の快適性を向上させる装備です。COMANDシステムを使用して以下のことができます：

- パフュームアトマイザーの作動および停止を切り替える
- 香水の強さを制御する

デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ⓘ 以下の条件は、香水の強さの効果に影響を与えることがあります：

- オートエアコンディショナーの作動モード
- 室内の温度
- 年 / 日などでの時期
- 空気の湿度
- 疲労や空腹などの乗員の生理学的な状態

オートエアコンディショナーが作動しているときにのみ、パフュームアトマイザーを作動させることができます。

! メルセデス・ベンツ純正以外の香水容器を使用しないでください。

ⓘ 香水容器が空になったときは、容器に補充しないでください。使用後は、使用した容器を廃棄してください。

▶ **香水容器を差し込む：**グローブボックス（▷423 ページ）を開きます。

▶ 香水容器をホルダーにいっぱいまでスライドさせます。

▶ **香水容器を取り外す：**香水容器を引き出します。

パフュームアトマイザーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
パフュームアトマイザーが作動しているが、車内が香らない。	香水容器がホルダーにいっぱいまで押されていない。 ▶ 香水容器をホルダーにいっぱいまでスライドさせます。
	香水容器に香水がない。 ▶ 空になった香水容器を廃棄します。 ▶ 新しい香水容器をお買い求めください。
	パフュームアトマイザーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパフュームアトマイザーを点検してください。

イオン発生（空気清浄機能）

" イオン発生 " 機能を使用して、車内の空気を浄化し、車内環境を向上させることができます。

車内の空気のイオン発生は無臭で、車内で直接気付くことありません。COMAND システムを使用して、イオン発生の作動および停止を切り替えることができます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

フロントオートエアコンディショナーが作動している場合にのみ、イオン発生を作動させることができます。助手席のサイド送風口が開いていなければなりません。

送風口の調整

重要な安全上の注意事項

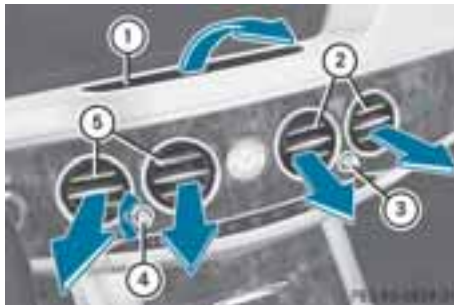
⚠ **警告**

送風口から熱風や冷風が吹き出されることがあります。そのため、送風口に身体を近づけたままにしていると、火傷やしもやけなどを起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

すべての乗員が送風口と十分な距離を確保していることを確認してください。必要に応じて、送風の向きを車内の他のエリアに変えます。

送風口から外気を直接車内に取り入れるため、以下の注意事項を守ってください。

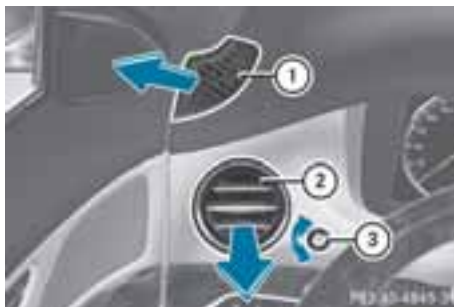
- フロントウインドウとボンネットの間にある吸気口に氷、雪または葉などの妨害物がないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口をふさがないように注意してください。

中央送風口の調整

① 固定式中央送風口
② 中央送風口（右）
③ 中央送風口ダイヤル（右側）
④ 中央送風口ダイヤル（左側）
⑤ 中央送風口（左）

▶ **開く / 閉じる：**ダイヤル ③ または ④ を押します。ダイヤルが出てきます。

▶ ダイヤル ③ または ④ を時計回り、または反時計回りにまわします。

▶ **送風の向きを調整する：**中央のフィンで中央送風口 ② または ⑤ を持ち、上または下に、または左または右に動かします。

サイド送風口の調整

① サイドウインドウの曇り取り送風口
② サイド送風口
③ 左側サイド送風口のダイヤル

▶ **開く / 閉じる：**ダイヤル ③ を押します。ダイヤルが出てきます。

▶ ダイヤル ③ を時計回り、または反時計回りにまわします。

▶ **送風の向きを調整する：**中央のフィンでサイド送風口 ② を持ち、上または下に、または左または右に動かします。

グローブボックス送風口の調整

! 暖房中は、グローブボックスの送風口を閉じてください。外気温度が高いときは、グローブボックス内の送風口を開いて、エアコンを AC モード（冷房・除湿）に設定してください。グローブボックス内の熱の影響を受けやすい収納物が損傷するおそれがあります。

オートエアコンディショナーの作動中は、グローブボックス内に送風して収納物が高温になるのを防ぐことができます。送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

① 送風口開閉ダイヤル
② 送風口

▶ **開く / 閉じる：**ダイヤル ① を時計回り、または反時計回りにまわします。

リア送風口の調整

後席の中央送風口の調整

① 後席送風口（左）
② 後席送風口（右）
③ 後席送風口のダイヤル（右）
④ リアコントロールパネル
⑤ 後席送風口のダイヤル（左）

後席エアコンディショナー装備車両

▶ **開く / 閉じる：**ダイヤル ③ または ⑤ を押します。

ダイヤルが出てきます。

▶ ダイヤル ③ または ⑤ を時計回り、または反時計回りにまわします。

▶ **送風の向きを調整する：**中央のフィンで後席送風口 ① または ② を持ち、上または下に、または左または右に動かします。

後席エアコンディショナー非装備車両

▶ **開く / 閉じる：**ダイヤル ③ を押します。

ダイヤルが出てきます。

▶ ダイヤル ③ を時計回り、または反時計回りにまわします。

▶ **送風の向きを調整する：**中央のフィンで後席送風口 ① または ② を持ち、上または下に、または左または右に動かします。

後席サイド送風口の調整

▶ **開閉する：**ダイヤル ② を左または右にまわします。

▶ **送風の向きを調整する：**中央のフィンハンドルで後席送風口 ① を持ち、上または下に、または左または右に動かします。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

慣らし運転の注意事項

重要な安全上の注意事項

一部のドライブシステムおよび走行安全装備では、車両が納車された後、あるいは修理後に一定距離を走行する間に、センサーシステムが自動的に調整されます。この認識手順が終了するまでは、完全なシステムの効果には達しません。

新しい、もしくは交換されたブレーキパッド / ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適な制動効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少した制動効果を補ってください。

最初の 1,500 km

最初から十分な注意を払ってエンジンを取り扱うことにより、エンジンの寿命まで最大限の性能を得ることができます。

- 最初の 1,500 km では、さまざまな車両速度およびエンジン回転数で走行してください。
- フルスロットルで走行するなど、この期間は車両への大きな負担は避けてください。
- マニュアルでギアをシフトするときは、タコメーターの針がタコメーターのレッドゾーンの 2/3 に到達する前に適時シフトアップしてください。
- ブレーキを効かせるために、マニュアルでギアをシフトダウンしないでください。
- 踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏む（キックダウン）ことは避けるようにしてください。
- **全車両（AMG 車両を除く）：**理想的には、最初の 1,000 km(1,500 miles)は、走行モード **E** で走行してください。

1,500 km 後は、最大負荷およびエンジン回転数まで、車両を徐々に加速することができます。

AMG 車両の慣らし運転に関する追加の注意事項

- 最初の 1,500 km までは、140 km/h 以上の速度で走行しないでください。
- エンジンを最大エンジン回転数にすることは、短時間のみにしてください。
- 最初の 1,500 km は、主に走行モード **C** で車両を走行してください。

車両のエンジンおよび駆動系部品の交換を行なった場合も、慣らし運転に関するこれらの注意事項に従ってください。

適用される制限速度には必ず従ってください。

走行

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

運転席の足元の荷物は、ペダルの動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。ペダル周囲に常に十分な空間を確保するために、フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

⚠ **警告**

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

ペダルを正しく操作できる、適切な履物を着用してください。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できないか、または全くできません。

これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ **警告**

走行時にパーキングブレーキが解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- 過熱および火災の原因
- 車両にブレーキを効かせられなくなる

火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを解除してください。

! エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

シフトポジションの変更は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! AMG 車両：エンジンオイル温度が約+20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

ハイブリッド車両の安全上の取り扱いに従ってください（▷52 ページ）。

キーの位置

キー

0 キーを抜く

1 ワイパーのような電気装備への電力供給

2 イグニッション（すべての電気装備への電力供給）および走行位置

3 エンジンを始動する

キーがその車両のものではなくても、エンジンスイッチに差し込んでまわすことができる場合があります。ただし、イグニッションはオンにならず、エンジンの始動はできません。

キーレスゴースイッチ

重要な安全上の注意事項

⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴースイッチを操作するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。健康に影響を与えるおそれがあります。

車両を操作する前に、そのようなシステムからの電磁波により起こりうる影響について、医師や医療機器メーカーにお問い合わせください。

① 車内アンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

全体的な注意事項

車両には、着脱式キーレスゴースイッチが装備されています。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる電波交信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。エンジンを始動したときなどに、このことが行なわれます。

キーレスゴースイッチで車両を始動する：

- キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。
- キーが車内になければなりません。
- キーまたはキーレスゴーで車両が施錠されていてはいけません（▷114 ページ）。

連続してキーレスゴースイッチを数回押すことは、エンジンスイッチのキーの位置を変更することに相当します。これは、ブレーキペダルを踏んでいない場合のみです。

ブレーキペダルを踏んでキーレスゴースイッチを押した場合は、ただちにエンジンが始動します。

以下にはキーを近付けないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器と一緒に
- 硬貨や金属片などの金属物と一緒に
- 金属ケースなどの金属物の内部に

キーの機能に影響を与えるおそれがあります。

キーのリモコンで、またはキーレスゴーで車両を施錠した場合は、しばらくすると以下のようになります。

- キーレスゴースイッチでイグニッションをオンにすることができなくなります。
- 車両が再度解錠されるまで、エンジンを始動できなくなります。

フロントドアのドアロックスイッチを使用して車両を集中施錠した場合は（▷120 ページ）、続けてキーレスゴースイッチでエンジンを始動することができます。

車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押し続けると、エンジンが停止します。この機能は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン停止の機能とは独立して作動します。

キーレスゴースイッチでのキーの位置

キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていない場合は、キーがエンジンスイッチから取り外されていることに相当します。

▶ **電力供給をオンにする：**キーレスゴースイッチ ① を 1 回押します。

電力供給がオンになります。これでワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

電力供給は以下のときに再度停止します。

- 運転席ドアを開き

そして

- この位置のときにキーレスゴースイッチ ① を 2 回押した

▶ **イグニッションをオンにする：**キーレスゴースイッチ ① を 2 回押します。
イグニッションがオンになります。

電力供給は以下のときに再度停止します。

- 運転席ドアを開き

そして

- この位置のときにキーレスゴースイッチ ① を 1 回押した

キーレスゴースイッチの取り外し

エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、キーを使用して車両を始動することができます。

トランスミッションがポジション **P** のときにのみ、キーレスゴースイッチによる操作とキー操作との間で切り替えることができます。

キーレスゴースイッチ ① をエンジンスイッチ ② に差し込んだときは、システムが認識するために約 2 秒間かかります。その後、キーレスゴースイッチ ① を使用することができます。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ℹ 車から離れるときでも、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外す必要はありません。

エンジンの始動

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合、以下のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行ない、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

内燃エンジンは、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。そのため、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告

可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないことを確認してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

全体的な注意事項

触媒コンバーターが作動温度により早く到達できるようにするために、冷間始動の間はエンジンはより高いエンジン回転数で作動します。その結果、エンジンの音が変わることがあります。

オートマチックトランスミッション

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします（▷227 ページ）。

マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に **P** が表示されます（▷229 ページ）。

トランスミッションがポジション **N** のときも、エンジンを始動することができます。

キーでの始動操作

キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用してエンジンを始動するためには、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **3** の位置にまわし（▷216 ページ）、エンジンが始動したらすぐに放します。

キーレスゴースイッチでの始動手順

キーレスゴースイッチによるエンジンの始動は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン始動機能とは独立して作動します。

有効なキーが車内にある場合は、エンジンを始動することができます。短時間でも車両から離れるときは、常にキーを携帯してください。" 重要な安全上の注意事項 " に注意してください。

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。

▶ キーレスゴースイッチを 1 度押します（▷216 ページ）。

エンジンが始動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上のときに、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両が突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時にアクセルペダルを踏まないでください。

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。

▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。

▶ ブレーキペダルを放します。

▶ 注意しながらアクセルペダルを踏みます。
　電気式パーキングブレーキ（▷241ページ）が自動的に解除されます。
　メーターパネルの赤色の Ⓟ 表示灯が消灯します。

ブレーキペダルを踏んでいる場合にのみ、トランスミッションをポジション **P** から希望のポジションにシフトすることができます。その後にのみ、パーキングロックが解除されます。ブレーキペダルが踏まれていない場合も、DIRECT SELECT レバーを動かすことができますが、パーキングロックは効いたままになります。

発進すると、自動的に車両が施錠されます。ドアのロックノブが下がります。ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます（▷121 ページ）。

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を支援します。ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

> ⚠ **警告**
>
> 作動後、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。事故やけがの危険性があります。
>
> そのため、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かしてください。ヒルスタートアシストで車両が停止しているときは、絶対に車両から離れないでください。

▶ ブレーキペダルから足を放します。
　車両はその後、約 1 秒間停止します。

▶ 発進します。

ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進する
- トランスミッションがポジション **N** にある
- 電気式パーキングブレーキを効かせている
- ESP® が故障している

ECO スタートストップ機能（ハイブリッド車両を除く全車両）

はじめに

この項目では、ハイブリッド車両を除くすべての車両の ECO スタートストップ機能を説明しています。ハイブリッド車両の ECO スタートストップ機能に関する情報は、（▷320 ページ）をご覧ください。

特定の条件下で車両が停止した場合は、ECO スタートストップ機能はエンジンを自動的に停止します。

再び発進するときに、自動的にエンジンが始動します。その結果、ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させせます。

重要な安全上の注意事項

 警告

エンジンが自動的に停止したときに車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。事故やけがの危険性があります。

車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定してください。

全体的な注意事項

① ECO マーク

マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑色で表示されている場合は、車両が停止したときに ECO スタートストップ機能がエンジンを自動的に停止します。

キーまたはキーレスゴースイッチを使用してエンジンを始動させるたびに、ECO スタートストップ機能は設定されます。

ECO スタートストップ機能が手動で解除されている（▷222 ページ）、または故障が原因でシステムが解除されている場合は、ECO マークは表示されません。

ECO スタートストップ機能は、走行モード **E**（AMG 車両では走行モード **C**）でのみ作動します。

エンジン自動停止

シフトポジションが **D** または **N** のときに停止するまで車両にブレーキを効かせた場合は、ECO スタートストップ機能がエンジンを自動的に停止します。

以下の場合は、ECO スタートストップ機能が作動可能で、ECO マークが緑色で表示されます。

- ECO スイッチの表示灯が緑色に点灯している
- 外気温度がシステムに適した範囲にある
- エンジンが正常な作動温度である
- 車内が設定温度に到達している
- バッテリーが十分に充電されている
- エアコンディショナーシステムが作動しているときに、フロントウインドウが曇っていないことをシステムが検知している
- ボンネットが閉じている
- 運転席ドアが閉じていて、運転席シートベルトが着用されている

自動エンジン停止のすべての条件が満たされていない場合は、ECO マークが黄色で表示されます。

エンジンが自動的に停止しているときは、車両のすべてのシステムは作動したままになります。

エンジンが自動停止した場合は、ホールド機能を作動させることができます。その場合、自動停止状態の間はブレーキを効かせ続ける必要はありません。アクセルペダルを踏んだときはエンジンが自動的に始動し、ホールド機能のブレーキ作用は解除されます。

すべての車両（AMG 車両を除く）：自動エンジン停止は最大で 4 回連続して作動します（最初の停止と、それに続く 3 回の停止）。ECO マークは、4 回目にエンジンが自動的に始動した後は、マルチファンクションディスプレイに黄色で表示されます。マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑色で表示されたときは、自動エンジン停止は再度作動可能です。

AMG 車両：自動エンジン停止の連続回数には制限はありません。

自動エンジン始動

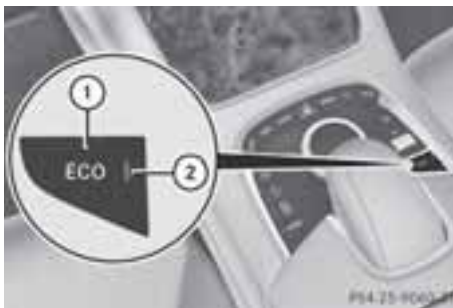
以下の場合に、エンジンは自動的に始動します。

- ECO スイッチを押すことにより、ECO スタートストップ機能を解除した
- 走行モード **S** または **M** に切り替えた
- シフトポジション **D** または **N** で、ホールド機能が作動していないときにブレーキペダルを放した
- アクセルペダルを踏んだ
- リバースギア **R** に入れた
- トランスミッションをポジション **P** から動かした
- 運転席シートベルトを外したか、または運転席ドアを開いた
- 車両が動き出した
- ブレーキシステムが要求した
- 車内の温度が設定範囲から外れた
- エアコンディショナーシステムが作動しているときに、フロントウインドウの曇りをシステムが検知した
- バッテリーの充電状態が低すぎる

トランスミッションをポジション **P** にシフトしても、エンジンは始動しません。

トランスミッションを **R** から **D** へシフトした後、マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑色で表示されると、ECO スタートストップ機能は再度使用可能になります。

ECO スタートストップ機能の解除 / 設定

全車両（AMG 車両を除く）

▶ **解除する**：ECO スイッチ ① を押します。

表示灯 ② およびマルチファンクションディスプレイの ECO マークが消えます。

▶ **設定する**：ECO スイッチ ① を押します。

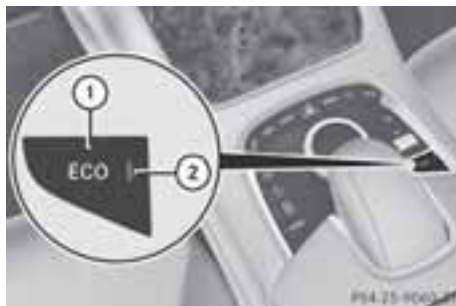
表示灯 ② が点灯します。自動エンジン停止（▷221 ページ）のすべての条件が満たされている場合は、マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑色で表示されます。

自動エンジン停止 (▷221 ページ) のすべての条件が満たされていない場合は、マルチファンクションディスプレイに ECO マークが黄色で表示されます。この場合は、ECOスタートストップ機能は作動しません。

表示灯 ② が消えている場合は、ECO スタートストップ機能は手動または故障により、作動解除されています。そのときは、車両が停止したときにエンジンは自動的に停止しません。

走行モード **S** または **M** が選択された場合は常に、ECO スタートストップ機能が解除されます。

走行モード **S** が選択されている間に ECO スタートストップ機能を設定した場合は、走行モードは **E** に自動的に切り替わります。

AMG 車両

▶ **解除する：**走行モード **C** で、ECO スイッチ ① を押します。

または

▶ 走行モード **S** または **M** に切り替えます (▷231 ページ)。

表示灯 ② と、マルチファンクションディスプレイの ECO マークが消えます。

▶ **設定する：**ECO スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。走行モード **S** または **M** が選択されていた場合は、オートマチックトランスミッションは走行モード **C** に切り替わります。

自動エンジン停止 (▷221 ページ) のすべての条件が満たされている場合は、マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑色で表示されます。

自動エンジン停止 (▷221 ページ) のすべての条件が満たされていない場合は、ECO マークが黄色で点灯します。この場合は、ECO スタートストップ機能は作動しません。

表示灯 ② が消えている場合は、ECO スタートストップ機能は手動または故障により、作動解除されています。その場合は、車両が停止したときにエンジンは自動的に停止しません。

走行モード **S** または **M** が選択された場合は常に、ECO スタートストップ機能が解除されます。

走行モード **S** が選択されている間に ECO スタートストップ機能を設定した場合は、走行モードは **C** に自動的に切り替わります。

エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。	• エンジンの電子制御部品に異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、イグニッション位置を **0** にします。 ▶ 再度、エンジンの始動を試みてください（▷218 ページ)。バッテリーが放電するため、極端に長く、頻繁なエンジン始動の試みは避けてください。 数回始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。燃料残量警告が表示されたり、燃料計の表示が**0%**を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 車両に給油してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がしない。	バッテリーが非常に弱っているか、放電しているため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ ジャンプスタートを行なってください（▷478 ページ)。 ジャンプスタートを試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	非常に高熱の負荷にスターターモーターがさらされた。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 それでもエンジンが始動しない場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください
エンジンがスムーズに作動しなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電子制御部品またはエンジン制御システムの機械部品に異常がある。 ▶ 少しだけアクセルペダルを踏んでください。 さもないと、未燃焼の燃料が触媒に入り、損傷することがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調べてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
冷却水温度の表示が 120℃以上を示している。マルチファクションディスプレイに ディスプレイメッセージも表示され、警告音が鳴ることがある。	冷却水レベルが低すぎる。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されなくなっている。 ▶すみやかに停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶冷却水レベルを点検してください（▷447 ページ)。そうするときは警告事項に従い、必要であれば冷却水を補給してください。
	冷却水レベルが正常な場合は、ラジエターのラジエターファンが故障していることがある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されなくなっている。 ▶冷却水温度が 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し続けることができます。 ▶そのときは、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時にアクセルペダルを踏まないでください。

⚠ 警告

エンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション N に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンを停止した後は、必ずパーキングポジション P に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

ハイブリッド車両の安全上の取り扱いに従ってください（▷52 ページ）。

DIEECT SELECT（ダイレクトセレクト）レバー

シフトポジションの概要

P パーキングロック付きパーキングポジション

R リバースギア

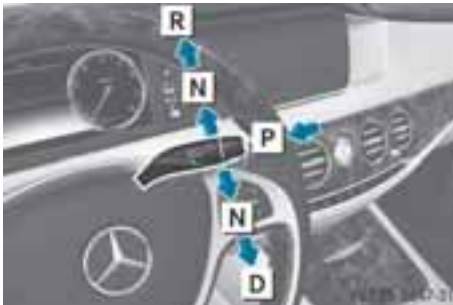
N ニュートラル

D ドライブ

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。

ℹ DIRECT SELECT レバーは常に元の位置に戻ります。選択されているシフトポジション P、R、N または D は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示（▷229 ページ）に表示されます。

パーキングポジション P に入れる

! エンジン回転数が高すぎるときや走行中は、**D** から **R**、**R** から **D** または直接 **P** にシフトしないでください。オートマチックトランスミッションが損傷する原因になります。

P パーキングロック付きパーキングポジション

R リバースギア

N ニュートラル

D ドライブ

▶ DIRECT SELCT レバーを矢印 **P** の方向に押します。

パーキングポジション P の自動選択

以下の場合には、自動的にパーキングポジション **P** になります。

- キーを使用してエンジンを停止し、キーを抜いた
- キーレスゴースイッチを使用してエンジンを停止し、運転席ドアを開いた
- 車両が停止しているか、または非常に低速で走行していて、トランスミッションがポジション **D** または **R** にあるときに、運転席ドアを開いた

リバースギア R に入れる

! 必ず停車してから、シフトポジションを **R** にしてください。

▶ **トランスミッションが D または N の位置にある場合：**最初に手応えがあるところを越えるまで、DIRECT SELECT レバーを上に押します。

▶ **トランスミッションが P の位置にある場合：**ブレーキペダルを踏んで、最初に手応えがあるところを越えるまで、DIRECT SELECT レバーを上に押します。

リバースギアに入っているときは、ECO スタートストップ機能は作動しません。

ECO スタートストップ機能についてのさらなる情報は、（▷220 ページ）をご覧ください。

ニュートラル N にシフトする

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合、以下のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行ない、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

▶ **トランスミッションが D または R の位置にある場合：**最初に手応えがあるところまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押します。

▶ **トランスミッションが P の位置にある場合：**ブレーキペダルを踏んで、最初に手応えがあるところまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押します。

エンジンを停止したときは、オートマチックトランスミッションは自動的に **N** にシフトします。

車両をけん引式の自動洗車機で洗車するときなど、オートマチックトランスミッションをニュートラル **N** のままにする場合は、以下に従ってください。

キーで：

- イグニッションがオンになっていることを確認します。
- 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、踏んだまま保持します。
- ニュートラル **N** にシフトします。
- ブレーキペダルから足を放します。
- 電気式パーキングブレーキが効いている場合は、解除します。
- イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

キーレスゴースイッチで：

- イグニッションがオンになっていることを確認します。
- 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、踏んだまま保持します。
- パーキングポジション **P** に入れます。
- ブレーキペダルから足を放します。
- エンジンスイッチからキーレスゴーキーを取り外します。
- エンジンスイッチにキーを差し込みます。
- イグニッションをオンにします。
- ブレーキペダルを踏んで、踏んだまま保持します。
- ニュートラル **N** にシフトします。
- ブレーキペダルから足を放します。
- 電気式パーキングブレーキが効いている場合は、解除します。

- イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

ドライブポジション D に入れる

▶ **トランスミッションが R または N の位置にある場合：**最初に手応えがあるところを越えるまで、DIRECT SELECT レバーを下に押します。

▶ **トランスミッションが P の位置にある場合：**ブレーキペダルを踏んで、最初に手応えがあるところを越えるまで、DIRECT SELECT レバーを下に押します。

シフトポジション表示

全体的な注意事項

! マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示が作動していない場合は、希望のシフトポジションに入っているかどうかを確認するために慎重に発進してください。このために、シフトポジション **D**、およびオートマチック走行モード **E**（AMG 車両では走行モード **C**）または **S** を選択することをお勧めします。

マルチファンクションディスプレイに現在のシフトポジションが表示されます。

i シフトポジション表示の矢印は、DIRECT SELECT レバーを使用して選択できるシフトポジションとその方向を示しています。

全車両（AMG 車両を除く）

① シフトポジション
② ギア
③ 走行モード

AMG 車両

① シフトポジション
② 走行モード

シフトポジション

P	**パーキングポジション** 停止中に車両が動き出すのを防止します。車両が停止していない場合は、トランスミッションをポジション **P**（▷227 ページ）にシフトしないでください。 オートマチックトランスミッションは、以下のときに自動的に **P** にシフトします。 • キーを抜いた • **R** または **D** のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いた
R	**リバースギア** 車両が停止しているときのみ、トランスミッションを **R** にシフトしてください。
N	**ニュートラル** 走行中は、トランスミッションを **N** にシフトしないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。 ESP® が解除されている、または故障している場合：凍った道路などで車両がスリップする危険がある場合は、トランスミッションを **N** にシフトします。 キーまたはキーレスゴースイッチでエンジンを停止した場合は、オートマチックトランスミッションは自動的にニュートラル **N** にシフトします。 **!** ニュートラル **N** に入れたまま走行すると、駆動系部品が損傷する原因になります。
D	**ドライブ** オートマチックトランスミッションは自動的に変速します。すべての前進のギアを使用できます。

運転のヒント

ギアシフト操作

シフトポジションが **D** のときは、オートマチックトランスミッションは自動的にそれぞれのギアへシフトします。ギアシフトは以下によって決定されます。

- 選択されている走行モード（▷231 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

アクセルペダルの位置

お客様の運転スタイルはオートマチックトランスミッションのギアシフトに以下のような影響を与えます。

- 軽い踏み込み：早めのシフトアップ
- 深い踏み込み：遅めのシフトアップ

キックダウン

キックダウンは、急な加速が必要な場合に行ないます。

▶ 踏み応えがあるところを越えるまで、アクセルペダルを踏みます。エンジン回転数に応じて、トランスミッションは低いギアにシフトします。

▶ 希望の速度に達したら、アクセルペダルを緩めます。オートマチックトランスミッションがシフトアップして戻ります。

走行モード選択スイッチ

▶ **全車両（AMG 車両を除く）**：走行モード選択スイッチ ① を押して、走行モードを変更します。

マルチファンクションディスプレイに選択した走行モードが表示されます。

▶ **AMG 車両**：マルチファンクションディスプレイに希望の走行モードの文字が表示されるまで、走行モード選択スイッチ ① を繰り返し押します。

走行モード選択スイッチは以下に影響を与えます。

- 走行モード（▷232 ページ）
- エンジン制御

AMG 車両では、走行モード **E** は走行モード **C** と呼ばれます。

エンジンが始動されるたびに、オートマチックトランスミッションはオートマチック走行モード **E**（AMG 車両では走行モード **C**）に切り替わります。

全車両（AMG 車両を除く）

E エコノミー	快適性で経済的な走行
S スポーツ	スポーティな走行に適したモード

ステアリングギアシフトパドルを使用して、一時的なマニュアル走行モード **M** を作動させることもできます（▷232 ページ）。

マニュアル走行モード **M** では、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、一時的に自分自身でギアを変えることができます。

AMG 車両

C 効率的な制御	快適で経済的な走行
S スポーツ	スポーティな運転スタイル
M マニュアル	マニュアルギアシフト

連続走行モード **M** は、AMG 車両でのみ使用することができます。

連続走行モード **M** についてのさらなる情報は、（▷234 ページ）をご覧ください。

ステアリングギアシフトパドルを使用して、一時的マニュアル走行モード **M** を作動させることもできます（▷232 ページ）。

マニュアル走行モード **M** では、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、一時的に自分自身でギアを変えることができます。

オートマチック走行モードについてのさらなる情報は、（▷232 ページ）をご覧ください。

ステアリングのギアシフトパドル

ステアリングのギアシフトパドル ① および ② を使用して、オートマチック走行モード **E**（AMG 車両では **C**）および **S** でマニュアル走行モード **M** を作動させることができます。マニュアル走行モード **M** では、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、一時的に自分自身でギアを変えることができます。

AMG 車両：走行モード選択スイッチで恒常的なマニュアル走行モード **M** を作動させることもできます（▷234 ページ）。マニュアル走行モード **M** では、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、常に自分自身でギアを変えることができます。

オートマチック走行モード

オートマチック走行モード E および S

走行モード **E**（AMG 車両では走行モード **C**）では、以下の特性になります。

- 快適性に適応したエンジン設定。
- オートマチックトランスミッションのシフトアップが早めに行なわれるため、燃料消費が抑えられます。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときの、前進 / 後退ギアでの車両の発進がより穏やかになります。
- 滑りやすい路面などでの走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションがより早めにシフトアップします。その結果、車両は低いエンジン回転数で走行し、車輪の空転の可能性が低下します。

走行モード **S** では、以下の特性になります。

- スポーティなエンジン設定になります。
- 車両は 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションがより遅めにシフトアップします。
- オートマチックトランスミッションのシフトポイントがより遅めになる結果、燃料消費が増加する可能性があります。

マニュアル走行モード M

全体的な注意事項

この走行モードでは、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、一時的に自分自身でギアを変えることができます。トランスミッションがポジション **D** でなければなりません。

オートマチック走行モード **E**（AMG 車両では **C**）および **S** で、マニュアル走行モード **M** を作動させることができます。

AMG 車両：一時的走行モード **M** と同様に、連続走行モード **M** を作動させることもできます。

恒常的な走行モード **M** に関するさらなる情報は、（▷234 ページ）をご覧ください。

設定する

- ▶ トランスミッションをポジション **D** にシフトします。
- ▶ 左または右のギアシフトパドルを引きます（▷232 ページ）。

  マニュアル走行モード **M** が一時的に作動します。

  AMG 車両を除く全車両：マルチファンクションディスプレイに **M** および選択されているギアが表示されます。

ハイブリッド車両でのマニュアル走行モード **M** の作動に関するさらなる情報は、（▷319 ページ）をご覧ください。

ギアシフト

左または右のギアシフトパドルを引いた場合は、限られた時間の間、オートマチックトランスミッションがマニュアル走行モード **M** に切り替わります。許容される場合は、いずれかのギアシフトパドルを引くことにより、ただちに次のギアにシフトダウン、またはシフトアップします。

- ▶ **シフトアップする：**右側のギアシフトパドルを引きます（▷232 ページ）。

  オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトアップします。

  現在入っているギアでのエンジン最高回転数に到達し、加速し続けた場合は、エンジンの損傷を防ぐためにオートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップします。

  AMG 車両：エンジン回転数が非常に低いときは、オートマチックトランスミッションは次のギアにシフトアップしません。

- ▶ **シフトダウンする：**左側のギアシフトパドルを引きます（▷232 ページ）。

  オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトダウンします。

  シフトダウンしたときにエンジン最高回転数を超えそうな場合は、オートマチックトランスミッションはエンジンの損傷を防ぐため、シフトダウンを行ないません。

  惰性走行時は自動的にシフトダウンします。

推奨ギアシフト

経済的な運転スタイルをとることができるように、推奨ギアシフト表示は運転者を支援します。推奨ギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- ▶ メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、推奨ギアシフト表示 ① に従って推奨ギア ② にシフトします。

解除する

マニュアル走行モード M は一定時間作動したままになります。横方向の加速度がある場合、惰走している間、または急な山道を走行しているときなど、特定の条件下では作動時間は延長されます。

マニュアル走行モード M が解除されたときは、オートマチックトランスミッションは最後に選択されていたオートマチック走行モードに切り替わります。

自分自身でマニュアル走行モード M を解除することもできます。

▶ 右側のギアシフトパドルを引いて、その位置で保持します（▷232 ページ）。

または

▶ DIRECT SELECT レバーを使用して、シフトポジションを切り替えます。

または

▶ 走行モード選択スイッチを使用して、走行モードを変更します（▷231 ページ）。

マニュアル走行モード M が解除されます。以前作動していた走行モード E（AMG 車両では走行モード C）または S に切り替わります。

マニュアル走行モード（AMG 車両）

全体的な注意事項

この走行モードでは、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、常に自分自身でギアを変えることができます。トランスミッションがポジション D でなければなりません。

マニュアル走行モード M は、ギア変速の作動頻度、応答性および滑らかさの点で走行モード S と異なります。

連続走行モード M に加えて、一時的走行モード M も作動させることができます（▷232 ページ）。

マニュアル走行モードの作動

マニュアル走行モード M では、シフトポジション D にある場合に、ステアリングのギアシフトパドルを使用して自分自身でギアを変えることができます。現在の走行モードおよび入っているギアは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ マルチファンクションディスプレイに M が表示されるまで、走行モード選択スイッチ（▷231 ページ）を繰り返し押します。

シフトアップ

! マニュアル走行モード M では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。エンジン回転数が許容回転数を超えて、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。エンジンが損傷するおそれがあります。

① シフト表示
② シフトアップ表示

エンジン回転数がレッドゾーンに達する前に、シフトアップ表示 ② がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ マルチファンクションディスプレイのスピードメーターの色が赤色に変わり、ディスプレイメッセージ UP が表示された場合は、右側のギアシフトパドルを使用してギアをシフトアップしてください。可能な場合は、オートマチックトランスミッションは次のギアにシフトアップします。

シフトダウン

▶ 左側のギアシフトパドルを引きます (▷232 ページ)。

可能な場合は、オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトダウンします。

最大限までの加速

▶ トランスミッションが現在の速度に最適なギアを選択するまで、左側のギアシフトパドルを引きます。

ℹ シフトダウンしないで減速または停止した場合は、オートマチックトランスミッションは自動的にシフトダウンします。

マニュアル走行モードの解除

▶ マルチファンクションディスプレイに **C** または **S** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ (▷231 ページ) を繰り返し押します。

トランスミッションのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
トランスミッションにギアシフトのトラブルがある。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しなくなった。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 **2 速ギア**およびリバースギアのみにシフトできる可能性があります。 ▶ 停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ エンジンを再始動する前に、10 秒以上待ってください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

ハイブリッド作動のトラブルについては、（▷323 ページ）をご覧ください。

給油

重要な安全上の注意事項

警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジンを停止してください。

警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないようにしてください。また目や衣服に付着させないでください。気化した燃料を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

⚠ **警告**

静電気の蓄積により、火花が発生したり、気化した燃料に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。

燃料給油口を開いたり、給油ノズルに触れる前に、必ず車体に触れてください。蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

給油作業中は車内に戻らないでください。さもないと、再帯電することがあります。

! ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料システムから完全に抜き取ってください。

! 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

! 燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、燃料システムや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料タンクに補充しすぎた場合は、燃料ポンプのノズルを外すときに燃料が飛散することがあります。

燃料および燃料品質に関するさらなる情報は、(▷522 ページ)をご覧ください。

セルフ式のガソリンスタンド

給油に関する注意事項に従ってください(▷236 ページ)。

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。

  給油作業を行なう人以外は燃料給油口フラップに近づかないでください。
- キャップの開閉は確実に行なってください。火気を近付けないようにしてください。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項に従ってください。

給油

全体的な注意事項

重要な安全上の注意事項に従ってください（▷236 ページ）。

車外から車両を解錠 / 施錠した場合は、燃料給油口フラップも解錠 / 施錠されます。

燃料給油口フラップの位置はメーターパネルに ⛽ で表示されています。給油ポンプ横の矢印は、車両の側面を示しています。

燃料給油口フラップは車両の右側後方にあります。

燃料給油口フラップを開く

① 燃料給油口フラップを開く
② 燃料給油口キャップを差し込む
③ タイヤ空気圧ラベル
④ 使用燃料表示

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴーを使用しているとき：**運転席ドアを開きます。

これはイグニッション位置 **0**（キーを抜き取った状態）に相当します。運転席ドアを再び閉じることができます。

▶ 燃料給油口フラップの矢印 ① の位置を押します。燃料給油口フラップが開きます。

▶ 燃料給油口キャップを反時計回りにまわして取り外します。

▶ 燃料給油口キャップを燃料給油口フラップの裏側にあるホルダーブラケットに差し込みます ②。

▶ タンクの給油口に燃料ポンプノズルを完全に差し込み、給油します。

▶ ポンプノズルが停止するまでのみ、タンクに給油します。

ⓘ 最初にポンプが給油を停止した後は、それ以上燃料を追加しないでください。さもないと、燃料が漏れることがあります。

燃料給油口フラップを閉じる

▶ キャップを給油口に合わせ、音がしてロックされるまで時計回りにまわします。

▶ 燃料給油口フラップを閉じます。

ⓘ 車両を施錠する前に燃料給油口フラップを閉じてください。

燃料および燃料タンクのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている	⚠ 警 告 燃料供給システムまたは燃料タンクに問題がある。 火災または爆発の危険性があります。 ▶電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶トランスミッションをポジション P にシフトします。 ▶イグニッション位置を 0 にして、エンジンを停止してください。 キーを使用している場合はエンジンスイッチからキーを抜いてください。キーレスゴーを使用している場合はメーターパネルのすべての表示灯が消灯するまでキーレスゴースイッチを押し、運転席ドアを開きます。 ⓘ 運転席ドアを開いたときは、キーの位置が 0 で、エンジンスイッチからキーを抜いた状態に相当します。 ▶状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください
燃料給油口フラップが開かない。	燃料給油口フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶車両を解錠してください（▷113 ページ）。 または ▶エマージェンシーキーを使用して車両を解錠してください（▷115 ページ）。
	燃料給油口フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

駐車

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

葉、草または小枝のような可燃性の素材が排気システムの高温部品または排気ガスの排気に長時間触れると、発火することがあります。火災の危険性があります。可燃性の素材が車両の高温部品に触れないように車両を駐車してください。特に、乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないでください。

⚠ **警告**

付き添いのない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

! 車両が動き出さないように、必ず適切な方法で固定してください。車体または駆動系部品を損傷するおそれがあります。

車両が不意に動き出さないようにするためには、以下でなければなりません。

- パーキングブレーキを効かせなければなりません
- トランスミッションをポジション **P** にし、キーをエンジンスイッチから抜かなければなりません
- 上り坂または下り坂勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません
- 上り坂または下り坂勾配では、重い積載物がない車両は、例えば輪止め、または類似のもので前輪を固定しなければなりません
- 上り坂または下り坂勾配では、重い積載物がある車両は、例えば輪止め、または類似のもので後輪を固定しなければなりません

エンジンの停止

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンを停止した後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

キーを使用して

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、抜きます。

イモビライザーが作動します。

シフトポジション **R** または **D** でエンジンを停止した場合は、オートマチックトランスミッションは自動的に **N** にシフトします。

その後にフロントドアのいずれかを開くか、またはエンジンスイッチからキーを抜いた場合は、オートマチックトランスミッションは **P** にシフトします。

エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションを **N** にシフトした場合は、ドアを開いてもオートマチックトランスミッションは **N** のままになります。

キーレスゴースイッチを使用して

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

▶ キーレスゴースイッチ （▷216 ページ）を押します。

エンジンが停止し、メーターパネルのすべての表示灯が消えます。

運転席ドアが閉じているときは、キーの位置 **1** に相当します。運転席ドアが開いているときは、キーの位置が **0**、またはエンジンスイッチからキーを抜いた状態に相当します。

キーレスゴースイッチを使用してエンジンを停止した場合は、オートマチックトランスミッションが自動的に **N** にシフトします。その後にいずれかのフロントドアを開いた場合は、オートマチックトランスミッションは **P** にシフトします。

コンベアーのある洗車機の中を走行する場合は、以下のことを行なってください。

- キーレスゴースイッチを使用してイグニッションをオンにして、トランスミッションを **N** にシフトする。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでイグニッションをオンにして、トランスミッションを **N** にシフトする。

車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押し続けると、エンジンを停止することができます。この機能は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン停止機能とは独立して作動します。

電気式パーキングブレーキ

全体的な注意事項

⚠ **警告**

付き添いのない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

電気式パーキングブレーキの機能は、バッテリー電圧の影響を受けます。バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、解除してあるパーキングブレーキを効かせることができないことがあります。

▶ このような場合は、水平な場所のみに車両を駐車して、動き出さないように固定してください。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。

バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、効かせてあるパーキングブレーキを解除することができないことがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

エンジンが停止しているときに、電気式パーキングブレーキは定期的に機能チェックを行ないます。その際に発生する音は問題ありません。

手動での作動 / 解除

▶ **効かせる**：ハンドル ① を押します。

電気式パーキングブレーキを効かせているときは、メーターパネルの赤色の表示灯 Ⓟ が点灯します。

電気式パーキングブレーキは、エンジンスイッチからキーを抜いているときも効かせることができます。

▶ **解除する**：ハンドル ① を引きます。

メーターパネルの赤色の表示灯 Ⓟ が消灯します。

ℹ 以下のときにのみ、電気式パーキングブレーキを解除することができます。

- エンジンスイッチのキーが **1** または **2** の位置にある

または

- キーレスゴースイッチを使用してイグニッションをオンにした

自動的な作動

以下の場合は、電気式パーキングブレーキが自動的に効きます。

- ディストロニック・プラスにより車両が停止した

または

- ホールド機能により車両が停止したままになっている

または

- アクティブパーキングアシストにより車両が停止したままなっている

さらに、以下の条件のうちの少なくとも 1 つが満たされている必要があります。

- エンジンが停止している
- 運転席ドアが開いていて、シートベルトが着用されていない
- システムに故障がある
- 電力供給が不十分である
- 車両が長時間停車している

メーターパネルの赤色の Ⓟ 表示灯が点灯します。

ECO スタートストップ機能によりエンジンが停止した場合は、電気式パーキングブレーキは自動的に効きません。

自動解除

電気式パーキングブレーキは、以下の条件がすべて満たされたときに自動解除されます。

- エンジンがかかっている。
- シフトポジション **D** または **R** にある。
- シートベルトを着用している。
- アクセルペダルを踏んだ。

オートマチックトランスミッションがポジション **R** にある場合は、トランクリッドが閉じていなければなりません。

シートベルトが着用されていない場合は、電気式パーキングブレーキを自動的に解除するためには以下の条件が満たされている必要があります。

- 運転席ドアが閉じている。
- シフトポジション **P** からシフトした、またはその前に 3km/h 以上で走行した。

意図せずにアクセルペダルを踏まないようにしてください。さもないと、パーキングブレーキが解除され、車両が動き始めます。

緊急ブレーキ操作

電気式パーキングブレーキを使用して、緊急時に車両にブレーキを効かせることもできます。

▶ 走行している間に、電気式パーキングブレーキのハンドル ① を押します (▷242 ページ)。

電気式パーキングブレーキのハンドル ① を押し続けている限りは、車両にはブレーキが効いています。電気式パーキングブレーキのハンドル ① が長く押されているほど、制動力は大きくなります。

ブレーキが効いている間は以下のようになります。

- 警告音が鳴ります。
- ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ解除してください というメッセージが表示されます。
- メーターパネルの赤色の Ⓟ 表示灯が点滅します。

車両にブレーキを効かせて停止したときは、電気式パーキングブレーキが作動します。

長期間の車両の駐車

4 週間以上車両を駐車したままにする場合は、バッテリーが完全に放電して損傷し、これらが再度起こった際にさらに損傷するおそれがあります。

▶ バッテリーの接続を外すか、充電器を接続してください。

ⓘ 充電器についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

車両を 6 週間以上使用しないと、不具合が生じるおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねいただき、アドバイスを受けてください。

ハイブリッド車両：高電圧バッテリーに関する "重要な安全上の注意事項" に従ってください (▷475 ページ)。

運転のヒント

一般的な運転のヒント

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できないか、または全く使用できません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

ECO 表示

ECO 表示は、お客様の運転特性がどのくらい経済的であるかの評価を行ないます。ECO 表示は、選択されている設定および現在の状況で最も経済的な運転スタイルを達成するための支援を行ないます。燃費は運転スタイルによって著しく影響されることがあります。

ECO 表示は以下の 3 本のバーで構成されています。

- アクセル操作
- 平均
- ブレーキ操作

パーセンテージ数は、3 本のバーの数値の平均値です。3 本のバーおよび平均値は 50% の値を起点としています。高いパーセンテージ数はより経済的な運転スタイルを示しています。

ECO 表示は、実際の燃料消費を示すものではありません。ECO 表示の特定のパーセンテージ数は、特定の燃費を示すものではありません。

運転スタイルに加えて、燃費は以下のような他の多くの要因に影響されます。

- 積載量
- タイヤ空気圧
- 冷間始動
- ルートの選択
- 電気装備の使用

これらの要因は ECO 表示には含まれていません。

運転スタイルの評価には、以下の 3 つのカテゴリーが考慮されます。

- アクセル操作（すべての加速行為の評価）
  - バーが埋められているとき：特に高い速度での適度な加速
  - バーが空欄のとき：スポーティな加速
- 平均（運転操作の常時評価）
  - バーが埋められているとき：一定の速度、および不必要な加速および減速の回避
  - バーが空欄のとき：速度に変動がある

走行と駐車

- ブレーキ操作（すべての減速過程の評価）
  - バーが埋められているとき：距離を保ちながらの予期走行およびアクセルの早期開放。車両はブレーキを使用することなく惰性走行しています。
  - バーが空欄のとき：頻繁なブレーキ操作

経済的な運転スタイルは適度なエンジン回転数での走行と関係しています。

アクセル操作および平均のカテゴリーで、より高い数値達成をするためには：

- 推奨ギアシフトに従ってください。
- 走行モード **E** で車両を走行してください。

高速道路のような一定速度での長距離走行では、平均のバーのみが変化します。

ECO 表示は、走行開始から完了までの運転特性を要約したものです。そのため、走行開始時点ではバーに活発な変化があります。長い運転時間の間では、これらの変化は小さくなります。より活発な変化のためには、手動でのリセットを行なってください。

ECO 表示に関するさらなる情報は、（▷330 ページ）をご覧ください。

ブレーキ

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

下り坂勾配

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。荷物積載時に車両を運転するときは､このことに特に留意してください。

これは、クルーズコントロール、可変スピードリミッターまたはディストロニック・プラスを作動させている場合も該当します。

これによりエンジンのブレーキ効果を利用し、車両の速度を維持するために必要なブレーキ操作が少なくなります。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

高い、および低い負荷

⚠ **警告**

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムが過熱することがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

! ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキパッドが極端に早く磨耗する結果になります。

ブレーキに大きな負担をかけた場合は、すぐに車両を駐車しないでください。しばらくの間走行してください。これによりブレーキに送風され、ブレーキがより早く冷却されます。

長時間、ブレーキをほぼ使用せずに走行した場合は、時々ブレーキの効きをテストしてください。これを行なうためには、交通状況に注意を払いながら、高速から強めにブレーキを効かせます。これにより、ブレーキの制動力が向上します。

濡れた路面

激しい雨の中で、ブレーキを効かせずに長時間走行した後にブレーキを効かせたときは、ブレーキの反応が遅れることがあります。これは、洗車後または深い水の中の走行後にも起こることがあります。

ブレーキペダルをよりしっかりと踏む必要があります。先行車両との十分な距離を保ってください。

濡れた路面の走行後や洗車直後は、周囲の交通状況に注意を払いながら強めにブレーキを踏み込んでください。これによりブレーキディスクを温め、それにより素早く乾燥させ、腐食を防止することができます。

塩分処理された路面でのブレーキ性能の制約

塩分処理した道路を走行している場合は、塩分の層がブレーキディスクやパッドにできることがあります。これにより制動距離が著しく増加することがあります。

- 塩分の蓄積を防ぐために、交通状況に注意を払いながら、時々ブレーキを効かせてください。
- 走行の終了時と次の走行を開始するときはブレーキペダルを慎重に踏んでください。
- 先行車両との十分な距離を保ってください。

新しいブレーキディスクおよびブレーキパッド / ライニング

新しい、もしくは交換されたブレーキパッド / ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適な制動効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少した制動効果を補ってください。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツでは以下のブレーキディスクおよびブレーキパッド / ライニングのみの装着を推奨します。

- メルセデス・ベンツにより承認されたブレーキディスク
- メルセデス・ベンツにより承認された、または同等の品質基準であるブレーキパッド / ライニング

他のブレーキディスクまたはブレーキパッド / ライニングは車両の安全性を損なうおそれがあります。

すべてのアクスルのブレーキディスクおよびブレーキパッド / ライニングを、常に同時に交換してください。ブレーキディスクを交換するときは、常に新しいブレーキパッド / ライニングを装着してください。

車両には、リムおよびネジ組み付けのホイールアッセンブリーに適合した軽量ブレーキディスクが装備されています。

メルセデス・ベンツにより承認されているもの以外のブレーキディスクを使用するとトラック幅が変わることがあります。必ず承認された製品を使用してください。

車輪を交換するときなど、ブレーキディスクを取り扱うときに衝撃型負荷が加わると、走行時に軽量ブレーキディスクの快適さが減少することがあります。軽量ブレーキディスクへの、特にブレーキプレートへの衝撃型負荷は避けてください。

AMG 強化ブレーキシステム

強化ブレーキシステムは AMG 車両にのみ使用できます。

AMG 強化ブレーキシステムは高負荷に耐えるように設計されています。以下により、ブレーキ時のノイズにつながることがあります。

- 走行速度
- 制動力
- 気温や湿度などの外気環境

ブレーキパッド / ライニングまたはブレーキディスクのような個々のブレーキシステム部品の摩耗は、個人の運転スタイルおよび使用状況によって異なります。

この理由のため、すべての状況で有効になるような走行距離（寿命）を明確にすることはできません。積極的な運転スタイルは、高い摩耗につながります。さらなる情報は、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で入手できます。

新しい、もしくは交換されたブレーキパッド / ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適な制動効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少した制動効果を補ってください。慣ら運転の間は、常にこれに注意し、それに応じて運転やブレーキ操作を合わせてください。

過度に負担があるブレーキ操作は、それに応じたブレーキパッドの高い摩耗につながります。マルチファンクションディスプレイのブレーキ摩耗に関するディスプレイメッセージやブレーキに関するいかなるメッセージにも注意してください。定期的に高速で走行する場合は、ブレーキシステムを定期的に点検し、整備することが特に重要です。

濡れた路面の走行

ハイドロプレーニング現象

一定の深さまで路面に水がたまると、以下の状況でもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

- 低速で走行している
- タイヤの溝が十分にある

そのため、豪雨またはハイドロプレーニング現象が起こりそうな状況では、以下のように走行してください：

- 速度を落とす
- わだちを避ける
- 急なステアリングの動きは避ける
- ブレーキ操作を慎重に行なう

冠水路の走行

! 先行車や対向車も波を発生させていることに注意してください。車が通ることにより、許容最大水深を超える可能性があります。

どのような状況でもこれらの注意事項を守ってください。エンジン、電気装備およびトランスミッションを損傷するおそれがあります。

冠水路を走行するときは、以下の点に注意してください。

- 車高が上がっているときの最大許容水深は 25cm です。
- 歩くペースより速く走行しないでください。

寒冷時の走行

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

⚠ 警告

マフラーがふさがれ、適切な換気が可能でない場合は、一酸化炭素（CO）のような有毒ガスが車内に入り込んでくることがあります。車両が雪にはまった場合などがあてはまります。致命的な中毒の危険性があります。

エンジンをかけたままにする場合は、マフラーや車両周辺に雪がないことを確認してください。

新鮮な空気を確保するために、風のほうを向いていない車両側のウインドウを開いてください。

冬季の始まりには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の冬季対策を行なってください。

滑りやすい路面では、特に慎重に走行してください。急な加速、ステアリング、ブレーキ操作は避けてください。ディストロニック・プラスを使用しないでください。

車両がスリップしそうなとき、または低速走行中に停止できない場合は、以下のようにしてください。

▶ トランスミッションをポジション N に動かします。

▶ ステアリング操作の修正により、車両を制御できるよう試してください。

外気温度表示は凍結警告機器として使用するためには設計されていないため、この目的には合っていません。外気温度の変化は、少し遅れて表示されます。

0℃すぐ上の表示温度は、路面に氷がないことを保証しているものではありません。特に森林地域や橋の上では、路面が凍結していることがあります。

気温が 0℃前後のときは、路面状況に特に注意してください。

スノーチェーンでの走行に関するさらなる情報は、(▷496 ページ)をご覧ください。

サマータイヤでの走行に関するさらなる情報は、(▷495 ページ)をご覧ください。

" 冬季の使用 " の項目の注意事項に従ってください(▷495 ページ)。

走行システム

メルセデス・ベンツ・インテリジェントドライブ

メルセデス・ベンツ・インテリジェントドライブは、快適性を高め、危険な状況で運転者を支援する、革新的な運転者支援および安全システムです。

車両乗員および他の道路使用者のため、メルセデス・ベンツ・インテリジェントドライブは、アクティブそしてパッシブセーフティのすべての要素を 1 つのシステムと想定して統合しています。

走行安全システムに関するさらなる情報は、(▷93 ページ)をご覧ください。

クルーズコントロール

重要な安全上の注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。車両に積載して走行するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。30km/h 以上の走行速度を記憶させることができます。

運転スタイルを合わせていない場合は、クルーズコントロールは事故の危険性を軽減することはできません。また、物理的限界を超えることもできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは単なる支援に過ぎません。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路および交通状況(例:混雑している交通状況、または曲がりくねっている道路)
- 滑りやすい路面

  ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶させている速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー

① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶させる
② LIM 表示灯
③ 最後に記憶させた速度の呼び出し
④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶させる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択しているシステムを表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：**クルーズコントロールが操作可能な状態です。
- **LIM 表示灯が点灯：**可変スピードリミッターが操作可能な状態です。

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに 5 秒間表示されます。スピードメーターには三角形のマークも表示されます。設定された速度と最高速度の間でスピードメーターのダイヤルが点灯します。

クルーズコントロールの選択

▶ LIM 表示灯 ① が消灯しているか確認してください。

消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ② の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

現在の速度の記憶および維持

30km/h 以上で走行している場合は、現在の速度を記憶できます。

▶ 希望の速度に加速します。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く操作します。

▶ アクセルペダルから足を放してください。

クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に速度を維持します。

ⓘ 急な上り坂では、クルーズコントロールは記憶された速度を維持できないことがあります。勾配が緩くなると再び記憶された速度を維持します。クルーズコントロールは急な下り坂では自動的にブレーキを効かせることにより記憶された速度を維持します。

最後に記憶させた速度の呼び出し

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前①に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放してください。

初めてクルーズコントロールを作動させたときは現在の速度が記憶され、または以前に記憶させた速度に車両速度を制御します。

速度の設定

車両が設定速度まで加速または減速するまでには少し時間がかかることに注意してください。

▶ 高い速度には上①に、低い速度には下②にクルーズコントロールレバーを操作します。

▶ 希望した速度に到達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。

▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。
新しい速度が記憶されます。

▶ **設定速度を 1km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところまで、クルーズコントロールレバーを上①または下②に軽く操作します。

最後に記憶させた速度が 1km/h 単位で上昇または下降します。

▶ **設定速度を 10km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上①または下②に軽く操作します。

最後に記憶させた速度が 10km/h 単位で上昇または下降します。

ⓘ クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越すために加速した場合は、追い越しを終了した後にクルーズコントロールは車両の速度を最後に記憶させた速度に調整します。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するためにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方③に軽く操作します。

または

▶ ブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印②の方向に軽く操作します。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーのLIM 表示灯①が点灯します。

以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせた
- 30km/h 以下で走行した
- ESP® が介入したり、ESP® を解除した
- 走行中にトランスミッションをポジション **N** にシフトした

クルーズコントロールが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに クルーズコントロール解除 というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。車両に積載して走行するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

運転スタイルを合わせていない場合は、可変スピードリミッターは事故の危険性を低減させることはできません。また、物理的法則を乗り超えることもできません。可変スピードリミッターは道路、天候および交通状況を考慮することはできません。可変スピードリミッターは単なる支援にすぎません。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶させている速度を伝えてください。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶させる
② LIM 表示灯
③ 現在の走行速度を記憶させる、および記憶されている速度を呼び出す
④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶させる
⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択しているシステムを表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：**クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが操作可能な状態です。
- **LIM 表示灯が点灯：**可変スピードリミッターが操作可能な状態です。

可変スピードリミッターの選択

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶させている制限速度を伝えてください。

▶ LIM 表示灯 ① が点灯しているか確認してください。

点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ② の方向に操作します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く操作します。

現在の速度が記憶され、マルチファンクションディスプレイに表示されます。最初の目盛りと記憶した速度の間でスピードメーターのダイヤルが点灯します。

現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ① に軽く引きます。

速度の設定

▶ **設定速度を 10km/h 単位で調整する:** 高い速度には上 ① に、低い速度には下 ② に、手応えがあるところを越えるまでクルーズコントロールレバーを操作します。

または

▶ 希望する速度に設定されるまで、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ② に、クルーズコントロールレバーを手応えがあるところを越えるまで操作します。

▶ **設定速度を 1km/h 単位で調整する：** 高い速度には上 ① に、低い速度に下 ② に、手応えのあるところまでクルーズコントロールレバーを軽く操作します。

または

▶ 希望する速度に設定されるまで、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ② に、手応えのあるところまでクルーズコントロールレバーを操作します。

可変スピードリミッターを待機状態に切り替える

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合（キックダウン）は、可変スピードリミッターは待機モードに切り替わります。マルチファンクション ディスプレイに 可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀｰ制御待機中 というメッセージが表示されます。

この後は、記憶させている速度を超えることができます。可変スピードリミッターは、以下のときに再度作動します。

- キックダウンをせずに、記憶させている速度以下で走行した
- 新たに速度を記憶させた、または
- 最後に記憶させた速度を再度呼び出した。

マルチファンクションディスプレイのメッセージ 可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀｰ制御待機中 が消えます。

可変スピードリミッターの解除

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ③ に軽く操作します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ② に軽く操作します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

ℹ エンジンを停止すると、記憶させている速度は消去されます。

スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約 160km/h から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます (▷346 ページ)。

記憶させた速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除した場合でも、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合（キックダウン）でも、記憶させた制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する支援を行ないます。車両はレーダーセンサーシステムの支援で検知されます。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。車両に積載して走行するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告を行ないます。運転者の操作なしでは、ディストロニック・プラスは衝突を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合にのみ、ただちにブレーキを効かせて先行車両との距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

ディストロニックプラスは 0km/h ～ 200km/h の間の速度で作動します。急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行ないません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者や複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

その場合、ディストロニック・プラスは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 不意に加速する

事故の危険性があります。

特に、ディストロニック・プラスが警告を発した場合は、慎重に運転しブレーキを効かせる用意をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは最大制動力の 50% まで車両にブレーキを効かせます。減速が十分でない場合は、ディストロニック・プラスは視覚的および聴覚的警告で運転者に警告を行ないます。事故の危険性があります。

これらの状況では自分でブレーキを効かせ、回避行動を取るように試みてください。

! ディストロニック・プラスが作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキが効きます。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスを解除してください。

- けん引されるとき
- 洗車時

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、ディストロニック・プラスは事故被害を軽減することはできません。また、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスはあくまでも運転を支援するシステムです。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキを効かせ、車線を維持する責任があります。

以下のときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路および交通状況（例：混雑している交通、または曲がりくねっている道路）
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、視界が不十分なとき。

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なる車線を走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 雪または激しい雨のとき
- 他のレーダー送信機による干渉があるとき
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき

ディストロニック・プラスが先行車を検知しなくなると、予期せず、設定速度まで加速することがあります。

この速度は以下のようになることがあります。

- 分岐車線や滑りやすい路面で速度が非常に高くなりすぎる
- 車両を追い抜く際の速度が高くなりすぎる

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶させている速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー

① 速度を設定する / 上げる
② 最短車間距離を設定する
③ LIM 表示灯
④ 現在の速度 / 最後に記憶させた速度に設定する
⑤ 速度を設定する / 下げる
⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニック・プラスを解除する

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ は現在選択されている機能を表示しています。

- **LIM 表示灯 ③ が消灯**:ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯 ③ が点灯**:可変スピードリミッターが選択されています。

ディストロニック・プラスの選択

▶ LIM 表示灯 ① が消灯しているかどうかを確認してください。

消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。そうでない場合は、クルーズコントロールレバーを矢印 ② の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

ディストロニック・プラスの作動

作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるためには、以下の条件を満たさなければなりません。

- エンジンがかかっている。ディストロニック・プラスが使用できるようになる前に少なくとも 2 分間走行している。
- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- ESP® が設定されているが、介入していない。
- アクティブパーキングアシストが作動していない。
- トランスミッションがポジション **D** である。

- P から D にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが着用されている。
- 助手席ドアとリアドアが閉じている。
- クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスが選択されている（▷258 ページ）。

作動させる

▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前 ② に引くか、上 ① または下 ③ に操作します。

ディストロニック・プラスが作動します。

▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを上 ① にまたは下 ③ に繰り返し操作します。

▶ アクセルペダルから足を放してください。

希望の記憶させた速度までのみ、先行車両の速度に自車の速度が合わせられます。

ℹ アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイに ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ制御待機中 というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車両との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止しているときもディストロニック・プラスを作動させることができます。設定できる最低速度は約 30km/h です。

▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前 ② に引くか、上 ① または下 ③ に操作します。

ディストロニック・プラスが作動します。

現在の速度 / 最後に記憶させた速度で作動させる

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキが効くことがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ① に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放します。

ディストロニック・プラスが作動します。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。それ以外のときは、以前に記憶させた速度に車両の巡航速度を設定します。

ディストロニック・プラスでの運転

発進と走行

▶ **ディストロニック・プラスで発進したい場合：**ブレーキペダルから足を放します。

▶ クルーズコントロールレバーを手前①に軽く引きます。

または

▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。

車両が発進して、速度を先行車両の速度に合わせます。検知された車両が前方にいない場合は、車両は設定した速度まで加速します。

ⓘ 未確認の障害物に面しているとき、または他の車両と異なるラインを走行するときにも、車両は発進します。その後に車両は自動的にブレーキを効かせます。事故の危険性があります。いつでもブレーキを効かせる準備をしてください。

先行車両がいない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

先行車両が減速したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両にブレーキを効かせます。このようにして設定した距離が維持されます。

より速く走行している車両をディストロニック・プラスが前方に検知した場合は、走行速度が上がります。ただし、設定した速度までのみ車両は加速します。

走行モードの選択

走行モード **S** を選択しているときは、ディストロニック・プラスはスポーティな運転スタイルを支援します(▷231 ページ)。先行車両の後方で、または設定した速度まで非常にダイナミックに加速します。走行モード E（AMG 車両は C）を選択している場合は、車両はさらに緩やかに加速します。この設定は交通渋滞で推奨されます。

車線の変更

追い越し車線に移る場合は、以下のときにディストロニック・プラスは運転者を支援します。

- 70km/h 以上で走行している
- 対応する方向指示灯を作動させている
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していない

これらの条件が満たされている場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、車両と先行車両との距離が短すぎる場合は、加速は中断されます。

ⓘ 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは左ハンドル車では左の車線を、右ハンドル車では右の車線をモニターします。

停止

⚠ **警告**

車両から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキが効いていても以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムやバッテリー、またはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車両から離れるときは、必ずディストロニック・プラスを解除して車両が動き出さないようにしてください。

ディストロニック・プラスの解除に関するさらなる情報については（▷264 ページ）をご覧ください。

先行車両が停止したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキペダルを踏む必要はありません。

しばらくすると電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、ブレーキの負担が軽減されます。

設定した最短距離によっては、車両は先行車両後方の十分な距離があるところで停止することがあります。最短車間距離はクルーズコントロールレバーのダイヤルを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動しているときは、以下の場合に自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- シートベルトが着用されておらず、運転席ドアを開いた
- ECO スタートストップ機能により自動的に停止したのではなく、エンジンが停止した
- システムに異常が発生した
- 電力供給が十分でない

異常が発生した場合は、トランスミッションが自動的にポジション P にシフトされることもあります。

速度の設定

▶ 設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるには下 ② に操作します。

▶ 希望した速度に到達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。

▶ クルーズコントロールレバーを放します。

新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両速度を調整します。

▶ **設定速度を 1km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く操作します。

設定速度が 1km/h 単位で上昇または下降します。

▶ **設定速度を 10km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く操作します。

設定速度が 10km/h 単位で上昇または下降します。

ℹ 追い越すために加速した場合は、追い越しを終了した後に、ディストロニック・プラスは最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

最短車間距離の設定

時間間隔を 1 秒から 2 秒の間で変えることにより、ディストロニック・プラスの最短車間距離を設定することができます。この機能により、車両速度に応じてディストロニック・プラスが維持する、先行車との最短車間距離を設定することができます。マルチファンクションディスプレイにこの距離を表示することができます（▷263 ページ）。

ℹ 法令に要求されているような先行車両との車間距離を維持していることを確認してください。必要であれば、先行車との距離を調整してください。

▶ **長くする：** ダイヤル ② を ③ の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは自車と先行車との距離をより長く維持します。

▶ **短くする：** ダイヤル ② を ① の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは自車と先行車との距離をより短く維持します。

メーターパネルのディストロニック・プラス表示

スピードメーターの表示

ディストロニック・プラスを作動させたときは、三角マーク ② が記憶させた速度を示します。

ディストロニック・プラスが先行車両を検知した場合は、先行車両の速度 ① と記憶させた速度 ② の間のセグメントが点灯します。同様に、先行車両が追い越し車線で検知された場合は、セグメントが点灯します。

ℹ 設計上の理由により、スピードメーターに表示された速度はディストロニック・プラスで設定された速度と若干異なることがあります。

ディストロニック・プラスが非作動のときの表示

① 検知された場合の先行車両
② 距離インジケーター：先行車両までの現在の距離
③ 先行車両までの設定された最短車間距離（調整可能）
④ 自車

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー（▷341 ページ）で、アシスト一覧表示を選択できます。

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アシスト一覧 機能を選択します（▷339 ページ）。

ディストロニック・プラスが作動しているときの表示

① ディストロニック・プラス作動表示（クルーズコントロールレバーが操作されたときにのみ表示されます）
② 検知された場合の先行車両
③ 先行車両までの設定された最短車間距離（調整可能）
④ 自車

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー（▷341 ページ）で、アシスト一覧表示を選択できます。

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アシスト一覧 機能を選択します（▷339 ページ）。

ディストロニック・プラスを作動させたときは、記憶された速度が約 5 秒間表示されます。

ディストロニック・プラスの解除

ディストロニック・プラスを解除するためにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く操作します。

または

▶ 車両が停止していない場合にブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ③ の方向に軽く操作します。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除したときは、マルチファンクションディスプレイに ディストロニックプラスオフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ℹ エンジンを停止するまでは、最後に記憶させた速度が記憶されたままになります。

ℹ アクセルペダルを踏んだ場合でも、ディストロニック・プラスは解除されません。

以下の場合は、ディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせた、または車両に自動的に電気式パーキングブレーキが効いた。
- ESP® が介入したり、ESP® を解除した。
- トランスミッションを **P**、**R**、または **N** ポジションにした。
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを前方に引いたときに、助手席ドアまたはリアドアのいずれかが開いている。
- 車両がスリップした
- アクティブパーキングアシストを作動させた。

ディストロニック・プラスが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに ディストロニックプラスオフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

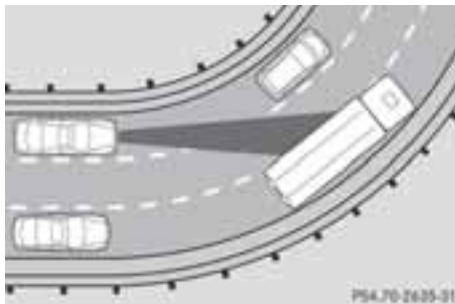
ディストロニック・プラスでの運転のヒント

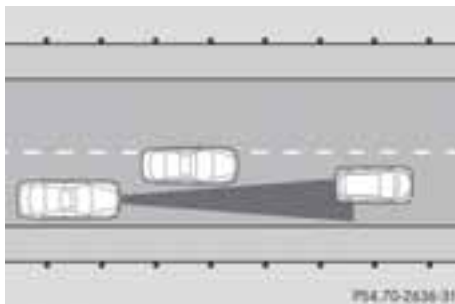
全体的な注意事項

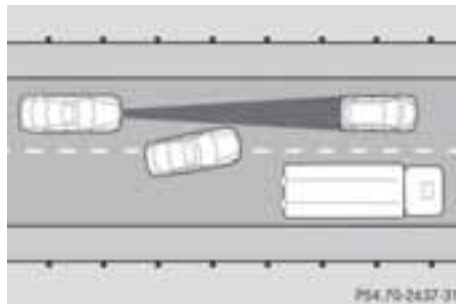
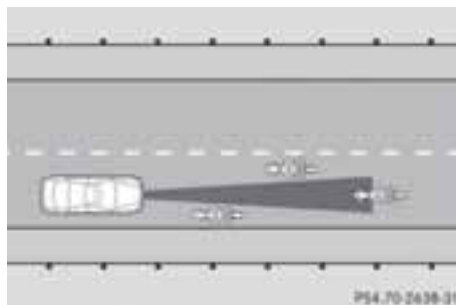
以下の交通状況では特に注意して運転してください。

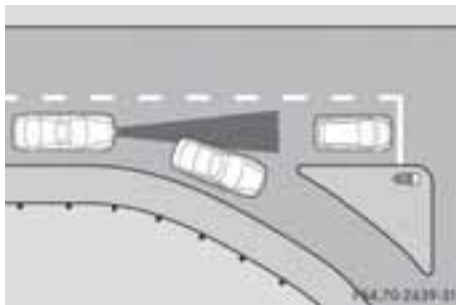
- カーブの走行 / 進入 / 退出時
- 車線の中央を走行していない車両
- 車線変更する他の車両
- 幅の狭い車両
- 障害物や停止車両
- 横切る車両

そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。ディストロニック・プラスは解除されます。

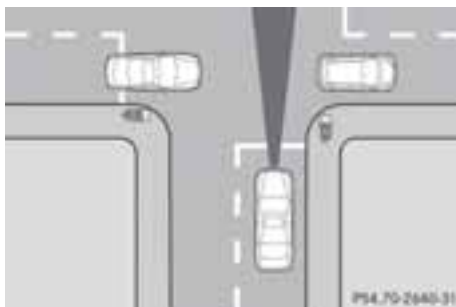
カーブの走行 / 進入 / 脱出時

カーブではディストロニック・プラスの車両を検知する能力には限界があります。予期せずまたは遅れてブレーキを効かせることがあります。

車線の中央を走行していない車両

ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を検知することができません。先行車両との距離が非常に短くなることがあります。

車線変更する他の車両

ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。その車両との距離が非常に短くなることがあります。

幅の狭い車両

ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがあります。先行車両との距離が非常に短くなることがあります。

障害物や停止車両

ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両

ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

ステアリングアシスト付ディストロニック・プラス

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、0-200km/h の速度での緩やかなステアリングの介入により、車線の中央を走行するように補助します。

ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、フロントウインドウ上部のカメラシステム ① によって車両の前方エリアをモニターします。

60km/h 以上の速度では、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、そのときの車線マークを目標にします。

渋滞中に先行車を追従する際など 0-60km/h の速度では、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、車線マークを考慮に入れながら、先行車に目標を合わせます。

ステアリングアシストが作動するためには、ディストロニック・プラスが作動していなければなりません。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは事故の危険性を減少させることはできません。また、物理的法則を乗り越えることもできません。ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、道路、天候または交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスのステアリングアシストはあくまでも支援に過ぎません。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適宜ブレーキを効かせ、車線を維持する責任があります。

ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、道路および交通状況を検知できません。道路の端に向かって走行している車両に追従している場合は、お客様の車両が縁石または他の道路境界線に接触するおそれがあります。道路マークを逸脱した場合は、サイクリストのようなお客様の車両のすぐ横にいる他の道路使用者に注意してください。

車線上にあるコーンのような、または車線に突き出ている障害物は検知されません。

車線マークの上を故意に走行した後などの不適切なステアリングの介入は、反対方向に軽くステアリングを操作した場合にいつでも修正することができます。

ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、車両を車線内に保ち続けることはできません。場合によっては、ステアリングの介入は車両を車線内に戻すのに十分でない場合があります。このような場合は、ご自身で車両のステアリング操作を行ない、車線を外れないようにしてください。

以下のときはシステムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨により視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射などで眩しい（路面が濡れている場合など）
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っている、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 工事などで 1 車線分の車線マークが全くないか、いくつかある、または不明瞭である
- 車線マークが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路上に著しくさまざまな影ができている

ディストロニック・プラスの重要な安全上の注意事項にも注意してください（▷256 ページ）。

ステアリング操作の介入は、限られたステアリング操舵力で行なわれます。ステアリングに手を置いたまま、ご自身でステアリング操作をするようにシステムは運転者に要求します。

ステアリング操作をご自身で行なわない場合、または長時間ステアリングから手を放している場合は、システムはまず視覚的な警告で警告します。マルチファンクションディスプレイにステアリングのマークが表示されます。5 秒後にステアリング操作をまだ開始しておらず、ステアリングを握っていない場合は、車両を操作するように促すため、警告音も鳴ります。ディストロニック・プラスのステアリングアシストは待機状態に切り替わります。ディストロニック・プラスは作動したままです。

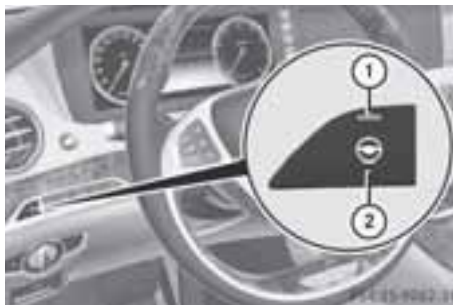
以下の場合は、システムが待機状態に切り替わり、ステアリング介入による支援を行なわなくなります。

- 頻繁に車線を変更している
- 方向指示灯を作動させている
- 長時間ステアリングから手を放している、またはステアリング操作をしていない

ⓘ 車線を変更し終えた後で、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは再度自動的に設定されます。

ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、以下の場合は支援を行ないません。

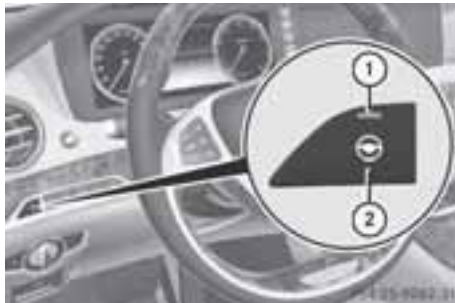
- 非常にきついカーブで
- 車線マークが鮮明に検知されない場合
- 60km/h 以下の速度で先行車両が検知されていない場合

ステアリングアシストの設定

▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯します。マルチファンクションディスプレイに DTR+: ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ ｱｼｽﾄｵﾝ というメッセージが表示されます。ステアリングアシストが設定されます。

マルチファンクションディスプレイの情報

ディストロニック・プラスのステアリングアシストが設定されていて、ステアリングの介入の準備ができていない場合は、ステアリングのマーク ① が灰色で表示されます。システムがステアリング介入によって支援を行なうことができる場合は、マーク ① が緑色で表示されます。

ステアリングアシストの解除

▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が消灯します。マルチファンクションディスプレイに DTR+: ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ ｱｼｽﾄｵﾌ というメッセージが表示されます。ステアリングアシストが解除されます。

ディストロニック・プラスが解除されると、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは自動的に解除されます。

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を支援します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏んだときは、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを効かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムやバッテリー、またはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、車両が発進しないようにしてください。

ホールド機能の解除に関するさらなる情報については（▷270 ページ）をご覧ください。

! ホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキが効きます。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではホールド機能を解除してください。

- けん引されるとき
- 洗車時

作動条件

以下の条件のすべてが満たされている場合は、ホールド機能を作動できます。

- 車両が停止している。
- エンジンがかかっている、または ECO スタートストップ機能によってエンジンが自動的に停止している。
- 運転席ドアが閉じている、または運転者がシートベルトを着用している。
- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- トランスミッションがポジション **D**、**R**、**N** である。
- ディストロニック・プラスが解除されている。

ホールド機能を作動させる

▶ 作動条件が合っていることを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ マルチファンクションディスプレイに ① が表示されるまで、ブレーキペダルを素早くさらに踏みます。

ホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を放すことができます。

ⓘ 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- シフトポジション **D** または **R** のときにアクセルペダルを踏んだ。
- トランスミッションをポジション **P** にシフトした。
- マルチファンクションディスプレイから HOLD が消えるまで、ブレーキペダルを再度一定の強さで踏んだ。
- 電気式パーキングブレーキを使用して車両を動かないようにした。
- ディストロニック・プラスを作動させた。

ⓘ しばらくすると電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、ブレーキの負担が軽減されます。そして、ホールド機能は解除されます。

ホールド機能が作動しているときは、以下の場合に自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- 運転席ドアが開いていて、運転席のシートベルトが着用されていない
- ECO スタートストップ機能により自動的に停止したのではなく、エンジンが停止した
- システムに異常が発生した
- 電力供給が十分でない

異常が発生した場合は、トランスミッションが自動的にポジション **P** にシフトされることもあります。

マジックボディコントロール

全体的な注意事項

マジックボディコントロールは、ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）、路面スキャン、ならびにクロスウインドアシストで構成されています。

走行安全性を高め、燃料消費をおさえるために、車両は自動的に走行時の車高を調整します。サスペンションモードは、お客様の選択（スポーツまたはコンフォート）、路面の状況および車両の積載量に応じて調整されます。多機能カメラは、車両が乗り越える前に路面の凹凸を検知します。これにより、シャーシの動きが抑制されます。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合は、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

クロスウインドアシスト

クロスウインドアシストは、ABC のスプリングストラットを制御して車輪の荷重を変更することにより作動します。直線路を走行しているときのハンドリングの悪化を抑え、カウンターステア中の支援を行ないます。

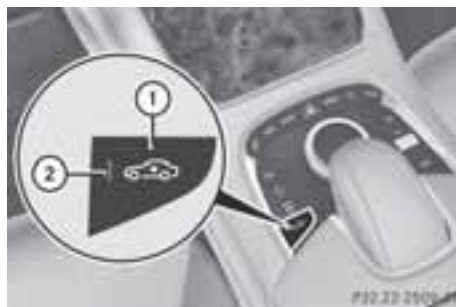
クロスウインドアシストは、直進または緩やかなカーブを走行しているときに、80 km/h 以上の車両速度で作動します。

ABC（アクティブ･ボディ･コントロール）

車高

AMG 車両を除く全車両：設定された車高により、車両はそのときの速度に応じて車高を自動的に調整します。速度が上がると、車両は最大 15mm まで下がります。速度が下がると、設定された車高まで車両が上がります。

AMG 車両：選択された車高により、車両はそのときの速度に応じて車高を自動的に調整します。速度が上がると、車両は最大 10mm まで標準の高さから下がります。速度が下がると、設定された車高まで車両が上がります。

通常の路面では " 標準 " 設定を、スノーチェーンを装着して走行するときや路面が特に悪いときは " 高い " を選択してください。選択した内容は、イグニッション位置を **0** にした場合でも記憶されたままになります。

高い車高の設定

▶ エンジンを始動します。

▶ **表示灯 ② が点灯していない場合：**スイッチ ① を押します。

AMG 車両を除く全車両：表示灯 ② が点灯します。高い車高に調整されます。

AMG 車両：表示灯 ② が点灯します。標準の高さと比較して、車高が 40mm 上がります。

標準の車高の設定

▶ エンジンを始動します。

▶ 表示灯 ② が点灯している場合：スイッチ ① を押します。

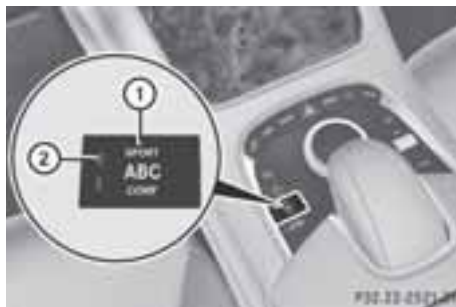
表示灯 ② が消灯します。標準の車高に調整されます。

サスペンションの設定

電子制御された ABC サスペンションシステムは常時作動しています。走行安全性と乗り心地を向上させます。システムは車高および車両の積載量を検知し、それに応じて設定を調整します。スポーティな制御、または快適な制御を選択することもできます。

ABC サスペンションシステムは、以下に合わせてそれぞれの車輪を個々に制御します。

- スポーティなものなど、運転者の走行スタイル
- 凸凹などの路面の状況
- スポーツまたはコンフォートの運転者の選択
- 車両の積載量
- 横風の強さ

選択した内容は、イグニッション位置を **0** にした場合でも記憶されたままになります。

スポーツモードではサスペンション制御がより固くなり、路面追従性が向上します。ステアリングの反応動作はスポーティになります。例えば自動車道路などの平坦な道路でスポーティな運転スタイルをとるときにこのモードを選択します。

スポーツモードの選択

▶ **表示灯 ② が点灯していない場合：**スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。スポーティな運転スタイルに合ったサスペンションが選択されます。

AMG 車両を除く全車両：マルチファンクションディスプレイに ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾎﾞﾃﾞｨ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｽﾎﾟｰﾂ というメッセージが表示されます。

AMG 車両：マルチファンクション ディスプレイに AMG RideControl SPORT というメッセージが表示されます。

コンフォートモードでは、車両の走行特性が特に快適になります。ステアリングの反応動作はバランスが取れたものになります。快適な運転スタイルが好みの場合は、このモードを選択します。

コンフォートモードの選択

▶ **表示灯 ② が点灯していない場合：**スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。快適な運転スタイルに合ったサスペンションが選択されます。

AMG 車両を除く全車両：マルチファンクションディスプレイに アクティブ・ボディ・コントロール コンフォート というメッセージが表示されます。

AMG 車両：マルチファンクションディスプレイに AMG RideControl COMFORT というメッセージが表示されます。

路面スキャン

路面スキャン機能は、フロントウインドウ上部の多機能カメラ ① を使用して、車両前方の道路をモニターします。サスペンション制御でコンフォートを選択している場合は、この機能が自動的に作動します。システムは 130km/h までの速度で作動可能です。

この機能によって、車両が乗り越える前に路面の凸凹を検知することができます。その後にスプリングストラットが作動し、その結果凸凹を乗り越えるときにシャーシの動きが著しく減少します。

高い車高またはスポーツサスペンション制御を選択しているときは、システムは解除されます。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 路面が十分に照らされていない
- 雪、雨、霧または霧雨などで視界が悪い
- 太陽や対向交通からなどの眩しい光がある
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っている、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 新しく敷かれたアスファルト、コンクリート板や水たまりのように、路面にテクスチャ（きめ）がない、または反射している
- 先行車両との距離が非常に短い
- 走行区間に非常に小さな半径のカーブがある
- 急激に加速した、または急ブレーキを効かせた

AIR マティックサスペンション

全体的な注意事項

AIR マティックサスペンションは、走行快適性を向上させるための可変ダンピングを装備したエアサスペンションです。レベルコントロール機能は、サスペンションを最適にして、積載時でも地上高を一定に保ちます。高速で運転するときは、走行安全性を向上させ燃費を低減させるために、自動的に車高が低くなります。手動での車高調整を選択することもできます。AIR マティックサスペンションには、車高の設定、レベルコントロールおよび ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）が含まれます。

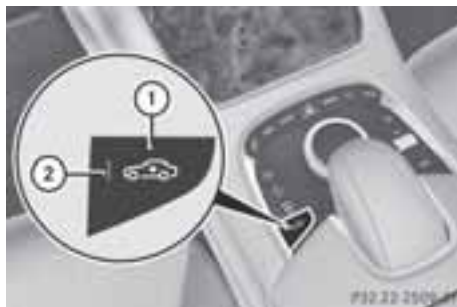
重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合は、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

車高

高い車高を設定する

通常の路面では " 標準車高 " 設定を、スノーチェーンを装着して走行するときや路面が特に悪いときは " 高い車高 " を選択してください。選択した内容は、イグニッション位置を **0** にした場合でも記憶されたままになります。

▶ エンジンを始動します。

表示灯 ② が点灯していない場合：

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。標準の車高と比較して、車高が 30mm 上がります。ディスプレイに 車高があがります というメッセージが表示されます。

ℹ メッセージは 10 秒後に消えます。車高が完全に上昇していない場合はさらに上がります。

" 高い車高 " の設定は以下のときに解除されます。

- 約 120km/h 以上の速度で走行した
- 80km/h 以上の速度で約 3 分間走行した

標準の車高を設定する

▶ エンジンを始動します。

表示灯 ② が点灯している場合：

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が消灯します。標準の車高に調整されます。

サスペンションの設定

全体的な注意事項

ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）は、ダンパーおよびスプリングの調整を自動的に制御します。

以下に応じて、減衰力が車輪ごとに個別に調整されます。

- スポーティなものなど、運転者の走行スタイル
- 凸凹などの路面の状況
- スポーツまたはコンフォートの運転者の選択

選択した内容は、イグニッション位置を **0** にした場合でも記憶されたままになります。

スポーツモード

スポーツモードではサスペンション制御がより固くなり、路面追従性が向上します。カーブの多い郊外の道路などでスポーティな運転スタイルをとるときは、このモードを選択してください。

AMG 車両を除く全車両：

▶ **表示灯 ② が点灯していない場合：**スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。" スポーツモード " が選択されます。標準の車高と比較して、車高が 10mm 下がります。

マルチファンクションディスプレイに AIRMATIC SPORT というメッセージが表示されます。

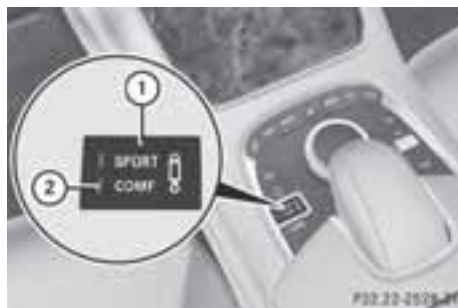
AMG 車両：

▶ **表示灯 ② が点灯していない場合：**スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。スポーツモードでは、走行速度が 120km/h より高い場合は、標準の高さと比較して車両は自動的にさらに 10mm 下がります。

マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control SPORT というメッセージが表示されます。

AMG 車両を除く全車両：スポーツモードでは、走行速度が 120km/h 以上の場合は、車高が自動的にさらに 10mm 下がります。

コンフォートモード

コンフォートモードでは、車両の走行特性がより快適になります。快適な乗り心地を重視するときは、このモードを選択してください。カーブの少ない道路を走行するときもコンフォートモードを選択してください。

▶ **表示灯 ② が点灯していない場合：**スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。" コンフォートモード " が選択されます。

AMG 車両を除く全車両：マルチファンクションディスプレイに AIRMATIC COMFORT というメッセージが表示されます。

AMG 車両：マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control COMFORT というメッセージが表示されます。

コンフォートモードでは、走行速度が 120km/h 以上の場合は、標準の車高と比較して、車高が自動的にさらに 10mm 下がります。

AMG 車両を除く全車両：コンフォートモードでは、走行速度が 160km/h 以上の場合は、標準の車高と比較して、車高が自動的にさらに 20 mm 下がります。

荷重補正

乗員が乗降したり、荷物を積載するなど、荷重に応じてリアアクスルの車高が補正されます。

荷重の補正は、以下の場合に行なわれます。

- ドアまたはトランクリッドを開いた
- 駐車している車両が解錠された

車高が完全に補正されるためには、エンジンが始動していなければなりません。

4MATIC（フルタイム 4 輪駆動システム）

4MATIC は 4 輪全てが常に駆動しています。駆動輪が空転したときはいつでも、ESP® とともに車両の駆動力を向上させます。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、4MATIC は事故被害を軽減することはできません。また、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。4MATIC は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。4MATIC はあくまでも運転を支援するシステムです。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキを効かせ、車線を維持する責任があります。

駆動力が不十分なために駆動輪が空転する場合は以下のようにしてください。

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行時はアクセルペダルの踏み込みを少なくしてください。

! 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていなければなりません。車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

i 冬季に走行するときは、ウインタータイヤ（M+S タイヤ）や必要であればスノーチェーンを装着すると 4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

パークトロニック

重要な安全上の注意事項

パークトロニックは超音波センサーにより、駐車を電子的に支援します。フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 6 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。パークトロニックは、車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは単なる支援に過ぎません。すぐ周辺への運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なう間は、進行方向に人や動物、障害物がないことを確認してください。

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは検知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを検知しないことがあります。

自動洗車機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなど、超音波を発生するものによりパークトロニックが機能しないことがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロニックは以下のときに自動的に作動します。

- イグニッションをオンにした
- トランスミッションをポジション **D**、**R** または **N** にシフトした

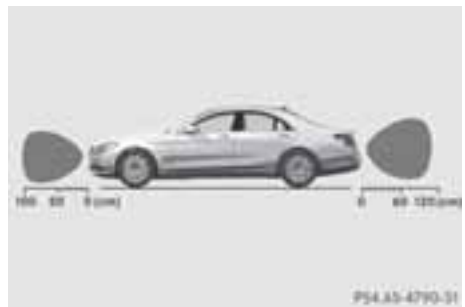
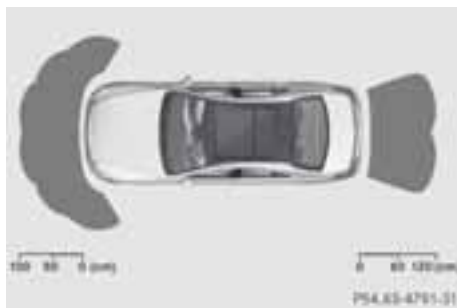
パークトロニックは 18km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

センサーの範囲

全体的な注意事項

以下のときは、パークトロニックは障害物を考慮しません：

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にある
- 突き出た荷物、車両後部、または積載用スロープなどが検知範囲の上にある

左側フロントバンパーのセンサー（例）

センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。適切に機能しないことがあります。傷つけたり、損傷させないように注意して、センサーを定期的に清掃してください（▷457 ページ）。

フロントセンサー

センター部	約 100cm
コーナー部	約 60cm

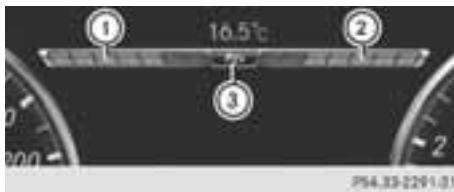
リアセンサー

センター部	約 120cm
コーナー部	約 80cm

最短距離

センター部	約 20cm
コーナー部	約 15cm

この範囲内に障害物がある場合は、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴ります。距離が最短以下になった場合は、警告が行なわれなくなることがあります。

警告表示

① 車両左側のセグメント
② 車両右側のセグメント
③ 作動待機インジケーター

警告表示はセンサーと障害物との距離を示します。前方エリアの警告表示はメーターパネルにあります。後方エリアの警告表示は後席のルーフライニング部分にあります。

車両の各側の警告表示は、5 個の黄色の、および 2 個の赤色のセグメントに分けられます。作動待機インジケーター ③ が点灯している場合は、パークトロニックは作動可能です。

エンジンがかかっているときに、選択されているシフトポジションと車両の進行方向によって、どの警告表示が作動するかが決定されます。

シフトポジション	警告表示
D	前方エリアが作動します。
R、N または車両が後退しているとき	前方および後方エリアが作動します。
P	どのエリアも作動しません。

車両が障害物に近づくにつれ、障害物からの車両の距離に応じて 1 個またはそれ以上のセグメントが点灯します。

以下のように警告が行なわれます。

- 6 個目のセグメントを超えると、断続的な警告音が約 2 秒間聞こえます。
- 7 個目のセグメントを超えると、警告音が約 2 秒間聞こえます。これは、最短距離に達していることを示しています。

パークトロニックの解除 / 作動

① 表示灯
② パークトロニックの解除 / 作動

表示灯 ① が点灯しているときは、パークトロニックは解除されています。アクティブパーキングアシストも解除されます。

ⓘ イグニッション位置を **2** にするとパークトロニックは自動的に作動します。

パークトロニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
パークトロニック警告表示の赤色のセグメントだけが点灯している。警告音が約 2 秒間聞こえる。 パークトロニックがその後解除され、パークトロニックスイッチの表示灯が点灯する。	パークトロニックが故障して、停止している。 ▶ 問題が続く場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックを点検してください。
パークトロニック警告表示の赤色セグメントだけが点灯している。パークトロニックがその後解除される。	パークトロニックセンサーが汚れているか、干渉がある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷457 ページ）。 ▶ イグニッション位置を **2** にしてください。
	電波や超音波の外部要因が問題の原因になっている。 ▶ 場所を変えてパークトロニックが作動するか確認してください。

アクティブパーキングアシスト

全体的な注意事項

アクティブパーキングアシストは超音波により駐車を支援するシステムです。車両の両側の道路を測定します。駐車マークは、適切な駐車スペースを示します。駐車している間、または駐車スペースから出るとき、ステアリング操作への介入およびブレーキの適用により運転者を補助します。パークトロニックも利用できます（▷277 ページ）。

重要な安全上の注意事項

アクティブパーキングアシストは単なる支援にすぎません。すぐ周辺に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。操作範囲に人や動物、物がないことを確認してください。

パークトロニックが解除されているときは、アクティブパーキングアシストも使用できません。

警告

駐車するときや駐車スペースから出るときは、車両がはみ出し、対向車線に入ることがあります。他の道路使用者と衝突する可能性があります。事故の危険性があります。

他の道路利用者に注意してください。必要な場合は停車して、アクティブパーキングアシストを解除してください。

! 避けられないときは、ゆっくりと鋭角でない角度で縁石などの障害物を乗り越えてください。ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

アクティブパーキングアシストは、以下のような駐車するのに適さないスペースを表示することがあります。

- 駐車または停車が禁止されている
- 私道の手前または建物の出入り口
- 路面が駐車するのに適してない場所

駐車のヒント：

- 狭い道路では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- ゴミが散らかっていたり、草が茂っている駐車スペースは、確認や測定が不正確になることがあります。
- トレーラーけん引部が一部を占有している駐車スペースを識別することができなかったり、測定が不正確になることがあります。
- 雪や激しい雨により、正しく計測されていない駐車スペースに誘導されることがあります。
- 駐車操作を行なっている間は、パークトロニック（▷278 ページ）の警告表示に注意してください。
- 運転者はいつでもステアリング操作に介入して修正できます。その場合はアクティブパーキングアシストが解除されます。
- 車両からはみ出ている荷物を運んでいるときは、アクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、決してアクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。これは車両の駐車動作に直接影響を与えます。

アクティブパーキングアシストは以下のような駐車スペースで使用してください。

- 進行方向と平行または直角である
- カーブしていないまっすぐな道にある
- 歩道などでなく、道路と同じ高さにある

駐車スペースの検知

駐車スペースが計測されるとき、アクティブパーキングアシストの検知範囲より上にある障害物は検知されません。例えば、車両から突き出た荷物や車両後部、積載用スロープなどは、駐車スペースを計測するときに考慮されません。

⚠ **警告**

検知範囲上に障害物がある場合：

- 作動中のパーキングアシストのステアリング操作が早すぎることがあります。
- 車両が障害物の前で停車しないことがあります。

衝突する原因となる可能性があります。

事故の危険性があります。

検知範囲上に障害物があるときは、停止してアクティブパーキングアシストを解除してください。

検知範囲に関してのさらなる情報は、(▷277 ページ)をご覧ください。

アクティブパーキングアシストは、以下の場合は進行方向と直角なスペースでの駐車を支援しません。

- 2 つの駐車スペースが直接隣り合って位置している
- 駐車スペースが低い縁石のような低い障害物のすぐ隣にある
- 前進して駐車する

アクティブパーキングアシストは、以下の場合は進行方向と平行または直角なスペースでの駐車を支援しません。

- 駐車スペースが縁石の上にある
- 駐車スペースが、葉または芝生の歩道ブロックによって遮られているとシステムが認識した
- その中で転回するには車両にとってスペースが小さすぎる
- 駐車スペースが木、柱またはトレーラーなどの障害物によって囲まれている

① 左側に検知された駐車スペース
② 駐車マーク
③ 右側に検知された駐車スペース

前進しているときは、アクティブパーキングアシストは自動的に作動します。約 35km/h 以下の速度でシステムは作動します。作動している間は、車両両側の駐車スペースを独自に見つけて、測定します。

アクティブパーキングアシストは以下のときにのみ、駐車スペースを検出します。

- 進行方向と平行または直角である
- 進行方向と平行で、1.5m 以上の幅がある
- 進行方向と平行で、車両より 1.0m 以上の長さがある
- 進行方向と直角で、車両より 1.0m 以上の幅がある

ℹ 駐車スペースが進行方向に対して直角である場合は、アクティブパーキングアシストはその長さを計測できないことに注意してください。車両が駐車スペースに合っているかどうかを、運転者が判断する必要があります。

30km/h 以下で走行しているときは、メーターパネルにステータスインジケーターとして駐車マーク ② が表示されます。駐車スペースが検出されたときは、右または左向きの矢印も表示されます。標準では、アクティブパーキングアシストは助手席側の駐車スペースのみを表示します。運転席側の方向指示灯を作動させるとすぐに、運転席側の駐車スペースが表示されます。運転席側に駐車するときは、マルチファンクションステアリングの OK スイッチを押してアクティブパーキングアシストの使用を確認するまで、方向指示灯を作動させたままにしなければなりません。システムは、駐車スペースが進行方向に平行か、または直角かどうかを自動で測定します。

駐車スペースは、駐車スペースを過ぎてから約 15m 離れるまで表示されます。

駐車

⚠ **警告**

車両を離れるときに、アクティブパーキングアシストのみで停車していると、以下のときに動き出すおそれがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- エンジンルームの電気装備や、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などにより、車両のアクセルペダルが踏まれたとき

事故の危険性があります。車両を離れる前に、必ず車両が動き出さないようにしてください。

ℹ パークトロニックが障害物を検知すると、アクティブパーキングアシストは駐車操作を行なっている間に自動的にブレーキ操作を行ないます。運転者には、適切なブレーキ操作を行なう責任があります。

▶ メーターパネルに希望の駐車スペースを示すマークが表示されたら、停車します。

▶ トランスミッションをポジション **R** にシフトします。

マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト開始 はい : OK いいえ : ⮌ というメッセージが表示されます。

▶ **操作を中止する：**マルチファンクションステアリングの ⮌ スイッチを押すか、発進します。

または

▶ **アクティブパーキングアシストを使用して駐車する：**マルチファンクションステアリングの OK スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認 というメッセージが表示されます。

▶ マルチファンクションステアリングを放します。

▶ いつでもブレーキを効かせられる準備をして、車両を後退させます。後退するときは、7km/h 以下の速度で走行してください。この速度を超えると、アクティブパーキングアシストが解除されます。

車両が駐車スペースの後端に近づいたとき、アクティブパーキングアシストは車両が停止するまでブレーキ操作をします。

狭い駐車スペースではさらに操作が必要となる場合があります。

マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト作動中 D にシフト周囲を確認 というメッセージが表示されます。

▶ 車両が停止している間に、トランスミッションをポジション D にシフトします。

アクティブパーキングアシストはただちに逆方向にステアリング操作を行ないます。

マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認 というメッセージが表示されます。

ⓘ ステアリング操作が完了してから発進することにより、最適な結果が得られます。

▶ 前進して、いつでもブレーキを効かせられる準備をします。

アクティブパーキングアシストは車両が停止するまでブレーキ操作を行ないます。

マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト作動中 R にシフト周囲を確認 というメッセージが表示されます。

駐車手順が完了するとすぐに、マルチファンクションディスプレイに ﾊﾟｰｷﾝｸﾞｱｼｽﾄ終了 というメッセージが表示され、確認音が鳴ります。ここで車両が駐車されます。運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。アクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除されます。

アクティブパーキングアシストは、ステアリング介入とブレーキ操作による支援をおこなわなくなります。アクティブパーキングアシストが終了したときは、ご自身で再びステアリング操作とブレーキ操作を行なってください。パークトロニックは引き続き使用できます。

駐車の知識：

- 駐車後の駐車スペースでの車両の位置決めは、様々な要因に左右されます。これには、前後に停車している車両の位置や形状、スペースの状態が含まれます。そのため、アクティブパーキングアシストは駐車スペース内の最適な位置よりも奥または手前の位置に誘導することがあります。また縁石をまたいだり、縁石に乗り上げることもあります。必要であれば、アクティブパーキングアシストを解除してください。
- あらかじめシフトポジション D を選択することもできます。車両の向きが変わり、駐車スペースの奥の方まで移動しなくなります。トランスミッションの変更を素早く行なうと、駐車操作が中止されます。この位置からは適切な位置に駐車することができなくなります。

駐車スペースからの退出

駐車スペースから出るときにアクティブパーキングアシストが支援できるためには、以下を確認してください。

- 駐車スペースの境界がフロントとリアで十分に高くなければならない。例えば、縁石が低すぎてはいけない
- 車両を駐車スペースに入れるときにスタートポジションに対して車両の位置は 45° の角度を超えてはいけないので、駐車スペースの境界は幅が広すぎない

走行と駐車

- 転回距離が約 1.0m 以上であること

アクティブパーキングアシストは、進行方向と平行に車両を駐車した場合に限り、駐車場を出るときも運転者を支援することができます。

ⓘ 車両が駐車スペースから出ている間にパークトロニックが障害物を検知した場合は、アクティブパーキングアシストは自動的にブレーキを効かせます。運転者には、適切なブレーキ操作を行なう責任があります。

▶ エンジンを始動してください。

▶ 出る方向の方向指示灯を作動させます。

▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。

マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト開始 はい：OK いいえ：⮌ というメッセージが表示されます。

▶ **操作を中止する：**マルチファンクションステアリングの ⮌ スイッチを押すか、発進します。

または

▶ **アクティブパーキングアシストを使用して駐車スペースから出る**：マルチファンクションステアリングの OK スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認 というメッセージが表示されます。

▶ マルチファンクションステアリングを放します。

▶ いつでもブレーキを効かせられる準備をして発進します。駐車スペースから出るときは、最高速度が約 7km/h を超えないようにしてください。この速度を超えると、アクティブパーキングアシストが解除されます。

▶ 車両が停止している間に、必要であれば、またはメッセージに従ってトランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。

アクティブパーキングアシストはただちに逆方向にステアリング操作を行ないます。マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認 というメッセージが表示されます。

ⓘ ステアリング操作が完了してから発進することにより、最適な結果が得られます。

作動後に後退する場合は、ステアリングを直進位置に動かします。

▶ パークトロニックの警告表示による指示に従い、必要に応じて数回、前進および後退します。

駐車スペースから完全に出たら、ステアリングを直進位置に動かします。確認音が聞こえ、マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト終了 というメッセージが表示されます。ご自身でステアリング操作を行ない、交通に合流する必要があります。パークトロニックは引き続き使用できます。

車両が駐車スペースから完全に出る前に、ステアリング操作を引継ぐことができます。これは、すでに駐車スペースから出たと考えられる場合などに役立ちます。

アクティブパーキングアシストの中止

▶ マルチファンクションステアリングの動きを止めるか、またはご自身でステアリング操作を行ないます。アクティブパーキングアシストはすぐに中止されます。マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト中止 というメッセージが表示されます。

または

▶ パークトロニックスイッチを押します (▷279 ページ)。

パークトロニックが解除され、アクティブパーキングアシストがただちに中止されます。マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト中止というメッセージが表示されます。

アクティブパーキングアシストは以下のときに自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせた
- シフトポジション **P** が選択された
- アクティブパーキングアシストを使用して駐車することができなくなった
- 7km/h 以上で走行した
- 車輪が空転して ESP® が作動したか、故障した。メーターパネルの [警告灯] 警告灯が点灯します。

警告音が鳴ります。駐車マークが消え、マルチファンクションディスプレイに パーキングアシスト中止 というメッセージが表示されます。

アクティブパーキングアシストが解除されたときは、ご自身で再びステアリング操作とブレーキ操作を行なってください。

システムが故障した場合、車両は停止するまでブレーキを効かせます。走行するには、もう一度アクセルペダルを踏んでください。

パーキングアシストリアビューカメラ

全体的な注意事項

パーキングアシストリアビューカメラ ① はトランクリッドのハンドルにあります。

パーキングアシストリアビューカメラ ① は、映像による駐車およびステアリング操作の支援です。システムは、COMAND ディスプレイに車両後方の映像をガイドライン入りで表示します。車両後方エリアは、ルームミラーに写るような鏡像で表示されます。

ℹ COMAND ディスプレイに表示されるメッセージの文字は、言語設定により異なります。以下はパーキングアシストリアビューカメラの COMAND ディスプレイのメッセージの例です。

重要な安全上の注意事項

パーキングアシストリアビューカメラは単なる支援にすぎません。すぐ周辺に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

以下のような状況では、パーキングアシストリアビューカメラは機能しなかったり、制限された方法で機能します。

- トランクリッドが開いている場合
- 激しい雨、雪または霧で
- 夜や非常に暗い場所で
- カメラが非常に明るい光に照らされている場合
- 周囲が蛍光灯の光、または LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）
- 冬に暖かい車庫に入るなど、急激な温度変化があった場合
- カメラのレンズが汚れている、または遮られている場合。清掃に関する注意事項に従ってください（▷457 ページ）。
- 車両の後部が損傷している場合。この場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。

車両後部の追加のアクセサリー（ライセンスプレートホルダー、自転車ラックなど）のために、パーキングアシストリアビューカメラの視界および他の機能が制限される可能性があります。

ⓘ パーキングアシストリアビューカメラは、フラップによって雨やほこりから保護されています。パーキングアシストリアビューカメラが作動しているときは、このフラップが開きます。

フラップは以下のときに再度閉じます：

- 操作手順を終えた
- エンジンを停止した

清掃に関する注意事項に従ってください（▷457 ページ）。

技術的な理由のため、パーキングアシストリアビューカメラが停止した後にフラップが短時間開いたままになることがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの作動 / 停止

▶ **作動させる：**イグニッション位置が **2** にあることを確認します。

▶ COMAND システムで リバース連動 機能が選択されていることを確認します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

▶ リバースギアに入れます。

パーキングアシストリアビューカメラのフラップが開きます。車両後方の範囲がガイドラインとともに COMAND ディスプレイに表示されます。

操作手順中は常にパーキングアシストリアビューカメラの映像が表示されます。

停止する：トランスミッションを **P** にシフトした場合、または短距離を前進した後に、パーキングアシストリアビューカメラは停止します。

COMAND ディスプレイの表示

パーキングアシストリアビューカメラは、障害物の歪んだ画像を表示したり、それらを正しく、または全く表示しないことがあります。以下の場所にある障害物はパーキングアシストリアビューカメラで表示されません。

- リアバンパーの近接部
- リアバンパーの下
- トランクハンドルのすぐ上の範囲

! 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くにあるように見えることがあります。

- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトーイングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールカップリング
- 大型車のリア部
- 傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。障害物に近付くときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。

① 車両後部から約 4.0m の距離の黄色ガイドライン
② ステアリングをまわしていないときの、ドアミラーを含む車幅を示す白色のガイドライン（固定）
③ そのときのステアリング角度での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可動）
④ そのときのステアリング角度での、タイヤの進路を示す黄色のレーンマーク（可動）

⑤ 車両後部から約 1.0m の距離の黄色のガイドライン
⑥ 車両中央軸（補助マーカー）
⑦ バンパー
⑧ 車両後部から約 0.30m の距離の赤色のガイドライン

ガイドラインは、トランスミッションがポジション **R** にあるときに表示されます。

規定の距離は、地面の高さにある障害物にのみ適用されます。

① フロントの警告表示
② パークトロニック補助計測の作動準備インジケーター
③ リアの警告表示

パークトロニックが作動しているときは（▷278 ページ）、COMAND ディスプレイに補助計測の作動準備インジケーター②が表示されます。パークトロニック警告表示が作動または点灯している場合は、それに応じて警告表示①および③も COMAND ディスプレイ内で作動または点灯します。

後退駐車機能

ステアリングをまわさないで、まっすぐ後退駐車する

① ステアリングをまわしていないときの、ドアミラーを含む車幅を示す白色のガイドライン（固定）
② そのときのステアリング角度での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可動）
③ 車両後部から約 1.0m の距離の黄色のガイドライン
④ 車両後部から約 0.30m の距離の赤色のガイドライン

▶ パーキングアシストリアビューカメラが作動していることを確認してください（▷287 ページ）。

レーンおよびガイドラインが表示されます。

▶ 白色のガイドライン①を参考にして、車両が駐車スペースに収まるか確認します。

▶ 白色のガイドライン①を目安に、停止位置まで注意しながら後退します。赤色のガイドライン④が駐車スペースの後端にきます。車両は駐車スペースとほぼ平行になります。

ステアリングをまわして直角に後退駐車する

① 駐車スペースのマーク
② そのときのステアリング角度での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可動）

▶ 駐車スペースを通過して、車両を停止します。

▶ パーキングアシストリアビューカメラが作動していることを確認してください（▷287 ページ）。

レーンおよびガイドラインが表示されます。

▶ 車両が停止している間に、黄色のガイドライン②が駐車スペースマーク①に達するまで、駐車スペースの方向にステアリングをまわします。

▶ ステアリングをその位置で保持し、注意しながら後退します。

① そのときのステアリング角度での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可動）

▶ 駐車スペースのほぼ正面の位置で停車します。

白色のレーンが駐車スペースのマークとできるだけ平行になるようにします。

① そのときのステアリング角度での、白色のガイドライン
② 駐車スペースのマーク

▶ 車両が停止している間に、ステアリングを直進位置にまわします。

① 車両後部から約 0.30m の距離の赤色のガイドライン
② ステアリングをまわさないときの白色のガイドライン
③ 駐車スペースの後端

▶ 後端位置に達するまで、注意しながら後退します。

赤色のガイドライン ① が駐車スペースの後端 ③ にきます。車両は駐車スペースとほぼ平行になります。

広角機能

① 広角表示機能のマーク
② パークトロニック警告表示

パーキングアシストリアビューカメラを使用して広角表示を選択することもできます。

▶ 広角機能が選択されているときに、COMAND コントローラーをまわしてマーク ① を選択します。

走行と駐車

パークトロニックが作動可能なときは(▷278 ページ)、車両のマーク ② が COMAND ディスプレイに表示されます。パークトロニック警告表示が作動している場合は、COMAND ディスプレイの警告表示 ③ がそれぞれ黄色または赤色で点灯します。

障害物検知

パーキングアシストリアビューカメラは、動いていたり静止している障害物を検知することができます。例えば、歩行者または他の車両が検知された場合は、これらの障害物はバーでマークされます。車両が動いているときにのみ、システムは静止している障害物を検知し、マークすることができます。対照的に、動いている障害物は常に検知され、マークされます。

機能を使用できるようにするためには、COMAND システムで設定されていなければなりません（デジタル版取扱説明書をご覧ください)。

360°カメラシステム

全体的な注意事項

360°カメラシステムは 4 つのカメラで構成されるカメラシステムです。システムは以下のカメラからの映像を判断します。

- リアカメラ
- フロントカメラ
- ドアミラーの 2 つのカメラ

カメラは車両周辺の状況を映し出します。システムは､駐車時や見通しの悪い出口などで運転者を支援します。

360°カメラシステムの映像は、COMAND ディスプレイに全画面表示または 6 種類の分割画面表示で表示することができます。分割画面表示には車両の上面表示も含まれます。この表示は、装着されているカメラにより提供されたデータから生成されます（バーチャルカメラ)。

6 つの分割画面表示は以下とおりです：

- 上面表示とリアカメラからの映像（130°表示角度）
- 上面表示とフロントカメラからの映像（最大ステアリング角度を表示しない 130°表示角度）
- 上面表示とリア拡大表示
- 上面表示とフロント拡大表示
- 上面表示と後面ミラーカメラからの映像（後輪表示）
- 上面表示と前面ミラーカメラからの映像（前輪表示）

機能が設定されていて、トランスミッションをポジション **D** または **R** から **N** にシフトしたときは、360°表示の前に作動していた映像が COMAND ディスプレイに表示されます。可動式のガイドラインが非表示になります。

シフトポジションを **D** と **R** の間で切り替えたときは、直前に選択されていたフロントまたはリアビューが表示されます。

重要な安全上の注意事項

360°カメラシステムは単なる支援に過ぎず、障害物の歪んだ映像を表示したり、それらを正しく、または、まったく表示しないことがあります。360°カメラシステムは、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

運転者には安全を確保する責任があり、駐車や運転操作を行なうときは、常に周囲の状況に注意しなければなりません。これには、車両の後方、前方および両側が含まれます。さもないと、運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。

360° カメラシステムは、以下のときはまったく機能しなくなるか、制限された方法でのみ機能します。

- ドアが開いている場合
- ドアミラーが格納されている場合
- トランクリッドが開いている場合
- 激しい雨、雪または霧で
- 夜や非常に暗い場所で
- カメラに強い光が直接当たっている場合
- 周囲が蛍光灯の光、または LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）
- 冬に暖かい車庫に入ったときなど、急激な温度変化が原因でカメラが曇る場合
- カメラのレンズが汚れていたり、覆われている場合
- カメラ装着部の車両の構成部品が損傷した場合。このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。

このような場合は、360° カメラシステムを使用しないでください。さもないと、車両を駐車しているときに、他の人にけがをさせたり、物を損傷するおそれがあります。

ガイドラインは常に、路面の高さで表示されます。

フロントおよびリアカメラは、それぞれフラップにより保護されています。360° カメラシステムが作動しているときは、これらのフラップが開きます。清掃に関する注意事項に従ってください （▷458 ページ）。技術的な理由のため、360° カメラシステムが停止した後にフラップが短時間開いたままになることがあります。

作動条件

360° カメラシステムの映像は、以下のときに表示されます。

- COMAND システムが作動している（デジタル版取扱説明書をご覧ください）
- 360° カメラ が作動している。

ⓘ 30km/h 以上の速度で 360° カメラシステムが作動している場合は、警告メッセージが表示されます。

以下の場合は、警告メッセージが消えます。

- 車両の速度が 30km/h 以下に下がる。その後に 360° カメラシステムが作動します。
- [OK] スイッチでメッセージを確認する

機能スイッチを使用して 360° カメラシステムを作動させる

▶ スイッチ ① を押します。シフトポジション **D** または **R** のいずれかが選択されているかによって、以下の画面が表示されます。

- フロントカメラからの映像の全画面表示
- リアカメラからの映像の全画面表示

ⓘ 全画面表示から分割画面表示に切り替えることもできます。

COMAND システムを使用して 360° カメラシステムを作動させる

▶ **車両のカルーセルから** 360° ｶﾒﾗ**を選択する：**コントローラーをまわして、押します。シフトポジション **D** または **R** のいずれかが選択されているかによって、以下の画面が表示されます：

- 上面表示およびフロントカメラからの映像による分割画面表示、または
- 上面表示およびリアカメラからの映像による分割画面表示

COMAND コントローラーに関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

リバースギアを使用して 360° カメラシステムを作動させる

リバースギアに入れることで、自動的に 360° カメラシステムの映像が表示されます。

▶ イグニッション位置が **2** であることを確認します。

▶ COMAND システムで ﾘﾊﾞｰｽ連動 機能が選択されていることを確認します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

▶ **360° カメラシステムの映像を表示する：**リバースギアに入れます。

COMAND ディスプレイに分割画面モードで車両後方エリアが表示されます。車両の上面表示およびリアカメラからの映像が表示されます。

分割画面または全画面表示を選択する

分割画面の間で表示を切り替える：

▶ **車両アイコンのある行に切り替える：**コントローラーをスライドします ↑◎。

▶ **車両アイコンを選択する：**コントローラーをまわします。

全画面表示に切り替える：

▶ コントローラーをまわして押し、180° ﾋﾞｭｰ を選択します。

ⓘ 全画面表示は以下の表示でのみ使用可能です。

- リアカメラからの映像がある上面表示
- フロントカメラからの映像がある上面表示

COMAND ディスプレイの表示

重要な安全上の注意事項

360°カメラシステムは障害物の歪んだ映像を表示したり、それらを正しく、または、まったく表示しないことがあります。以下の場所では、システムは障害物を表示しません。

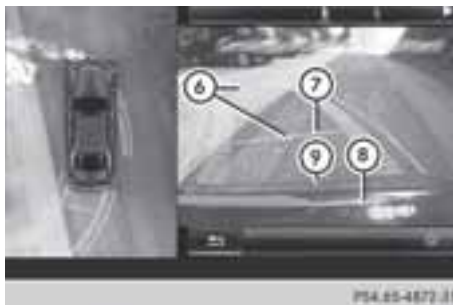
- フロントおよびリアバンパーの下
- フロントおよびリアバンパーのすぐ近く
- トランクリッドのハンドルの真上
- ドアミラーの近接部
- バーチャル上面表示での様々なカメラ間の推移エリア

! 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くにあるように見えることがあります。

- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトーイングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールカップリング
- 大型車のリア部
- 傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。障害物に接近するときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。

パーキングアシストリアビューカメラからの映像のある上面表示

① 車両後部から約 4.0m の距離の黄色ガイドライン
② 上面表示とリアカメラ映像のある分割画面の設定アイコン
③ 最大ステアリング角度でのガイドライン
④ そのときのステアリング角度での、タイヤの進路を示す黄色のレーンマーク（可動）
⑤ そのときのステアリング角度での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可動）

⑥ 車両中央軸（補助マーカー）
⑦ 車両後部から約 1.0m の距離の黄色のガイドライン
⑧ バンパー
⑨ 車両後部から約 0.30m の距離の赤色のガイドライン

ガイドラインは、トランスミッションがポジション **R** にあるときに表示されます。

規定の距離は、地面の高さにある障害物にのみ適用されます。

フロントカメラからの映像のある上面表示

① 上面表示とフロントカメラ映像の分割画面の設定アイコン
② 車両前部から約 4.0m の距離の黄色のガイドライン
③ そのときのステアリング角度での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可動）
④ そのときのステアリング角度での、タイヤの進路を示す黄色のレーンマーク（可動）
⑤ 車両前部から約 0.30m の距離の赤色のガイドライン
⑥ 車両前部から約 1.0m の距離の黄色のガイドライン

上面表示とリア拡大表示

① 上面表示とリアカメラ拡大映像の分割画面の設定アイコン
② 車両後部から約 0.30m の距離の赤色のガイドライン

この表示は、車両後方からの距離を確認するときに運転者を支援します。

ⓘ この設定は、フロント拡大表示として選択することもできます。

ミラーカメラからの映像のある上面表示

① 上面表示と前面ミラーカメラの設定アイコン
② ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（車両右側）
③ ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（車両左側）

ⓘ 後方表示に設定したミラーカメラを選択することもできます。

広角機能

① リアカメラ映像のある全画面設定アイコン
② パークトロニック警告表示

パークトロニックが作動している場合は（▷279 ページ）、COMAND ディスプレイの警告表示 ② も作動するか、またはそれに応じて点灯します。

パークトロニックは以下のように表示されます。

- 分割画面モードの上面表示では、車両マーク周囲の赤色または黄色の四角い枠で

または

- 全画面モードでは、車両マーク周囲の赤色または黄色の四角い枠で下部右側に

ⓘ 全画面表示モードは、フロント表示でも選択可能です。

出口から出たり、交差点の視界が制限されているときなどに、この表示を選択します。

ⓘ 分割画面表示を選択するためには、ディスプレイで ⮌ マークを選択し、COMAND コントローラーで確定します。

360°カメラシステムの表示を停止する

機能を作動させていて、車両が 30km/h 以上になると、機能はすぐに停止します。360°カメラシステムが表示される以前に作動していた画面が、COMAND ディスプレイに表示されます。ディスプレイで ⮌ マークを選択してから、COMAND コントローラーで確定することにより、分割画面表示から 360°カメラシステムの表示を停止することもできます。

シフトポジション **P** を選択した場合も、360°カメラシステムの表示は終了します。

アテンションアシスト

全体的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を支援します。60km/h ～ 200km/h の範囲で作動します。運転者の疲労や集中力欠如の増加の典型的な兆候を検知した場合は、アテンションアシストは休憩を促します。

重要な安全上の注意事項

アテンションアシストは単なる支援にすぎません。疲労や集中力欠如を検知するのが遅すぎたり、全く検知しないことがあります。十分な休憩を取り、集中力がある運転者の代わりになるものではありません。

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。

- 走行時間が約 30 分以下の場合
- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪い場合
- 横風が強い場合
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっている場合
- 主に 60km/h 以下、または 200km/h 以上の速度で走行している場合
- ディストロニック・プラスのステアリングアシストで走行している場合
- 時刻が正しく設定されていない場合
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況の場合

走行を継続するときは、以下のときにアテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止した
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いた

アテンションレベルの表示

マルチファンクションディスプレイのアシストメニューに現在のステータス情報を表示させることができます。

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストのアシスト一覧表示を選択します（▷339 ページ）。

以下の情報が表示されます。

- 最後の休憩からの走行時間
- 高いから低いまで 5 段階のバー表示で表示される、アテンションアシストによって判断されるアテンションレベル
- アテンションアシストがアテンションレベルを算出できず、警告を発することができない場合は、システム停止 というメッセージが表示されます。60km/h 以下、または 200km/h 以上の速度で走行している場合などは、バー表示が変更されます。

アテンションアシストの設定

▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアテンションアシストを設定します（▷342 ページ）。

システムは、選択された以下の設定によって、運転者のアテンションレベルを判断します。

標準を選択：アテンションレベルを判断するシステムの感度が標準に設定されます。

高感度を選択：感度がより高く設定されます。アテンションレベルの検知が高感度となり、運転手がより早く警告されます。

エンジンがかかっているときにアテンションアシストが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧表示に ☕ マークおよび OFF が表示されます。

アテンションアシストが解除されているときは、エンジンが停止した後に自動的に再設定されます。選択される感度は、最後に設定した選択に対応します（標準 / 高感度）。

マルチファンクションディスプレイの警告

疲労または集中力欠如の増加が検知された場合は、マルチファンクションディスプレイに アテンションアシスト 休憩しましょう！ という警告が表示されます。

マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージに加えて、警告音が鳴ります。

▶ 必要であれば、休憩を取ってください。

▶ ステアリングの OK スイッチを押して、メッセージを確定します。

長時間の運転では、適切な休憩をするために、適切な時間に定期的に休憩を取るようにしてください。休憩を取らず、アテンションアシストがなお集中力欠如の増加を検知している場合は、15 分後以降に再度警告されます。これは、アテンションアシストが疲労または集中力低下の増加の兆候を検知した場合にのみ実行されます。

警告がマルチファンクションディスプレイに表示された場合は、COMAND システムでガソリンスタンドの検索が実行されます。ガソリンスタンドの選択、およびこのガソリンスタンドへのナビゲーションの開始を行なうことができます。この機能は COMAND システムで設定および解除できます。

ナイトビューアシストプラス

全体的な注意事項

通常のヘッドライトの照明に加え、ナイトビューアシストプラスは赤外線を利用して路面を照射します。ナイトビューアシストプラスのカメラ ② は赤外線を検知して、マルチファンクションディスプレイにモノクロ画像を表示します。ディスプレイに表示される画像は、ハイビームヘッドライトにより照らされた道路に相当するものです。これにより、進行方向の道路状況や障害物を素早く確認することができます。歩行者検知が作動しているときは、システムによって検知された歩行者がナイトビューアシストプラスの表示に小さな角枠とともに、色付きで視覚的に強調されます。

ℹ 赤外線は人の目に見えないため、対向車を眩惑させることはありません。そのため、対向車両がいる場合でもナイトビューアシストプラスを作動させることができます。

さらに、ラジエターグリルには熱検知カメラ ① が内蔵されています。カメラは歩行者および動物を検知するために役立ちます。熱検知カメラに関する注意事項に従ってください（▷459 ページ）。

重要な安全上の注意事項

ナイトビューアシストプラスはあくまでも支援にすぎず、注意を払った運転の代わりになるものではありません。ナイトビューアシストプラスの映像のみに頼らないでください。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。

以下のときはシステムが影響を受けたり、作動しないことがあります。

- 雪、雨、霧、霧雨などで視界が悪い場合
- フロントウインドウが汚れている、曇っている、またはステッカーなどでカメラの周辺が覆われている場合
- ラジエターグリルの熱検知カメラが汚れている、曇っている、または覆われている場合
- カーブ、頂上または下り坂勾配で
- 高い外気温度で

ナイトビューアシストプラスは、車両のすぐ前方または横の物を表示することはできません。

他の障害物が歩行者および動物と同じようにマークされる、または強調されることがあります。

歩行者および動物検知機能

全体的な注意事項

以下の場合は、歩行者または動物検知が困難になったり、または作動しないことがあります。

- 歩行者または動物が、駐車している車両などの他の障害物によって部分的にまたは全体的に隠されている
- 強い光の反射などによって、ナイトビューアシストプラス表示の歩行者または動物の輪郭が完全でない、または切れている
- 歩行者または動物が周囲に溶け込んでいる
- 特殊な衣服または他の物のために、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなる
- 座っている、かがんでいる、または横たわっているなど、歩行者が立っていない
- その大きさや形のために、動物がシステムによって検知されていない

歩行者および動物検知機能は、32℃以上の温度で解除されます。そしてスポットライト機能およびナイトビューアシストプラスの自動作動が作動しなくなります。

歩行者検知機能

① ナイトビューアシストプラスの映像
② 歩行者検知作動の待機マーク
③ フレーム
④ 検知された歩行者

ナイトビューアシストプラスは、身体の輪郭や人の直立姿勢などの典型的な特徴を使用して歩行者を検知することができます。

歩行者検知機能は以下のときに自動的に作動します。

- ナイトビューアシストプラスが作動している
- 約 10km/h 以上で走行している
- 周囲が暗い

歩行者検知が作動している場合は、待機マーク ② が表示されます。検知された人は、フレーム ③ で強調されます。歩行者検知システムが歩行者を検知したときは、フロントウインドウ越しに前方を直接確認してください。ディスプレイ表示だけでは障害物や歩行者までの距離を正確に把握することはできません。

動物検知機能

動物は、以下の状況で検知されます。

- 周囲が暗い
- 市街地の外側である
- 外気温度が 32 ℃ 以下である

ナイトビューアシストプラスは、典型的な特徴を使用して、シカ、牛または馬のような大きな動物を認識することができます。

システムは以下は検知しません。

- 犬および猫のような小さな動物
- 輪郭が明確に認識できない動物

検知されたときは、動物は色の付いた小さな角枠でマークされます。歩行者検知と対照的に、マルチファンクションディスプレイには独立した待機マークはありません。

ナイトビューアシストプラスの作動 / 停止の切り替え

作動条件

以下のすべての条件に合った場合にのみ、ナイトビューアシストプラスを作動させることができます。

- イグニッションがオンである（▷216 ページ）、またはエンジンがかかっている
- ライトスイッチが AUTO または ≣D の位置である
- リバースギアに入っていない

ナイトビューアシストプラスの作動

▶ スイッチ ① を押します。

ナイトビューアシストプラスの表示がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

ℹ 車両が 10km/h 以上の速度で走行していて、暗いところでのみ、赤外線照射ヘッドライトは作動します。これは、停車している間は完全な視界を得ていないことを意味しています。赤外線照射ヘッドライトは、5km/h 以下の速度で解除されます。ナイトビューアシストプラスの画像は、スイッチ ① を押して解除するまで表示され続けます。

ナイトビューアシストプラスの自動作動

ナイトビューアシストプラスメニューを経由して、オプションの ナイトビューアシストオートスタート を選択できます。歩行者および動物検知機能は、ナイトビューアシストプラスの画像が表示されていないときにも作動したままになります。暗く、照らされていない環境で 60km/h 以上で走行しているときは、歩行者または動物が検知されるとただちに、マルチファクションディスプレイにナイトビューアシストプラスの画像が自動的に表示されます。

▶ アシストメニューで、ナイトビューアシストプラスの自動作動を設定します（▷341 ページ）。

ナイトビューアシストプラスの解除

▶ スイッチ ① を押します。

ナイトビューアシストプラスの表示がマルチファンクションディスプレイから消えます。ナイトビューアシストプラスが解除されます。

ナイトビューアシストプラスのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ナイトビューアシストプラスの画質が低下している。	フロントウインドウの内側が曇っている。 ▶ カメラカバーを下に倒してください（▷459 ページ）。 ▶ フロントウインドウの曇りを取ってください（▷204 ページ）。
	フロントウインドウが凍結している。 ▶ フロントウインドウの氷を取り除いてください(▷204 ページ)。
	ワイパーの汚れがフロントウインドウに付着している。 ▶ ワイパーブレードを交換してください（▷188 ページ）。
	洗車場で洗車した後に、フロントウインドウに汚れが付着している。 ▶ フロントウインドウを清掃してください（▷456 ページ）。
	フロントウインドウのカメラのレンズ部分が飛び石により損傷した。 ▶ フロントウインドウを交換してください。
歩行者および動物検知機能が作動しない。	ラジエターグリルの赤外線カメラが汚れている。 ▶ 柔らかい布と水を使用して、赤外線カメラを清掃してください。

アクティブブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットは、左右の後ろ向きの2つのレーダーセンサーで、運転者には見えない車両のいずれか一方のエリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。車線変更するために対応する方向指示灯を作動させた場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告も発せられます。側方衝突の危険性が検知された場合は、修正ブレーキが衝突の回避を支援することがあります。進路修正ブレーキの適用前に、アクティブブラインドスポットアシストは進行方向および側方の空いているスペースを測定します。そのためには、アクティブブラインドスポットアシストは前向きのレーダーセンサーを使用します。

アクティブブラインドスポットアシストは、約30km/h以上の速度で支援を行ないます。

重要な安全上の注意事項

アクティブブラインドスポットアシストは単なる支援にすぎず、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは以下のような車両には反応しません。

- 追い越してくる際に、側面に近づき過ぎて死角に入った車両
- 接近および追い越しを行なう速度差が非常に大きいとき

この場合、アクティブブラインドスポットアシストは警告も介入も行ないません。

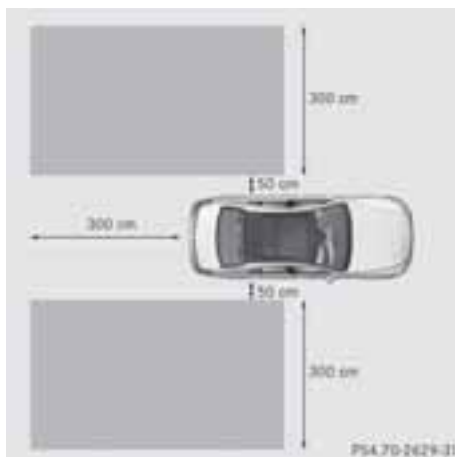
事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側に安全な車間距離を維持してください。

レーダーセンサー

アクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、前後のバンパーおよびラジエターグリルのカバー裏側に内蔵されています。バンパーとラジエターグリルのカバーに、汚れや氷、泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス·ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。さもないと、アクティブブラインドスポットアシストが正しく機能しなくなることがあります。

モニター範囲

> ⚠ **警告**
>
> アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。事故の危険性があります。
>
> 他の道路使用者や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。

アクティブブラインドスポットアシストは、図に示すように車両後方と真横の約3.0mまでの範囲をモニターします。以下のときには、車両の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雨、雪または霧雨などのため視界が悪い

モニター範囲にある車両は検知されません。

アクティブブラインドスポットアシストはオートバイや自転車のような幅の狭い車両を検知しなかったり、非常に遅れてからのみ検知することがあります。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。これは、お客様の車両に近い方の車線の外端部を車両が走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または類似の連続している車線境界物の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トレーラーなどの長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

警告表示

① 警告表示

アクティブブラインドスポットアシストは約30km/h以下の速度では作動しません。モニター範囲にある車両は検知されません。

30km/h 以上の速度でアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲内で車両が検知された場合は、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。この警告は、後方から、または側方から車両がアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲に入ってきたときに常に点灯します。車両を追い越すときは、速度差が 12km/h 以下の場合にのみ警告が発せられます。

リバースギアを選択している場合は、アクティブブラインドスポットアシストは作動しません。

警告灯の明るさは、周囲の明るさに自動的に合わせられます。

アクティブブラインドスポットアシストが設定されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧の車両脇に、後方に発信されるレーダー波 ② が灰色で表示されます。30km/h 以上の速度で、レーダー波 ② の色は緑色に変わります。

そして、アクティブブラインドスポットアシストが使用可能になります。

視覚的および聴覚的な衝突警告

運転者が車線変更のために方向指示灯を作動させ、側方のモニター範囲で車両が検知された場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告が発せられます。警告音が 2 回聞こえ、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯をそのままにしている場合は、検知された車両が赤色の警告灯 ① の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

車線修正ブレーキの適用

モニター範囲でアクティブブラインドスポットアシストが側方衝突の危険性を検知した場合は、車線修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を補助するために設計されています。

> ⚠ **警告**
>
> 車線修正ブレーキの適用は、常に衝突を防ぐわけではありません。事故の危険性があります。
>
> アクティブブラインドスポットアシストが警告を行なった、または車線修正ブレーキ適用を行なった場合は特に、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。常に車両両側に安全な車間距離を維持してください

車線修正ブレーキが適用された場合は、ドアミラーの赤色の警告灯が点滅して、警告音が 2 回鳴ります。加えて、側面衝突の危険性を強調した表示 ② がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

まれに、システムが適切でないブレーキの適用を行なうことがあります。ステアリングを反対方向に軽く操作するか、または加速した場合は、いつでも車線修正ブレーキの適用が中断されます。

車線修正ブレーキの適用は 30km/h ～ 200km/h の速度範囲で行なわれます。

以下の場合には、走行状況に合わない車線修正ブレーキの適用が行なわれることがあります。

- 車両の両側に、車両やガードレールなどの障害物がある
- 側方すぐのところに車両が接近している
- 高いコーナリング速度のスポーティな運転スタイルをとっている
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっている
- ESP® または PRE-SAFE® ブレーキのような走行安全システムが介入している
- ESP® が解除されている
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されている

アクティブブラインドスポットアシストの作動

▶ マルチファンクションディスプレイでアクティブブラインドスポットアシストが設定されていることを確認します (▷342 ページ)。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

ドアミラーの警告灯 ① が赤色に点灯します。マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧の車両の隣に、後方に発信されるレーダー波が灰色で表示されます。

アクティブレーンキーピングアシスト

全体的な注意事項

アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部のカメラシステム ① で車両前方のエリアをモニターします。レーダーセンサーシステムの支援により、車両の前方、後方および側方の他の様々なエリアもモニターされます。アクティブレーンキーピングアシストは道路の車線マークを検知し、意図せずに車線から外れる前に警告を発します。警告に反応しない場合は、車線修正ブレーキを適用することにより、車両を元の車線に戻すことができます。

マルチファンクションディスプレイの 表示単位速度 / 距離 で km を選択している場合は (▷345 ページ)、アクティブレーンキーピングアシストは 60km/h 以上の速度で作動します。miles 表示が選択されている場合は、40mph 以上の速度で作動します。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、アクティブレーンキーピングアシストは事故の危険性を軽減することはできません。また、物理的限界を超えることもできません。アクティブレーンキーピングアシストは道路および天候の状況を考慮することもできません。交通状況を認識しないことがあります。アクティブレーンキーピングアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、車線の維持に関する責任があります。

アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保ち続けることはできません。

⚠ **警告**

アクティブレーンキーピングアシストは必ずしも明確に車線ラインを検知することはできません。

このような場合、アクティブレーンキーピングアシストは以下を行なうことがあります

- 不要な警告を行ない、車両に車線修正ブレーキを効かせる
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

特にアクティブレーンキーピングアシストが警告を行なっているときは、必ず交通状況に注意を払い、車両車線内に保つようにしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨によるなど、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っている、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 雪で覆われているなど、フロントまたはリアバンパー、またはラジエターのレーダーセンサーが汚れている
- 工事エリアなどで 1 車線の車線マークが全くないか、またはいくつかある、または不明瞭である
- 車線ラインが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路に様々な状況の著しい日陰がある

隣接する車線で車両が検知されず、破線の車線マークが検知されている場合は、車線修正ブレーキの適用は行なわれません。

ステアリングの警告振動

前輪が車線マークを越えた場合は警告が行なわれます。警告はステアリングを 1.5 秒以内で振動させることにより行なわれます。

車線修正ブレーキの適用

特定の状況で車両が車線から外れた場合には、車両の片側にブレーキが軽く効きます。これは、車両を元の車線に戻すように支援するために設計されています。

⚠ **警告**

車線修正ブレーキを適用しても車両が元の車線に戻るとは限りません。事故の危険性があります。

アクティブレーンキーピングアシストが警告を行なった、または車線修正ブレーキの適用を行なった場合は特に、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。

車線修正ブレーキの適用が行なわれた場合は、マルチファンクションディスプレイに ① が表示されます。ブレーキの適用により、走行速度も少し低下します。

この機能は、60km/h ～ 200km/h の間の範囲で作動します。

実線または破線と認識された車線マークを越えて走行した後に、車線修正ブレーキは適用されます。これには、その前にステアリングの断続的な振動による警告が出されている必要があります。さらに、両側に車線マークのある車線が検知されていなければなりません。

破線の車線マークが検知されている場合は、隣接する車線で車両が検知された場合にのみ車線修正ブレーキの適用が行なわれます。対向車両、追い越し車両および隣接する車線の車両を検知できます。

ℹ 車両が元の車線に戻った後にのみ、次の車線修正ブレーキの適用が行なわれます。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行われません。

- 明確に、および活発にステアリング操作、ブレーキ操作または加速を行なっている。
- きついカーブの内側をまたいだ。
- 方向指示灯を作動させた。
- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入した。
- 高いコーナリング速度や急加速などのスポーティな運転スタイルをとっている
- ESP® が解除されている。
- トランスミッションがポジション **D** でない。
- タイヤ空気圧の減少やタイヤの不具合が検知されて表示された。
- 走行している車線で障害物が検知された。

アクティブレーンキーピングアシストは、他の道路使用者または交通状況を検知しないことがあります。以下のときはいつでも、不適切なブレーキの適用は中断されます。

- ステアリングを反対方向に軽く操作する。
- 方向指示灯を作動させる。
- 明確にブレーキ操作または加速操作を行なう。

以下のときに、車線修正ブレーキの適用は自動的に中断されます：

- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入した。
- 車線マークが検知されなくなった。

アクティブレーンキーピングアシストの設定

▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯します。マルチファンクションディスプレイに レーンキープアシストオン というメッセージが表示されます。すべての条件が満たされている場合は、警告またはステアリングの介入が行なわれることがあります。

▶ **解除する：** スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が消灯します。アクティブレーンキーピングアシストが解除されます。マルチファンクションディスプレイに レーンキープアシストオフ というメッセージが表示されます。

アクティブレーンキーピングアシストの作動内容の選択

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アシスト メニューで レーンキープアシスト 機能を選択します（▷343 ページ）。

▶ 標準 または アダプティブ を選択します。

標準 を選択したときは、以下のときは振動による警告が行なわれません：

- 方向指示灯を作動させた。このようなときは、警告が一定時間抑えられます。
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全システムが介入した。

アダプティブ を選択したときは、以下のときは振動による警告が行なわれません。

- 方向指示灯を作動させた。このようなときは、警告が一定時間抑えられます。
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全システムが介入した。
- キックダウンなどの急加速を行なった。
- 急ブレーキを効かせた。
- 障害物を避けるために急に進路を変更したり、急に車線を変更するなど、活発なステアリング操作を行なった。
- きついカーブの内側をまたいだ。

車線マークを越えた場合は、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線マークに近づいた。
- 自動車道路など、道路の車線の幅が非常に広い。
- システムが実線の車線マークを検知した。

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 道路の車線の幅が狭い。
- カーブの内側をまたいだ。

ハイブリッドの操作

留意点

全体的な注意事項

ハイブリッドテクノロジーは、省燃費の内燃エンジンと強力な電気モーターを組み合わせています。ハイブリッドシステムは走行状況ごとに最も効率的な作動モードを自動的に選択します。

燃料消費を低減するために、ハイブリッドシステムは出力の要求が低いときは走行中にできるだけ頻繁に内燃エンジンを停止します。出力の要求が低いときは、電気モーターが車両に動力を供給します。出力の要求が高いときは、走行中でも内燃エンジンが始動します。車両が停止しているときは、通常は内燃エンジンは停止します。したがって、内燃エンジン車両のようなエンジンのアイドリングは、通常はありません。

発進および加速のためには、電気モーターは高電圧バッテリーに蓄積されている電力を使用して内燃エンジンをサポートします。加えて、電力は部分的な電気走行、電気冷却コンプレッサーの作動および 12V 車載電気システムをサポートするために使用されます。このようにして、ハイブリッド走行は車両の燃料消費を低減させるための支援を行ないます。

ハイブリッド作動の運転のヒントに注意してください（▷319 ページ）。

RBS（回生ブレーキシステム）

車両が動いているときにアクセルペダルを放した場合は、惰性走行による回生が開始します。セーリング機能やブレーキを効かせているときは、電気モーターはジェネレーターとして作動します。ハイブリッドテクノロジーは車両の運動エネルギーを電気に変換し、高電圧バッテリーに蓄積します。

RBS の "重要な安全上の注意事項" に従ってください（▷55 ページ）。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エンジンが自動的に停止しているときに車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。事故やけがの危険性があります。

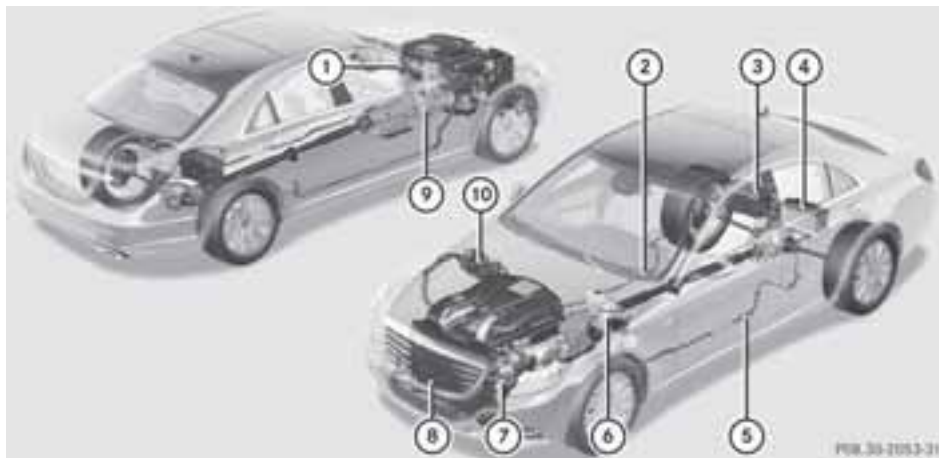
車両から降りる場合は、必ずイグニッションをオフにし、車両を動き出さないようにしてください。

車両が停止しているときにメーターパネルの緑色の READY 表示灯が点灯している場合は、内燃エンジンが自動的に停止しています。車両のシステムはすべて作動したままです。シフトポジションが **D** または **R** の間にブレーキペダルから足を放した場合は、車両が自動的に発進するおそれがあります。

ECO スタートストップ機能の READY 表示灯の注意事項に従ってください（▷320 ページ）。

電気モーターを装備したハイブリッド車両は、内燃エンジン装備車両より非常に少ない騒音を発生します。結果として、特定の状況では車両が他の道路使用者に聞こえないことがあります。これは例えば、駐車しているときにお客様の車両が他の道路使用者から見えない場合です。

他の道路使用者が予期せぬ行動を行なう可能性を考慮する必要があるため、特に予測運転のスタイルをとる必要があります。

ハイブリッドシステムの概要

① 電気式真空ポンプ
② 高電圧電気システムの電気ケーブル
③ 高電圧バッテリー
④ 12V バッテリー
⑤ 高電圧バッテリー冷却システム
⑥ 回生ブレーキシステム
⑦ 電気式冷却コンプレッサー
⑧ パワーエレクトロニクス冷却システム
⑨ 電気モーター付きトランスミッション
⑩ パワーエレクトロニクス（DC/AC コンバーターまたは DC/DC コンバーター）

ハイブリッドシステムを手動で解除することができます。高電圧切断装置に関するさらなる情報は、（▷53 ページ）をご覧ください。

メーターパネル

① RBS 警告灯（仕様により装備されません）（▷402 ページ）
② 電気モーターのパワーディスプレイ
③ 高電圧バッテリーの充電レベルディスプレイ（▷314 ページ）

表示および作動

内燃エンジンの冷却水温度表示

マルチファンクションディスプレイを使用して、冷却水温度を呼び出すことができます。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを使用して冷却水 を選択します。

電気モーターのパワーディスプレイ

電気モーターのパワーディスプレイは右側メーターパネルにあります。高電圧バッテリーの現在の充電レベルが充電レベルディスプレイ ⑤ にパーセントで表示されます。100% は、高電圧バッテリーの最高許容充電レベルに相当します。

充電レベルディスプレイ ⑤ の左および右に、以下のもう 2 つのエリアがあります。

- エリア ① ～ ②（E DRIVE）：

これは、電気モーターを使用して、またはブーストモードで走行しているときなどに、電気モーターから得られる電力を示しています。

電気モーターが作動しているときは、表示は下限 ② にあります。アクセルペダルを踏み込むと、表示は ② から ① まで埋まります。

表示が上限 ① に達したときは、内燃エンジンが始動します。表示が上限 ① に近づいている場合は、アクセルペダルから足を放すと表示が再度空になります。内燃エンジンは始動しません。これにより、低速では電気モードでのみ走行するように、電気走行の使用を制御することができます。

- エリア ③ ～ ④（CHARGE）：

これは、高電圧バッテリーに電気エネルギーとして保存されている回生エネルギーを示しています。

表示が下限 ④ に達したときは、回生ブレーキパワーは使い果たされています。機械式ブレーキが作動します。

マルチファンクションディスプレイの操作

マルチファンクションディスプレイおよび COMAND ディスプレイ（▷314 ページ）に、ハイブリッドシステムの現在の作動モードを表示することができます。

COMAND ディスプレイには、燃料消費および生成された電気のグラフィック表示も呼び出すことができます(▷317 ページ)。

ⓘ 操作に関する情報

- マルチファンクションディスプレイ(▷327 ページ)
- COMAND システム（デジタル版取扱説明書をご覧ください）

メニューおよびサブメニュー

COMAND ディスプレイでの表示の選択

▶ コントローラーのスイッチ [車] を押します。

車両メニューが表示されます。

▶ ｴﾈﾙｷﾞｰﾌﾛｰ を選択する：コントローラーをまわして、押します。

エナジーフローが表示されます。

▶ 燃費 を選択する：コントローラーをまわして、押します。

燃料消費および生成された電気エネルギーが表示されます。

▶ 表示を終了する：コントローラーの [↩] スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイのエナジーフローの表示を選択する

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、ｴﾈﾙｷﾞｰﾌﾛｰ を選択します。

作動しているハイブリッド構成部品がエナジーフローディスプレイで強調されます。

マルチファンクションディスプレイおよび COMAND ディスプレイの表示

概要

① 内燃エンジン
② 電気モーター
③ 高電圧バッテリーの充電状況
④ 高電圧バッテリー
⑤ エナジーフロー

ℹ 作動しているハイブリッド構成部品が強調されます。

ℹ エナジーフローは矢印で示されます。矢印は作動状況によって色が異なります。

- 緑色：エネルギー回生
- 白色：通常のエネルギー消費
- 赤色：エネルギー消費増加

エンジン自動停止

内燃エンジンおよび電気モーターが停止しています。エネルギーの流れを示す矢印はありません。

イグニッション位置が **2** のときに、高電圧バッテリーの充電状況が表示されます。

車両が停止している間のエンジン作動

車両が停止しているときに内燃エンジンが始動しています。高電圧バッテリーは充電されていません。マルチファンクションディスプレイおよび COMAND ディスプレイで内燃エンジンが強調されます。

車両が停止している間の充電

内燃エンジンが電気モーターを駆動しています。電気モーターはオルタネーターとして作動しています。高電圧バッテリが充電されています。

エナジーフローを示す矢印は白色で表示されます。

内燃エンジンを使用しての走行

内燃エンジンが車両に動力を供給しています。

エナジーフローの矢印は白色で表示されます。

内燃エンジンを使用しての走行およびブーストモード

アクセルを素早く踏んだ場合は、電気モーターは補助トルクを供給することにより内燃エンジンをサポートします。

エナジーフローの矢印は赤色で表示されます。

内燃エンジンを使用しての走行およびエネルギー回生

内燃エンジンが車両に動力を供給しています。

セーリングモードで、またはブレーキ時などに、電気モーターはオルタネーターとして作動しています（▷320 ページ）。車両の運動エネルギーが電気エネルギーに変換されています。高電圧バッテリーが充電されています。

エナジーフローの矢印は緑色で表示されます。

内燃エンジンを使用しての走行および高電圧バッテリーの充電

内燃エンジンが車両に動力を供給しています。内燃エンジンは電気モーターも駆動しています。電気モーターはオルタネーターとして作動しています。高電圧バッテリが充電されています。

エナジーフローの矢印は白色で表示されます。

電気モーターを使用しての走行

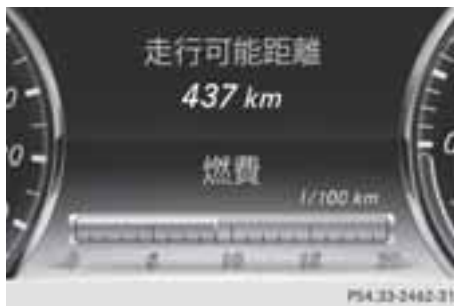
電気モーターは車両に動力を供給しています。高電圧バッテリーは電気モーターに電気エネルギーを供給しています。

エナジーフローの矢印は緑色で表示されます。

電気モーターを使用しての走行および高電圧バッテリーの充電

セーリングモード、またはブレーキ時などに、電気モーターはオルタネーターとして作動しています。車両の運動エネルギーが電気エネルギーに変換されています。高電圧バッテリーが充電されています。

エナジーフローの矢印は緑色で表示されます。

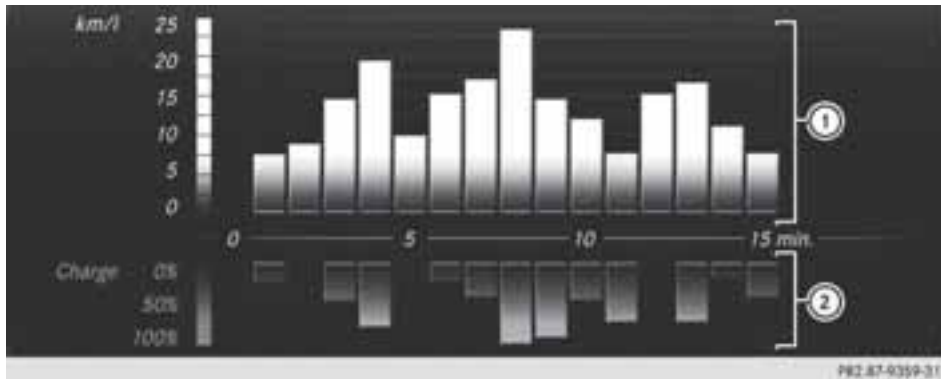
走行可能距離の表示

概算の走行可能距離は現在の運転スタイルに基づいています。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、トリップ メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を押して、概算の走行可能距離を選択します。

燃料消費および生成された電気エネルギーの表示

① 燃料消費
② 生成された電気エネルギー

グラフのそれぞれのバーは 1 分間の平均値を示します。

燃料消費 ① は、トリップ メニューにあるトリップコンピューターの スタート後 の表示と異なることがあります。

数値をリセットする：数値はトリップコンピューターの スタート後 と一緒にリセットされます（▷331 ページ）。

▶ 燃費 を選択する：コントローラーをまわして、押します。

燃料消費 ① および直近の 15 分で生成された電気エネルギー ② が、COMAND ディスプレイに表示されます。

エンジンの始動

READY 表示灯

▶ イグニッションをオンにします。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンの始動に関する注意事項に従ってください（▷218 ページ）。

▶ 内燃エンジンを始動します（▷218 ページ）。

緑色または黄色の READY 表示灯 ① が点灯しているときは、車両を作動させることができます。

ℹ マニュアル走行モード **M** では、マルチファンクションディスプレイの READY 表示灯 ① が黄色で表示されます（▷319 ページ）。

無音始動

車両は内燃エンジンなしで電気モードで始動します。要求される動力が電気モーターが現在供給できる動力を超えたときにのみ、内燃エンジンは始動します。

無音始動の作動は、外気温および内燃エンジンの作動温度によります。

ハイブリッドシステムが始動した場合は、マルチファンクションディスプレイの緑色または黄色の READY 表示灯 ① が点灯します。READY 表示灯に関するさらなる情報は、(▷320 ページ) をご覧ください。

発進

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。

▶ トランスミッションをポジションを **D** または **R** にシフトします。

▶ マルチファンクションディスプレイにブレーキを踏んで P レンジからシフトというディスプレイメッセージが表示された場合は、ブレーキペダルをさらに強く踏み、希望のシフトポジションを選択します。

▶ ブレーキペダルを徐々に放します。

▶ アクセルペダルを注意しながら踏み、発進します。

ℹ 発進に関するさらなる情報（▷219 ページ）。

走行

走行モード選択スイッチ

オートマチック走行モード E および S

▶ 走行モードスイッチ ① を押して、走行モードを変更します。

マルチファンクションディスプレイに選択した走行モードが表示されます。

走行モード選択スイッチで、異なる走行特性を選択することができます。

E エコノミー	• 快適で経済的な走行 • 電気走行をできるだけ使用します • ECO スタートストップ機能が作動します
S スポーツ	• ブーストモードを備えたスポーティな走行スタイル • 電気のみの走行は行なわれません • ECO スタートストップ機能は作動しません

オートマチック走行モードについてのさらなる情報は、(▷232 ページ) をご覧ください。

マニュアル走行モード M

オートマチック走行モード **E** および **S** に加えて、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、マニュアル走行モード **M** に切り替えることができます。

マニュアル走行モード **M** では、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、一時的に自分自身でギアを変えることができます。トランスミッションがポジション **D** でなければなりません。マニュアル走行モード **M** では、電気のみでの作動はできません。

電気モーターで走行しているときの作動

▶ 左側のギアシフトパドルを引きます (▷232 ページ)。

内燃エンジンが作動します。マニュアル走行モード **M** が一時的に作動します。マルチファンクションディスプレイに、選択されているギアおよび **M** が表示されます。

ⓘ 走行モード **M** が作動していないときに、右側のギアシフトパドルを引くと、セーリングモードに切り替わります (▷321 ページ)。

内燃エンジンで走行しているときの作動

▶ 左側のギアシフトパドルを引きます (▷232 ページ)。

マニュアル走行モード **M** が一時的に作動します。マルチファンクションディスプレイに、選択されているギアおよび **M** が表示されます。

ⓘ マニュアル走行モード **M** では、ECO スタートストップ機能は作動しません。

運転のヒント

一般的な運転のヒント

注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。頻繁な急加速、ならびに急ブレーキは避けてください。

部分的な電気走行、発進および加速の間は、電気モーターが内燃エンジンをサポートします。

シフトポジション **D** で惰性走行している、およびブレーキを効かせている間は、電気モーターがオルタネーターとして作動します。

ECO スタートストップ機能についてのさらなる情報は、(▷320 ページ) をご覧ください。運転の追加のヒントについては、(▷244 ページ) をご覧ください。

車両が停止しているとき

車両が停止している場合、ほとんどの場合は内燃エンジンは停止しています。オートエアコンディショナーは作動し続けます。電子機械式補助ステアリングギアによって、快適さを損なうことなくパワーステアリングを使用することができます。

アクセル操作

作動モードによっては、負荷が少ない条件下では発進および走行が以下のように行なわれます。

- すべてが電気推進により
- 内燃エンジンとの組み合わせで

より強く、または最大負荷で加速するときは、ブーストモードが使用されます。アクセルを素早く踏んだときは、追加トルクを与えることで電気モーターは内燃エンジンをサポートします。

セーリングモードまたはブレーキ操作

ハイブリッド車両が減速しているときは、作動可能なモードが 3 つあります。

- 惰性走行および減速時では、エネルギー回生が行なわれています（▷309 ページ）。電気モーターはオルタネーターとして機能し、高電圧バッテリーに回生エネルギーを蓄積します。
- 軽くブレーキを効かせたときは、電気モーターは車両をさらに減速させます。エネルギー回生が増加します（▷309 ページ）。電気モーターはオルタネーターとして機能し、高電圧バッテリーに回生エネルギーを蓄積します。
- 急ブレーキ中は、車両を減速させるために機械式ブレーキも使用されます。

  両方のシステムが一緒に作動します。

市街での走行

市街走行では、頻繁な減速および停止の間にエネルギーが回生されます。以下のときなどは、約 35km/h の速度までは電気モーター単独で車両を走行させることができます。

- 信号に近づいている間
- 交通渋滞で

エンジン自動停止のすべての条件が満たされているときにのみ、電気モーター単独で車両を走行させます。エンジン自動停止に関するさらなる情報は（▷321 ページ）をご覧ください。

都市間の道路での走行

都市間の道路を走行しているときは、以下の 3 つの状況が起こり得ます。

- 急加速（ブーストモード）
- 一定のエネルギー消費
- ルートの特徴によっては、多くの回生エネルギーを使用できることがあります。これにより燃料消費と排出ガスを減少させます。

自動車道路での走行

自動車道路を走行しているときは、不要な出力の減少により、燃料消費と排出ガスの低減に特に良い影響があります。

ステアリング操作および転回

ハイブリッドドライブにより、電気モーターのみを使用してのステアリング操作および転回が可能になります。

ECO スタートストップ機能

全体的な注意事項

① READY 表示灯

車両が停止したときや高い速度のときは、ECO スタートストップ機能は内燃エンジンを自動的に停止します（▷321 ページ）。

走行と駐車

ECO スタートストップ機能は、走行モード **E** でのみ作動します。電気のみでの走行は、走行モード **E** でのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイに READY 表示灯 ① が緑色に表示されているときに ECO スタートストップ機能は作動します。

オートエアコンディショナーなどの、すべての車両システムは作動したままになります。

エンジン自動停止

以下の場合に、内燃エンジンは自動的に停止します。

- 運転者がアクセルペダルから足を放し、140km/h の速度を超えていない
- 内燃エンジンが作動温度に達している
- 運転席シートベルトが着用されていて、運転席ドアが閉じている
- 限られた距離で現在の速度を維持するためなどのために、ドライバーがアクセルペダルを軽くのみ踏んでいる
- ボンネットが閉じていて、確実にロックされている
- 高電圧バッテリーが十分に充電されている
- ハイブリッドシステムに故障がない

ⓘ エンジン自動停止のすべての条件が満たされている場合でも、マルチファンクションディスプレイの READY 表示灯 ① が黄色で点灯したままのことがあります。このような場合は、マルチファンクションディスプレイの READY 表示灯 ① が緑色に点灯するまで、一定時間 20km/h 以上で走行します。

エンジン自動停止のすべての条件が満たされていない場合は、READY 表示灯 ① が黄色で点灯します。以下の場合は、内燃エンジンは自動的に停止しません。

- エンジンコントロールユニットの自己診断機能が作動したままである
- ハイブリッドシステムに故障がある
- 車両のエアコンディショナーが必要としている
- 高電圧バッテリーの充電が行なわれている（▷314 ページ）
- 排出物自動テストが作動している

エンジン自動始動

自動的に停止した内燃エンジンは、以下の特定の状況で自動的に始動します。

- 出力の要求が、電気モーター単独で提供できるものよりも大きい
- 走行モード **S** または **M** に切り替えた
- 高電圧バッテリーの充電レベルが下限に達した
- 30℃以上の外気温度のときなど、エアコンディショナーの設定が必要としている

セーリングモード

この作動モードは、140km/h 以下の速度範囲で作動します。

内燃エンジンが停止し、ドライブトレインとの接続が外されます。

電気モーター

- 作動している内燃エンジンのセーリングモードに対応した、低い推進力を発生します。
- 発電機として作動し、補助電気装備に必要なエネルギーを生成し、高電圧バッテリーを充電します。

拡張セーリングモード

セーリングモードにより車両の走行可能距離が増加します。

セーリングモードが作動しているとき

▶ 右側のステアリングギアシフトパドルを引きます。

必要とされる最小量のエネルギーまでエネルギー回生が減少します。

電気モーターの充電表示にエネルギー回生の減少が表示されます(▷312 ページ)。

拡張セーリングモードは以下の場合に再度解除されます。

- 内燃エンジンが始動した
- ブレーキペダルを踏んだ

駐車

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。

メーターパネルの赤色の Ⓟ 表示灯が点灯します。

▶ DIRECT SELECT レバーを使用して、トランスミッションを **P** にシフトします。

▶ イグニッションをオフにします。メーターパネルの緑色または黄色の READY 表示灯が消灯します。

ℹ 駐車および内燃エンジンの停止に関するさらなる情報については、(▷240 ページ)をご覧ください。

ハイブリッド作動のトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
内燃エンジンを始動できない。マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されない。 マルチファンクションディスプレイの READY 表示灯が消灯している。	例えば、自己診断がまだ完了していない、またはハイブリッドシステムが故障している。 ▶イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶内燃エンジンの始動を再度試みてください。 それでも内燃エンジンが始動しない場合 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
発進したいが、ECO スタートストップ機能が内燃エンジンを始動しない。マルチファンクションディスプレイの READY 表示灯が消灯している。	ECO スタートストップ機能が故障している。メーターパネルの警告および表示灯が点灯している。 ▶トランスミッションのセレクターレバーを **P** に動かしてください。 ▶イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶エンジンを始動してください。
	ハイブリッドシステムが故障している。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

RBS（回生ブレーキシステム）

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ブレーキ操作時の抵抗が少なくなり、ブレーキペダルのストロークが通常よりも大きくなる。	⚠ **事故のおそれがあります** RBS に異常がある。 ▶マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください（▷348 ページ）。 ▶メーターパネルの表示および警告灯に関する情報に従ってください（▷402 ページ）。

ハイブリッドシステム

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ハイブリッドシステムが自動的に解除された。	事故にあった。 以下の場合はハイブリッドシステムは解除されたままになります。 • 数秒後に内燃エンジンが再始動できない。 • メーターパネルの赤色の乗員保護装置警告灯 [警告灯] が点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
ハイブリッドシステムが自動的に解除された。マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージも表示されている。	電気的なショートがハイブリッドシステムで発生した、または電気接続が切断された。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください（▷348 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

⚠ **警告**

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能を認識することができません。走行安全性が損なわれる可能性があります。事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。そのため、車両が安全に作動していることを常に確認ください。さもないと、安全に作動していない車両により、事故の原因になることがあります。

概要については、メーターパネルのイラストをご覧ください（▷42 ページ）。

表示および操作

タコメーター

! エンジンを損傷する原因となりますので、レッドゾーンに入らないよう運転してください。

タコメーターのレッドゾーンは、エンジンの許容回転数を超えたオーバーレブレンジを示します。

エンジン回転数がレッドゾーンに達すると、エンジン保護のため、燃料供給が停止されます。

冷却水温度表示

⚠ **警告**

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

冷却水温度はタコメーター内に表示されます。

通常の作動条件下、および指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120℃まで上昇することがあります。

高い外気温度で上り坂を走行しているときは、冷却水温度が上昇することがあります。

外気温度表示

気温が氷点前後のときは、路面状況に特に注意してください。

外気温度計はマルチファンクションディスプレイ内にあります (▷328 ページ)。外気温度が変化すると、少し遅れて表示されます。

マルチファンクションディスプレイの操作

① マルチファンクションディスプレイ
② 右側コントロールパネル
③ 左側コントロールパネル

▶ **マルチファンクションディスプレイを作動させる：**イグニッション位置を **1** にします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの表示と設定を操作することができます。

左側コントロールパネル

⌂	• メインメニューの呼び出し
▲ ▼	**軽く押す：** • リストのスクロール • メニューまたは機能の選択 • ラジオ / メディア メニューで：トラックまたは放送局リストを開く、オーディオトラックまたはビデオシーンの選択 • TEL メニューで：電話帳への切り替え、名称または電話番号の選択
▲ ▼	**押して保持する：** • すべてのリストでの高速スクロール • ラジオ / メディア メニューで：高速スクロールを使用しての放送局、オーディオトラックまたはビデオシーンの選択 • TEL メニューで：電話帳が開いている場合の高速スクロールの開始
OK	• ラジオ / メディア メニューで：使用可能なラジオソース / メディアのリストを開く、リスト項目の確定 • TEL メニューで：電話帳への切り替え、および選択した番号のダイヤル開始

OFF	音声認識の停止：デジタル版取扱説明書をご覧ください
	軽く押す： • 戻る • ラジオ / メディア メニューで：トラックまたは放送局リスト、または使用可能なラジオソース / メディアのリストの選択解除 • ディスプレイメッセージの消去 • 電話帳 / 発信履歴の終了
	押して保持する： • トリップ メニューの基本画面の呼び出し

右側コントロールパネル

	• 通話の拒否、または終了 • 電話帳 / 発信履歴の終了
	• 発信、または受話 • 発信履歴への切り替え
 	• 音量の調整
	• ミュート
	音声認識の作動：デジタル版取扱説明書をご覧ください

マルチファンクションディスプレイ

① 以下のようなディスプレイおよび表示灯があることがある上部ステータスバー：

外気温度 （▷327 ページ）

ハイブリッド車両：冷却水温度

- 方向指示灯、左 （▷180 ページ）
- ロービームヘッドライト （▷179 ページ）
- ハイビームヘッドライト （▷180 ページ）
- リアフォグランプ （▷179 ページ）
- 車幅灯およびライセンスプレートの照明 （▷180 ページ）
- 方向指示灯、右 （▷180 ページ）

② ディスプレイ

③ 以下のディスプレイがあることがある、下部ステータスバー：

補助スピードメーター （▷345 ページ）

ECO　ECO スタートストップ機能 （▷220 ページ）

READY READY 表示灯（ハイブリッド車両）（▷312 ページ）

HOLD ホールド機能（▷269 ページ）

アダプティブハイビームアシスト・プラス（▷183 ページ）

ディストロニック・プラス（ステアリングアシスト付）（▷266 ページ）

P アクティブパーキングアシスト（▷280 ページ）

▶ **ディスプレイパネル ② にメニューリストを呼び出す：** ステアリングの ⌂ スイッチを押します。

選択したメニューまたはサブメニューおよびディスプレイメッセージが、ディスプレイパネル ② に表示されます。

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの ⌂ スイッチを押して、メニューのリストを呼び出してメニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作（▷327 ページ）

車両に装着されている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- トリップ メニュー（▷329 ページ）
- ナビ メニュー（ナビゲーション案内）（▷332 ページ）
- ラジオ メニュー（▷334 ページ）
- メディア メニュー（▷335 ページ）
- TEL メニュー（▷337 ページ）
- アシスト 一覧メニュー（▷339 ページ）
- メンテナンス メニュー（▷340 ページ）
- 設定 メニュー（▷340 ページ）
- AMG 車両の AMG メニュー（▷347 ページ）

トリップメニュー

基本画面

▶ トリップ メニューがトリップメーター ① やオドメーター ② とともに表示されるまで、ステアリングの ⮌ スイッチを押し続けます。

走行可能距離と現在の燃料消費の表示

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、トリップ メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、概算の走行可能距離と現在の燃料消費を選択します（AMG 車両を除く）。

走行することのできる概算の走行可能距離は、そのときの運転スタイルおよびタンク内の燃料の量に応じて計算されます。燃料タンク内に残っている燃料の量が少ないときは、給油中の車両のマーク [給油マーク] が、走行可能距離の代わりにディスプレイに表示されます。

ハイブリッド車両の走行可能距離に関する情報は、" ハイブリッドの操作 " の項目にあります（▷316 ページ）。

ECO 表示

ECO 表示は AMG 車両では使用できません。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、トリップ メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を押して、ECO 表示 を選択します。

イグニッションが 4 時間以上オフのままの場合は、ECO 表示は自動的にリセットされます。

ECO 表示に関するさらなる情報は、（▷244 ページ）をご覧ください。

トリップコンピューター "ｽﾀｰﾄ後" または "ﾘｾｯﾄ後"

① 距離
② 継続時間
③ 平均燃費
④ 平均速度

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ｽﾀｰﾄ後 または ﾘｾｯﾄ後 を選択します。

ｽﾀｰﾄ後 サブメニューの数値は走行開始から算出され、ﾘｾｯﾄ後 サブメニューの数値はサブメニューが最後にリセットされたときから算出されます（▷331 ページ）。

ｽﾀｰﾄ後 のトリップコンピューターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- イグニッションをオフにして 4 時間以上経過した
- 999 時間を超えた
- 9,999km を超えた

ﾘｾｯﾄ後 のトリップコンピューターは、数値が 9,999 時間または 99,999km を超えると、自動的にリセットされます。

デジタルスピードメーター

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、デジタルスピードメーターを選択します。

数値のリセット

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、リセットしたい機能を選択します。

▶ OK スイッチを押します。

▶ ▼ スイッチを押して、はい を選択し、OK スイッチを押して確定します。

以下の機能の数値をリセットできます。

- トリップメーター
- トリップコンピューター " ｽﾀｰﾄ後 "
- トリップコンピューター " ﾘｾｯﾄ後 "
- ECO 表示

"ECO 表示 " の数値をリセットした場合は、トリップコンピューター " ｽﾀｰﾄ後 " の数値もリセットされます。トリップコンピューター " ｽﾀｰﾄ後 " の数値をリセットした場合は、"ECO 表示 " の数値もリセットされます。

ナビメニュー

ナビゲーション案内の表示

ﾅﾋﾞ メニューでは、マルチファンクションディスプレイにナビゲーション案内が表示されます。ナビゲーションのさらなる情報については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ COMAND システムを作動させます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、ﾅﾋﾞ メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

ルート案内が作動していない

① 進行方向
② 現在の道路または区域

ルート案内が作動

進路変更の案内がない

① 次の目的地までの距離
② 予想到着時間
③ 次の進路変更までの距離
④ 現在の道路または区域

推奨車線の案内が行なわれた進路変更がある

① 進路変更の目標
② 進路変更までの距離
③ 進路変更マーク
④ 推奨されない車線（濃い灰色）
⑤ 可能車線（淡い灰色）
⑥ 推奨車線および進路変更中の新しい車線（白色）

デジタル地図がデータをサポートしている場合は、複数車線の道路では、次の進路変更のための新しい推奨車線が表示されることがあります。進路変更中に、新しい車線が追加されることがあります。

推奨されない車線 ④：この車線に留まる場合は、次の進路変更を完了することはできません。

可能車線 ⑤：この車線では、次の進路変更のみを完了することができます。

推奨車線 ⑥：この車線では、次の進路変更およびその次も完了することができます。

推奨車線のない進路変更

① 進路変更の目標
② 進路変更までの距離と視覚的な距離表示
③ 進路変更マーク

進路変更が行なわれるときは、進路変更のマーク ③ および距離表示 ② が表示されます。案内のあった進路変更地点に近づくにつれて、表示の上に向かって短くなります。距離表示がゼロになると進路変更が開始します。

推奨車線のある進路変更

① 進路変更の目標
② 進路変更までの距離と視覚的な距離表示
③ 進路変更マーク
④ 推奨車線

ナビゲーションシステムの他の状況インジケーター

① 補助情報

想定される他の補助情報

- 新ルートまたはルート計算中：新しいルートを探索中です。
- 地図データのない道路：車両位置はデジタル地図の範囲内にありますが、道路でない場所などにより、道路として認識されていません。
- ルートなし：選択されている目的地へのルートを検索できませんでした。
- 🏁：目的地または立ち寄り地点に到着しました。

ラジオメニュー

① 周波数バンド
② メモリーポジションのある放送局周波数または放送局名
③ 仕様により表示されません
④ 仕様により表示されません
⑤ 仕様により表示されません

放送局 ② は放送局周波数または放送局名とともに表示されます。保存されている場合にのみ、放送局 ② とともにメモリーポジションが表示されます。

▶ COMAND システムを作動させます。

デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、メニューの ラジオ を選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

マルチファンクションディスプレイに現在選択されている放送局 ② が表示されます。

▶ **放送局リストを開く：**[▼] または [▲] を軽く押します。

▶ **放送局リストから放送局を選択する：**[▼] または [▲] を軽く押します。

▶ **高速スクロールを使用して放送局リストから放送局を選択する：** ▼ または ▲ スイッチを押して短時間保持します。

▶ **周波数バンドまたは放送局メモリーを選択する：** OK を軽く押します。

▶ ▼ または ▲ を使用して、周波数バンドまたは放送局メモリーを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

ⓘ 放送局を記憶させるためには、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

メディアメニュー

メディアソースの変更

メディアソースおよび再生モード（オーディオ、ビデオまたはテレビ）を メディア メニューでいつでも変更することができます。

▶ COMAND システムを作動させます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、メニューの メディア を選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ **メディアソースリストを開く / 閉じる：** OK を軽く押します。

リストには、例えば以下のメディアソースが表示されます。

- ディスク（CD/DVD）
- メモリーカード（SD/SDHC）
- メディアレジスター
- USB 機器
- Bluetooth® オーディオ機器

サポートされているメディアおよびメディアモードに関する追加情報に注意してください。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

オーディオプレーヤーまたはオーディオメディアの操作

① 現在の CD 名などのメディアソース
② 現在のトラック
③ アーティスト名
④ アルバム名
⑤ フォルダ名

車両に装着されている装備に応じて、さまざまなオーディオ機器やメディアからの音楽データを再生できます。

▶ COMAND システムを作動させます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、メニューの メディア を選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ **オーディオプレーヤーまたは音楽メディアを選択する：** [OK] を軽く押します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、対応するオーディオプレーヤーまたは音楽メディアを選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ **トラックリストを開く：** [▼] または [▲] を軽く押します。

▶ **トラックリストから次 / 前のトラックを選択する：** [▼] または [▲] を軽く押します。

▶ **高速スクロールを使用してトラックリストからトラックを選択する：** 希望のトラックになるまで [▼] または [▲] を押して保持します。

[▼] または [▲] スイッチを押して保持すると、高速スクロールの速度が上がります。すべてのオーディオ機器またはメディアがこの機能をサポートしているわけではありません。

対応するトラックの情報がオーディオドライブまたは音楽メディアに保存されている場合は、マルチファンクションディスプレイに以下が表示されることがあります。

- トラック番号
- トラック名表示
- アーティスト
- アルバム

トラック情報はオーディオ AUX モード（外部オーディオモード：接続されている外部のオーディオソース）では表示されません。

DVD ビデオの操作

① 現在のシーン

▶ COMAND システムを作動させます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、メニューの メディア を選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ **DVD プレーヤーまたは DVD メディアを選択する：** [OK] を軽く押します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、対応する DVD プレーヤーまたは DVD メディアを選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ **シーンリストを開く：** ▼ または ▲ を軽く押します。

▶ **シーンリストから次または前のシーンを選択する：** ▼ または ▲ を軽く押します。

▶ **高速スクロールを使用してシーンリストからシーンを選択する：** 希望のシーン ① になるまで、▼ または ▲ を押して保持します。

テレビの操作

① メモリーポジションのあるチャンネル周波数
② 映画の名前などの番組情報
③ チャンネルリストの名前

保存されている場合にのみ、チャンネル ① とともにメモリーポジションが表示されます。

▶ COMAND システムを作動させます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、メニューの ﾒﾃﾞｨｱ を選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ **テレビを選択する：** OK を軽く押します。

▶ ▼ または ▲ を使用して、ﾃﾚﾋﾞ を選択します。

▶ OK を押して確定します。

▶ **チャンネルリストを開く：** ▼ または ▲ を軽く押します。

▶ **チャンネルリストからチャンネルを選択する：** ▼ または ▲ を軽く押します。

▶ **高速スクロールを使用してチャンネルリストからチャンネルを選択する：** ▼ または ▲ スイッチを軽く押します。

ⓘ テレビチャンネルを記憶させるためには、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

TEL メニュー

はじめに

⚠ **警告**

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全なときにのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

電話を使用するときは、必ずそのとき運転している国の法規則に従ってください。

▶ 携帯電話をオンにします。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ COMAND システムを作動させます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ COMAND システムへの Bluetooth® 接続を確立してください（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] を押して、TEL メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

• 電話待ち受け またはネットワークプロバイダーの名称：携帯電話がネットワークを探索し、受信する準備が整っています。

• 圏外：利用できるネットワークがないか、携帯電話がネットワークを探索しています。

通話を受ける

▶ ステアリングの [☎] スイッチを押して、着信した電話を受けます。

TEL メニューのときに誰かから着信があった場合は、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。

TEL メニューを表示していないときも着信した電話を受けることができます。

通話の拒否または終了

▶ ステアリングの [☎] スイッチを押します。

TEL メニューでないときも通話を拒否または終了できます。

電話帳から項目にダイヤルする

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] を押して、TEL メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] [▲] または [OK] スイッチを押して、電話帳に切り替えます。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、希望の名称を選択します。

または

▶ **高速スクロールを開始する：** ▼ または ▲ スイッチを約 1 秒以上押し続けます。スイッチを放すか、リストの最後まで行くと、スクロールは停止します。

▶ **名称に 1 つだけ電話番号が保存されているとき：** 📞 または OK スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **その名称に 2 つ以上の番号があるとき：** 📞 または OK スイッチを押して、電話番号を表示させせます。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、発信先の番号を選択します。

▶ 📞 または OK スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **電話帳を終了する：** ☎ または ↩ スイッチを押します。

リダイヤル

マルチファンクションディスプレイでは、最後に発信した名称と番号がリダイヤルメモリーに保存されています。

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ を押して、TEL メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ 📞 スイッチを押して、リダイヤルメモリーに切り替えます。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、希望の名称または番号を選択します。

▶ 📞 または OK スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **リダイヤルメモリーを終了する：** ☎ または ↩ スイッチを押します。

アシスト一覧メニュー

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、メニューの アシスト一覧 を選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に、ディストロニック・プラスの距離ディスプレイが表示されます。

▶ ▼ を押して、アテンションアシスト評価を表示させせます。

アシスト一覧には、以下の走行システムまたは走行安全システムの状況および情報が表示されます。

- アテンションアシスト（▷296 ページ）
- ディストロニック·プラス（▷256 ページ）
- アクティブレーンキーピングアシスト（▷305 ページ）
- アクティブブラインドスポットアシスト（▷302 ページ）
- PRE-SAFE® ブレーキ（▷104 ページ）

メンテナンスメニュー

はじめに

P54.33-2210-31

メンテナンス メニューでは、以下を選択することができます。

- メッセージメモリーのディスプレイメッセージの呼び出し(▷348ページ)
- タイヤ空気圧警告システムの再起動（▷499 ページ）
- 点検整備予定時期の呼び出し（▷451 ページ）
- 冷却水温度の表示（▷340 ページ）

冷却水温度の表示

⚠ **警告**

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

ハイブリッド車両を除き、冷却水温度はメーターパネルにデジタル表示することができます（▷42 ページ）。

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ を使用して、サブメニューの 冷却水 を選択します。冷却水温度はバー表示で表示されます。

通常の作動条件下、および指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120℃に上がることがあります。

高い外気温および上り坂を走行しているときは、冷却水温度が目盛りの上限に上がることがあります。

設定メニュー

はじめに

P54.33-2211-31

設定メニューでは、以下のオプションを選択できます。

- アシスト設定の変更（▷341 ページ）
- ライト設定の変更（▷343 ページ）
- メーター設定の変更（▷345 ページ）

- 車両設定の変更（▷346 ページ）
- 工場出荷時の設定に戻す（▷346 ページ）

アシストサブメニュー

ESP® の解除 / 設定

ESP の記載にある " 重要な安全上の注意事項 " に従ってください（▷101 ページ）。

⚠ **警告**

ESP® を解除すると、ESP® は車両を安定させせなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

以下の状況では、ESP® を解除したほうが良いことがあります。

- スノーチェーンを使用しているとき
- 深い雪で
- 砂地または砂利道で

ESP® に関するさらなる情報については、（▷101 ページ）をご覧ください。

▶ エンジンを始動します。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、サブメニューの アシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、ESP を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

現在の選択が表示されます。

▶ **設定 / 解除する：** [OK] スイッチを再度押します。

エンジンがかかっているときにメーターパネルの [ESP OFF] 警告灯が点灯している場合は、ESP® が解除されています。

[ESP] 警告灯が点灯し続けている場合は、故障のため ESP® は作動しません。警告灯に関する情報に注意してください（▷396 ページ）。

ディスプレイメッセージに関する情報に注意してください（▷352 ページ）。

ナイトビューアシストプラスの自動作動の設定 / 解除の切り替え

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、サブメニューの アシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、ナイトビューアシスト オートスタート を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

現在の選択が表示されます。

▶ **設定 / 解除する：** [OK] スイッチを再度押します。

ナイトビューアシストプラスの自動作動が設定されている場合は、障害物が検知された場合にマルチファンクションディスプレイにナイトビュー画像が自動的に表示されます。

ナイトビューアシストラプラスに関するさらなる情報については、(▷298 ページ)をご覧ください。

PRE-SAFE® ブレーキの設定 / 解除

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、サブメニューの アシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、PRE-SAFE ブレーキ を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

現在の選択が表示されます。

▶ **設定 / 解除する：**[OK] スイッチを再度押します。

PRE-SAFE® ブレーキが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイの アシスト一覧 メニューに [OFF] マークが表示されます。

PRE-SAFE® ブレーキについて、詳しくは（▷104 ページ）をご覧ください。

アクティブブラインドスポットアシストの設定 / 解除

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、サブメニューの アシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、ブラインドスポットアシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

現在の選択が表示されます。

▶ **設定 / 解除する：**[OK] スイッチを再度押します。

アクティブブラインドスポットアシストが設定されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧メニューの車両横に、車両の周囲に発信されるレーダー波が灰色で表示されます。

ブラインドスポットアシストについてのさらなる情報については、(▷302 ページ)をご覧ください。

アテンションアシストの設定

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、サブメニューの アシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、アテンションアシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

現在の選択が表示されます。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、オフ、標準 または 高感度 を設定します。

▶ ステアリングの [OK] を押して設定を許可します。

アテンションアシストが解除されているときは、イグニッションがオンのときにマルチファンクションディスプレイの アシスト一覧 のメニューに [OFF] マークが表示されます。

アテンションアシストについて、詳しくは（▷296 ページ）をご覧ください。

アクティブレーンキーピングアシストの設定 / 解除

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、サブメニューの アシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、レーンキープアシスト を選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

現在の選択の 標準 または アダプティブ が表示されます。

▶ **設定を変更する：**[OK] を再度押します。

アクティブレーンキーピングアシストに関するさらなる情報は、（▷305 ページ）をご覧ください。

ライトサブメニュー

インテリジェントライトシステムの設定 / 解除の切り替え

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、インテリジェントライトシステム 機能を選択します。インテリジェントライトシステム 機能が設定されている場合は、マルチファクションディスプレイのライトの円錐形と [≣D] マークが白色で表示されます。

▶ [OK] スイッチを押して、設定を保存します。

インテリジェントライトシステム が設定されているときは、以下の機能が作動します。

- ハイウェイモード
- アクティブライトシステム
- コーナリングライト
- フォグランプ強化機能

ロービームヘッドライトを右側走行用に設定している場合は、インテリジェントライトシステム: システム作動できません 右側通行設定では無効というディスプレイメッセージが、インテリジェントライトシステム 機能の代わりにマルチファンクションディスプレイの ライト サブメニューに表示されます(▷343 ページ)。

インテリジェントライトシステムについて、詳しくは（▷182 ページ）をご覧ください。

デイタイムドライビングライトの設定 / 解除の切り替え

エンジンが停止しているときにのみ、デイタイムライト 機能を設定することができます。

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。

▶ OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、デイタイムライト 機能を選択します。デイタイムライト 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレイのライトの円錐形と ☀ マークが白色で表示されます。

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

デイタイムライト 機能が設定されているときは、昼間でもロービームヘッドライトが点灯します。その理由のため、この機能を解除し、ライトスイッチでライトを手動で操作してください。

ロービームヘッドライトの左側 / 右側通行の設定

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。

▶ OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ を押して、ヘッドランプ ロービーム設定 機能を選択します。

選択された設定、右側通行用 または 左側通行用 が表示されます。

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

設定を変更すると、次に停車したときに変更が実行されます。

この機能を使用して、ロービームヘッドライトを左右対称または左右非対称に切り替えることができます。

ロービームヘッドライトを右側通行用に設定しているときは、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

ロービームヘッドライトを右側通行 / 左側通行に適した設定に切り替えるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

メーターパネルのサブメニュー

距離単位の選択

表示単位速度 / 距離：の機能により、マルチファンクションディスプレイの特定のディスプレイのキロメートルまたはマイル表示を選択できます。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、メーター サブメニューを選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して表示単位速度 / 距離：機能を選択します。

選択された設定、km または miles が表示されます。

▶ [OK] スイッチを押して、設定を保存します。

選択された距離の表示単位は、以下の項目に適用されます。

- スピードメーター
- トリップ メニューのデジタルスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイのステータスエリアにある補助スピードメーター

  補助スピードメーターの単位は、選択していないほうの距離単位で表示されます。
- オドメーターとトリップメーター
- トリップコンピューター
- 現在の燃費と走行可能距離
- ナビ メニューのナビゲーション案内
- クルーズコントロール
- スピードリミッター
- ディストロニック・プラス
- メンテナンスインジケーター画面

補助スピードメーターの設定 / 解除の切り替え

速度表示 機能を使用して、マルチファンクションディスプレイのステータスエリアに速度をデジタルで表示するかどうかを選択します。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、メーター サブメニューを選択します。

▶ [OK] を押して確定します。

▶ [▼] または [▲] を使用して、速度表示 機能を選択します。現在の選択が表示されます。

▶ **設定 / 解除する：** [OK] スイッチを再度押します。

車両サブメニュー

スノータイヤスピードリミッターの設定

- ▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。
- ▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、車両 サブメニューを選択します。
- ▶ [OK] を押して確定します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、速度制限（冬ﾀｲﾔ） 機能を選択します。

  現在の設定が表示されます。
- ▶ [OK] を押して確定します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、10km/h 単位（240km/h ～ 160km/h）でスノータイヤスピードリミッターを調整します。ｵﾌ 設定で、スノータイヤスピードリミッターは解除されます。
- ▶ [OK] スイッチを押して、入力を保存します。

スノータイヤスピードリミッターについて、詳しくは（▷255 ページ）をご覧ください。

工場出荷時の設定に戻す

- ▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。
- ▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、初期設定 サブメニューを選択します。
- ▶ [OK] を押して確定します。

  全ての設定を初期化しますか？ というメッセージが表示されます。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、いいえ または はい を選択します。
- ▶ [OK] スイッチを押して、選択を確定します。

  はい を選択したときは、マルチファンクションディスプレイに確認メッセージが表示されます。

安全のため、全ての設定が初期化されるわけではありません。スピードリミッターの 制限速度（冬ﾀｲﾔ） 機能は、車両 サブメニューでのみ設定できます。ライト サブメニューの デイタイムライト を初期化したいときは、イグニッション位置を **1** にしなければなりません。

AMG メニュー（AMG 車両）

AMG ディスプレイ

① デジタルスピードメーター
② ギアインジケーター
③ シフトアップインジケーター
④ トランスミッションオイル温度
⑤ エンジンオイル温度

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、AMG メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

シフトアップインジケーター UP ③ は、マニュアルギアシフトモードのときにエンジンが過回転域に達していることを示しています。シフトアップインジケーター UP ③ は、シフトアップするまで他のメッセージを目立たなくさせます。エンジンオイル温度が 80℃以下の場合は、オイル温度表示 ⑤ のマークが青色で表示されます。この間は、エンジンを最大出力にしないでください。

トランスミッションオイル温度が 50℃以下の場合は、オイル温度表示 ④ のマークが青色で表示されます。この間は、エンジンを最大出力にしないでください。

セットアップ

① 走行モード（C/S/M）
② ESP® モード（ON/OFF）
③ サスペンション制御（SPORT/ COMFORT）

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▼] または [▲] スイッチを押して、AMG メニューを選択します。

▶ ステアリングの [OK] を押して確定します。

▶ セットアップ画面が表示されるまで、[▼] または [▲] スイッチを繰り返し押します。

ディスプレイメッセージ

はじめに

全体的な注意事項

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージとともに、警告音も聞こえます。

ディスプレイメッセージを非表示にすることもできます。そしてディスプレイメッセージはメッセージメモリーに保存されます。できるだけすみやかに、ディスプレイメッセージの原因を修正してください。

駐停車するときは、以下に関する注意事項をお守りください。

- ホールド機能（▷269 ページ）
- 駐車（▷240 ページ）

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。

　ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。一部の重要度の高いディスプレイメッセージは非表示にはできません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは**メッセージメモリ**の中の特定のディスプレイメッセージを保存します。以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▼ または ▲ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。

▶ ステアリングの OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ を押して、メッセージメモリーを選択します。

ディスプレイメッセージがない場合は、マルチファンクションディスプレイに 故障はありません と表示されます。

ディスプレイメッセージがある場合は、保存されているメッセージの数が表示されます。

▶ OK を押して確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

安全システム

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが一時的に作動しない。 BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、PRE-SAFE® プラスおよび CPA（衝突警告システム）も故障していることがある。 さらに、メーターパネルの警告灯 と も点灯している。 アテンションアシストは解除されている。 例えば、バッテリーの電圧が不十分なことがある。 ⚠ **警告** 上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けるおそれがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが表示され続ける場合： ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。 BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、PRE-SAFE® プラスおよび CPA（衝突警告システム）も故障していることがある。 さらに、メーターパネルの警告灯 、 および が点灯することがある。 アテンションアシストは解除されている。 **警告** 上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない状態になっている。 BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、PRE-SAFE® プラスおよび CPA（衝突警告システム）も故障していることがある。 メーターパネルの [icon] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** 上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。 緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 現在使用できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない状態になっている。 BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、PRE-SAFE® プラスおよび CPA（衝突警告システム）も故障していることがある。 メーターパネルの [icon] 警告灯も点灯している。 たとえば、自己診断機能が完了していないことがある。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** 上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 20km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが表示され続ける場合： ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。 BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、PRE-SAFE® プラスおよび CPA（衝突警告システム）も故障していることがある。 さらに、メーターパネルの警告灯 および が点灯し、警告音が鳴った。 ⚠ **警告** 上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 解除してください	赤色の 表示灯が点滅し、警告音も鳴った。電気式パーキングブレーキの自動解除の条件が満たされていない（▷ 243 ページ）。 電気式パーキングブレーキを効かせた状態で走行している。 ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。
	赤色の 表示灯が点滅し、警告音も鳴った。 電気式パーキングブレーキを使用して緊急停止している（▷ 243 ページ）。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 取扱説明書参照	黄色の (P) 警告灯が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。 **効かせる：** ▶ イグニッションをオフにします。 ▶ 電気式パーキングブレーキのハンドルを 10 秒以上押し続けてください。 ▶ トランスミッションのセレクターレバーを **P** に動かしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	黄色の (P) 警告灯と赤色の (P) 表示灯が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。 **解除する：** ▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。 または ▶ 電気式パーキングブレーキを自動で解除してください（▷243 ページ）。 それでも電気式パーキングブレーキを解除できない場合： ▶ 走行を続けないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	赤色の Ⓟ 表示灯が点滅し、黄色の Ⓟ 警告灯が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。 **解除する：** ▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。 **効かせる：** ▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。 赤色の Ⓟ 表示灯が点滅し続ける場合： ▶ 走行を続けないでください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください（▷502 ページ）。 ▶ トランスミッションのセレクターレバーを **P** に動かします。 ▶ 前輪を縁石側に向けます。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	黄色の Ⓟ 警告灯が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせた、または解除した後に、赤色の Ⓟ 表示灯が約 10 秒間点滅した。その後で、消灯するか、または点灯したままである。 電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 電気式パーキングブレーキを効かせることができない場合： ▶ トランスミッションのセレクターレバーを **P** に動かします。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。 電気式パーキングブレーキを解除できない場合： ▶ 電気式パーキングブレーキを自動で解除してください（▷243 ページ）。 それでも電気式パーキングブレーキを解除できない場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	黄色の Ⓟ 警告灯が点灯している。電気式パーキングブレーキを手動で効かせた、または解除した場合に、赤色の Ⓟ 表示灯が点滅した。 電気式パーキングブレーキが故障している。手動で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。 ▶ トランスミッションのセレクターレバーを **P** に動かします。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 作動できません	黄色の (P) 警告灯が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、または解除した後に、赤色の (P) 表示灯が約 10 秒間点滅した。その後で、消灯するか、または点灯したままである。 過電圧や電圧不足などが原因で、電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ バッテリーの充電やエンジンの再始動などにより、過電圧または電圧不足の原因を解決してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、または解除してください。 電気式パーキングブレーキを効かせたり、または解除することができないままの場合： ▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、または解除してください。 それでも電気式パーキングブレーキを解除できない場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	赤色の (P) 表示灯が点滅し、黄色の (P) 警告灯が点灯している。 手動で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。 ▶ トランスミッションのセレクターレバーを P に動かしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ で 解除できます	赤色の (P) 表示灯が点灯している。 イグニッションがオフの間に、電気式パーキングブレーキを解除しようと試みた。 ▶ イグニッションをオンにします。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ブレーキ液レベル 点検して ください	ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。さらに、メーターパネルの赤色の (!) 表示灯も点灯し、警告音が鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキ性能が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください（▷242 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。これを行なっても問題は解消しません。
ブレーキパッド磨耗 点検して ください	ブレーキパッド / ライニングの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
プレセーフ 作動できません 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® の重要な機能が故障している。エアバッグなどの他の乗員安全システムはすべて機能したままである。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® プラス、PRE-SAFE® ブレーキまたは CPA（衝突警告システム）のアダプティブブレーキアシストが一時的に作動しない。考えられる原因： • 大雨や雪により機能が損なわれている • ラジエターグリルとバンパーにあるセンサーが汚れている • 周囲のテレビまたはラジオ放送局、または他の電磁波発生源から発生している電磁波により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない • システムが作動温度範囲外にある • バッテリー電圧が低すぎる 上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。 PRE-SAFE® プラス、PRE-SAFE® ブレーキまたは CPA（衝突警告システム）のアダプティブブレーキアシストは再度作動可能になる。 ディスプレイメッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください（▷242 ページ）。 ▶ 以下の位置にあるセンサー（▷457 ページ）を清掃してください。 • ラジエターグリル • フロントバンパー • リアバンパー、特にリアバンパーの中央 ▶ エンジンを再始動してください。
プレセーフ 機能が 制限されています 取扱説明書を参照	故障のため、PRE-SAFE® プラス、PRE-SAFE® ブレーキまたは CPA（衝突警告システム）のアダプティブブレーキアシストが作動しない。BAS プラスまたは距離警告機能も故障していることがある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
レーダ゛ーセンサーが 汚れています 取扱説明書参照	以下の走行システムまたは走行安全システムの 1 つが、一時的に作動しない。 • PRE-SAFE® プラス • PRE-SAFE® ブレーキ • CPA（衝突警告システム） • アクティブレーンキーピングアシスト • アクティブブラインドスポットアシスト • ディストロニック・プラス 考えられる原因： • ラジエターグリルおよび / またはバンパーのセンサーが汚れている • 大雨または雪により、走行システムおよび / または走行安全システムの機能が損なわれている。 上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。すべての走行システム / 走行安全システムが再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが消えない場合： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください（▷242 ページ）。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 以下の位置にあるセンサー（▷457 ページ）を清掃してください。 • ラジエターグリル • フロントバンパー • リアバンパー、特にリアバンパーの中央 ▶ エンジンを再始動してください。 ディスプレイメッセージが消えます。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
後席左 ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄの状態を 確認してください 取扱説明書参照または後席右 ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄの状態を 確認してください 取扱説明書参照	後席の右側または左側のアクティブベルトバックルが所定の位置にない。ベルトストラップがベルトのプレートにからまっていることがある。 ⚠ **警告** アクティブベルトバックルが所定の位置にない場合は、シートベルトは意図した保護のレベルを発揮できない。 けがの危険性が高まります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 挟まりを直します。 ▶ シートベルトの着用手順を繰り返します。
	後席の右側または左側のアクティブベルトバックルが所定の位置にない。アクティブベルトバックルが挟まっていることがある。 ⚠ **警告** アクティブベルトバックルが所定の位置にない場合は、シートベルトは意図した保護のレベルを発揮できない。 けがの危険性が高まります。 ▶ シートクッションを前方に動かし（▷147 ページ）、挟まりの原因を取り除きます。 ▶ シートベルトの着用手順を繰り返します。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	後席の右側または左側のアクティブベルトバックルが所定の位置にない。シートベルトがロックされていることがある。 ⚠ **警告** アクティブベルトバックルが所定の位置にない場合は、シートベルトは意図した保護のレベルを発揮できない。 けがの危険性が高まります。 ▶ シートベルトを完全に外してください。 ▶ シートベルトの着用手順を繰り返します。
	後席の右側または左側のアクティブベルトバックルが所定の位置にない。システムに十分なベルトの緩みがない。 ⚠ **警告** アクティブベルトバックルが所定の位置にない場合は、シートベルトは意図した保護のレベルを発揮できない。 けがの危険性が高まります。 ▶ シートベルトを緩めます。 ▶ シートベルトの着用手順を繰り返します。
	後席の右側または左側のアクティブベルトバックルが所定の位置にない。規定されている支援措置が行なわれた。まだ故障がある。 ⚠ **警告** アクティブベルトバックルが所定の位置にない場合は、シートベルトは意図した保護のレベルを発揮できない。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 SRS システム 故障工場で点検	保護システムが故障している。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。乗員保護補助装置に関するさらなる情報は、(▷55 ページ)をご覧ください。
 フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障工場で点検	フロント左側またはフロント右側の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 リア左 SRS システム故障 工場で点検またはリア右 SRS システム故障 工場で点検	リア左側またはリア右側の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 リア左 SRS システム故障 工場で点検またはリア右 SRS システム故障 工場で点検	⚠ **警告** アクティブベルトバックルがあらかじめ決められた位置にない場合は、シートベルトは意図した保護のレベルを発揮できない。 けがの危険性が高まります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ ディスプレイメッセージ 後席左 ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄの状態を 確認してください 取扱説明書参照 または 後席右 ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄの状態を 確認してください 取扱説明書参照 が表示されたときは、規定されている支援措置を行ないます（▷362 ページ）。 ディスプレイメッセージが消えない場合： ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 リア中央 SRS システム故障 工場で点検	リア中央の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 左ウインドウバッグ故障 工場で点検または右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	左側または右側のウインドウバッグが故障している。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** 左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ライト

LED に関するディスプレイメッセージ：すべての LED が故障した場合にのみ、ディスプレイメッセージが表示されます。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
左コーナリングライト または 右コーナリングライト	左または右側のコーナリングライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左ロービーム または 右ロービーム	左側または右側のロービームヘッドライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左リア ウインカーまたは 右リア ウインカー	リア左側またはリア右側の方向指示灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左フロント ウインカー または 右フロント ウインカー	フロント左側またはフロント右側の方向指示灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左ドアミラー ウインカー または 右ドアミラー ウインカー	左側または右側のドアミラーの方向指示灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左ブレーキランプ または 右ブレーキランプ	左または右側のブレーキライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ハイマウント ブレーキランプ	ハイマウントストップライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左テールランプ / ブレーキランプ または 右テールランプ / ブレーキランプ	左側または右側のテールライト / ブレーキライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左テールランプ または 右テールランプ	左または右側のテールライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左ハイビーム または 右ハイビーム	左または右側のハイビームヘッドライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
ライセンスランプ	左または右側のライセンスプレートライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
リアフォグランプ	リアフォグランプが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
左フロント パーキングランプ または 右フロント パーキングランプ	フロント左側またはフロント右側のパーキングライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
バックランプ	左側または右側のバックライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
左デイタイム ドライビングランプ または 右デイタイム ドライビングランプ	左側または右側の LED ドライビングライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｲﾄｼｽﾃﾑ 作動できません	アクティブライトシステムが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
インテリジェントライト システム 作動できません	インテリジェントライトシステムが故障している。インテリジェントライトシステムを除き、ライトは作動したままになります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
故障 取扱説明書を参照	車外ライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
オートライト 作動できません	ライトセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
ライトを 消してください	車両から離れるときに、ライトが点灯したままである。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。
ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞ ﾊｲﾋﾞｰﾑ ｱｼｽﾄ ﾌﾟﾗｽ 使用できません	アダプティブハイビームアシスト・プラスが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞﾊｲﾋﾞｰﾑｱｼｽﾄﾌﾟﾗｽ 現在使用できません 取扱説明書参照	アダプティブハイビームアシスト・プラスが解除され、一時的に作動できない。 考えられる原因： • フロントウインドウのカメラの視界部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが十分に作動可能であることをシステムが検知した場合は、ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞﾊｲﾋﾞｰﾑ ｱｼｽﾄﾌﾟﾗｽ 使用可能に なりましたというディスプレイメッセージが表示されます。 アダプティブハイビームアシスト・プラスが再度作動可能になります。

エンジン

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 冷却水を点検 してください 取扱説明書を参照	冷却水レベルが低すぎる。 ! エンジン冷却システムの冷却水がかなり不足している状態で長距離走行しないでください。 エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 補給時の警告事項に従って、冷却水を補給してください(▷447 ページ)。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。
	ファンモーターが故障している。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 冷却水が減少 停車して エンジンを停止	冷却水が熱すぎる。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** オーバーヒートしているエンジンで絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、エンジンルームにフルード類が漏れ、引火する原因になるおそれがあります。 さらに、ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重大な火傷の原因になるおそれがあります。 けがのおそれがあります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ)。 ▶ エンジンが冷えるまで待ってください。 ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水温度が 120℃ 以下になるまではエンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。 ▶ 冷却水温度表示に注意してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。 通常の使用条件下で指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120℃まで上がることがあります。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 取扱説明書参照	バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 考えられる原因： • オルタネーターの故障 • 電力電子部品の故障（ハイブリッド車両） • V ベルトの切断 • 電気装備の故障 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトが切れていないかどうかを点検してください。 **V ベルトが切れている場合：** ! 走行しないでください。 エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 **V ベルトが問題ない場合：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 停車してください 取扱説明書参照	バッテリーが充電されなくなったが、走行を続けている。 警告音も鳴った。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ ディスプレイメッセージ [バッテリー] 取扱説明書参照 の指示に従ってください。
 ｴﾝｼﾞﾝ始動 取扱説明書参照	エンジンが停止し、バッテリーの充電レベルが非常に低下している。 ▶ エンジンを始動します。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 給油の際 エンジンオイル量を 点検してください	エンジンオイルレベルが最低レベルまで低下している。 警告音も鳴った。 ▶ 次回の給油時までには、オイルレベルを点検してください（▷445 ページ）。 ▶ 必要な場合は、エンジンオイルを補給してください（▷445 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンの点検を受けてください。 ! エンジンオイル量が不足している状態で長距離走行をしないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
 エンジンオイルを 1 リッター 補充してください	エンジンオイルレベルが最低レベルまで低下している。 ▶ 次回の給油時までには、オイルレベルを点検してください（▷445 ページ）。 ▶ 必要な場合は、エンジンオイルを補給してください（▷445 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンの点検を受けてください。 ! エンジンオイル量が不足している状態で長距離走行をしないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
 エンジンオイル量 減少、停車して エンジンを停止	オイルレベルが低すぎる。エンジン損傷の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください（▷242 ページ）。 ▶ エンジンオイルレベルを点検してください（▷445 ページ）。 ▶ 必要な場合は、エンジンオイルを補給してください（▷445 ページ）。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
給油してください	燃料レベルが予備範囲に下がっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンク内に非常に少ししか燃料がない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

ハイブリッドシステム

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
故障	ハイブリッドシステムが故障している。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運搬車両で車両を運搬してもらうか、リアアクスルを上げてけん引してください。
故障	ドライブシステムが故障している。 ECO スタートストップ機能が故障していることがある。 車両が通常よりゆっくりと加速することがあります。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運搬車両で車両を運搬してもらうか、リアアクスルを上げてけん引してください。

走行システム

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
アテンションアシスト 休憩しませんか？	一定の基準に基づいて、アテンションアシストが運転者の疲労や注意力低下を検知した。警告音も鳴った。 ▶ 必要な場合は、休憩を取ってください。 長距離運転時には、適切な時期に定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
アテンションアシスト 作動できません	アテンションアシストが作動しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
車高が あがります	車両が選択した高さに車高を調整している。
車高があがります お待ちください	車両が停止しているときに、車高が下がりすぎている。警告音も鳴った。 ▶ 発進しないでください。 ディスプレイメッセージが消えたときは、車高が設定されています。
停車してください 車高が低すぎます	車高が非常に低すぎる状態で発進した。 しばらくすると、設定された車高に AIR マティックサスペンションが車両を調整します。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ メッセージが消えるまで待ってから発進してください。
	AIR マティックサスペンションが故障している。警告音も鳴った。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ ステアリングは少しだけ動かすようにしてください。さもないと、ステアリングの動きが非常に大きい場合に、フロントフェンダーまたはタイヤが損傷するおそれがあります。 ▶ 擦れる音がしないか確認してください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、安全に車両を移動して停車し、より高い車高を選択してください。 故障によっては、車高が上がることがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
故障	AIR マティックサスペンションの機能が制限されている。 車両のハンドリング特性が影響を受けることがある。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
ABC 故障 停車してください	ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）の車高が低すぎる。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 数秒後に、車高が調整され、ディスプレイメッセージが消えます。
	車両からオイルが漏れている。 ディスプレイメッセージが表示され続けている。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	ディスプレイメッセージが表示され続けている。 ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）が故障している。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ ステアリングは少しだけ動かすようにしてください。さもないと、ステアリングの動きが非常に大きい場合に、フロントフェンダーまたはタイヤが損傷するおそれがあります。 ▶ 擦れる音がしないか確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
ABC 車高があがります お待ちください	車両が停止しているときに、車高が下がりすぎている。警告音も鳴った。 ▶ 発進しないでください。 ディスプレイメッセージが消えたときは、車高が設定されています。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ABC 故障	ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）の機能が制限されている。車両のハンドリング特性が影響を受けることがある。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
アクティブ レーン キープアシスト 現在使用不可 取扱説明書参照	アクティブレーンキーピングアシストが解除され、一時的に作動しない。考えられる原因： • フロントウインドウのカメラの視界部分が汚れている • ラジエターグリルおよび / またはバンパーのセンサーが汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 長時間車線マークがない • 車線マークが薄くなったり、黒ずんでいるか、または汚れや雪などに覆われている 上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。 アクティブレーンキーピングアシストが再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが消えない場合： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 ▶ 以下の位置にあるセンサーを清掃してください。 • ラジエターグリル • フロントバンパー • リアバンパー
アクティブ レーン キープアシスト 作動できません	アクティブレーンキーピングアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
アクティブ ブラインドスポット 現在使用できません 取扱説明書参照	アクティブブラインドスポットアシストが一時的に作動しない。考えられる原因： • センサーが汚れている • 大雨や雪により機能が損なわれている • レーダーセンサーシステムが作動温度範囲外にある • 周囲のテレビまたはラジオ放送局、または他の電磁波発生源から発生している電磁波により、レーダーセンサー システムが一時的に作動しない 上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。 アクティブブライドスポットアシストが再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが消えない場合： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 動き出さないように車両を固定します（▷242 ページ）。 ▶ センサーを清掃してください（▷457 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。
アクティブ ブラインドスポット 作動できません	アクティブブラインドスポットアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
ﾊﾟｰｷﾝｸﾞｱｼｽﾄ 中止	運転席ドアが開いている。 ▶ 運転席ドアを閉じて、駐車スペースの測定および駐車操作を繰り返してください。
	ステアリングの介入が作動している間に、マルチファンクションステアリングに触れた。 ▶ ステアリングの介入が作動している間は、ステアリングに触れていないことを確認してください。
	車両が横滑りし始め、ESP® が作動した。 ▶ 後でアクティブパーキングアシストを再度使用してください（▷280 ページ）。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ﾊﾟｰｷﾝｸﾞｱｼｽﾄ 作動できません	パークトロニックが故障している、または不具合がある。 ▶ "パークトロニックのトラブル" の項目にある指示および役に立つヒントに従ってください（▷280 ページ）。 ディスプレイメッセージが表示され続ける場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
	アクティブパーキングアシストが作動しない、または故障している。 ▶ イグニッションをオフにして、エンジンを再始動します。 アクティブパーキングアシストが作動しないままの場合（マルチファンクションディスプレイに P マークが表示されない）： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ 現在使用できません	ナイトビューアシストプラスが解除され、一時的に作動しない。考えられる原因： • フロントウインドウのカメラの視界部分が汚れている • ラジエターグリルのカメラが汚れている。 • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 外気温度が高すぎる。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 ▶ ラジエターグリルのカメラを清掃してください。 極端な外気温度のためにシステムが停止している場合は、冷却されるとシステムが自動的に再度作動します。 カメラが完全に機能していることをシステムが検知した場合は、ディスプレイメッセージが消えます。 ナイトビューアシストプラスは再度作動可能になります。
ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ 故障	ナイトビューアシストプラスが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
HOLD オフ	ホールド機能が解除されている。車が横滑りしている。 警告音も鳴った。 ▶ 後でホールド機能を再作動させてください（▷269 ページ）。
ディストロニックプラス オフ	ディストロニック･プラスが解除されている（▷264 ページ）。 運転者によって解除されていない場合は、警告音も鳴ります。
ディストロニックプラス 再び使用できます	一時的に使用できなくなった後、ディストロニック・プラスが再度使用可能になった。ディストロニック・プラスを再度作動させることができます（▷258 ページ）。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ディストロニックプラス 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ディストロニック・プラスが一時的に作動しない。 ディストロニック・プラスのステアリングアシストも一時的に作動しない。 考えられる原因： • 大雨や雪により機能が損なわれている • ラジエターグリルとバンパーにあるセンサーが汚れている • 周囲のテレビまたはラジオ放送局、または他の電磁波発生源から発生している電磁波により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低すぎる 警告音も鳴った。 上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。 ディストロニックは再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが消えない場合： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 動き出さないように車両を固定します（▷242 ページ）。 ▶ ラジエターグリルとバンパーにあるセンサーを清掃します（▷457 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。
ディストロニックプラス 作動できません	ディストロニック・プラスが故障している。 以下も故障していることがあります。 • BAS プラス • PRE-SAFE® ブレーキ • ステアリングアシスト付ディストロニック・プラス警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 制御待機中	アクセルペダルを踏んでいる。ディストロニック・プラスが車両の速度を制御しなくなっている。 ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ - - - km/h	ディストロニック・プラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ディストロニック・プラスの作動条件を確認してください（▷258 ページ）。
ディストロニックプラス と可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀｰ 作動できません	ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
DTR+: ｽﾃｱﾘﾝｸﾞｱｼｽﾄ 現在使用できません 取扱説明書参照	ディストロニック・プラスのステアリングアシストが一時的に作動しない。考えられる原因： • フロントウインドウのカメラの視界部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 長時間車線マークがない • 車線マークが薄くなったり、黒ずんでいるか、または汚れや雪などに覆われている 上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。 ディストロニック・プラスのステアリングアシストが再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが消えない場合： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください（▷242 ページ）。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
DTR+: ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ ｱｼｽﾄ 作動できません	ディストロニック・プラスのステアリングアシストが故障している。 ただし、ディストロニック・プラス機能は引き続き使用できます。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
クルーズコントロールと 可変スピードリミッター 作動できません	可変スピードリミッターとクルーズコントロールが故障している。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀｰ 制限速度 ---km/h	踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んでいる（キックダウン）間は、可変スピードリミッターを作動させることができない。 ▶ 状況が許す場合は、30km/h 以上で走行し、速度を記憶させてください。
クルーズコントロール --- km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。 例えば、 30 km/h 以下の速度を記憶させようとした。 ▶ 状況が許す場合は、 30 km/h 以上で走行し、速度を記憶させてください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▷249 ページ）。

タイヤ

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 警告音も鳴った。 • ホイールおよびタイヤの位置を変更した、または新しいホイールおよびタイヤを取り付けた。 • 1 本または複数のタイヤ空気圧が正しくない。 ⚠ **警告** 空気圧が不足しているタイヤは以下のような危険をもたらします。 • 負荷や車両の速度が高くなると特に、タイヤがバーストすることがある。 • タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が著しく損なわれることがある。 • 走行特性、およびステアリング操作やブレーキ操作が著しく損なわれることがある。 事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ 車両が動き出さないように、車両を固定してください（▷242 ページ）。 ▶ タイヤを点検し、必要であれば、パンクしたときの指示に従ってください（▷466 ページ）。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要な場合はタイヤ空気圧を修正してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷499 ページ）。
空気圧点検後 タイヤ空気圧 警告システム再始動	タイヤ空気圧警告システムによりディスプレイメッセージを発し、再起動されていない。 ▶ 4 輪すべてで、適正なタイヤ空気圧に設定してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷499 ページ）。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
タイヤ空気圧 警告システム 作動できません	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジン始動 P または N にシフト	トランスミッションがポジション **R** または **D** のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ トランスミッションをポジション **P** または **N** にシフトしてください。
バックアップバッテリー 故障	トランスミッションの補助バッテリーが充電されなくなった。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
ブレーキを踏んで P レンジからシフト	ブレーキペダルを踏まずに、トランスミッションのセレクターレバーをポジション **D**、**R**、**N** に動かそうとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
ｼﾌﾄﾎﾟｼﾞｼｮﾝが P ではないため 車が動く恐れが あります	トランスミッションがポジション **R**、**N**、または **D** のときに運転席ドアを開いた。 警告音も鳴った。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
シフトチェンジせず工場で点検	故障のため、シフトポジションを変更することができない。 警告音も鳴った。 シフトポジション **D** が選択されている場合： ▶ トランスミッションをポジション **D** からシフトしないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 シフトポジション **R**、**N**、または **P** が選択されている場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
停車中のみ P レンジにシフト できます	車両が動いている。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。
	トランクリッドが開いている。 ▶ トランクリッドを閉じてください。
	ボンネットが開いている。警告音も鳴った。 ⚠ **警告** 車両が動いているときは、開いたボンネットで視界が遮られることがある。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ ボンネットを閉じてください。
アクティブフード 故障 取扱説明書を参照	故障のため、またはすでに作動しているため、アクティブボンネット（歩行者保護システム）が作動しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
	1 つ以上のドアが開いている。警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ﾄﾞｱﾐﾗｰが見にくい 場合は、助手席を移動させるか、ﾍｯﾄﾞﾚｽﾄをはずしてください	助手席シートがショーファーポジションにあり、助手席ヘッドレストが格納されている。 ⚠ 警告 助手席シートがショーファーモードで、ヘッドレストが格納されている場合は、助手席ドアミラーの視界が損なわれるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 助手席シートのヘッドレストを取り外します（▷156 ページ）。 または ▶ 助手席シートを通常の位置に動かします（▷152 ページ）。
助手席使用できません 指定ｻｰﾋﾞｽ工場で点検を受けてください	助手席シートのヘッドレストが格納され、不具合がある。 ヘッドレストを展開することができない。 ⚠ 警告 ヘッドレストが正しく調整されない場合は、意図したように保護機能を発揮できません。 事故またはブレーキ時などに、頭部および頸部にけがをする危険性が高まります。 ▶ 助手席シートを使用しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	パワーステアリングのアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ステアリング操作に大きな力が必要になる。 事故の危険性があります。 ▶ 必要とされる大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができる場合：**慎重にメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができない場合：**走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
電話 圏外	車両がネットワークプロバイダーの送受信範囲外にある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに携帯電話のネットワークプロバイダ名が表示されるまで待ってください。
 ウォッシャ液を 補充してください	ウォッシャー液リザーブタンクのウォッシャー液レベルが最低レベルまで下がっている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷449 ページ）。

キー

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーが違います	エンジンスイッチに他の車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
キーを交換 してください	キーを交換する必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
キーの電池を 交換してください	キーの電池が放電している。 ▶ 電池を交換してください（▷117 ページ）。
キーを認識 できません （白色のディスプレイメッセージ）	現在キーが検知されていない。 ▶ 車内のキーの位置を変更してください。 それでもキーが検知されない場合： ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、希望の位置にまわしてください。
キーを認識できません （赤色のディスプレイメッセージ）	キーが車内にない。 警告音も鳴った。 エンジンを停止した場合は、車両の集中施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ キーを探してください。 ▶ ステアリングの OK を押し、ディスプレイメッセージを確定します。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	強い電波源からの干渉があるため、エンジンがかかっている間にキーが検知されない。 警告音も鳴った。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ 必要な場合は、エンジンスイッチのキーで車両を操作してください。
スタートボタンを外し キ-を入れてください	キーが継続して検知されない。 キー検知機能に一時的に不具合がある、または故障している。警告音も鳴った。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、希望の位置にまわしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

メーターパネルの警告および表示灯

安全性

シートベルト

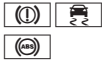
警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
[シートベルト警告灯]	▷ フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください（▷61 ページ）。 警告灯が消灯します。 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。
[シートベルト警告灯]	▷ 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください（▷61 ページ）。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。 助手席シートの上に荷物を置いている。その状態で、約 25km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全システム

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
(!)	▷ エンジンがかかっている間に黄色のブレーキシステム警告灯が点灯する。 ⚠ 警告 ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキ特性に影響を与えることがある。 事故の危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
(!)	▷ エンジンがかかっている間に赤色のブレーキシステム警告灯が点灯する。警告音も鳴った。 ⚠ 警告 ブレーキのブースト機能が故障しているため、ブレーキ特性に影響を与えることがある。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
(!)	▷ エンジンがかかっている間に赤色のブレーキシステム警告灯が点灯する。警告音も鳴った。 ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。 ⚠ **警告** ブレーキ性能が損なわれることがある。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給しても問題は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
	▷ エンジンがかかっている間に黄色の ABS 警告灯が点灯する。 故障のため、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BAS プラス、CPA（衝突警告システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストも解除されている。 アテンションアシストが解除されている。 **⚠ 警告** 上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。 ABS コントロールユニットが故障している場合は、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションのような、他のシステムも作動しなくなることがある。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
(ABS)	▷ エンジンがかかっている間に黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。 故障のため EBD が使用できない。そのため、ABS、BAS、BAS プラス、CPA（衝突警告システム）、ESP®、PRE-SAFE®、PRESAFE® プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストも使用できない。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** 上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
	▷ エンジンがかかっている間に、赤色のブレーキ警告灯、黄色の ESP® 警告灯および黄色の ABS 警告灯が点灯している。 故障のため、ABS および ESP® が使用できない。そのため、BAS、BAS プラス、CPA（衝突警告システム）、EBD、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストも使用できない。 アテンションアシストが解除されている。 上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	▷ 走行中に黄色の ESP® 警告灯が点滅する。 車両が横滑りをする危険性があるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニック・プラスは解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® を解除しないでください。 まれに（▷102 ページ）、ESP® を解除したほうがいい場合があります。
	▷ エンジンがかかっている間に、黄色の ESP® 警告灯が点灯している。 故障のため、ESP®、BAS、BAS プラス、CPA（衝突警告システム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが使用できない。アテンションアシストが解除されている。 ⚠ 警告 上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP® が作動しない場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
[ESP OFF]	▷ エンジンがかかっている間に黄色の ESP® 解除警告灯が点灯する。 ESP® が解除されている。 ⚠ **警告** ESP® が解除されている場合は、ESP® が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ ESP® を再度設定してください。まれに（▷102 ページ）、ESP® を解除したほうがいい場合があります。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® を設定することができない場合： ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
[(P)]	▷ 電気式パーキングブレーキの赤色の表示灯が点滅または点灯する、および / また、電気式パーキングブレーキの黄色の警告灯が点灯する。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
(乗員保護装置警告灯)	▷ エンジンがかかっている間に赤色の乗員保護装置警告灯が点灯する。 保護システムが故障している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがの危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で保護システムを点検してください。 保護システムに関するさらなる情報は、（▷55 ページ）をご覧ください。

エンジン

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
(エンジン警告灯)	▷ エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。 以下のシステムが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム（ガソリンエンジン車） • 燃料供給システム 排出ガス中の成分が基準値を超えたため、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(燃料残量警告灯)	▷ エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。 燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
(冷却水警告灯)	▷ エンジンがかかっている間に赤色の冷却水警告灯が点灯し、冷却水温度計がバー表示の始まりにある。 冷却水温度計の温度センサーが故障している。冷却水温度を確認することができない。冷却水の温度が高すぎる場合は、エンジンが損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
[冷却水警告灯]	▷ エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 冷却水レベルが低すぎる。 冷却水レベルが正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障しているおそれがある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項（▷447 ページ）に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下になるまで、エンジンを再度始動しないでください。エンジンが損傷することがあります。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
(冷却水警告灯)	▷ エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。冷却水温度が約 120℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、冷却水レベルが低すぎる可能性がある。 ⚠ **警告** エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。 エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがある。
(冷却水警告灯)	ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがある。 けがの危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷242 ページ）。 ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項（▷447 ページ）に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

ハイブリッドシステム

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
(!)	▷ 黄色の RBS（回生ブレーキシステム）警告灯が点灯する。また、場合によっては警告音も鳴った。 ⚠ **事故のおそれがあります** RBS に異常がある。ペダルのストロークが通常よりも大きくなり、ブレーキの性能に影響が生じることがある。自動エンジンストップ機能も解除することがある。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージを遵守してください（▷348 ページ）。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!)	▷ 赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。 ⚠ **事故のおそれがあります** RBS に異常がある。ペダルのストロークが通常よりも大きくなり、ブレーキの性能に影響が生じることがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

走行システム

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
[icon]	▷ 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。 設定された速度に対し、先行車との車間距離が近すぎる。 ▶ 車間距離を広げてください。
[icon]	▷ 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。警告音も鳴った。 同じ走行車線にいる前車または静止した障害物に急速に近付いている。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。ブレーキ操作や危険回避の操作が必要となる可能性があります。 PRE-SAFE® ブレーキについて詳しくは、（▷104 ページ）をご覧ください。 CPA（衝突警告システム）の距離警告機能について詳しくは（▷97 ページ）をご覧ください。

車両

警告 / 表示灯	▷ シグナルタイプ **考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
[ステアリング警告灯]	▷ エンジンがかかっている間に赤色のパワーステアリング警告灯が点灯する。 ステアリングのパワーアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ステアリング操作に大きな力が必要になる。事故の危険性があります。 ▶ 大きな力を加えればステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができるときは、**注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができないときは、**走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください(▷30 ページ)。

全体的な注意事項

これらの取扱説明書の COMAND システムの項には、COMAND システムとオンラインおよびインターネット機能の操作の基本原則が記載されています。詳細はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

COMAND システムは、例えば以下のことを考慮せずに目的地までのルートを検索します。

- 信号
- 一時停止および優先標識
- 駐車または停車の規制
- 道路の道幅の狭さ
- その他、道路や交通ルール、規則

COMAND システムは地図上のデータが実際の状況と違う場合には、適切でない走行案内をすることがあります。例えば、道が変更されたり、または一方通行の方向が変更になったときです。

このため、走行中は、道路や交通ルール、規則を常に遵守してください。システムの走行案内よりも道路や交通ルール、規則を常に優先してください。

わずか 50km/h の速度でも、車両は 1 秒あたり約 14m の距離を進むことを念頭においてください。

著作権の情報

全体的な注意事項

車両やその電子部品で使用されているフリーのオープンソースソフトウェアのライセンスの情報を以下のウェブサイトで見つけることができます：**http:// www.mercedes-benz.com/opensource**

機能の制限

安全上の理由のため、車両が走行している間は COMAND システムのいくつかの機能が制限されたり、利用できないことがあります。このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、COMAND システムにこの結果に対するメッセージが表示されることで、ご確認いただけます。

COMAND システムの操作システム

概要

構成部品

① COMAND ディスプレイ
② CD/DVD チェンジャー
③ コントローラーおよびスイッチ

COMAND システムは以下のものから構成されています。

- COMAND ディスプレイ
  COMAND ディスプレイは 1440 x 540 ピクセルです。
- CD/DVD チェンジャー
- コントローラー
- ビデオ機能
- スイッチ
- タッチ感応式テレフォンキーパッド
- センターコンソール内のポート（2 つの USB、AUX）
  iPod® は USB ケーブル経由で接続されます。
- 運転者の携帯電話用ユニバーサル電話インターフェース
- 助手席乗員用ヘッドホン（コードレス）

機能

- **ラジオ**

  インターネットラジオ。コミュニケーションをご覧ください。

- **メディア**

  サポートしているメディア:音楽 CD、MP3 CD、DVD ビデオ、2 個の USB、SD カード、iPod®、Bluetooth® オーディオ、ハードドライブの 10GB のメディアレジスター

  すべてのメディアを使用したミュージックサーチ

  電子番組ガイド(EPS)、データサービス、サブタイトルおよび言語選択オプションのあるテレビおよびラジオ放送局のデジタルテレビ受信

- **サウンドシステム**

  以下の 3 つのサウンドシステムから選択できます。

  標準的なサウンドシステム

  Burmester® サラウンドサウンドシステム

  音楽を最大限に楽しむための Burmester ハイエンド 3D サラウンドサウンドシステム

- **ナビゲーションシステム**

  キーワード検索を使用しての目的地の入力

  都市構造モデルのあるリアルな 3D 地図

  ドライブショー、Google マップなどの乗員用ナビテインメント

  VICS/DSRC

- **コミュニケーション**

  Bluetooth インターフェース経由の電話機能

  アドレス帳

  インターネットブラウザ

  Google™ ローカル検索付き Mercedes-Benz Apps(メルセデス・ベンツ アプリ)、目的地ダウンロード、天候、Facebook、Google™ ストリートビュー、インターネットラジオ、株価、ニュースなど

  COMAND システムへのスマートフォン接続用 WLAN インターフェース、およびオプションであるリアエンターテインメントシステム用リモコン

  お客様の携帯電話を使用してインターネットにアクセスできるようにするための、タブレット PC またはラップトップ接続用 WLAN ホットスポット機能

- **車両機能**

  新しいマッサージプログラム付きマルチコントロールシートバックの設定

  エアコンディショナー機能

  アンビエントライトの操作:いくつかの色と照度レベルの選択

  360° カメラシステム

- **お気に入りスイッチ**

  お気に入りスイッチおよびテレフォンキーパッドのテンキーを使用して、12 個までのお気に入り機能により早くアクセスできます。

- **マルチユーザーエンターテインメント**

  全ての乗員が、COMAND システム経由でエンターテインメントオプションにアクセスできます。

  リモコンによる操作とデジタルコードレスヘッドホン

COMAND ディスプレイ

例：音楽 CD モードの基本画面

① 他の画面を表示できる時刻付きステータスバー
② 基本画面欄
③ エアコンディショナーの作動表示
④ 補助画面エリアの内容表示

コントローラーおよびスイッチ

概要

① COMAND システムのオン / オフの切り替え
② 音量の調整または消音
③ テレフォンキーパッド
④ リターンスイッチ
⑤ シート調整スイッチ

⑥ ナビゲーションスイッチ
⑦ ラジオスイッチ
⑧ メディアスイッチ
⑨ 電話、アドレス帳およびインターネットスイッチ
⑩ 車両およびシステム設定スイッチ
⑪ コントローラー
⑫ [*] お気に入りスイッチ

リターンスイッチ

[↩] スイッチを使用してメニューを終了したり、現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する：** [↩] スイッチを軽く押します。

COMAND システムは現在の操作モードのなかで、一つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す：** [↩] スイッチを押して保持します。

COMAND システムは現在の操作モードの基本表示に切り替わります。

テレフォンキーパッド

テレフォンキーパッドはタッチ感応式です。 1 つまたはいくつかのキーに軽く触れるとすぐに、COMAND システムのディスプレイにテレフォンキーパッドが表示されます。触れたキーは強調されます。

コントローラー

コントローラーは以下のために使用します。

- COMAND ディスプレイからメニュー項目を選択する
- 文字を入力する
- 地図に目的地を入力する
- 入力を保存する

コントローラーは以下のことができます。

- まわす
- 左右にスライドする ←◎→
- 前後にスライドする ↑◎↓
- 斜めにスライドする ⤡◎⤢
- 軽く押す、または押して保持する

COMAND オンラインとインターネット機能

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- インターネットアクセスデータの選択 / 設定
- Google™ ローカル検索
- 天気
- Mercedes-Benz Apps
- インターネットラジオ
- インターネット

全体的な注意事項

アクセスの条件

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全なときにのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、関連する法規に従ってください。

オンライン機能とインターネットアクセスは、Bluetooth® インターフェースを介して利用することができます。

機能を使用するには、以下の条件が必要です。

- 携帯電話は Bluetooth® プロファイルの DUN（**D**ial-**U**p **N**etworking：ダイアルアップネットワーク）または PAN **P**ersonal **A**rea **N**etwork：パーソナルエリアネットワーク）の少なくとも 1 つをサポートしていて、Bluetooth ® インターフェース経由で COMAND システムに接続される。Bluetooth ® プロファイルの DUN および PAN は、COMAND システムおよびリアエンターテインメントシステムへの携帯電話のインターネット接続を可能にします。
- 携帯電話は、USB クラスの CDC/ECM（Ethernet Control Model）またはCDC/ACM（Access Control Model）の少なくとも 1 つをサポートしていて、USB インターフェース経由で COMAND システムに接続される。USB クラスは、COMAND システムおよびリアエンターテインメントシステムへの携帯電話のインターネット接続を可能にします。
- 携帯電話でデータ通信が可能である。
- 接続されている携帯電話用の携帯電話ネットワークプロバイダーのアクセスデータが、COMAND システムで設定されている（▷412 ページ）。

ℹ 適合する携帯電話について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

ℹ 携帯電話によっては、独立して DUN Bluetooth® プロファイルをオンにしなければならないものもあります（携帯電話の取扱説明書をご覧ください）。

ℹ 携帯電話の中には同時に 2 つの Bluetooth® プロファイルのみをサポートするものがあります（例：Bluetooth ® 電話機能のハンズフリープロファイルおよびオーディオストリーミングの Bluetooth ® オーディオプロファイル）。さらにインターネット接続を確立させたときは、Bluetooth ® オーディオ経由での再生が停止することがあります。

ℹ 不適切なアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。これは、契約と違う項目や、他の契約 / データパッケージの項目を使用したときに発生します。

ℹ それぞれの Mercedes-Benz Apps が使用できるかは、国によって異なることがあります。

ⓘ 利用規約は COMAND システムが初めて使用されたとき、およびそれ以降年に 1 度表示されます。車両が停止しているときにのみ、利用規約を読んで同意してください。

ⓘ 運転者が走行中にウェブサイトを呼び出すことは許可されておらず、Mercedes-Benz Apps の使用は制限されています。

インターネットデータ オプションを選択し、データをインポート / エクスポートしたときは、携帯電話のネットワークプロバイダーのパスワードは保存**されません**。

インターネットに再度接続するときは、以下のように進めます。

▶ **ステップ 1**：携帯電話のネットワークプロバイダーを削除します。

▶ **ステップ 2**：携帯電話のネットワークプロバイダーを再度選択する（オプション 1）か、手動で設定します（オプション 2)。

車両が走行している間の接続障害

以下の場合は、接続が切断されることがあります。

- 特定の地域において、携帯電話のネットワーク範囲が不十分なとき
- 携帯電話の送信 / 受信エリア（携帯電話の基地局）を他に移動して、空いているチャンネルがないとき
- 使用できるネットワークに準拠していない SIM カードを使用している

アクセスデータの設定

全体的な注意事項

DUN Bluetooth® プロファイルまたは CDC/ACM USB クラスを使用している場合は、オンラインおよびインターネット機能を使用するために、接続した携帯電話のインターネットアクセスデータが必要です。お客様の携帯電話ネットワークプロバイダーからこれを入手できます。PAN Bluetooth® プロファイルまたは CDC/ECM USB クラスがサポートされている場合は、電話に設定されているインターネットアクセスデータが使用されます。そのときは COMAND システムにインターネットアクセスデータを設定する必要はなくなります。

ⓘ ローミングにより、COMAND オンラインとインターネット機能を使用すると、追加料金が発生することがあります。

インターネット機能のための携帯電話の確立および設定

携帯電話のネットワークプロバイダーのリストを呼び出す

ⓘ インターネットアクセスのために携帯電話を設定するためには、携帯電話を Bluetooth® または USB インターフェース経由で COMAND システムに接続しなければなりません。

▶ TEL スイッチを押します。

最後に呼び出した機能が表示されます。

▶ 基本機能バーでコントローラーをスライドしてから ↑◎、押して 電話 / 🌐 を選択します。

メニューが表示されます。

▶ インターネット を選択する：コントローラーをまわして、押します。

メニューが表示されます。

▶ 設定 を選択する：コントローラーをスライドしてから ◎⬇ まわして押します。

メニューが表示されます。

▶ インターネットの設定 を選択する：コントローラーをまわして押します。

メニューが表示されます。

▶ インターネットデバイス検索 を選択します。

文字表示が表示されます。

ⓘ インターネット機能用に携帯電話がすでに設定されていて、COMAND システムに接続されている場合は、すでに設定され、接続されている携帯電話のリストが文字表示の代わりに表示されます。

▶ インターネットデバイス検索 を選択します。

文字表示が表示されます。

ⓘ COMAND システムに接続されている携帯電話がまだない場合は、自動的に以下の画面が表示されます。

▶ 検索開始 を選択します。

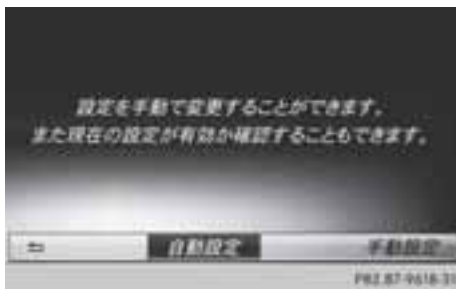
検索された携帯電話がリストに入力されます。

携帯電話には以下が表示されます。

- COMAND システムに接続されている
- インターネット機能のシステムによりサポートされているが、インターネット機能用の設定がまだ行なわれていない

▶ 希望の携帯電話を選択します。

ドットは選択した携帯電話を示しています。文字表示が表示されます。

ⓘ PAN Bluetooth® プロファイルまたは CDC/ECM USB クラスをサポートしている電話はすでに設定されています。インターネット接続を確立することができます（▷416 ページ）。

DUN Bluetooth® プロファイルまたは CDC/ACM USB クラスをサポートしている携帯電話のオプションが２つあります。

オプション１：

▶ 携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータを選択します（▷414 ページ）。

オプション２：

▶ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを手動で設定します（▷415 ページ）。

携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータの選択

プロバイダーの検索

▶ 自動設定 メニューで選択する：コントローラーをまわして、押します。

国のリストが表示されます。

▶ 日本 のような携帯電話のネットワークプロバイダーの国を選択します。

使用可能なプロバイダーのリストが表示されます。

▶ NTT docomo のようなプロバイダーを選択します。

プロバイダー設定の概要が 設定確認 に表示されます。

▶ 設定確認で、情報が正しいことを確認します。情報が正しくない場合は、設定を編集できます。

ⓘ 携帯電話のネットワークプロバイダーが複数のアクセスデータのオプションを提供している場合は、関連のアクセスデータを選択しなければなりません。これは、例えば使用しているデータパッケージによって異なります。

ⓘ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータが接続している携帯電話で一度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再び読み込まれます。接続の確立については（▷416 ページ）をご覧ください。

ⓘ 接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ（アクセス設定）を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定してください。他のネットワークのアクセスデータは選択**しないでください**。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定

▶ 手動設定 メニューで選択する：コントローラーをまわして、押します。

プロバイダー設定の概要が表示されます。

▶ お客様のデータパッケージのアクセスデータに応じてプロバイダー設定を設定します（▷415 ページ）。

▶ 設定を確認する：設定が正しい場合は、設定確認 を選択します。

ⓘ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータが接続している携帯電話で一度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再び読み込まれます。接続の確立については（▷416 ページ）をご覧ください。

ⓘ 接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ（アクセス設定）を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定してください。他のネットワークのアクセスデータは選択**しないでください**。

アクセスデータの説明

入力欄	意味
電話番号	接続を確立するためのアクセス番号 ⓘ アクセス番号は使用している携帯電話によって異なります。 GSM/UMTS 携帯電話では、*99***1# が標準で使用されます。
アクセスポイント：	APN ネットワークアクセスポイント（**A**ccess **P**oint **N**ame：アクセスポイント名） お客様の携帯電話のネットワークプロバイダーからこの情報を入手できます。 ⓘ すべての携帯電話ネットワークプロバイダーおよび携帯電話で入力が必要なわけではありません。
PDP Type:	使用されているインターネットプロトコル お客様の携帯電話のネットワークプロバイダーからこの情報を入手できます。

入力欄	意味
ユーザー ID：	ユーザー ID は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ⓘ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力が必要なわけではありません。
パスワード：	パスワードは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ⓘ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力が必要なわけではありません。
オート DNS:	DNS アドレス（Domain Name Service：ドメインネームサービス）を設定または解除できます。必要な情報は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。
DNS 1： DNS 2：	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するための欄。アドレスは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。

接続の確立 / 終了

接続を確立する

接続の確立の条件は、" 全体的な注意事項 "（▷411 ページ）に記載されています。

以下を使用するときにに接続が確立されます。

- Mercedes-Benz Apps（メルセデス・ベンツ アプリ）の呼び出し
- メルセデス・ベンツモバイルウェブサイトの呼び出し
- ウェブアドレスの入力（▷418 ページ）
- お気に入りの呼び出し
- インターネットラジオの呼び出し
- ワイヤレスネットワーク機器経由でのインターネット接続の確立。このためには "WiFi 共用を許可 " オプションが作動していなければなりません。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

接続を終了する

▶ 接続ウインドウで 中止 を押します。

ⓘ インターネット接続の作動と同時に電話の通話が行なわれている場合は、ステータスバーに ☎ マークが表示されます。使用されている携帯電話および携帯電話のネットワークによっては、インターネット接続は作動したままになります。

接続状況

① 仕様により表示されません
② 現在の接続状況
③ 接続状況表示
④ 現在のデータ接続表示
⑤ インターネット接続時間
⑥ インターネットの装置名称
⑦ 作動している接続の表示

ⓘ 接続中を示す矢印のマークはリアエンターテインメントシステムにも表示されます。

COMAND システムに接続されている電話を使用してインターネット接続が確立されている場合は、シートの前列が色で強調されます。

リアエンターテインメントシステムに接続されている電話を使用してインターネット接続が確立されている場合は、シートの後列が色で強調されます。

▶ TEL スイッチを押します。

最後に呼び出した機能が表示されます。

▶ 電話 / 🌐 メニューを選択する：コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして押します。

▶ 設定 を選択する：コントローラーをスライドしてから ◎↓ まわして押します。

メニューが表示されます。

▶ 接続情報 を選択する：コントローラーをまわして押します。

接続状況の概要が表示されます。

接続を終了する

▶ メニューからハサミのマークを選択する：コントローラーをスライドしてから ◎ ⬇、まわして押します。

ℹ 携帯電話でインターネット接続を中止すると、COMAND システムは再接続しようとします。そのため、COMAND システムまたはリアエンターテインメントシステムでの接続は必ず終了してください。

使用していない場合のインターネット接続の自動切断

たとえば 5 分などの規定時間に COMAND システムから転送されるデータがない場合は、システムはインターネット接続を自動的に切断します。

インターネット

ウェブサイトを呼び出す

表示制限

インターネットのページは走行中は表示できません。

メニューの呼び出し

▶ TEL スイッチを押します。

最後に呼び出した機能が表示されます。

▶ 電話 / 🌐 メニューを選択する：コントローラーをスライドして ⬆◎、まわして押します。

▶ インターネット を選択する：コントローラーをまわして、押します。

インターネット機能のメニューが表示されます。

ウェブアドレスの入力

文字バーまたはテンキーのいずれかを使用してウェブアドレスを入力できます。

▶ www メニュー項目を選択する：コントローラーをまわして、押します。

入力メニューが表示されます。

▶ **文字バーを使用して入力を行なう：**ウェブアドレスを入力行に入力します。

最初の文字を入力行に入力するとすみやかに、リストがその下に表示されます。入力した文字で始まるウェブアドレスと、すでに呼び出されたウェブアドレスがリストに表示されます。

初めて呼び出したときはリストは空欄です。

▶ ウェブアドレスを入力した後に ok を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。

ウェブサイトが呼び出されます。

ウェブサイトを操作する

概要

手順	動作
▶コントローラーをまわす。	選択できる項目（リンク、文字欄またはメニューなど）から次に移動し、ウェブサイトのそれぞれの項目を強調します。
コントローラーをスライドする。 ▶左右 ←◎→ ▶上下 ↑◎↓ ▶斜め ◎	ページのポインターを動かします。
▶コントローラーを押す。	選択した項目を開きます。
▶ ⮌ を押す。	メニューを呼び出します。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

収納エリア

積載のガイドライン

⚠ **警告**

内燃エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジンをかけた状態（特に車両が走行中）でトランクリッドが開いたままになっていると、排気ガスが車内に入る可能性があります。中毒を起こすおそれがあります。

トランクリッドを開く前に、必ずエンジンを停止してください。トランクリッドを開いたまま走行しないでください。

⚠ **警告**

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、滑ったり、投げ出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがの可能性があります。

荷物は投げ出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などが滑ったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

荷物の積み方は車両の走行安定性に大きく影響します。荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 荷物を運搬するときは、最大車両総重量および許容軸重（乗員を含む）を超えないようにしてください。
- 荷物はトランクに入れて運ぶことをお勧めします。
- 重い物はトランク内のできるだけ前方に、そしてできるだけ低く配置してください。
- 荷物がシートのバックレストよりも高くならないようにしてください。
- 可能であれば、乗車していないシートの後方に常に荷物を置いてください。
- 十分な強度があり、耐摩耗性の固定用具で荷物を固定してください。保護のため鋭い角にはパッドを当ててください。

ⓘ 荷物固定用具は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

収納スペース

重要な安全上の注意事項

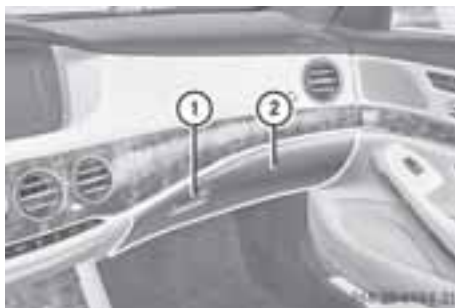
⚠ **警告**

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、投げ出されたりして、乗員がけがをするおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更時にけがの危険性があります。

- このようなときや類似の状況で収納物が飛び出さないように、常に収納してください
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようにしてください
- ロック可能な小物入れは走行中は閉じてください
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はトランクに収納し、固定してください

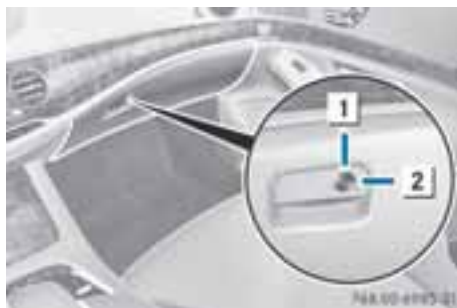
積載のガイドライン（▷422 ページ）をお守りください。

前席の小物入れ

グローブボックス

▶ **開く：**ハンドル ① を引き、グローブボックスのカバー ② を開きます。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、グローブボックスのカバー ② を閉じます。

グローブボックス内を冷却することができます（▷211 ページ）。

グローブボックスには、コインホルダー、ペンホルダー、3 つのカードホルダーがあります。

エマージェンシーキーでグローブボックスを施錠 / 解錠できます。

▶ **施錠する：**エマージェンシーキーをキーシリンダーに差し込んで、施錠位置 [2] に時計回りに 90°まわします。

▶ **解錠する：**エマージェンシーキーをキーシリンダーに差し込んで、解錠位置 [1] に反時計回りに 90°まわします。

サングラスケース

▶ **開く：**マーク ① を押します。サングラスケースが下に開きます。

▶ **閉じる：**マーク ① を再度押して、サングラスケースを上方に戻してロックさせます。

車両が動いている間はサングラスケースが閉じていることを必ず確認してください。

センターコンソール内の小物入れ

▶ **開く：**マーク ② を軽く押します。

▶ **閉じる：**ロックするまで小物入れ ① を矢印の方向に押します。

▶ **開く：**クローム部分 ① を持ち、カバーを後方にスライドさせます。

閉じる：クローム部分 ① を軽く押します。

アームレスト下の小物入れ

▶ **開く：**スイッチ ① または ② を押して、アームレストを左または右に起こします。

車両の装備によって、小物入れ内には USB ポート、外部入力ジャックまたはメディアインターフェースが装着されています。メディアインターフェースは、iPod®、iPhone® または MP3 プレーヤーなどのポータブルオーディオまたはビデオ機器のための汎用インタフェースです（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

運転席および助手席シート下部の小物入れ

⚠ **警告**

小物入れの最大許容積載量を超えると、カバーが開いて物が小物入れから投げ出され、乗員にぶつかる可能性があります。特に急ブレーキ時や急な進路変更時に、けがをする危険性があります。

小物入れの最大許容積載量を決して超えないようにしてください。重い荷物はトランクに固定して収納してください。

小物入れの最大許容積載量は 1.5kg です。

▶ 開く：ハンドル ① を引き上げ、カバー ② を前方に引き出します。

ドアの小物入れ

ドアの小物入れ ② には、折りたたみ傘のような物を収納することができます。

ドア ① には、1.0 ℓ までの容量のボトルを収納することができます。

後席の小物入れ

リアシートアームレスト内の小物入れ

▶ **開く：**シートのアームレストを下に倒します。

▶ ハンドル ① を引き、アームレストを上方に起こします。

メモリー付パワーシート装備車両：

▶ **開く：**シートのアームレストを下に倒します。

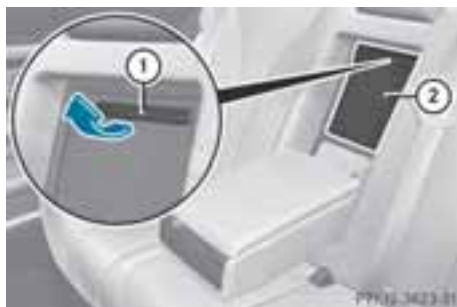
▶ ハンドル ① を引き上げ、アームレストを上方に起こします。

後席のセンターコンソール内の小物入れ

左右独立シート装備車両：

- ハンドル ① を引き上げて、アームレストを上方に起こします。

車両の装備によって、小物入れ内には USB ポート、外部入力ジャックが装着されています。

リアシートバックレスト内の収納ボックス

- **開く：**リアアームレストを下に倒します。
- ハンドル ① を引き、カバー ② を下に倒します。

左右独立シート装備車両：

- **開く：**リアアームレストを下に倒します。
- ハンドル ① を引き、カバー ② を下に倒します。

車両の装備によっては、小物入れの代わりに DVD プレーヤーが装着されています。

ウッドテーブル

⚠ 警告

ウッドテーブルを開いて走行している場合は、特に事故、急ブレーキまたは突然の進路変更のときに車両乗員がぶつかることがあります。けがの危険性があります。

走行前にウッドテーブルを格納してください。

▶ **展開する：**リアアームレスト①（▷425 ページ）を開きます。

▶ 凹部②または③を持ち、ウッドテーブルを前方および上方に引き、外側にまわします。

▶ テーブルのパネルを開きます。

▶ **格納する：**テーブルのパネルを閉じ、格納式テーブルに戻します。

▶ ウッドテーブルを元の位置に戻します。

収納ネット

助手席足元には、収納ネットがあります。また、運転席および助手席シート背面には伸縮式のポケットがあります。

積載のガイドライン（▷422 ページ）および収納用スペースに関する、重要な安全上の注意事項（▷423 ページ）に従ってください。

荷物の固定

ラゲッジネット固定部

全体的な注意事項

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- ラゲッジネットを使用して荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 荷物のとがった部分や角に固定用具が当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

トランク

トランク内には 4 つのラゲッジネット固定部があります。

トランクフロアボード下の収納スペース

トランクフロアボード下には、タイヤフィットなどのための多目的の収納部があります。

▶ **開く：**トランクリッドを開きます。

▶ 凹凸部を押さえながら、ハンドル②を下方に押します。ハンドル②が浮き上がります。

▶ トランクセパレーターに接するまで、ハンドル②を使用して、トランクフロアボード①を持ち上げます。

▶ トランクフロアボード裏面のフック ③ を引き出します。

▶ フック ③ を溝 ④ にかけます。

▶ **閉じる：**フック ③ を溝 ④ から外します。

▶ フック ③ をトランクフロアボード裏面のブラケットに固定します。

▶ トランクフロアボードを下に倒します。

ルーフラック

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ルーフに荷物を積むと、車両の重心位置が上がり、走行特性が変化します。ルーフの最大積載量を越えている場合は、走行特性やステアリング特性、ブレーキ特性が大幅に損なわれるおそれがあります。事故の危険性があります。

運転スタイルを合わせるとともに、ルーフの最大積載量を決して超えないでください。

ルーフの最大許容積載量は 100kg です。

! メルセデス・ベンツ車用にテストされ、承認されたルーフラックのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。これにより、車両の損傷を防ぐ助けになります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

ルーフキャリアを装着しているときは、パノラミックスライディングルーフが完全にチルトアップし、トランクリッドが完全に開くことを確認してください。

! カバーやルーフの損傷を防ぐため、カバーを開くために金属製の物やかたい物を使用しないでください。

ルーフラックが不適切に固定されていたり、ルーフ上の荷物が適切に固定されていない場合は、車両から脱落することがあります。そのため､ルーフラックメーカーの装着指示に従ってください。

パノラミックスライディングルーフ装備車両：ルーフラックを装着している場合は、パノラミックスライディングルーフを開くことはできません。車内を換気するためには、パノラミックスライディングルーフをチルトアップすることはできます。

メルセデス・ベンツにより承認されたルーフラックがパノラミックスライディングルーフと接触した場合は、スライディングが少し下がり、後部が上がったままになります。

ルーフラックの取り付け

- ▶ カバー ① を矢印の方向に上方に起こします。
- ▶ カバー ① 内のマウント部にルーフラックを装着します。
- ▶ ルーフラックの装着方法は、製品に添付されている取扱説明書の指示に従ってください。

機能

カップホルダー

重要な安全上の注意事項

! カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器をお使いください。飲み物がこぼれるおそれがあります。

フロントセンターコンソールのカップホルダー

- ▶ **開く：**小物入れ（▷424 ページ）を開きます。
- ▶ **取り外す：**キャッチ ① を前方にスライドし、カップホルダーを上方に引きます。
- ▶ **挿入する：**センターコンソールの灰皿のカバーが閉じていることを確認します。
- ▶ カップホルダーを挿入し、キャッチ ① をスライドして戻します。

清掃のためにカップホルダーおよびラバーマットを取り出すことができます。きれいなぬるま湯でのみ、清掃してください。

リアシートのアームレストのカップホルダー

! リアアームレストを倒しているときに、アームレストに腰をかけたり、体重を支えるなど無理な力を加えないでください。アームレストが損傷する原因になります。

! リアシートのアームレストを格納する前にカップホルダーを閉じてください。さもないと、カップホルダーが損傷するおそれがあります。

▶ リアシートのアームレストを引き出します。

▶ **開く：**カップホルダー①または②の前側を押します。

カップホルダー①または②が自動的に出てきます。

▶ **展開する：**カップホルダーに容器を置きます。

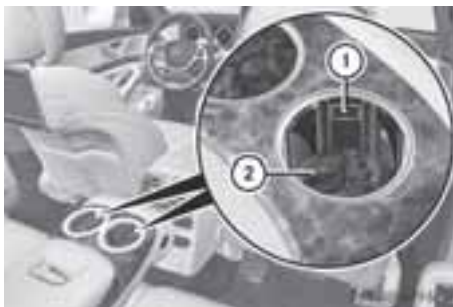
カップホルダーは自動的に下に倒れます。

▶ **格納する：**容器を取り出します。

カップホルダーは自動的に格納します。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、カップホルダー①または②をスライドさせて戻します。

メモリー付パワーシート装備車両

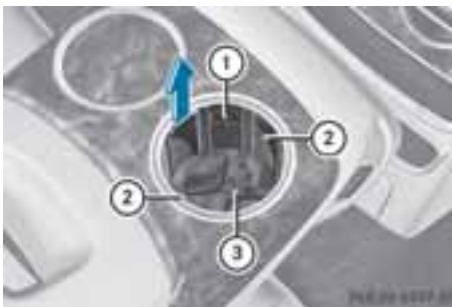
! リアアームレストを倒しているときに、アームレストに腰をかけたり、体重を支えるなど無理な力を加えないでください。アームレストが損傷する原因になります。

▶ リアシートのアームレストを引き出します。

▶ **開く：**ロックされるまで、カップホルダー底部②の中央を押し下げます。

▶ **閉じる：**クロージングスイッチ①を押します。

カップホルダー底部②が上がります。

清掃のためにカップホルダーインサートを取り外すことができます。きれいなぬるま湯でのみ、清掃してください。

! カップホルダーのインサートを15mm以上引き出さないでください。さもないと、リアシートのアームレストのウッドトリムが損傷するおそれがあります。

▶ **インサートを取り外す：**ロックされるまで、カップホルダー底部 ③ の中央を押し下げます。

▶ 両方のクリップ ② を押して、カップホルダーのインサートを上方に約 15mm 引き出します。

▶ スイッチ ① を押します。

カップホルダー底部 ③ が上がります。

▶ リアシートのアームレストからインサートを完全に取り外します。

! カップホルダーのインサートが凹部に正しく挿入されていることを確認してください。さもないと、リアシートのアームレストのウッドトリムが損傷するおそれがあります。

▶ **インサートを挿入する：**カップホルダー底部 ① が上部の位置にあることを確認します。

▶ カップホルダーのインサートの位置を合わせ、リアシートのアームレストの凹部に置きます。

▶ カップホルダーのインサートを下に押します。

▶ 音がしてカップホルダーのインサートがロックされるまで、カップホルダーのインサートの外側のリング ② を押します。

後席の温度制御式カップホルダー

① カップホルダー
② スイッチ

温度制御式カップホルダーは、冷たい飲み物を冷たく、温かい飲み物を温かく保つために使用できます。

ヒーター機能を使用すると、カップホルダーの金属製インサートが加熱されます。このため、カップホルダーのインサートには触れないでください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **クーラー機能を作動させる：**青い表示灯が点灯するまでスイッチ ② を押し続けます。

▶ **ヒーター機能を作動させる：**赤い表示灯が点灯するまでスイッチ ② を押し続けます。

▶ **機能を停止する：**表示灯が消えるまでスイッチ ② を押し続けます。

清掃のためにラバーマットを取り外すことができます。きれいなぬるま湯でのみ、清掃してください。

カップホルダーの清掃には、固く鋭利な形状の物を使用しないでください。柔らかいスポンジのみを使用して清掃してください。

サンバイザー

概要

① ミラーライト
② フック
② クリップ
② バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

サンバイザーのバニティミラー

ミラーライト ① は、サンバイザーがフック ② で固定されている状態で、ミラーカバー ⑤ が開いているときにのみ点灯します。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーを固定部 ② から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

電動ブラインド（後席左右）

① 左フロント
② 右フロント
③ 右リア
④ 左リア

リアサイドウインドウのブラインドはサイドウインドウのスイッチで作動させることができます。

運転席ドアには、すべてのサイドウインドウのスイッチがあります。各ドアにもサイドウインドウのスイッチがあります。

運転席ドアのスイッチ操作が優先されます。

▶ **完全に閉じる：**サイドウインドウが閉じているときに、対応するスイッチを引きます。

▶ **完全に開く：**対応するスイッチを押します。

ℹ リアドアのスイッチでは、反対側のリアサイドウインドウのブラインドを開閉することもできます。

電動ブラインド（リアウインドウ）

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電動ブラインドが展開または格納しているときに、身体の一部が電動ブラインドの可動範囲に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

展開または格納動作の間は、身体を電動ブラインドの可動範囲に近づけないようにしてください。挟まれた場合は、スイッチを軽く押してください。開閉動作が少し停止した後に、反対方向に展開または格納します。

! 電動ブラインドがスムーズに動くことを確認してください。スムーズに動かない場合は、ブラインドや周辺の物が損傷するおそれがあります。

-20℃以下の温度では、電動ブラインドは作動しません。

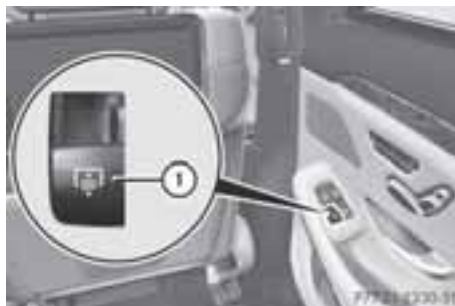
運転席からの展開 / 格納

▶ **展開または格納する**：スイッチ ① を軽く押します。

電動ブラインドが自動で展開または格納します。

▶ **停止する**：スイッチ ① を再度軽く押します。

電動ブラインドが少し停止し、反対の方向に作動します。

リアからの展開 / 格納

▶ **展開する**：スイッチ ① を引いて放します。

電動ブラインドが完全に展開します。

▶ **展開を停止する**：スイッチ ① を軽く押します。

電動ブラインドが少し停止し、再度格納します。

▶ **格納する**：手ごたえがあるところを越えるまで、スイッチ ① を押して放します。

電動ブラインドが完全に格納します。

▶ **格納を停止する**：スイッチ ① を引きます。

電動ブラインドが少し停止し、再度展開します。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックが設定されているときは（▷ 92 ページ）、スイッチ ① は作動しません。電動ブラインドは運転席からのみ展開および格納できます。

灰皿

前席の灰皿

▶ **開く：**マーク ④ を軽く押します。小物入れのカバー ③ が開きます。

▶ **インサートを取り外す：**インサート ① の側面をつかみ、前方に押してから上方 ② に引き上げます。

▶ **インサートを取り付ける：**ロックされるまで、インサート ① を小物入れに押し込みます。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、小物入れのカバー ③ を押して閉じます。

後席の灰皿

灰皿は、リアドアの小物入れの中にあります。カップホルダーに置く、または手に持って使用することができます。

▶ 灰皿をリアドアの収納部 ① から取り外します。

▶ **開く：**カバー ② を上方に起こします。

▶ **閉じる：**カバー ② を下方に押します。

灰皿を使用しない場合は、カバー ② を閉じてリアドアの収納部に置いてください。

ライター

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ライターのヒーター部や熱くなっているホルダー部に触れると、火傷をするおそれがあります。

以下のときは、可燃性の素材が燃える可能性があります：

- 熱くなっているライターを落としたとき
- 子供などが熱くなっているライターを荷物の上に置いたとき

火災およびけがの危険性があります。

ライターは必ずノブの部分を持ってください。子供がライターに触れないように常に気をつけてください。付き添いのない状態で子供を車内に残さないでください。

常に交通状況に注意してください。道路および交通状況が許されているときにのみ、ライターを使用してください。

前席のライター

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ **開く：**マーク③を軽く押します。小物入れのカバー②が開きます。

▶ ライター①を押し込みます。ヒーター部が熱せられると、ライター①は自動的に元の位置に戻ります。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、小物入れのカバー②を押して閉じます。

後席のライター

リアエンターテインメントシステム非装備車両

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ **開く：**カバー②の上部を軽く押します。

小物入れが開きます。

▶ ライター①を押し込みます。

ヒーター部が熱せられると、ライター①は自動的に元の位置に戻ります。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、カバー②を押して閉じます。

リアエンターテインメントシステム装備車両：

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ **開く：**カバー ② の上部を軽く押します。

小物入れが開きます。

▶ ライター ① を押し込みます。

ヒーター部が熱せられると、ライター ① は自動的に元の位置に戻ります。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、カバー ② を押して閉じます。

左右独立シート装備車両

▶ ソケット入れの収納部 ① を軽く押します。

ソケット収納部が開きます。

▶ ライター ② を押し込みます。

ヒーター部が熱せられると、ライター ② は自動的に元の位置に戻ります。

12V 電源ソケット

全体的な注意事項

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

12V 電源ソケットは最大電力 180W（15A）のアクセサリーに使用できます。アクセサリーには、照明または携帯電話用充電器のようなアイテムが含まれます。

エンジンが停止しているときに 12V 電源ソケットを長時間使用した場合は、バッテリーが放電することがあります。

ℹ 緊急カットオフにより、バッテリーの電圧が過度に降下することを防ぎます。バッテリーの電圧が過度に低下した場合は、12V 電源ソケットは自動的に停止します。これにより、エンジンを始動するために十分な電力が確保されます。

フロントセンターコンソール内の 12V 電源ソケット

▶ **開く：**マーク ③ を軽く押します。小物入れのカバー ① が開きます。

▶ 12V 電源ソケットのカバー ② を開きます。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、小物入れのカバー ① を押して閉じます。

リアの 12V 電源ソケット

リアエンターテインメントシステム非装備車両

▶ **開く：**カバー ② の上部を軽く押します。

小物入れが開きます。

▶ ソケットのカバー ① を開きます。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、カバー ② を押して閉じます。

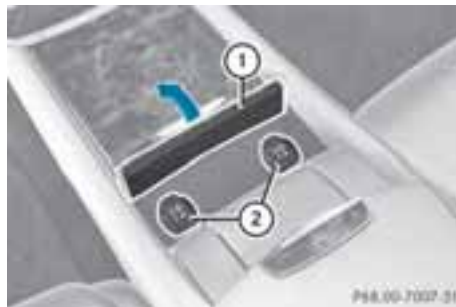
リアエンターテインメントシステム装備車両

▶ **開く：**カバー ② の上部を軽く押します。

小物入れが開きます。

▶ 12V 電源ソケット ① のカバーを開きます。

▶ **閉じる：**ロックされるまで、カバー ② を押して閉じます。

左右独立シート装備車両

▶ 12V 電源ソケット収納部のカバー ① を軽く押します。

12V 電源ソケット収納部が開きます。

▶ 12V 電源ソケットのカバー ② を開きます。

トランク内の 12V 電源ソケット

▶ 12V 電源ソケットのカバー ① を開きます。

後席のクーリングボックス

⚠ 警告

クーリングボックスの換気グリルが覆われている場合は、過熱することがあります。火災の危険性があります。

換気グリルが覆われていないことを常に確認してください。

クーリングボックスの換気グリルはトランク内にあります。

クーリングボックスの最大積載量は3.5kgです。

クーリングボックスの上部小物入れにボトルを収納する場合は、ボトルの容量が0.5Lを超えてはなりません。

クーリングボックスの上部小物入れにはプラスチックのボトルのみを収納してください。

クーリングボックスの使用

▶ **リアシートアームレスト装備車両：** リアシートアームレストを下に倒します。

▶ ハンドル①を引き、カバー②を下に倒します。

▶ **開く：**カバーのハンドル①を引きます。

▶ カバーを前に倒します。

▶ **冷却レベルを弱に切り替える：**スイッチ②を1度押します。

スイッチの表示灯が1つ点灯します。

▶ **冷却レベルを強に切り替える：**スイッチ②を2度押します。

スイッチの表示灯が両方点灯します。

▶ **冷却を停止する：**表示灯が消灯するまで、スイッチ②を繰り返し押します。

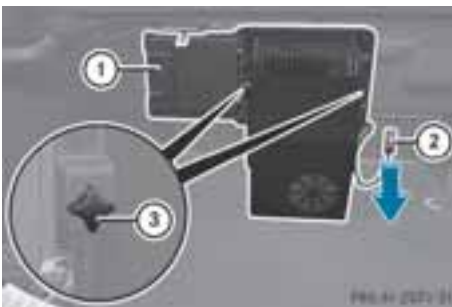
クーリングボックスの冷却出力は周囲の温度および選択した冷却レベルによって異なります。以下の場合は、クーリングボックスは冷却出力を下げたり、または停止します。

- 多くの電気装備が作動している
- スターターバッテリーが十分に充電されていない

スイッチの表示灯の点滅により、このことが示されます。電圧が十分になるとすぐに、冷却機能は自動的に再度作動します。

クーリングボックスの手入れ

クーリングボックスを長期間使用する必要がない場合は、停止して霜を除去し、清掃してください。その後は、しばらくカバーを開いたままにしてください。

クーリングボックスの取り外しおよび取り付け

メンテナンスのためにクーリングボックスを取り外すことができます。

▶ **取り外す：**クーリングボックスを停止します。

▶ プラグ ② を下に引き、外します。

▶ 両方のネジ ③ を緩めます。

▶ クーリングボックスを引き出します。

▶ フラップ ① を閉じます

▶ **取り付ける：**マグネットで所定の位置に固定されるまで、フラップ ① を横にまわします。

▶ クーリングボックスを挿入します。

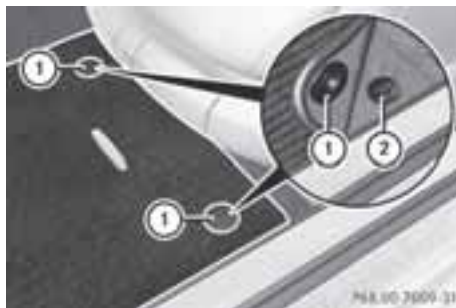
▶ 両方のネジ ③ を締めます。

▶ プラグ ② を接続します。

フロアマット

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

▶ 対応するシートを後ろにスライドします。

▶ **取り付ける：**フロアマットを足元に敷きます。

▶ 凹部 ① を固定部 ② に押し込みます。

▶ **取り外す：**固定部 ② からフロアマットを引いて外します。

▶ フロアマットを取り外します。

赤外線反射フロントウインドウ

赤外線反射ガラスは車内が高温になることを防止します。また、ギガヘルツ帯までの電波が入ることも防止します。

ETC などの無線制御機器を作動させるために、フロントウインドウの ① のエリアは電波を通すことができます。これらのエリア内に無線制御機器を取り付けることができます。

これらのエリアは、フロントウインドウの反射光を観察したときに車外から最もよく見える場所です。

後付けした防眩フィルム

ウインドウの内側に防眩フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼付した場合は、特に電波への影響が懸念されます。防眩フィルムについての詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ボンネットのロックを解除すると、走行中にボンネットが開くおそれがあり、視界の妨げとなるおそれがあります。事故の危険性があります。

走行中にボンネットのロックを解除しないでください。

⚠ **警告**

ボンネットを開閉しているときは、ボンネットが急に下がる場合があります。ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

⚠ **警告**

エンジンがオーバーヒートしているときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにして、消防局に連絡してください。

⚠ **警告**

エンジンルームには可動部品があります。ラジエターファンなどの特定の構成部品は、イグニッションをオフにした後も動き続けたり、再度突然動くことがあります。けがの危険性があります。

エンジンルームの作業を行わなければならない場合は、以下に従ってください：

- イグニッションをオフにしてください。
- ファンの回転範囲など、可動部品周囲の危険な範囲には決して触れないでください。
- 宝飾品や時計は外してください。
- 衣服や髪の毛などの物は、可動部品から離してください。

> ⚠ **警告**
>
> イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を発生する構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。けがの危険性があります。
>
> イグニッションをオンにしたときは、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

アクティブボンネット（歩行者保護）

作動原理

! 作動したアクティブボンネットはリセットした後にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修理しなければなりません。その後で、アクティブボンネットは再度作動するようになります。アクティブボンネットによる歩行者保護機能が元に戻ります。

アクティブボンネットは特定の国でのみ作動します。アクティブボンネットは、特定の状況下で歩行者のけがの危険性を軽減させることができます。アクティブボンネットが上がることにより、エンジンなどの固い構成部品との間隔が広がります。

アクティブボンネットが作動すると、ヒンジの後方周辺が約 85mm 上がります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転するためには、作動したアクティブボンネットをお客様ご自身でリセットしてください。アクティブボンネットが作動すると、歩行者保護機能が制限されます。

リセット

> ⚠ **警告**
>
> エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。
>
> できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

- ▶ ボンネットを開きます（▷444 ページ）。
- ▶ 音がしてヒンジが固定されるまで、ボンネットを慎重に持ち上げます（約 45° の位置）。
- ▶ ボンネットを閉じます（▷444 ページ）。

ボンネットを開く

⚠ 警告

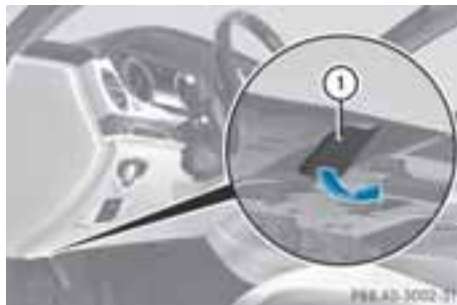
エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。

できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

ボンネットを開いているときに、ワイパーを作動位置のままにしていると、動き出したワイパーリンケージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーを停止し、イグニッションをオフにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。

▶ ボンネットロック解除レバー ① を引きます。

ボンネットのロックが解除されます。

▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル ② を引き上げながらボンネットを持ち上げます。

ボンネットを約 40cm 持ち上げると、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを押し下げます。

▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。

ボンネットがわずかに持ち上がる場合は、確実に固定されていません。再度開き、少し力を入れて閉じてください。

エンジンオイル

全体的な注意事項

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

❗ エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイルレベルを点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車両は 1,000km 当たり最大 0.8 ℓ のオイルを消費します。新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによっては、オイルレベルゲージは異なる位置に装着されています。

エンジンオイルレベルを点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車両を水平な場所に停車している。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している。
- エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度にない場合は、計測を行なう前に約 30 分以上経過している。

オイルレベルゲージを使用してオイルレベルを点検する

⚠ **警告**

エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。

できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

例

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。

▶ オイルレベルゲージ ① を拭きます。

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再度引き抜きます。

レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあるときは、オイルレベルは適正です。

▶ オイルレベルが MIN マーク ③、またはそれ以下まで下がっている場合は、エンジンオイルを 1.0 ℓ 補充してください。

エンジンオイルの補給

⚠ **警告**

エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。

できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災および火傷の危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に付着していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルが付着した構成部品を清掃してください。

環境に関する注意事項

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! 承認されているエンジンオイルおよびオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

以下により、エンジンまたは排気システムを損傷するおそれがあります。

- 承認されていないエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- 交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! オイルを過剰に補給しないでください。エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。余分なエンジンオイルは抜き取ってください。

例

- ▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ エンジンオイルを補給します。オイルレベルがオイルゲージの MIN マーク、またはそれ以下の場合は、エンジンオイルを 1.0 ℓ 補充してください。
- ▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわします。キャップが元の場所に確実にロックされていることを確認します。
- ▶ オイルレベルゲージでオイルレベルを再度点検します（▷445 ページ）。

エンジンオイルについてのさらなる情報は（▷524 ページ）をご覧ください。

定期的なエンジンオイルの交換

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。アシストプラスのメンテナンスインジケーター表示により、標準的な交換時期が定められています。ただし、交換時期は使用状況に左右されます。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

冷却水

冷却水レベルの点検

⚠ **警告**

エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。

できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムには圧力がかかっています。キャップを開くときは、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。火傷の危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋および保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜いてください。

▶ 車両を水平な場所に停めます。

車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときにのみ冷却水レベルを点検してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。冷却水温度は70℃以下でなければなりません。

▶ イグニッション位置を **0** にします。

▶ クリップを外して、冷却水リザーブタンク上のカバーを取り外します。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。

水温が低いときに冷却水レベルが補給口内のマーカー ③ の高さにあれば、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。

水温が温かいときに、冷却水レベルが補給口内のマーカー ③ から約 1.5cm 以上の高さにあれば、冷却水リザーバータンク ② 内に十分な冷却水があります。

▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についてのさらなる情報は（▷ 526 ページ）をご覧ください。

冷却水の補給

 警告

エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。

できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災および火傷の危険性があります。

不凍液を補給する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に付着していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液が付着した構成部品を清掃してください。

! 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

冷却水リザーブタンク ② 内のレベルが低すぎる場合は、水平な場所に停止し、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 冷却水をマーカー ③ まで補給してください。使用状況（▷526 ページ）に適した水および不凍液 / 腐食剤の混合液を使用します。

▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷まします。

▶ 冷却水レベル（▷447 ページ）を点検し、必要であれば補給します。

定期的な冷却水の交換

冷却水の品質は時間とともに劣化します。整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

エンジンのオーバーヒート

⚠ **警告**

エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。

できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

エンジンがオーバーヒートしているときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにして、消防局に連絡してください。

> ⚠ **警告**
>
> エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムには圧力がかかっています。キャップを開くときは、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。火傷の危険性があります。
>
> キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋および保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜いてください。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに約 120℃以上の冷却水温度が表示されます。
- マルチファンクションディスプレイに 冷却水が減少 停車して エンジンを停止 というメッセージが表示されます。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の 冷却水警告灯が表示されます。
- エンジンルームから蒸気が発生します。

他のサービスプロダクト

ウインドウウォッシャーシステムの補給

> ⚠ **警告**
>
> エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。
>
> できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

> ⚠ **警告**
>
> ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災および火傷の危険性があります。
>
> ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に付着していないことを確認してください。

▶ **開く：**タブを持ってキャップ ① を引き上げます。

▶ 混合しておいたウォッシャー液を補給します。

▶ **閉じる：**キャップ ① を補給口に押し付けて、固定します。

ウォッシャー液レベルが 1 ℓ 以下に下がった場合は、ウォッシャー液を補充するように促すメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます（▷ 387 ページ）。

フロントウインドウのウォッシャー液 / 凍結防止液についてのさらなる情報は（▷ 526 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液レベルの点検

⚠ 警告

エンジン、ラジエター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行なう場合は、火傷の危険性があります。

できるだけエンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

! ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークまたはそれ以下まで低下しているときは、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。ブレーキパッド / ライニングの厚みも点検してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

絶対にブレーキ液を補給しないでください。これを行なっても問題は解消しません。

ブレーキ液レベルの点検は、必ず水平な場所に停車した状態で行なってください。レベルがブレーキ液リザーブタンクの MIN マークと MAX マークの間にある場合は、ブレーキ液レベルは適正です。

アシストプラス

メンテナンスメッセージ

定期点検には以下のものがあります。

- 日常点検 - 点検時に異常を発見した場合は、できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の点検を受けてください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。日常点検に関する情報は、別冊の整備手帳をご覧ください。
- 1 年ごとの法定点検
- 2 年ごとの法定点検

法定点検の次回期日を記したステッカーは、フロントウインドウに貼付してあります。

i メンテナンスインジケーターには、法定点検の期日は考慮されません。

メンテナンスインジケーターは、次回の点検期日をお知らせします。点検の種類と点検時期に関する情報は、別冊の整備手帳をご覧ください。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

i メンテナンスインジケーターは、エンジンオイルレベルに関するいかなる情報も表示しません。エンジンオイルレベルに関する注意事項に従ってください（▷ 444 ページ）。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメンテナンスメッセージが数秒間表示されます。

- 次のﾒﾝﾃﾅﾝｽ A あと ... 日です
- メンテナンス A 期限が切れます
- メンテナンス A... 日経過しました

車両の使用状況により、次回の点検期日までの残り時間や距離が表示されます。

数字や他の文字を伴うことがある文字 A または B は、メンテナンスの種類を表しています。A は小規模なメンテナンス、B は大規模なメンテナンスを示しています。

詳細な情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーターは、バッテリーの接続を外している間の期日を考慮していません。

時期に左右されるメンテナンススケジュールは、以下のように管理してください。

▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示されているメンテナンス予定期日をメモしてください。

または

▶ バッテリーを再度接続した後に、ディスプレイに表示されているメンテナンス予定期日からバッテリーの接続を外していた期間を引いてください。

メンテナンスメッセージを非表示にする

▶ ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。

メンテナンスメッセージを表示する

▶ イグニッションをオンにします。

▶ ステアリングの ⌂ を使用して、メニューリストを呼び出します。

▶ ステアリングの ▲ または ▼ スイッチを押して、メニューの メンテナンス を選択し、OK を押して確定します。

▶ ステアリングの ▲ または ▼ スイッチを押して、サブメニューの メンテナンス を選択し、OK を押して確定します。

マルチファンクションディスプレイにメンテナンス予定期日が表示されます。

メンテナンスに関する情報

メンテナンスインジケーターのリセット

! メンテナンスインジケーターは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でリセットすることができます。

整備手帳に記載されているように点検作業を実施してください。さもなければ、部品の摩耗が進んだり、損傷するおそれがあります。

点検作業の実施後、メルセデス・ベンツ指定サービス工場はメンテナンスインジケーターのリセットを行ないます。メンテナンス作業などに関する詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

特別な点検が必要なとき

所定のメンテナンス間隔は、車両の通常の使用状況を元にしています。以下のような、過酷な使用条件や負荷のかかる状態で車両を使用しているときは、より頻繁にメンテナンス作業を行なう必要があります。

- 通常の市街地走行であっても頻繁に停止を繰り返すとき
- 主に短い距離を走行するとき
- 頻繁に山間地や路面の悪いところを走行するとき
- エンジンを長い時間アイドリングさせることが多いとき

上記または同様の使用状況では、エアフィルター、エンジンオイルおよびオイルフィルターなどをより頻繁に交換する必要があります。

車両に高い負荷がかかっている場合は、タイヤをより頻繁に点検する必要があります。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

手入れ

全体的な注意事項

環境に関する注意事項

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! お車の手入れを行なう場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

指輪やスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングをブレーキ効果により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

洗車と塗装面の清掃

自動洗車機

⚠ **警告**

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行なってください。

! ディストロニック･プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキが効きます。車両の損傷を防ぐため、以下のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

! 自動洗車機で洗車するときは、以下に注意してください：

- サイドウインドウおよびスライディングルーフが完全に閉じていること
- 送風が停止していること
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

! キーがキーレスゴーの後方検知範囲内にある場合は、例えば以下の状況でトランクが不意に開くことがあります。

- 洗車機を使用したとき
- 高圧式スプレーガンを使用したとき

キーが車両より約 2m 以上離れていることを確認してください。

! けん引装置付きの洗車機では、以下に従ってシフトポジションを **N** にしてください。車両が損傷するおそれがあります。

▶ キーレスゴーを使用しているときはキーレスゴースイッチを使用せずに、エンジンスイッチにキーを差し込みます。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわし、シフトポジションを **N** にします。

▶ キーをエンジンスイッチから抜かないようにします。

最初から自動洗車機で洗車することができます。ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーのノイズを低減します。

手洗い

国によっては、洗車は専用の洗車場でのみ許可されている場合があります。各国の法規に従ってください。

▶ 高温のお湯は使用せず、直射日光の下で洗車しないでください。

▶ 柔らかいスポンジを使用して清掃してください。

▶ メルセデス・ベンツにより承認されたカーシャンプーなどの中性洗剤を使用してください。

▶ 低圧の水流で車両全体に水をかけてください。

▶ 外気取り入れ口には直接水をかけないでください。

▶ スポンジをこまめにすすぎながら、十分な量の水を使用します。

▶ 車両をきれいな水で洗い流した後、セーム皮で全体を拭きます。

▶ 塗装面で洗浄液を乾燥させないでください。

冬季に車両を使用したときは、注意しながら道路の塩分堆積物のすべての跡をできるだけ早く除去してください。

高圧洗浄機器

⚠ **警告**

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両を清掃するときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズルの間には、常に最低でも約 30cm 以上の距離を空けてください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

車両を清掃するときは、高圧式スプレーガンのノズルを円を描くように動かしてください。

以下のものには直接向けないでください。

- タイヤ
- ドアの隙間、ルーフの隙間、継ぎ目など
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール
- トリム部品
- 換気用の隙間

シールや電気装備が損傷して、水漏れや故障につながります。

! キーがキーレスゴーの後方検知範囲内にある場合は、例えば以下の状況ではトランクが不意に開くことがあります。

- 洗車機を使用したとき
- 高圧式スプレーガンを使用したとき

キーが車両より約 2m 以上離れていることを確認してください。

塗装面の清掃

! ボディの表面には、次のものを貼り付けないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネット

塗装面が損傷するおそれがあります。

誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、補修が困難になる場合もあります。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 可能であれば、不純物は強くこすらないようにしてただちに取り除いてください。

▶ 虫の死がいは、インセクトリムーバーをしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。

▶ 鳥のふんは、水をしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。

▶ 冷却水、ブレーキ液、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、エーテルやライターオイルを染み込ませた布で軽く拭いて、取り除いてください。

▶ タールの汚れは、タール除去剤を使用して取り除いてください。

▶ ワックスは、シリコン除去剤を使用して取り除いてください。

マットペイントの手入れと取り扱い

! 車両や軽合金ホイールを研磨しないでください。研磨すると光沢がある仕上がりの原因になります。

! 以下により塗装に艶が出て、マット効果が減少することがあります。

- 不適切な素材での力強い研磨
- 洗車機の頻繁な使用
- 直射日光の下での洗車

! 塗装クリーナーや研磨・艶出し用品、ワックスのような光沢復活剤を使用しないでください。これらの製品は、高い艶がある表面のみに適したものです。これらの製品をマット仕上げ車両に使用すると、表面の著しい損傷（光沢のあるシミ部分）につながります。

塗装面の補修は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

! ホットワックス仕上げによる洗車サービスは絶対に利用しないでください。車両がクリアマット仕上げの場合はこれらの注意事項に従ってください。適切でない取り扱いにより、塗装への損傷を防ぎます。

これらの注意事項はクリアマット仕上げの軽合金ホイールにも当てはまります。

車両は、柔らかいスポンジやカーシャンプー、十分な水を使用して手で洗うようにしてください。

インセクトリムーバーおよびカーシャンプーは、メルセデス・ベンツが推奨し、承認したもののみを使用してください。

車両部品の清掃

車輪の清掃

! ホイールには酸性ホイールクリーナーを絶対に使用しないでください。ホイールボルトやブレーキ部品が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングをブレーキ効果により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

ウインドウの清掃

⚠ 警告

ワイパーを作動の位置のままにしていると、フロントウインドウまたはワイパーブレードの清掃中に、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

フロントウインドウまたはワイパーブレードを清掃する前に、必ずワイパーを停止し、イグニッションをオフにしてください。

! ウインドウの内側を清掃する場合は、乾いた布や研磨剤、有機溶剤や有機溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などの硬質のものがウインドウの内側に触れないようにしてください。ウインドウを損傷する危険性があります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況では、葉、花びら、花粉などの堆積物により排水されなくなり、腐食による損傷や電子部品の損傷につながるおそれがあります。

▶ 湿らせた布とメルセデス・ベンツが推奨し、承認したクリーナーでウインドウの内側と外側を清掃してください。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警告

ワイパーを作動の位置のままにしていると、フロントウインドウまたはワイパーブレードの清掃中に、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

フロントウインドウまたはワイパーブレードを清掃する前に、必ずワイパーを停止し、イグニッションをオフにしてください。

! ワイパーブレードを持って引っ張らないでください。ワイパーブレードが損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードを頻繁に清掃したり、強く擦ったりしないでください。グラファイトコーティングが損傷するおそれがあります。ワイパーからノイズが発生する原因になります。

! ワイパーアームを確実に持ってから、元の位置に戻してください。ワイパーアームが不意に当たると、フロントウインドウに傷が付くおそれがあります。

▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

▶ 湿らせた布を使用して、注意してワイパーブレードを清掃します。

▶ イグニッションをオンにする前に、ワイパーを再度元に戻します。

車外ライトの清掃

❗ 必ずプラスチック製レンズに適した洗剤やクリーニングクロスのみを使用してください。適切でない洗剤やクリーニングクロスは、車外ライトのプラスチック製レンズを傷つけたり、損傷するおそれがあります。

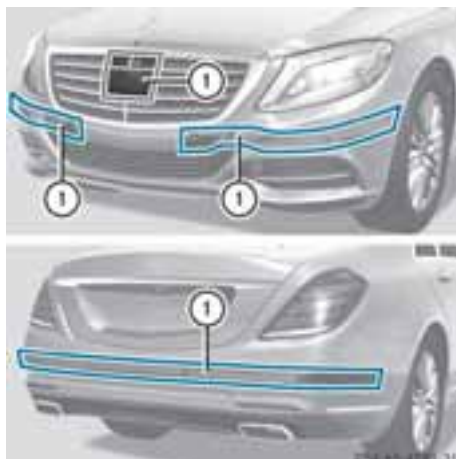
▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロス、またはスポンジなどを使用して車外ライトのプラスチック製レンズを清掃してください。

ドアミラー方向指示灯

❗ 必ずプラスチック製レンズに適した洗剤やクリーニングクロスのみを使用してください。適切でない洗剤やクリーニングクロスは、ドアミラー方向指示灯のプラスチック製レンズを傷つけたり、損傷するおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロス、またはスポンジなどを使用してドアミラーユニットにあるドアミラー方向指示灯のプラスチック製レンズを清掃してください。

センサーの清掃

❗ 高圧式スプレーガンを使用してセンサーを清掃するときは、スプレーガンのノズルと車体の距離を約 30cm 以上離してください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

▶ 走行システムのセンサー ① は、カーシャンプーを混ぜた水で汚れを落とし、柔らかい布で拭き取ってください。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

❗ 高圧式洗浄機器を使用する場合は、カメラのレンズやパーキングアシストリアビューカメラの周囲を避けてください。

▶ 停車していること、およびイグニッション位置が **1** または **2** にあることを確認します。

▶ **パーキングアシストリアビューカメラのカバーを開く：**COMAND システムを作動させて、車両メニューを呼び出します。[車両アイコン] スイッチを押します。

▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ⬇。

▶ 設定を選択する：コントローラーをまわして、押します。

▶ リアビューカメラを選択する：コントローラーをまわして、押します。

▶ カメラのカバーを開けるを選択する：コントローラーをまわして、押します。パーキングアシストリアビューカメラのカバーが開きます。

▶ **パーキングアシストリアビューカメラを清掃する：**清潔な水および柔らかい布を使用して、カメラレンズ ① を清掃してください。

360° カメラシステムの清掃

❗ 高圧式洗浄機器を使用する場合は、カメラのレンズや 360° カメラシステムの周囲を避けてください。

▶ 停車していること、およびイグニッション位置が **2** にあることを確認します。

▶ **360° カメラのカバーを開く：**COMAND システムを作動させて、車両メニューを呼び出します。[車両] スイッチを押します。

▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ⬇。

▶ 設定を選択する：コントローラーをまわして、押します。

▶ 360° カメラを選択する：コントローラーをまわして、押します。

▶ カメラのカバーを開けるを選択する：コントローラーをまわして、押します。360° カメラのカバーが開きます。

▶ **360° カメラを清掃する：**清潔な水および柔らかい布を使用して、カメラレンズ ① を清掃してください。

30km/h 以上の速度で走行している場合、またはイグニッション位置が **0** または **1** のときは、360° カメラのカバーが自動的に閉じます。

マフラーの清掃

❗ ホイールクリーナーなど、酸性のクリーナーでマフラーを清掃しないでください。

路面の小石や腐食性の環境物質などが混ざった不純物が、マフラーの表面に発生する錆の原因になることがあります。特に、冬季や洗車後などは、定期的に清掃することにより、マフラーの元来の輝きを取り戻すことができます。

▶ メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたケア製品でマフラーを清掃してください。

車内の手入れ

ディスプレイの清掃

! ディスプレイの手入れには、以下のものは絶対に使用しないでください。

- アルコールやシンナー、ガソリン
- 研磨剤を含む洗剤
- 市販の家庭用洗剤

これらを使用すると、ディスプレイ表面のコーティングを傷付けるおそれがあります。ディスプレイ表面を強くこすらないでください。ディスプレイが損傷して修理できなくなるおそれがあります。

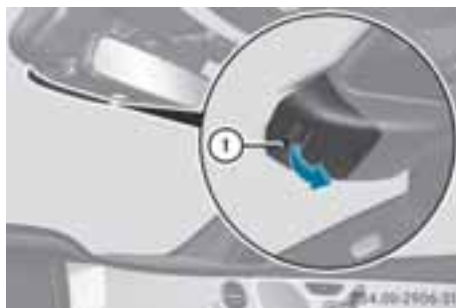
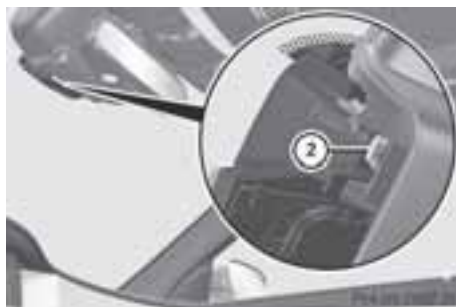
▶ ディスプレイを清掃する前に、ディスプレイがオフになっていて、冷めていることを確認します。

▶ 市販のマイクロファイバークロスとTFT 液晶ディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイ表面を清掃します。

▶ 乾いたマイクロファイバークロスを使用してディスプレイ表面を拭きます。

ナイトビューアシストプラスの清掃

フロントウインドウ後方のカメラの清掃

! カメラのレンズを拭かないでください。ナイトビューアシストプラスのカメラ前方のフロントウインドウを清掃するときは、スプレー式のウインドウクリーナーがカメラのレンズに付着しないように注意してください。カメラレンズが汚れている場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ カバーの凹部 ① に指を入れて下に開きます。

▶ 柔らかい布で、カメラ ② 前面のフロントウインドウを清掃します。

ラジエタートリムのカメラの清掃

ウインドウウォッシャーシステムを作動させることにより、カメラレンズ ① は定期的な間隔で清掃されます。

▶ 著しく汚れているときは、清潔な水と柔らかい布を使用して、カメラレンズ ① を清掃します。

プラスチックトリムの清掃

⚠ **警告**

手入れおよび清掃をするときに、溶剤を含む洗剤を使用すると、ダッシュボードの表面がもろくなります。エアバッグが作動するときに、プラスチック部品が破損するおそれがあります。けがの危険性があります。

ダッシュボードの手入れおよび清掃の際には、溶剤を含む洗剤を使用しないでください。

! プラスチックの表面には、以下のものを貼り付けないでください。

- ステッカー
- フィルム
- 芳香ボトルや類似のもの

プラスチックを損傷するおそれがあります。

! 化粧品、殺虫剤、日焼け止めなどが樹脂製トリムに付着しないようにしてください。表面の光沢や質感が損なわれるおそれがあります。

▶ 湿らせたマイクロファイバークロスなどの柔らかい布でプラスチックトリムを拭きます。

▶ **汚れがひどいとき：**メルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたカーケア用品および清掃用品を使用してください。表面が一時的に変色することがあります。表面が再度乾くまでお待ちください。

ステアリングおよびセレクターレバーの清掃

▶ 湿らせた布、またはメルセデスベンツによって推奨され承認された手入れ用品を使用して全体を拭いてください。

ウッドトリムおよびトリムエレメントの清掃

! タール除去剤、ホイールクリーナー、光沢剤、ワックスなどの有機溶剤を絶対に使用しないでください。トリム表面を傷つけるおそれがあります。

▶ ウッドトリムやトリム部品は、湿らせたマイクロファイバークロスなどの柔らかい布で拭いてください。

▶ **汚れがひどいとき：**メルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたカーケア用品および清掃用品を使用してください。

シート表皮の清掃

全体的な注意事項

! 純正本革、人工皮革または DINAMICA の表皮の清掃には、マイクロファイバークロスを使用しないでください。頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

シートの外観と快適性をいつまでも保つためには、定期的な手入れが大切です。

本革シート表皮

! 革本来の特性を保つには、以下の日常の手入れに従ってください。

- 純正本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭きます。

- 革が濡れないように注意してください。硬化やひび割れにつながります。
- メルセデス・ベンツがテストし、承認したレザーケア用品のみを使用してください。詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

革は天然素材です。表面には次のように自然な特徴があります。

- 凹凸のある組織
- 成長痕および傷跡
- 微妙な色の違い

これらは革の特徴であり、製品の欠陥ではありません。

そのほかの素材のシート表皮

! 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 人工皮革のカバーは、1% の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1% の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせたマイクロファイバークロスで清掃します。注意深く汚れを落とし、シート全体をまんべんなく拭き取り、拭き跡が残らないようにします。その後、シートを乾燥させます。清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。
- アルカンタラ ® の表皮は、湿らせた布で清掃します。目に見える線が残らないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

シートベルトの清掃

⚠ 警告

シートベルトは漂白や染色によって劣化する可能性があります。その結果、シートベルトが事故のときにちぎれたり、機能しなくなる可能性があります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルトを漂白したり、染色しないでください。

! シートベルトの手入れには、ケミカル洗剤を使用しないでください。約 80℃以上の温度や直射日光に当てて乾燥させないでください。

▶ ぬるま湯と中性洗剤を使用して清掃します。

ルーフライニングとカーペットの清掃

▶ **ルーフライニング**：非常に汚れている場合は、柔らかいブラシ、またはドライシャンプーを使用します。

▶ **カーペット**：メルセデス・ベンツによって推奨および承認されてるカーペットや布用のクリーナーを使用します。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

車載品の収納場所

非常信号用具

車内には懐中電灯が装備されています。運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

ⓘ 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。初めて使用する前に、紙片を取り除いてください。

ⓘ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。電池が放電した場合は交換してください。

停止表示板

停止表示板の取外し / 交換

▶ **取り外す**：トランクリッドを開きます。

▶ 停止表示板ホルダー ① を矢印の方向に押して開きます。

▶ クリップ ③ を持ち上げ、停止表示板 ② を取り外します。

▶ **取り付ける**：停止表示板 ② を停止表示板ホルダー ① に戻します。

▶ 停止表示板ホルダー ① を閉じ、固定するまで押し上げます。

停止表示板の組み立て

▶ 脚部 ③ を引き出します。

▶ 側方の反射板 ② を引き上げて三角形を作り、上部のフック ① で固定します。

救急セット

救急セット①はトランク右側の収納ネットの中にあり、ベルクロファスナー②で固定されています。

▶ トランクリッドを開きます。

▶ ベルクロファスナー②を開きます。

▶ 救急セット①を取り出します。

ℹ 最低1年に1度、救急セットの使用期限を点検してください。必要な場合は内容物を交換し、なくなった物は補充してください。

車載工具

全体的な注意事項

車載工具およびけん引フックは、トランクフロアボード下の収納スペースにあります。

車載工具には、以下のものなどが含まれることがあります。

- 輪止め
- ジャッキ
- ホイールレンチ
- ラチェットレンチ
- ガイドボルト
- けん引フック

※車種や仕様により、車載工具の内容は異なります。

タイヤフィットキット装備車両

例
① タイヤフィット充填ボトル
② タイヤ充填コンプレッサー
③ けん引フック

▶ トランクリッドを開きます。

▶ トランクフロアボードを持ち上げます(▷427 ページ)。

▶ タイヤフィットキットを使用します(▷468 ページ)。

AMG 車両

例
① タイヤフィット充填ボトル
② ジャッキ
③ ラチェットレンチ
④ ガイドボルト
⑤ ジャッキサポート
⑥ ソケット
⑦ ホイールレンチ
⑧ けん引フック
⑨ 輪止め
⑩ タイヤ充填コンプレッサー

タイヤ交換工具キットは、トランクフロアボード下の収納スペースのトレイにあります。

▶ トランクリッドを開きます。

▶ トランクフロアボードを持ち上げます（▷427 ページ）。

パンク

車両の準備

車両によって、以下の装備があります。

- MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）（▷467 ページ）

  MOExtended タイヤ装備車両では、車両の準備の必要はありません。
- タイヤフィット（▷468 ページ）
- 応急用スペアタイヤ（一部の国のみ）（▷516 ページ）

車輪の交換 / 装着に関する情報は（▷500 ページ）をご覧ください。

▶ 往来からできるだけ離れた、かたくて滑らない水平な場所に車両を停車します。

▶ 非常点滅灯を作動させます。

▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷502 ページ）。

▶ 可能な場合は、前輪を直進位置にしてください。

▶ エンジンを停止します。

▶ **キーレスゴーを使用していないとき：**エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴーを使用しているとき：**運転席ドアを開きます。

車両の電気装備が、キーを抜いたことと同様の、**0** の状態になります。

▶ **キーレスゴーを使用しているとき：**エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。

▶ 乗員全員を車両から降ろします。そのときは、彼らが危険にさらされていないことを確認してください。

▶ 車輪交換をするときは、危険な範囲の近くに誰もいないことを確認してください。車輪交換を直接補助しない人は、ガードレールの向こう側に立つなどしてください。

▶ 車両から降りてください。そのときは交通状況に注意してください。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 適切な距離を離して停止表示板を置きます（▷464 ページ）。法規に従ってください。

ⓘ 自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

全体的な注意事項

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。影響を受けたタイヤには明らかに目に見える損傷があるとは限りません。

タイヤウォールの MOExtended マークで MOExtended タイヤを識別できます。このマークはタイヤサイズ表示などの横に表示されています。

MOExtended タイヤは、タイヤ空気圧警告システムが作動しているときにのみ使用することができます。

マルチファンクションディスプレイに空気圧に関する警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください（▷383 ページ）。
- タイヤに損傷があるかを確認してください。
- 走行を続ける場合は、以下の注意事項に従ってください。

最長走行可能距離は、車両に部分的に積載しているときは約 80km、車両にいっぱい積載しているときは約 30km です。

走行可能距離は、車両の荷物に加えて、以下によって異なります。

- 走行速度
- 道路状況
- 外気温度

MOExtended タイヤで走行可能な距離は、厳しい走行状況によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージが、マルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

最高速度が約 80km/h を超えないようにしてください。

ⓘ 1 本または 4 本全てのタイヤを交換するときは、必ず以下のものだけを使用してください。

- 車両に指定されたタイヤサイズ
- 「MOExtended」マーク付きのタイヤ

タイヤがパンクし、MOExtended タイヤと交換できない場合は、一時的な措置として標準タイヤを使用してください。

必ず適正なサイズと適正な種類（サマータイヤまたはウインタータイヤ）を使用してください。

ℹ MOExtended タイヤ装備車両には、タイヤフィットを標準装備していません。ウインタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

MOExtended タイヤから空気が抜けた状態で走行すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物（縁石、穴、オフロード）を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合は、走行を中止してください。

- 大きな異音が聞こえるとき
- 車両に振動が発生しているとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生しているとき
- ESP® が作動し続けるとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

MOExtended タイヤから空気が抜けた状態で走行した後は、さらに使用できるかを確認するためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

タイヤフィットキット

重要な安全上の注意事項

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、4mm 以下のパンク、特にタイヤトレッドにあるものをふさぐことができます。タイヤフィットは、約－20℃までの外気温度で使用できます。

⚠ **警告**

以下の状況のときは、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 4mm 以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷しているとき
- 非常に低い空気圧、またはパンクした状態で走行したとき

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ **警告**

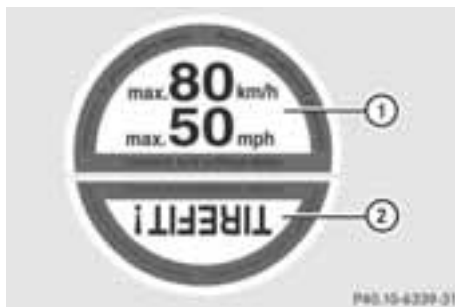
タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。

タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示に従ってください。

- 水道水でタイヤフィットをただちに皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

! タイヤ充填コンプレッサーは、一度に約 8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。

タイヤ充填コンプレッサーが冷えたら、再び作動させることができます。

タイヤフィットキットの使用

▶ ネジやクギなど、タイヤに刺さった異物は取り除かないでください。

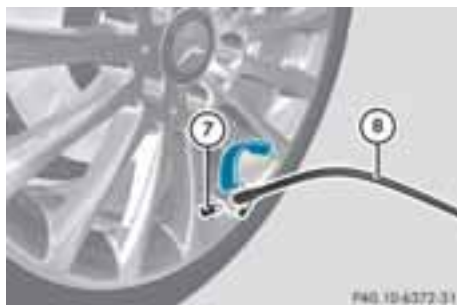
▶ トランクフロアボード下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します（▷465 ページ）。

▶ ステッカーの ① 部分を運転者の視界内に貼ります。

▶ ステッカーの ② 部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。

▶ ケーブル付き電源プラグ ④ とホース ⑤ をハウジングから取り出します。

▶ ホース ⑤ をタイヤフィットのボトル ① のフランジ ⑥ にしっかり取り付けます。

▶ フランジ ⑥ を下にして、タイヤフィットのボトル ① をタイヤ充填コンプレッサーの凹部 ② にはめます。

▶ 不具合のあるタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。

- ホース⑧をバルブ⑦に締め付けます。
- プラグ④を車両の 12V 電源ソケット（▷436 ページ）に差し込みます。
- イグニッション位置を **1** にします。
- タイヤ充填コンプレッサーの電源スイッチ③を **I** の位置にします。タイヤ充填コンプレッサーが作動します。タイヤに空気が送り込まれます。

ℹ 最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。空気圧が一時的に約 500kPa（5bar/73psi）まで上がることがあります。

この間は、タイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。

- タイヤ充填コンプレッサーを 5 分間作動させます。その後に、タイヤは約 180kPa（1.8bar/26psi）以上の空気圧になっていなければなりません。

5 分後に、空気圧が 180kPa（1.8bar/26psi）に達している場合は、" タイヤ空気圧が十分なとき " をご覧ください。

5 分後に、空気圧が 180kPa（1.8bar/26psi）に達していない場合は、" タイヤ空気圧が不十分なとき " をご覧ください。

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、乾燥させてください。フィルム状になり取り除くことができます。

衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くクリーニングしてください。

タイヤ空気圧が不十分なとき

5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar/26psi）に達していない場合：

- タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- 不具合のあるタイヤのバルブからホースを外します。
- ごく低速で約 10m 前進または後退します。
- 再度、タイヤに空気を注入します。

  5 分後までには、タイヤ空気圧は 180kPa（1.8bar/26psi）以上になっていなければなりません。

> ⚠ **警告**
>
> 規定の時間までに、十分なタイヤ空気圧に達していない場合は、タイヤが著しく損傷しており、タイヤフィットによるタイヤ修理はできません。損傷したタイヤや著しく低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。
>
> それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

タイヤ空気圧が十分なとき

> ⚠ **警告**
>
> タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれ、高速走行には適していません。事故の危険性があります。
>
> そのため、状況に応じて運転スタイルを合わせ、慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、規定の最高速度を超過しないでください。

タイヤフィットで修理されたタイヤの最高速度は 80km/h です。運転者が容易に視認できるメーターパネル内に、ステッカーの上部を貼付してください。

! 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

そのため、ホースはタイヤフィットが収納されていた袋に収納してください。

環境保護に関する注意事項

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

5 分 後 に タ イ ヤ 空 気 圧 が 180kPa（1.8bar/26psi）に到達している場合：

▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。

▶ 不具合のあるタイヤのバルブからホースを外します。

▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。

▶ **ただちに発進します。**

▶ 約 10 分間走行した後に停止し、タイヤ充填コンプレッサーでタイヤ空気圧を点検します。

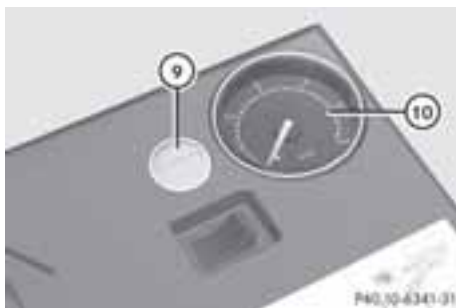
タ イ ヤ 空 気 圧 が 130kPa（1.3bar/19psi）以上でなければなりません。

⚠ 警告

短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達していない場合は、タイヤが著しく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎることにより、車両のブレーキ特性や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。事故発生の危険性があります。

それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ タ イ ヤ 空 気 圧 が 130kPa（1.3bar/19psi）以上の場合は、規定のタイヤ空気圧に修正します。数値は燃料給油口フラップをご覧ください。

▶ **タイヤ空気圧を上げる：**タイヤ充填コンプレッサーを作動させます。

▶ **タイヤ空気圧を下げる：**空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧リリーススイッチ ⑨ を押します。

▶ タイヤ空気圧が適正になったら、タイヤのバルブからホースを外します。

▶ 修理したタイヤのタイヤバルブにバルブキャップを締め付けます。

▶ タイヤフィットのボトルをタイヤ充填コンプレッサーから引き出します。充填ホースはタイヤフィットのボトルにとどまったままになります。

▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。

▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤフィットのボトルをお買い求めください。

▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

バッテリー（車両）

12V バッテリー - 重要な安全上の注意事項

取り外し、または取り付けなどのバッテリーの作業は、専門的な知識および専用工具の使用が必要です。そのため、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

バッテリーに不適切な作業を行なうと、ショートなどにつながり、車両の電子部品を損傷します。これにより、ライトシステム、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）または ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような安全に関連したシステムの機能の制限につながるおそれがあります。車両の操作安全性が制限されるおそれがあります。例えば、

以下のときに車両のコントロールを失うおそれがあります。

- ブレーキ時
- 急なステアリング操作時、および / または車両速度が道路の状態に合っていないとき

事故の危険性があります。

ショート、または似たようなトラブルが発生した場合は、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。それ以上走行しないでください。バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ℹ ABS および ESP® に関するさらなる情報は (▷94 ページ) および (▷101 ページ) をご覧ください。

⚠ **警告**

身体に静電気が帯電していると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリーを充電している間、およびジャンプスタートを行なっているときは、可燃性の高い混合ガスが発生します。

お客様にも、そしてバッテリーにも静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気の帯電は以下のときなどに発生します。

- 合成繊維製の衣服を着用することにより
- 衣服とシートの間の摩擦が起こることにより

- カーペットまたは他の化学製品の上でバッテリーを押す、または引いたとき
- バッテリーを布で拭いたとき

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- バッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーを接続するとき、または接続を外すときは、記載された手順に従うことが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルを接続するとき、または接続を外すときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子を接続したり、接続を外さないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。火傷をするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

環境保護に関する注意事項

バッテリーには汚染物質が含まれています。家庭ごみと一緒に廃棄することは法律で禁止されています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

バッテリーは環境保護の観点から責任を持って適切に廃棄してください。使用済みのバッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場または使用済みバッテリーの収集場までお持ちください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳の点検整備時期を確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。例外的な状況下で、お客様自身でどうしても 12V バッテリーの接続を外す必要がある場合は、以下に従ってください。

- 動き出すことを防ぐために車両を固定します。
- エンジンを停止し、キーを抜きます。キーレスゴーを使用している場合は、メーターパネルのすべての表示灯が消灯していて、イグニッション位置が **0** になっていることを確認します。さもないと、オルタネーターなどの電子部品を損傷するおそれがあります。
- 先にマイナス端子、次にプラス端子を外します。決して端子を逆に接続しないでください。さもないと、車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- バッテリーの接続を外した後は、トランスミッションはポジション **P** の位置でロックされます。動き出さないように車両が固定されます。そのため、車両を動かすことができなくなります。

走行するときは、バッテリーおよびプラス端子のカバーが常に装着されていなければなりません。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。

	警告
	バッテリーを取り扱うときは、火気や裸火、喫煙は禁止です。火花の発生は避けてください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚、眼または衣服への付着を防いでください。 手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。 清潔な水で、ただちに飛散した酸を洗い流してください。必要であれば、医師の診察を受けてください。
	保護眼鏡を着用してください。
	子供を近づけないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

安全上の理由のため、お客様の車両のためにメルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたバッテリーのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。これらのバッテリーには、衝撃に対する高い耐性があり、その結果、事故の際にバッテリーが損傷した場合の乗員への酸による火傷の危険性を低減します。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、使用しないと徐々に放電する可能性があります。そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車両を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。車両を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。

ⓘ **ハイブリッド車両：**バッテリー残量が十分な場合は、高電圧バッテリーは12V バッテリーにエネルギーを供給することもできます。エンジンを停止した状態で長時間電気装備を使用した後など、12V バッテリーのバッテリー残量が必要としている場合にのみ、このことが起こります。バッテリー電圧は絶えずモニターされているため、エンジンが停止しているときもこのことが行なわれます。これにより、12V バッテリーのバッテリー残量およびバッテリー電圧は、長時間一定に保たれます。

高電圧バッテリー - 重要な安全上の注意事項

高電圧バッテリーは、ハイブリッド車両にのみ装備されています。

⚠ 危険

車両の高電圧電気システムは高電圧下にあります。車両の高電圧電気システムの構成部品を改造したり、損傷した構成部品に触れた場合は、感電するおそれがあります。事故の際は、損傷が目に見えなかったとしても車両の高電圧電気システムの構成部品が損傷していることがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

事故の後は、いかなる高電圧構成部品にも触れず、車両の高電圧電子システムの改造を決して行なわないでください。事故の後は車両をけん引し、車両の高電圧電気システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

警告

車両火災の場合は、高電圧バッテリーの内部電圧が限界値を超えることがあります。この場合は、車両のアンダーボディの排気弁から可燃性ガスが漏れます。ガスは発火するおそれがあります。けがの危険性があります。

ただちに危険なエリアから離れてください。関連する法規に注意しながら、危険なエリアとの適切な距離を確保してください。

⚠ **警告**

高電圧バッテリーのケースが損傷した場合は、電解液およびガスが漏れ出すことがあります。これらは毒性および腐食性があります。けがの危険性があります。

皮膚、眼または衣服への付着を防いでください。ただちに電解液のはねを水で洗い流し、すぐに治療を受けてください。

! 車両を長期間使用しないことにより引き起こされるバッテリー上がりは、高電圧バッテリーを損傷することがあります。

車両を長期間使用しない場合は、6 週間ごとに数分間作動させ、高電圧バッテリーを充電してください。

充電処理中は、エアコンディショナーまたはシートヒーターなどのすべての電気装備を停止してください。

車両を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

12V バッテリーの充電

⚠ **警告**

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、喫煙などを避けてください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。火傷をするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。

バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ **警告**

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリーを解凍してください。

! 必ず最大充電電圧が約 14.8V のバッテリー充電器を使用してください。

! バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタート用端子を使用してください。

ジャンプスタート接続端子はエンジンルーム内にあります （▷480 ページ）。

▶ ボンネットを開きます。

▶ ジャンプスタートの手順で救援車のバッテリーを接続するときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください （▷478 ページ）。

車両に装着したままのバッテリーを充電するときは、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器のみを使用してください。メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合され、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器はアクセサリーとして入手できます。この充電器は、車両に装着されたままでのバッテリーの充電が許可されています。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

低温時に、表示灯 / 警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、バッテリーを充電することも車両をジャンプスタートすることも、またはバッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ⓘ **ハイブリッド車両：**バッテリー残量が十分な場合は、高電圧バッテリーは12V バッテリーにエネルギーを供給することもできます。エンジンを停止した状態で長時間電気装備を使用した後など、12V バッテリーのバッテリー残量が必要としている場合にのみ、このことが起こります。バッテリーの電圧は絶えずモニターされているため、エンジンが停止しているときもこのことが行なわれます。これにより、12V バッテリーのバッテリー残量およびバッテリー電圧は、長時間一定に保たれます。

停止時の高電圧バッテリーの充電

ハイブリッド車両にのみ高電圧バッテリーが装備されています。

⚠ **警告**

車庫などの換気の悪い場所や密閉された場所では、必ずエンジンを停止してください。車の排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと健康が損なわれ、意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

! 車両が停止している間にのみ、高電圧バッテリーを充電してください。高電圧バッテリーに充電器を接続しないでください。さもないと、車両の高電圧電気システムが損傷するおそれがあります。

▶ 内燃エンジンが作動している場合は、車両を停止してください。

内燃エンジンが電気モーターを駆動します。電気モーターはオルタネーターとして作動し、高電圧バッテリーが充電されます。

ⓘ 高電圧バッテリーが著しく放電している場合は、高電圧バッテリーを60％以上の容量まで再充電してください。車両が停止している間の充電では、COMAND ディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイで最大 70% まで、高電圧バッテリーの充電状態を確認することができます（▷312 ページ）。

ジャンプスタート

ジャンプスタートには、エンジンルーム内のプラス端子とアース端子で構成されているジャンプスタート用端子のみを使用してください。

警告

バッテリー液は腐食性があります。火傷をするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、喫煙などを避けてください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- バッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーを接続するとき、または接続を外すときは、記載された手順に従うことが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルを接続するとき、または接続を外すときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子を接続したり、接続を外さないでください。

⚠ **警告**

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリーを解凍してください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

低温時に、表示灯 / 警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結している可能性があります。このような場合は、バッテリーを充電することも車両をジャンプスタートすることもできないことがあります。凍結したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で凍結したバッテリーの点検を受けてください。

車両の始動のために急速充電機器を使用しないでください。

車両のバッテリーが放電したときは、ブースターケーブルを使用して他の車両や他のバッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に注意してください。

- 手の届きにくい位置にバッテリーが搭載されている車両もあります。他の車両のバッテリーに手が届かないときは、他のバッテリーまたはジャンプスタート用機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンと排気システムが冷えていない場合は、車両のジャンプスタートは実行できません。
- バッテリーが凍結しているときはジャンプスタートはできません。バッテリーを解凍してから行なってください。
- ジャンプスタートは、自車と同じ 12V バッテリーを搭載した救援車両に依頼してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。
- バッテリーが完全に放電している場合は、ケーブルを接続してすぐにエンジン始動を試みるのでなく、数分置いてから始動操作を行なってください。その間、バッテリーが若干充電されます。
- 自車と救援車両が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

- ブースターケーブルが損傷していないこと。
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間、端子の絶縁されていない部分が他の金属部品と接触していないこと。

- エンジンが始動したときに、ブースターケーブルがＶベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにすること。

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、車両が動き出さないように固定します。

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。

▶ イグニッションがオフになっていることを確認してください。

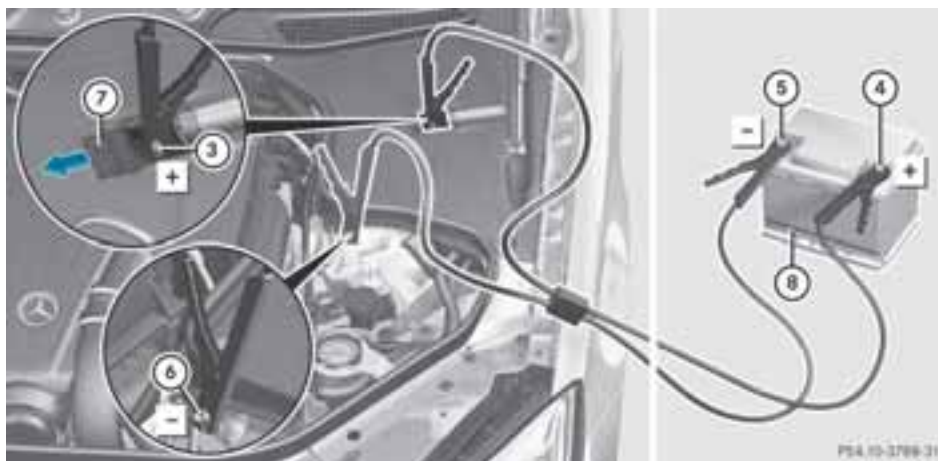
メーターパネル内のすべての表示灯が消灯していることを確認してください。キーを使用しているときは、エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、抜きます。

▶ リアデフォッガー、ライトなどすべての電気装備を停止します。

▶ ボンネットを開きます。

例：アース端子カバー

▶ クリップ ① を 1¼ 回転まわして、取り外します。

▶ カバーを取り外してください。

⑧ は救援車両のバッテリー、またはジャンプスタート用機器を示しています。

- プラス端子 ③ のカバー ⑦ を矢印の方向に動かして開きます。
- ブースターケーブルを使用して、車両のプラス端子 ③ を救援車両のバッテリー ⑧ のプラス端子 ④ に接続します。常にまず自車のプラス端子 ③ から始めます。
- 救援車両のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
- ブースターケーブルを使用して、救援車両のバッテリー ⑧ のマイナス端子 ⑤ を自車のバッテリーのアースポイント ⑥ に接続します。その際は、救援車両のバッテリー ⑧ から最初に接続します。
- エンジンを始動してください。
- ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。
- 最初にアースポイント ⑥ とマイナス端子 ⑤ から、次にプラスクランプ ③ とプラス端子 ④ からブースターケーブルを取り外します。その際は、いずれも自車の端子から開始してください。
- ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ③ のカバー ⑦ を閉じます。
- アース端子カバーを取り付けます。クリップのすべてのマウントが、カバーのそれぞれの凹部の下に正確に位置していることを確認してください。
- 固定されるまで、クリップ ① をマウントに押し込みます。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ⓘ **ハイブリッド車両：**車両をジャンプスタートした場合は、約 30 分間は電気走行を使用することができないことがあります。

ⓘ ジャンプスタートは、正常な操作状態とはみなされていません。

ⓘ ブースターケーブルおよびジャンプスタートについての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引始動

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

安全性に関連する機能が以下の場合は制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しない
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

⚠ **警告**

ステアリングロックがかかっている場合は、ステアリングが操作できなくなります。事故の危険性があります。

けん引ケーブルまたはけん引バーで車両をけん引するときは、常にイグニッションをオンにしてください。

⚠ **警告**

自車の許容総重量より重い車両をけん引またはけん引始動しようとすると、以下になるおそれがあります。

- けん引フックが外れる
- トレーラーを連結した車両が横転する。

事故の危険性があります。

他車をけん引またはけん引始動するときは、自車の許容総重量より軽い車両でなければなりません。

! ディストロニック·プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキが効きます。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

! パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおたずねください。

! けん引ロープやけん引バーは、けん引フックにのみ固定してください。車体が損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは 5m 以内である必要があります。その中間に白い布（30x30cm）を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。

- 走行中は、けん引する車両のブレーキライトに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

! 車体の損傷を防ぐために、車両を運搬する際は、けん引フックを使用しないでください。可能であれば、クレーンを使用して、車両を回収してください。

! けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引してください。車両が損傷するおそれがあります。

! けん引するときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開いたときにシフトポジションが **P** にならないように、以下の手順を行なってください。万一、走行中にシフトポジションが **P** になると、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

▶ キーレスゴースイッチを使用せずに、エンジンスイッチにキーを差し込みます。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわし、シフトポジションを **N** にします。

▶ キーをエンジンスイッチから抜かないようにします。

! 車両は最長で約 50km までけん引できます。けん引する際の速度は、約 30km/h を超えないようにしてください。

距離が約 50km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

! お客様の車両より重い車両のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

けん引を行なうときは、関連する法規に従ってください。

けん引はできるだけ避け、車両を搬送してください。

トランスミッションが損傷している場合は、運搬車両またはトレーラーで運搬してください。

車両をけん引するときは、オートマチックトランスミッションはポジション **N** に入っていなければなりません。

オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトできない場合は、運搬車両またはトレーラーで車両を運搬してください。

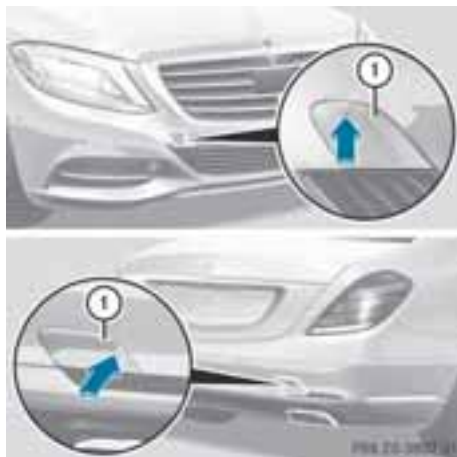
バッテリーが接続されていて、十分に充電されていることを確認してください。さもないと、以下のようになります。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすことができない
- 電気式パーキングブレーキを解除できない
- トランスミッションをポジション **N** にシフトできない

ⓘ 車両をけん引してもらう前に、車速感応ドアロックを解除してください(▷121 ページ)。さもないと、車両を押したり、またはけん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

ⓘ 車両をけん引する前に、けん引防止機能を解除してください(▷108 ページ)。

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け

けん引フック取り付け用のブラケットは、リアおよびフロントバンパーのカバー ① の内部にあります。

▶ 車載工具からけん引フックを取り出します（▷465 ページ）。

▶ カバー ① を開口部から取り外します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、時計回りに止まるまで締め込みます。

けん引フックの取り外し

▶ けん引フックを緩めて取り外します。

▶ カバー ① をバンパーに取り付け、固定するまで押します。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

リアアクスルを上げての車両のけん引

4MATIC 非装備車両のみ、リアアクスルを上げてけん引することができます。

ハイブリッド車両：リアアクスルを上げての車両のけん引は、リカバリー専門業者にのみ行なってもらってください。

! リアアクスルを上げてけん引を行なうときは、必ずイグニッションをオフにしてください。ESP® の介入によりブレーキが損傷するおそれがあります。

! 4MATIC 装備車両は、フロントまたはリアアクスルを上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両は、両アクスルを地面に接地させてけん引する、または積載して運搬するかのいずれかにします。

▶ 非常点滅灯を点滅させます（▷181 ページ）。

▶ 必要であれば、エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 車両を離れるときは、キーを携帯してください。

リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、安全に関する指示に従うことが重要です（▷482 ページ）。

両アクスルを接地させての車両のけん引

ハイブリッド車両：ハイブリッド車両は、以下の場合は両アクスルを接地させてけん引しないでください。

- マルチファンクションディスプレイが作動していない、または
- ディスプレイメッセージの 故障または 故障がマルチファンクションディスプレイに表示されている

車両が危険な場所にある場合は、両アクスルを接地させて危険な場所からけん引することができます。この場合は、けん引距離が 50m 以上にならないように、およびけん引速度が 10km/h を超えないようにしてください。長い距離では、車両を積載して運搬してもらうか、またはリアアクスルを上げてけん引してください。

全車両：車両をけん引するときは、安全に関する指示に従うことが重要です（▷482 ページ）。

運転席ドアまたは助手席ドアを開いたとき、またはエンジンスイッチからキーを取り外したときにシフトポジションが **P** にならないように、以下の手順を行なってください。万一、走行中にシフトポジションが **P** になると、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

▶ キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用しなければなりません（▷218 ページ）。

▶ 停車していること、そしてエンジンスイッチのキーが **0** の位置にあることを確認します。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

▶ ブレーキペダルを放します。

▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。

▶ エンジンスイッチのキーは、**2** の位置のままにします。

▶ 非常点滅灯を作動させます（▷181 ページ）。

ℹ 非常点滅灯を作動させて車両をけん引するときに進路変更の合図を行なうためには、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを戻したときは、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

車両の運搬

ハイブリッド車両：車両の運搬は、リカバリー専門業者によってのみ行なってもらってください。

! 車両を固定するときは、アクスルやステアリング構成部品などにかけずに、ホイールにのみかけてください。車体を損傷するおそれがあります。

けん引フックは、車両を運搬する目的でトレーラーや車両運搬車に車両を引き上げるために使用することができます。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。

▶ オートマチックトランスミッションをポジションを **N** にシフトします。

車両を積載したら、以下の点に注意してください。

▶ 車両が動き出すのを防止するため、電気式パーキングブレーキを効かせてください。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、抜きます。

▶ 車両を固定します。

4MATIC 装備車両に関する注意事項

! 4MATIC 装備車両は、フロントまたはリアアクスルを上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両は、両アクスルを地面に接地してけん引する、または積載して運搬するかのいずれかにします。

車両のトランスミッションが損傷したり、フロントまたはリアアクスルが損傷した場合は、運搬車両またはトレーラーで運搬してください。

電気システムに損傷がある場合：バッテリーが故障している場合は、オートマチックトランスミッションはポジション **P** でロックされます。オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトするためには、ジャンプスタート時と同じ方法で車両の電気装備に電力を供給しなければなりません（▷478 ページ）。

運搬車両またはトレーラーで車両を運搬してください。

けん引始動（エンジン緊急始動）

! けん引始動は行わないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

ⓘ " ジャンプスタート " に関する情報は（▷478 ページ）をご覧ください。

ヒューズ

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

切れたヒューズを使用したり、ブリッジしたり、またはより高いアンペア数のヒューズと交換すると、ケーブルに過負荷がかかります。火災の原因になります。事故やけがの危険性があります。

切れたヒューズは、必ず正しいアンペア数の指定された新品のヒューズと交換してください。

切れたヒューズは、色とヒューズ定格を確認した上で、同じ定格のヒューズと交換しなければなりません。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

ヒューズ配置表はトランク内のヒューズボックスにあります（▷489 ページ）。

新しいヒューズが切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因究明および修理を行なってください。

❗ ヒューズは必ずメルセデス・ベンツ車両に適合し、該当する電気装備の規定容量を満たすものを使用してください。適切でないヒューズを使用すると、構成部品や電気装備を損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れた場合は、回路上のすべての構成部品とそれらの機能が作動しなくなります。

ヒューズを交換する前に

▶ 車両が動き出さないように固定してください（▷502 ページ）。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ イグニッションがオフになっていることを確認します。

または

▶ キーを使用しているときは、エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、取り外します（▷218 ページ）。

メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- ダッシュボード運転席側のヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックス
- エンジンルーム内運転席側のヒューズボックス
- トランク内右側のヒューズボックス

ダッシュボードのヒューズボックス

❗ ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

❗ カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に水が浸入しないように注意してください。

❗ カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実に固定されていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が入ると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ 運転席ドアを開きます。

例：右ハンドル車両

▶ **開く：**カバー ① を矢印の方向に外側に引き、取り外します。

▶ **閉じる：**カバー ① をダッシュボードの前部に差し込みます。

▶ 固定されるまで、カバー ① を内側に倒します。

助手席足元のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に水が浸入しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実に固定されていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が入ると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ 助手席ドアを開きます。

例：右ハンドル車両

▶ カバー ① を下に倒し、取り外します。

エンジンルーム内のヒューズボックス

⚠ **警告**

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーの可動部品でけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーを停止して、イグニッションをオフにしてください。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に水が浸入しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実に固定されていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が入ると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ ボンネットを開きます。

例：右ハンドル車両

▶ **開く：**固定クランプ ① を外し、カバー ② を取り外します。

例：右ハンドル車両

▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。

▶ ヒューズボックスのネジ ③ を外します。

▶ ヒューズボックスカバー ④ を前方に取り外します。

- **閉じる：**シール部がカバー ④ の正しい位置にあることを確認します。
- ヒューズボックス後部の固定部にカバー ④ を差し込みます。
- ヒューズボックスのカバー ④ を下に倒し、ネジ ③ を締めます。
- カバー ② を差し込み、固定クランプ ① で固定します。
- ボンネットを閉じます。

トランク内のヒューズボックス

❗ カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に水が浸入しないように注意してください。

❗ カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実に固定されていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が入ると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

- トランクリッドを開きます。

- **開く：**平らな物を使って、カバー ① 上部の左右部分を引き出します。
- カバー ① を矢印の方向に向かって下方に開きます。

ℹ ヒューズ配置表はヒューズボックス側方の凹部にあります。ヒューズ配置表には、ヒューズの規格や種類などが記載されています。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。ホイールを交換する場合は、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合は、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

⚠ **警告**

パンクは車両の走行特性やステアリング特性、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。事故の危険性があります。ランフラット特性のないタイヤでは、以下に従ってください。

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ランフラットタイヤ：

- MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）に関する情報と警告に関する注意事項に従ってください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない、または正しく使用されていないアクセサリーは、操作安全性を損なうおそれがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で以下についてご確認ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨性

お客様の車両のホイールおよびタイヤのサイズおよび種類に関する情報は、" ホイールとタイヤの組み合わせ " にあります（▷507 ページ）。

車両のタイヤ空気圧に関する情報は、以下にあります：

- 燃料給油口フラップ裏側にあるタイヤ空気圧ラベル（▷498 ページ）
- " タイヤ空気圧 " の項目（▷497 ページ）

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。ホイールスペーサーまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。これらは車両の一般使用許可を無効にします。

ℹ タイヤとホイールについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

使用

走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないかを注意してください。このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられます。タイヤに異常を感じたら、速度を落として慎重に運転してください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールに損傷がないかを点検してください。タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。損傷が何も認められない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

ホイールとタイヤの定期点検

⚠ **警告**

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

タイヤに損傷がないかを定期的に点検し、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

ホイールとタイヤの定期点検は、少なくとも月に 1 度、またオフロードや凹凸路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないかを確認してください。ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤのトレッドの深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください（▷494 ページ）。必要であれば、タイヤの内側を点検するために、前輪をいっぱいまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください（▷497 ページ）。

応急用スペアタイヤに関する注意事項に従ってください（▷516 ページ）。

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- 総走行距離

タイヤトレッドに関する重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。このようなタイヤは水を排出することができなくなり、濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故の危険性があります。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけではなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウインタータイヤ：4mm

安全維持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

- タイヤとホイールは、4 輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。

  例外：パンクした場合は、異なる種類や銘柄の使用が認められています。"MOExtended（ランフラットタイヤ）"（▷467 ページ）の項目に注意してください。
- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新しいタイヤでは最初の約 100km は控えめな速度で走行してください。この距離を走行後にのみ、最高の性能に達します。
- タイヤトレッド部の残り溝が不足したタイヤで走行しないでください。濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します（ハイドロプレーニング現象）。
- 摩耗の程度に関わらず、6 年以上経過したタイヤは新品と交換してください。応急用スペアタイヤに関する注意事項に従ってください（▷516 ページ）。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。

ランフラットタイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムと必ず組み合わせ、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で専用の点検を受けたタイヤのみを使用してください。

パンクしたランフラットタイヤで走行するときの注意事項は（▷467 ページ）をご覧ください。

ℹ MOExtended タイヤ装備車両には、タイヤフィットを標準装備していません。ウインタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ **警告**

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

寒冷時の取り扱い

全体的な注意事項

冬の始まりには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の冬季対策を行なってください。

" 車輪の交換 " の注意事項を守ってください（▷500 ページ）。

サマータイヤでの走行

約 7℃以下の温度では、サマータイヤは弾力性を失い、接地性と制動力が低下します。車両のタイヤを M+S タイヤに交換してください。非常に低い温度でのサマータイヤの使用は、亀裂が発生し、復元不可能なタイヤの損傷の原因になるおそれがあります。このようなタイヤの損傷は、保証の対象外になります。

M+S タイヤ

⚠ **警告**

ウインタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、冬季用のタイヤとして不適切になり、十分な接地性を確保できなくなります。事故につながるおそれがあります。

ウインタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。

約 7℃以下の気温では、ウインタータイヤまたはオールシーズンタイヤを使用してください。いずれにも M+S のマークがあります。

冬季の道路状況では、M+S マークに加えて雪の結晶マーク ⛰ の記載があるウインタータイヤのみが最も優れたグリップをもたらします。冬季においては、これらのタイヤによってのみ、ABS や ESP® のような走行安全装備が適切に機能するようになります。これらのタイヤは、特に雪道走行用に開発されています。

安全な車両操縦性を確保するため、4 輪とも同じ銘柄およびトレッドの M+S タイヤを使用してください。

装着された M+S タイヤの指定された最大許容速度を常に守って走行してください。

車両のものよりも低い最大許容速度の M+S タイヤを装着している場合は、適切な警告ラベルを運転者の視界内に貼付してください。

このような状況では、M+S タイヤの最大許容速度を超えないように、スノータイヤスピードリミッター（▷255 ページ）を使用して車両の最高速度を制限してください。

M+S タイヤを装着する場合は、以下に注意してください。

▶ タイヤ空気圧を点検します（▷497 ページ）。

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷499 ページ）。

応急用スペアタイヤでの走行に関する情報は（▷516 ページ）をご覧ください。

スノーチェーン

⚠ 警告

スノーチェーンが前輪に装着されている場合は、車体またはシャーシの部品に引き込まれることがあります。これにより、車両またはタイヤが損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるためには、

- スノーチェーンを前輪に装着しないでください
- スノーチェーンは必ずペアで後輪に装着してください。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツによりお客様の車両用に特別に承認された、または同等の品質基準のスノーチェーンのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

スノーチェーンを装着するときは、以下の点に注意してください。

- スノーチェーンはすべてのホイールとタイヤの組み合わせに装着できるわけではありません。承認されているホイールとタイヤの組み合わせは（▷507 ページ）をご覧ください。
- 路面が完全に雪に覆われているときにのみ、スノーチェーンを使用してください。雪に覆われていない路面に来たときは、できるだけ早くスノーチェーンを取り外してください。
- 法令でスノーチェーンの使用が制限されている地域があります。スノーチェーンを装着する場合は、該当する規制に従ってください。
- 最大許容速度 50km/h を超えないようにしてください。
- AIR マティックサスペンション（▷274 ページ）、または ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）（▷271 ページ）装備車両では、スノーチェーンを装着して走行する場合は、車高を上げて走行しなければなりません。

スノーチェーンを装着して発進したときは、ESP®（▷102 ページ）を解除することもできます。このようにして、制御しながら車輪を空転させ、駆動力を高めることができます（掘る動作）。

応急用スペアタイヤでの走行に関する情報は（▷516 ページ）をご覧ください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 負荷が高く車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故の危険性があります。

規定のタイヤ空気圧に従い、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤ空気圧を点検してください。

- 走行を開始する前
- 積載量が変化したとき
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行のように使用状況が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ **警告**

不適切なアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに大きな負荷がかかって不具合が発生し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、市販のタイヤ空気圧モニタリングシステムを装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故の危険性があります。

標準で装着されているバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分な場合は、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないかを点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないかを点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

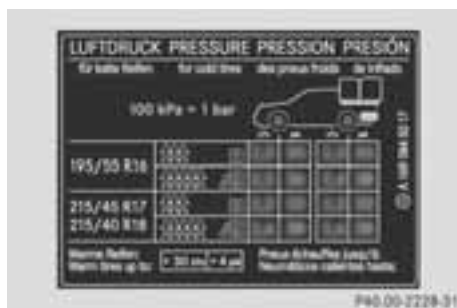
環境保護に関する注意事項

少なくとも 2 週間に 1 度は、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

燃料給油口フラップ裏側には、走行状況に応じた空気圧が記載されたタイヤ空気圧ラベルが貼られています。

応急用スペアタイヤについての情報は
(▷516 ページ)をご覧ください。

燃料給油口フラップ裏側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。これらは、さまざまな乗員数および積載量として表に定義されています。実際の座席数は異なる場合があります。詳しくは、車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は車両に承認されているすべてのタイヤに適用されます。

タイヤ空気圧の前にタイヤサイズが表示されている場合、該当するタイヤ空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみに有効となります。

タイヤ空気圧を点検するためには、適切な空気圧ゲージを使用してください。タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

タイヤ空気圧の点検は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。

以下のときは、タイヤの温度が低い状態です。

- 車両に直射日光が当たらない状態で最低約 3 時間駐車した場合、および
- 車両が約 1.6km 以上走行しなかった場合

タイヤ空気圧は 10℃ごとに約 10kPa (0.1bar/1.5psi) ずつ変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。

空気圧が適正でないタイヤで走行すると、以下のような状態になります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤが損傷を受けやすくなります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響をおよぼします(ハイドロプレーニング現象など)。

ⓘ 積載量が少ない時の空気圧は、快適な乗り心地を得るために必要な空気圧の下限値を示しています。

また、積載量が多い時の空気圧に調整することもできます。

これらは許容される空気圧であり、車両の走行安全性に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

全体的な注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、車両が動いている間に、車輪の回転速度を使用してタイヤ空気圧をモニターします。システムは、タイヤ空気圧の著しい低下を検知することができます。タイヤ空気圧の低下にともない車輪の回転速度が変化した場合は、マルチファンクションディスプレイに対応する警告メッセージが表示されます。

表示されるメッセージに関する情報は、" タイヤ空気圧警告システムの再起動 " の項目にあります。

重要な安全上の注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、適切でないタイヤ空気圧の設定には警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関する注意事項に従ってください（▷497 ページ）。

タイヤ空気圧警告システムは、定期的なタイヤ空気圧の点検に代わるものではありません。複数のタイヤでの同時で同量の空気圧低下は、空気圧警告システムでは検知されません。

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤに異物が刺さった場合などの急激な空気圧の低下には、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合は、ブレーキを慎重に効かせて車両を停止します。急激なステアリング操作は避けてください。

以下では、タイヤ空気圧警告システムの機能が制限されたり、遅れることがあります：

- 車両のタイヤにスノーチェーンを装着している
- 冬季の道路状況で
- 砂地や砂利道を走行している
- 非常にスポーティな運転スタイル（高速コーナリング、急加速など）をとっている
- 車内に、またはルーフ上に重い荷物を積載して走行している

タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下の場合は、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を変更した
- ホイールまたはタイヤを変更した
- 新しいホイールまたはタイヤを装着した

▶ 再起動の前に、4 本すべてのタイヤで、タイヤ空気圧が使用状況に応じて適正に設定されていることを確認してください。推奨タイヤ空気圧は燃料給油口フラップ裏側のラベルに記載されています。

タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定してある場合にのみ、信頼性のある警告を行なうことができます。適切でないタイヤ空気圧に設定されている場合は、これらの適切でない数値がモニターされます。

▶ タイヤ空気圧の項目にある注意事項に従ってください（▷497 ページ）。

▶ イグニッション位置が **2** にあることを確認します。

▶ ステアリングの [⌂] を使用して、メニューリストを呼び出します。

▶ ステアリングの [▲] または [▼] スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、タイヤ空気圧 を選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧警告システムオン OK ボタンで再始動 というメッセージが表示されます。

再起動を確定したい場合：

▶ OK スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧正常ですか？というメッセージが表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、はいを選択します。

▶ OK スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧警告システム再始動しました というメッセージが表示されます。

再起動をキャンセルしたい場合：

▶ ⮌ スイッチを押します。

または

▶ タイヤ空気圧正常ですか？というメッセージが表示されているときに、▲ または ▼ スイッチを使用して、キャンセル を選択します。

▶ OK スイッチを押します。

車輪の交換

パンク

タイヤがパンクしたときの対処方法に関する情報は、" 万一のとき "（▷466 ページ）に記載されています。タイヤがパンクしたときに MOExtended タイヤで走行する際の情報は、" 万一のとき " の項目をご覧ください（▷467 ページ）。

車輪の入れ替え

⚠ 警告

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合にフロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。ブレーキまたはサスペンションが損傷することもあります。事故の危険性があります。

ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントとリアの車輪を入れ替えると、一般使用許可が無効になることがあります。

" 車輪の取り付け " の項目（▷501 ページ）にある指示および安全上の注意事項に従ってください。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こします。タイヤに明らかな摩耗具合が形成される前に、車輪を入れ替えてください。一般的に、フロントタイヤではショルダー部が、リアタイヤではセンター部がより摩耗する傾向があります。

前後同じサイズの車輪を持つ車両では、タイヤの摩耗具合に応じて 5,000 ～ 10,000km ごとに車輪を入れ替えることができます。回転方向が維持されていることを確認します。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールの接触面とブレーキディスクを十分に清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要な場合はタイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷499 ページ）。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

車輪の保管

使用していない車輪は、涼しくて乾燥している、なるべく暗い場所に保管してください。車輪にオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

車輪の清掃

⚠ **警告**

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

車輪の取り付け

車両の準備

▶ かたく、滑らない水平な地面に車両を停車します。

▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。

▶ 前輪を直進位置にします。

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

▶ AIR マティックサスペンション（▷274 ページ）、または ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）（▷271 ページ）で、標準の車高レベルが選択されていることを確認します。

▶ エンジンを停止します。

▶ **キーレスゴーを使用していないとき：**エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴーを使用しているとき：**運転席ドアを開きます。

車両の電気装備が、キーを抜いたときと同様の、**0** の状態になります。

▶ **キーレスゴーを使用しているとき：**エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。

▶ 車両から車載工具を取り出します。

▶ 動き出さないように車両を固定します。

車載工具には、以下のものなどが含まれることがあります。

- ジャッキ
- ラチェットレンチ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ガイドボルト
- けん引フック

車種や仕様により、車載工具の内容は異なります。

車両が動き出さないように固定する

輪止めを使用して、車両が動き出さないように固定します。

▶ 両側のプレートを上方に起こします ①。

▶ 下側のプレートを引き出します ②。

▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます ③。

▶ **水平な場所の場合：**交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。

▶ **緩い下り坂の場合：**前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

車両を上げる

⚠ **警告**

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面が車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

車両を上げるときは以下に従ってください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された車両専用のジャッキのみを使用してください。ジャッキが正しく使用されていない場合は、車両を上げている間に倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪交換の間に短時間車両を上げたままにするためだけに設計されています。車両下部のメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂斜面での車輪交換は避けてください。
- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせ、輪止めをすることにより、車両が動き出さないようにしてください。車両を上げている間は、パーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたく平坦で滑らない地面の上に置いてください。柔らかい地面の上では、大型で平らな耐荷重マットを使用してください。滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下敷きとして、木製のブロックや類似のものを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることにより、ジャッキが耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との間の距離が 3cm を超えていないことを確認してください。
- 上げた車両の下には、絶対に手または足を入れないでください。
- 車両の下に横にならないでください。
- 車両を上げているときは、エンジンを始動しないでください。
- 車両を上げているときは、ドアまたはトランクリッドを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車内に人がいないことを確認してください。

ハブキャップ装備車両： ホイールボルトはハブキャップに覆われています。ホイールボルトを緩める前に、まずハブキャップを取り外さなければなりません。ハブキャップには異なる 2 種類のものがあります。

プラスチックハブキャップ装備車両

▶ **取り外す：** ハブキャップ ① を反時計回りにまわして、取り外します。

▶ **取り付ける：** ハブキャップ ① を位置に合わせ、固定された音が聞こえるまで時計回りにまわします。

▶ ハブキャップ ① が正しく取り付けられていることを確認してください。

アルミニウムハブキャップ装備車両

▶ **取り外す：**車載工具から、ソケット②およびホイールレンチ③を取り出します（▷465 ページ）。

▶ ソケット②をハブキャップ①に合わせます。

▶ ホイールレンチ③をソケット②に取り付け、ハブキャップ①を反時計回りに緩めます。

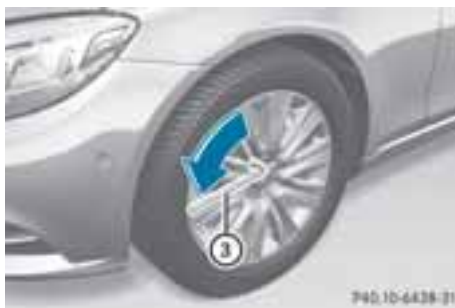
▶ ハブキャップ①を取り外します。

▶ **取り付ける：**取り付ける前に、ハブキャップ①およびホイール部分に汚れがないかを点検し、必要な場合は清掃します。

▶ ハブキャップ①を位置に合わせ、正しい位置になるまでまわします。

▶ ソケット②をハブキャップ①に合わせます。

▶ ホイールレンチ③をソケット②に取り付け、ハブキャップ①を締めます。締め付けトルクは **25Nm** でなければなりません。

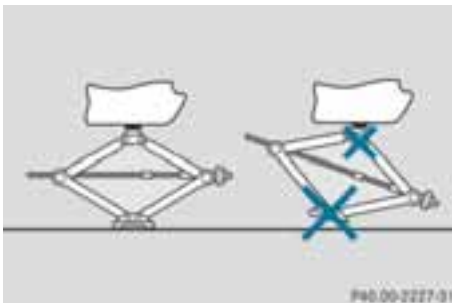
ℹ ハブキャップが規定の締め付けトルク **25Nm** で締められることに注意してください。ハブキャップはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で取り付けることを、メルセデス・ベンツは推奨します。

▶ ホイールレンチ③を使用して、交換する車輪のホイールボルトを約 1 回転緩めます。ボルトは完全に緩めないでください。

ジャッキポイントは、フロントのホイールアーチのすぐ後ろと、リアのホイールアーチのすぐ前にあります（矢印部分）。

▶ 車載工具からラチェットレンチを取り出して、**AUF** の文字が見えるようにジャッキの六角ナットに取り付けます。

ジャッキポイントカバー装備車両：サイドスカートのフロント側ジャッキポイントにはカバーが装着されています。

▶ **ジャッキポイントカバー装備車両：**カバー ④ を上方に起こします。

▶ ジャッキ ⑥ をジャッキポイント ⑤ の位置に合わせます。

▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下に位置していることを確認してください。

▶ ジャッキ ⑥ がジャッキポイント ⑤ に完全にはまり、ジャッキの底面が地面に均一に接するまでラチェットレンチ ⑦ をまわします。

▶ タイヤが地面から最大 3cm 上がるまで、ラチェットレンチ ⑦ をまわします。

車輪の取り外し

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトを取り付ける時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

車輪の着脱時、および車輪が取り外されている間は、ブレーキディスクに外力がかからないようにしてください。これにより、ブレーキ作動時の快適性レベルが損なわれるおそれがあります。

▶ 最も上にあるホイールボルトを完全に外します。

▶ ホイールボルトのかわりに、ネジ山にガイドボルト ① を取り付けます。

▶ 残りのホイールボルトを完全に外します。

▶ 車輪を取り外します。

新しい車輪の取り付け

⚠ **警告**

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト / ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。それ以上は走行を続けないでください。

⚠ **警告**

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。けがの危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトを締め付けてください。

" 車輪の交換 " にある指示や安全上の注意事項に常に注意を払ってください (▷500 ページ)。

ホイールおよび車両用に設計されたホイールボルトのみを使用してください。安全上の理由のため、メルセデス・ベンツ車およびそれぞれのホイールのために承認されたホイールボルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

- ▶ ホイールおよびホイールハブの接合面を清掃します。
- ▶ 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。
- ▶ 指の力で、ホイールボルトを締め付けます。
- ▶ ガイドボルトを取り外します。
- ▶ 指の力で、最後のホイールボルトを締め付けます。

車両を下げる

 警告

ホイールナットが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。事故の危険性があります。

車輪を交換した後で、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。

▶ AB の文字が見えるように、ジャッキの六角ナットにラチェットレンチを取り付けます。

▶ 車両が再度しっかりと接地するまでラチェットレンチをまわします。

▶ ジャッキを横に置きます。

▶ 示されている対角パターンの順番（①～⑤）で、ホイールボルトを均一に締めます。締め付けトルクは、**150Nm** でなければなりません。

▶ ラチェットレンチをまわして元の状態に戻します。

▶ ジャッキや他の車載工具をトランクに再度収納します。

▶ **ジャッキポイントカバー装備車両：** サイドスカートにカバーを差し込みます。

▶ 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、必要に応じて調整します。推奨タイヤ空気圧に従ってください（▷497 ページ）。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

❗ 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などの走行安全システムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO ＝ Mercedes-Benz Original
- MOE ＝ Mercedes-Benz Original Extended（ランフラットタイヤ）
- MO1 ＝ Mercedes-Benz Original（特定の AMG タイヤ）

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、およびそれらの指定された組み合わせなどに関しての詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：ホイールサイズが大きくなると、悪路での乗り心地が低下します。走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤが損傷するリスクが高くなります。

下記のタイヤ一覧表にある略号

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油口フラップ裏側にあります。タイヤ空気圧に関してのさらなる情報は（▷497 ページ）をご覧ください。タイヤ空気圧の点検は定期的に、タイヤが冷えている状態で行なってください。

タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウインタータイヤ、MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

  例外：パンクした場合は、異なる種類や銘柄の使用が認められています。

  MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）（▷467 ページ）の項目の記載に従ってください。

MOExtended タイヤ装備車両には、タイヤフィットを標準装備していません。ウインタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

タイヤ

S400 HYBRID

サマータイヤ

R18

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/50 R18 100W	BA：8.0Jx18 H2 ET41
BA：245/50 R18 100W MOExtended	BA：8.0Jx18 H2 ET41
FA：245/50 R18 100W RA：275/45 R18 103W	FA：8.0Jx18 H2 ET41 RA：9.5Jx18 H2 ET43.5
FA：245/50 R18 100W MOExtended RA：275/45 R18 103W MOExtended	FA：8.0Jx18 H2 ET41 RA：9.5Jx18 H2 ET43.5

R19

タイヤ	軽合金ホイール
FA：245/45 R19 102YXL RA：275/40 R19 101Y	FA：8.5Jx19 H2 ET36 RA：9.5Jx19 H2 ET43.5
FA：245/45 R19 102YXL MOExtended RA：275/40 R19 101Y MOE xtended	FA：8.5Jx19 H2 ET36 RA：9.5Jx19 H2 ET43.5
FA：245/45 R19 102YXL[1] RA：275/40 R19 101Y[1]	FA：8.5Jx19 H2 ET38 RA：9.5Jx19 H2 ET38
FA：245/45 R19 102Y MOExtended[1] RA：275/40 R19 101Y MOExtended[1]	FA：8.5Jx19 H2 ET38 RA：9.5Jx19 H2 ET38

1 AMG スポーツパッケージ（コード 950）との組み合わせのみ。

R20

タイヤ	軽合金ホイール
FA：245/40 R20 99YXL MOExtended RA：275/35 R20 102YXL MOExtended	FA：8.5Jx20 H2 ET36 RA：9.5Jx20 H2 ET43.5
FA：245/40 R20 99YXL MOExtended[1] RA：275/35 R20 102YXL MOExtended[1]	FA：8.5Jx20 H2 ET38 RA：9.5Jx20 H2 ET38

ウインタータイヤ

R18

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/50 R18 104VXL M+S	BA：8.0Jx18 H2 ET41
BA：245/50 R18 104VXL M+S MOExtended	BA：8.0Jx18 H2 ET41

R19

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/45 R19 102VXL M+S MOExtended	BA：8.5Jx19 H2 ET36
BA：245/45 R19 102VXL M+S MOExtended	BA：8.5Jx19 H2 ET38

S550

サマータイヤ

R18

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/50 R18 100W	BA：8.0Jx18 H2 ET41
BA：245/50 R18 100W MOExtended	BA：8.0Jx18 H2 ET41

1 AMG スポーツパッケージ（コード 950）との組み合わせのみ。

タイヤ	軽合金ホイール
FA：245/50 R18 100W RA：275/45 R18 103W	FA：8.0Jx18 H2 ET41 RA：9.5Jx18 H2 ET43.5
FA：245/50 R18 100W MOExtended RA：275/45 R18 103W MOExtended	FA：8.0Jx18 H2 ET41 RA：9.5Jx18 H2 ET43.5

R19

タイヤ	軽合金ホイール
FA：245/45 R19 102YXL RA：275/40 R19 101Y	FA：8.5Jx19 H2 ET36 RA：9.5Jx19 H2 ET43.5
FA：245/45 R19 102YXL MOExtended RA：275/40 R19 101Y MOExtended	FA：8.5Jx19 H2 ET36 RA：9.5Jx19 H2 ET43.5
FA：245/45 R19 102YXL[1] RA：275/40 R19 101Y[1]	FA：8.5Jx19 H2 ET38 RA：9.5Jx19 H2 ET38
FA：245/45 R19 102Y MOExtended[1] RA：275/40 R19 101Y MOExtended[1]	FA：8.5Jx19 H2 ET38 RA：9.5Jx19 H2 ET38

R20

タイヤ	軽合金ホイール
FA：245/40 R20 99YXL MOExtended RA：275/35 R20 102YXL MOExtended	FA：8.5Jx20 H2 ET36 RA：9.5Jx20 H2 ET43.5
FA：245/40 R20 99YXL MOExtended RA：275/35 R20 102YXL MOExtended	FA：8.5Jx20 H2 ET36.5 RA：9.5Jx20 H2 ET44
FA：245/40 R20 99YXL MOExtended[1] RA：275/35 R20 102YXL MOExtended[1]	FA：8.5Jx20 H2 ET38 RA：9.5Jx20 H2 ET38

1　AMG スポーツパッケージ（コード 950）との組み合わせのみ。

ウインタータイヤ

R18

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/50 R18 104VXL M+S	BA：8.0Jx18 H2 ET41
BA：245/50 R18 104VXL M+S MOExtended	BA：8.0Jx18 H2 ET41

R19

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/45 R19 102VXL M+S MOExtended	BA：8.5Jx19 H2 ET36
BA：245/45 R19 102VXL M+S MOExtended	BA：8.5Jx19 H2 ET38

S550 4MATIC

サマータイヤ

R18

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/50 R18 100W	BA：8.0Jx18 H2 ET41
BA：245/50 R18 100W MOExtended	BA：8.0Jx18 H2 ET41
FA：245/50 R18 100W RA：275/45 R18 103W	FA：8.0Jx18 H2 ET41 RA：9.5Jx18 H2 ET43.5
FA：245/50 R18 100W MOExtended RA：275/45 R18 103W MOExtended	FA：8.0Jx18 H2 ET41 RA：9.5Jx18 H2 ET43.5

R19

タイヤ	軽合金ホイール
FA：245/45 R19 102YXL RA：275/40 R19 101Y	FA：8.5Jx19 H2 ET36 RA：9.5Jx19 H2 ET43.5
FA：245/45 R19 102YXL MOExtended RA：275/40 R19 101Y MOExtend	FA：8.5Jx19 H2 ET36 RA：9.5Jx19 H2 ET43.5

タイヤ	軽合金ホイール
FA：245/45 R19 102YXL[1] RA：275/40 R19 101Y[1]	FA：8.5Jx19 H2 ET38 RA：9.5Jx19 H2 ET38
FA：245/45 R19 102YXL MOExtended[1] RA：275/40 R19 101Y MOExtended[1]	FA：8.5Jx19 H2 ET38 RA：9.5Jx19 H2 ET38

R20

タイヤ	軽合金ホイール
FA：245/40 R20 99YXL MOExtended RA：275/35 R20 102YXL MOExtended	FA：8.5Jx20 H2 ET36 RA：9.5Jx20 H2 ET43.5
FA：245/40 R20 99YXL MOExtended RA：275/35 R20 102YXL MOExtended	FA：8.5Jx20 H2 ET36.5 RA：9.5Jx20 H2 ET44
FA：245/40 R20 99YXL MOExtended[1] RA：275/35 R20 102YXL MOExtended[1]	FA：8.5Jx20 H2 ET38 RA：9.5Jx20 H2 ET38

ウインタータイヤ

R18

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/50 R18 104VXL M+S	BA：8.0Jx18 H2 ET41
BA：245/50 R18 104VXL M+S MOExtended	BA：8.0Jx18 H2 ET41

R19

タイヤ	軽合金ホイール
BA：245/45 R19 102VXL M+S MOExtended	BA：8.5Jx19 H2 ET36
BA：245/45 R19 102VXL M+S MOExtended	BA：8.5Jx19 H2 ET38

1 AMG スポーツパッケージ（コード 950）との組み合わせのみ。

S63 AMG

サマータイヤ

R19

タイヤ	軽合金ホイール
FA：255/45Z R19 （104Y）XL RA：285/40Z R19 （107Y）XL[2]	FA：8.5Jx19 H2 ET38 RA：9.5Jx19 H2 ET38
FA：255/45Z R19 （104Y）XL RA：285/40Z R19 （107Y）XL[2]	FA：8.5Jx19 H2 ET39 RA：9.5Jx19 H2 ET39

R20

タイヤ	軽合金ホイール
FA：255/40Z R20 （101Y）XL[3] RA：285/35Z R20 （104Y）XL[2,3]	FA：8.5Jx20 H2 ET38 RA：9.5Jx20 H2 ET38
FA：255/40Z R20 （101Y）XL[3] RA：285/35Z R20 （104Y）XL[2,3]	FA：8.5Jx20 H2 ET39 RA：9.5Jx20 H2 ET39

ウインタータイヤ

R19

タイヤ	軽合金ホイール
BA：255/45 R19 104VXL M+S	BA：8.5Jx19 H2 ET38
BA：255/45 R19 104VXL M+S	BA：8.5Jx19 H2 ET39

R20

タイヤ	軽合金ホイール
BA：255/40 R20 101VXL M+S [3]	BA：8.5Jx20 H2 ET38
BA：255/40 R20 101VXL M+S [3]	BA：8.5Jx20 H2 ET39

2 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

3 "ホイール/タイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項に従ってください。

タイヤ	軽合金ホイール
FA：255/40 R20 101VXL M+S [3] RA：285/35 R20 104VXL M+S [2,3]	FA：8.5Jx20 H2 ET38 RA：9.5Jx20 H2 ET38
FA：255/40 R20 101VXL M+S [3] RA：285/35 R20 104VXL M+S [2,3]	FA：8.5Jx20 H2 ET39 RA：9.5Jx20 H2 ET39

S63 AMG 4MATIC

サマータイヤ

R19

タイヤ	軽合金ホイール
FA：255/45Z R19 （104Y）XL RA：285/40Z R19 （107Y）XL[2]	FA：8.5Jx19 H2 ET38 RA：9.5Jx19 H2 ET38
FA：255/45Z R19 （104Y）XL RA：285/40Z R19 （107Y）XL[2]	FA：8.5Jx19 H2 ET39 RA：9.5Jx19 H2 ET39

R20

タイヤ	軽合金ホイール
FA：255/40Z R20 （101Y）XL[3] RA：285/35Z R20 （104Y）XL[2,3]	FA：8.5Jx20 H2 ET38 RA：9.5Jx20 H2 ET38
FA：255/40Z R20 （101Y）XL[3] RA：285/35Z R20 （104Y）XL[2,3]	FA：8.5Jx20 H2 ET39 RA：9.5Jx20 H2 ET3

ウインタータイヤ

R19

タイヤ	軽合金ホイール
BA：255/45 R19 104VXL M+S	BA：8.5Jx19 H2 ET38
BA：255/45 R19 104VXL M+S	BA：8.5Jx19 H2 ET39

2 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

3 "ホイールとタイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項に従ってください。

R20

タイヤ	軽合金ホイール
BA：255/40 R20 101VXL M+S [3]	BA：8.5Jx20 H2 ET38
BA：255/40 R20 101VXL M+S [3]	BA：8.5Jx20 H2 ET39
FA：255/40 R20 101VXL M+S [3] RA：285/35 R20 104VXL M+S [2,3]	FA：8.5Jx20 H2 ET38 RA：9.5Jx20 H2 ET38
FA：255/40 R20 101VXL M+S [3] RA：285/35 R20 104VXL M+S [2,3]	FA：8.5Jx20 H2 ET39 RA：9.5Jx20 H2 ET39

2 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。
3 "ホイールとタイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項に従ってください。

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ / 応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを 1 つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP® を解除しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

応急用スペアタイヤ、またはサイズの異なるスペアタイヤを使用するときは、80km/h の最高速度を超えないようにしてください。

応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

全体的な注意事項

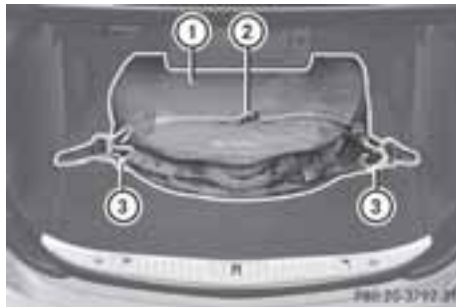
特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて空気圧を修正してください（▷497 ページ）。

適用される数値は、タイヤまたはホイールに記載されているか、" サービスデータ " の項目（▷518 ページ）にあります。

応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。応急用スペアタイヤに記載されている制限速度に従ってください。

摩耗具合に関わらず、6 年以上経過したタイヤは交換してください。これは応急用スペアタイヤにも該当します。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤの取り外し

応急用スペアタイヤはトランク内の応急用スペアタイヤのバッグ ① に固定されています。

▶ トランクを開きます。

▶ テンショニングストラップ ② を外します。

▶ テンションストラップ ② の固定用スプリングフック ③ をフックから外します。

▶ 応急用スペアタイヤとともに応急用スペアタイヤのバッグ ① を取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤのバッグ ① を開き、応急用スペアタイヤを取り出します。

" 車輪の取り付け "（▷501 ページ）の項目にある説明および安全上の注意事項に従ってください。

サービスデータ

コラプシブル応急用スペアタイヤ	
タイヤ	軽合金ホイール
T 185/55 D20 100 P タイヤ空気圧：350kPa（3.5bar/51psi）	6 B x 20 H2 ET 36

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください（▷30 ページ）。

車両の電子制御部品

エンジン電子制御部品の改造

❗ コントロールユニット、センサー、コネクターケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、車両の使用許可が無効になることがあります。

無線機（RF 送信機）の装着

RF 送信機の装着については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ビークルプレート / 車台番号

ビークルプレート

例：右ハンドル車両

▶ 運転席ドアを開きます。
ビークルプレート ① が確認できます。

② 車台番号

ℹ 車両のビークルプレートに記されているデータは一例です。このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示すデータとは異なることがあります。

車台番号

▶ フロント右側のドアを開きます。

▶ カバー ① を下に倒し、取り外します。
車台番号が確認できます。

車台番号はビークルプレートでも確認できます。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

燃料および油脂の取り扱い、保管、廃棄については、負傷するおそれがありますので、法令に従って取り扱ってください。

燃料および油脂は子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料および油脂が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり、皮膚に付着した場合は、ただちに水道水で洗い流し、医師の診察を受けてください。

環境に関する注意事項

燃料および油脂は、環境汚染を配慮した方法で廃棄してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤（エンジンオイル、トランスミッションオイルなど）
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、容器の以下のマークにより識別できます。

- MB-Freigabe（MB-Freigabe 229.51 など）
- MB Approval（MB Approval 229.51 など）

他のマークや推奨は、MB シート番号（MB 229.5 など）に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらは、メルセデス・ベンツによる承認は必要としません。

さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

燃料

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジンを停止してください。

⚠ **警告**

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。電池を飲み込むと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲み込まないでください。また、目や衣服に付着させないでください。気化した燃料を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

タンク容量

モデル	全容量
S550 **S550 4MATIC**	80.0 ℓ
他の全モデル	70.0 ℓ

モデル	予備燃料
AMG 車両	約 14.0 ℓ
他の全モデル	約 8.0 ℓ

ガソリン

燃料のグレード

! ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統部品から完全に抜き取ってください。

! 無鉛プレミアムガソリンのみを使用して給油してください。エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷する原因になります。

! 必ず指定の燃料を使用してください。その他の燃料で車両を使用すると、エンジンの不具合の原因になります。

! 以下のような燃料を使用しないでください。

- E85（エタノール配合率 85% のガソリン）
- E100（エタノール 100%）
- M15（メタノール配合率 15% のガソリン）
- M30（メタノール配合率 30% のガソリン）
- M85（メタノール配合率 85% のガソリン）
- M100（メタノール 100%）
- 金属を含む添加剤を含有したガソリン
- 軽油

このような燃料を車両に推奨されている燃料と混合しないでください。

添加剤を使用しないでください。エンジンの損傷につながるおそれがあります。ただし、スラッジの生成を抑制・除去する効果のある添加剤を除きます。ガソリンにはメルセデス・ベンツで推奨された添加剤のみを混合してください。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

通常、燃料のグレードは給油ポンプに記載されています。給油ポンプにラベルが見当たらないときは、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

i E10 には最大 10% のバイオエタノールが含まれています。お客様の車両は E10 燃料の使用に適しています。E10 燃料を使用してお客様の車両に給油することができます。

i 推奨燃料が使用できない場合は、一時的な手段として無鉛レギュラーガソリンを使用することができます。これにより、エンジン性能が低下したり、燃料消費量が増加することがあります。フルスロットルでの走行および急加速は避けてください。

給油に関する情報は（▷238 ページ）をご覧ください。

AMG 車両

! 燃料を給油するときは、無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

指定以外の燃料を給油すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

! 緊急時で指定燃料が入手できないときに限り、無鉛レギュラーガソリンも使用できます。

その結果燃料消費量が著しく増大し、エンジン出力は著しく低下します。アクセルをいっぱいに踏み込んで運転することは避けてください。

添加剤

! 燃料添加剤を加えてエンジンを作動させると、エンジン故障につながるおそれがあります。燃料に燃料添加剤を混ぜないでください。これには、生成堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加物のみを混合してください。製品の容器に記載された使用上の注意をお守りください。推奨添加剤に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

メルセデス・ベンツは、添加剤が含まれている燃料ブランドの使用を推奨します。

燃料の中には、品質の劣るものがあります。このような燃料を使用すると、エンジン内部にスラッジが形成されるおそれがあります。その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談の上、純正の洗浄添加剤をガソリンに注入してください。常に容器に記載された注意事項および配合率に従ってください。

燃料消費に関する情報

環境に関する注意事項

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両の CO_2 排出量は、燃料消費と直接関係があり、

以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
- 走行スタイル
- 環境の影響や道路状況、交通の流れのような、技術的ではない他の要因

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します。

- 非常に低い外気温で
- 市街地で
- 短距離の走行で
- 山間路で

エンジンオイル

全体的な注意事項

エンジンオイルを取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください（▷521 ページ）。

エンジンオイルの品質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲にわたる試験の末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツ車のエンジンには、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。エンジンオイルの交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス·ベンツは推奨します。メルセデス·ベンツの承認は、オイル容器の "MB Approval" の記載、または "MB Approval 229.51" などの対応する記号により示されます。

テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。エンジンオイルの交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス·ベンツは推奨します。

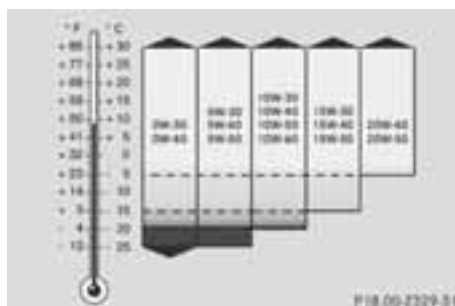
容量

以下の数値は、オイルフィルターを含むオイル交換時のものです。

モデル	交換容量
S400 HYBRID	6.5 ℓ
AMG 車両	外部オイルクーラーなし：8.5 ℓ
他の全モデル	8.0 ℓ

添加剤

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度

粘度は、液体の流動性を示します。エンジンオイルの粘度が高いほどゆっくりと流れ、粘度が低いほど速く流れます。

エンジンオイルの選択は、対応する外気温度を基準にして、SAE グレード（粘度）に応じたものにしてください。表では、使用すべき SAE グレードを示しています。低温の環境では、劣化や煤、添加剤などにより使用時のエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。そのため、適切な SAE グレードの承認されたエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なうことを強く推奨します。

ブレーキ液

⚠ **警告**

ブレーキ液は、使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液が劣化すると、沸点が低下します。

ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

承認されたブレーキ液に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換して下さい。

冷却水

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災および火傷の危険性があります。

不凍液を補給する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液が付着した構成部品を清掃してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず適切な冷却水を使用してください。不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

i 冷却水はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、交換を整備手帳で確認してください。

冷却水は水と不凍 / 防錆剤の混合液です。以下の役割があります。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

不凍 / 防錆剤が適切な濃度の場合は、作動中の冷却水の沸点は約 130℃になります。

エンジン冷却システム内の不凍 / 防錆剤の濃度は、

- 50%以上にしてください。これにより、約 -37℃までエンジン冷却システムを凍結から保護します。
- 55%（-45℃までの凍結防止保護）を超えないようにしてください。さもないと、熱が効果的に発散しません。

i 車両の納車時には、適切な凍結防止および防錆保護を行なうことができる濃度の冷却水が充填されています。

i 冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備ごとに点検が行なわれます。

ウインドウウォッシャーシステム

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災および火傷の危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に付着していないことを確認してください。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

! 夏季用または冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用してください。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

気温が 0℃以上のとき：

▶ 水と夏用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

水の量 100 に対して夏用ウォッシャー液の量 1 を混合します。

気温が 0℃以下のとき：

▶ 水と冬用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

外気温度に応じて混合比を調整してください。

- -10℃まで：水の量 2 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- -20℃まで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- -29℃まで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 2 を混合します。

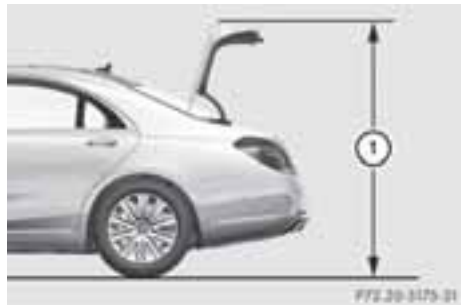
ℹ 1 年を通して、夏用または冬用のウォッシャー濃縮液をウォッシャー液に追加してください。

車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点にご注意ください。

- 記載の車高は、以下の条件に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載量
  - サスペンションの状態
  - オプション装備
- オプション装備は最大積載量を減少させます。

寸法および重量

モデル	① 開いたときの高さ
S400 HYBRID	1800mm
AMG 車両	1799mm-1854mm
他の全モデル	1803mm

ルーフとトランクの最大積載量

モデル	ルーフの最大積載量
全モデル	100kg

モデル	トランクの最大積載量
全モデル	100kg

バッテリー

モデル	バッテリー電圧
全モデル	12V

モデル	バッテリー容量
S400 HYBRID **S550** **S550 4MATIC**	95Ah
AMG 車両	80Ah

⚠ お車をご使用になる前に必ずお読みください

デジタル版取扱説明書の訂正事項

デジタル版取扱説明書の訂正事項

以下では、デジタル版取扱説明書に該当する訂正事項を記載しています。

安全性

乗員の安全性

保護システム警告灯

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
⚠ 警告 乗員保護装置が故障している場合は、車両の減速度が大きい事故の際に、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、またはまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検を受けて修理してください。	⚠ 警告 乗員保護装置が故障している場合は、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、または車両の減速度が大きい事故の際にまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検を受けて修理してください。

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
助手席エアバッグオフ表示灯	助手席エアバッグオフ / オン表示灯

シートベルト

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
リアアクティブベルトバックル シートベルトフィーダーは、PRE-SAFE® コンビニエンス機能の一部です。外側リアシートで使用されます。	**アクティブベルトバックル（後席）** アクティブベルトバックルは、PRE-SAFE® コンビニエンス機能の一部です。外側リアシートで作動します。

子供を乗せるとき

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

記載内容		訂正内容
各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置が両方の ISOFIX 固定リングに正しく固定されていることを確認します。 ▶ シート表面のライニング①を取り外します。		各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートが両方の ISOFIX 固定リングに正しく固定されていることを確認します。 ▶ シート表面のライニング①を開きます。

テザーアンカー

テザーアンカー

記載内容		訂正内容
テザーアンカーは後席の子荷物棚の外側ヘッドレストの後側に取り付けられています。		テザーアンカーは後席外側ヘッドレスト後方のパーセルシェルフに取り付けられています。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム

記載内容		訂正内容
⚠ 警告 子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くした場合は、事故のときに、子供は以下のようになることがあります。 • 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合にエアバッグにぶつかる		⚠ 警告 子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くにした場合は、事故のときに、子供が以下のようになることがあります。 • 助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合にエアバッグにぶつかる

走行安全システム

CPA（衝突警告システム）

距離警告機能

記載内容	訂正内容
特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。	特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。
• 新しい車両で、または CPA（衝突警告システム）が作動した後で	• 新しい車両で、または CPA（衝突警告システム）の点検整備を受けた後で

アダプティブブレーキアシスト

記載内容	訂正内容
特に以下の場合は、障害物の検知が困難になるおそれがあります。	特に以下の場合は、障害物の検知が困難になるおそれがあります。
• 最初に数キロメートル走行した後の新車で、または CPA（衝突警告システム）が作動した後で	• 数 km 走行するまでの新車で、または CPA（衝突警告システム）の点検整備を受けた後で
アダプティブブレーキアシストの支援で、距離警告信号は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。	レーダーセンサーシステムの支援で、アダプティブブレーキアシストは車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

ステアコントロール

重要な安全上の注意事項

記載内容	訂正内容
以下の場合は、ステアコントロールからの操舵支援は行なわれません。	以下の場合は、ステアコントロールからの操舵支援は行なわれません。
• ESP® が故障している	• ESP® が故障している
• ライトが故障している	• ステアリングが故障している
ただし、パワーステアリングは作動し続けます。	ただし、パワーステアリングは作動し続けます。

PRE-SAFE® ブレーキ

機能

記載内容		訂正内容
▶ **設定 / 解除する：**マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキを設定または解除します。 PRE-SAFE® ブレーキが設定されていない場合は、マルチファンクションディスプレイに マークが表示されます。		▶ **設定 / 解除する：**マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキを設定または解除します。 PRE-SAFE® ブレーキが設定されていない場合は、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に マークが表示されます。

開閉

乗員の安全性

キーの機能

記載内容		訂正内容
① 車両の施錠 ② トランクリッドの開閉 ③ 車両の解錠		① 車両の施錠 ② トランクリッドを開く ③ 車両の解錠

ロックシステムの設定変更

記載内容 **訂正内容**

記載内容：

キーレスゴー機能は以下のように切り替わります。

▶ **すべてを施錠する：**1 つのドアハンドルのロックスイッチを押します。

訂正内容：

キーレスゴー機能は以下のように切り替わります。

▶ **すべてを施錠する：**1 つのドアハンドルの外側面に触れます。

ドア

運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）

記載内容 **訂正内容**

記載内容：

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置まで反時計回りにいっぱいまでにまわして、この位置で保持します。

ロックノブが上がり、ドアが解錠します。

訂正内容：

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置まで時計回りにいっぱいまでまわします。

ロックノブが上がり、ドアが解錠します。

ⓘ 左ハンドル車両では、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。

車両の施錠（エマージェンシーキー）

記載内容 訂正内容

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置まで、反時計回りにいっぱいまでまわします。

ロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置まで、反時計回りにいっぱいまでまわします。

ロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

ℹ 左ハンドル車両では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

サイドウインドウ

コンビニエンスオープニング機能

全体的な注意事項

記載内容 訂正内容

このとき、キーを使用して以下の機能が同時に行なわれます。

- 車両を解錠する
- サイドウインドウを開く
- パノラミックスライディングルーフおよび電動ブラインドを開く
- 運転席シートのシートベンチレーターを作動させる

このとき、キーを使用して以下の機能が同時に行なわれます。

- 車両を解錠する
- サイドウインドウを開く
- パノラミックスライディングルーフおよび電動ブラインドを開く
- 電動ブラインド（リアウインドウ、リアサイドウインドウ）を開く
- 運転席シートのシートベンチレーターを作動させる

コンビニエンスオープニング機能

記載内容 **訂正内容**

記載内容

- ▶ サイドウインドウおよびパノラミックサンルーフが希望の位置になるまで、スイッチを押して保持します。

  パノラミックスライディングルーフの電動ブラインドが閉じているときは、電動ブラインドが最初に開きます。

- ▶ パノラミックスライディングルーフが希望の位置になるまで、再度スイッチを押して保持します。

訂正内容

- ▶ サイドウインドウおよびパノラミックサンルーフが希望の位置になるまで、スイッチを押して保持します。

  パノラミックスライディングルーフの電動ブラインド、または電動ブラインド（リアウインドウ、リアサイドウインドウ）が閉じているときは、それらが先に閉じます。

- ▶ サイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフが希望の位置になるまで、再度スイッチを押して保持します。

コンビニエンスクロージング機能

重要な安全上の注意事項

記載内容 **訂正内容**

記載内容

パノラミックスライディングルーフ装備車両では、その後に電動ブラインドを閉じることができます。

訂正内容

パノラミックスライディングルーフ装備車両では、その後に電動ブラインドを閉じることができます。

また、電動ブラインド（リアウインドウ、リアサイドウインドウ）を閉じることができます。

シート、ステアリングとミラー

シート

ショーファーモード

ショーファーモードの助手席シートの位置合わせ

記載内容	訂正内容
後席からの調整	**後席からの調整**
運転席シートからの調整	**運転席シートからの調整**
助手席シートをショーファーモードの位置にするためには：	助手席シートをショーファーモードの位置にするためには：
• 助手席ドアが閉じていなければならない	• 助手席ドアが閉じていなければならない
• エンジンスイッチにキーがあり、**1** または **2** の位置になければならない	• イグニッション位置が **1** または **2** でなければならない
• 助手席シートに乗車していない	• 助手席シートに乗車していない
• 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていない	• 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていない

助手席のヘッドレストを前方に倒す

リアシートから前方に倒す

運転席シートから前方に倒す

記載内容	訂正内容
助手席のヘッドレストを前方に倒すために：	助手席のヘッドレストを前方に倒すために：
• 助手席ドアが閉じていなければならない	• 助手席ドアが閉じていなければならない
• エンジンスイッチにキーがあり、**1** または **2** の位置になければならない	• イグニッション位置が **1** または **2** でなければならない
• 助手席シートに乗車していない	• 助手席シートに乗車していない
• 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていない	• 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていない

ステアリング

イージーエントリー機能

イージーエントリー機能が設定されているときのステアリングおよび運転席シートの位置

記載内容 **訂正内容**

記載内容:

以下の場合にステアリングは上方に動き、助手席シートが後方に動きます。

- エンジンスイッチからキーを抜いた
- **キーレスゴーで：**運転席ドアを開いた。キーレスゴーは 1 の位置になければなりません。
- **キーで：**運転席ドアを開いた。エンジンスイッチのキーは 0 または 1 の位置になければなりません。
- イグニッションがオフのときに運転席ドアを開いた

訂正内容:

以下の場合にステアリングは上方に動き、運転席シートが後方に動きます。

- エンジンスイッチからキーを抜いた
- イグニッション位置が 1 または 0 のとき、またはエンジンスイッチからキーが抜かれているときに運転席ドアを開いた

運転する際のステアリングおよび運転席シートの位置

記載内容 **訂正内容**

記載内容:

以下の場合は、ステアリングおよび運転席シートが以前に設定した位置に動きます。

- 運転席ドアを閉じ、エンジンスイッチにキーを差し込んだ
- イグニッションがオンのときに運転席ドアを閉じた
- キーレスゴー装備車両でキーレスゴースイッチを押した

訂正内容:

以下の場合は、ステアリングおよび運転席シートが以前に設定した位置に動きます。

- 運転席ドアを閉じた状態で、エンジンスイッチにキーを差し込んだ
- 運転席ドアを閉じて、イグニッション位置を 0 から 1、または 1 から 2 にした

メモリー機能

メモリーの設定

記載内容

訂正内容

（記載内容）

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- 運転席側：運転席および助手席側のドアミラーの角度

（訂正内容）

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- 運転席側：運転席および助手席側のドアミラーの角度、ステアリングの位置

後席のメモリー機能

メモリーの設定

リアリクライニングシート非装備車両

リアリクライニングシート装備車両

記載内容

訂正内容

（記載内容）

▶ **リアシートを選択する：**スイッチの表示灯が点灯しなくなるまで、[シートスイッチ]スイッチを繰り返し押します。

▶ **助手席シートを選択する：**表示灯が点灯するまで、[シートスイッチ]スイッチを繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ 対応する助手席シートを調整します。

（訂正内容）

▶ **リアシートの位置を記憶させる：**スイッチの表示灯が点灯しなくなるまで、[シートスイッチ]スイッチを繰り返し押します。

▶ **助手席シートとリアシートの位置を記憶させる：**表示灯が点灯するまで、[シートスイッチ]スイッチを繰り返し押します。

スイッチの表示灯が点灯している場合は、助手席シートが選択されています。

▶ リアシートおよび助手席シートを調整します。

ライトおよびワイパー

車外ライト

車外ライトの設定

ライトスイッチ

記載内容 訂正内容

記載内容

操作

車外ライト（車幅灯 / パーキングライトを除く）は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- キーが **0** の位置のときに運転席ドアを開く

ヘッドライトのオートモード

- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイでデイタイムドライビングライト機能を設定している場合は、デイタイムドライビングライトまたは車幅灯およびロービームヘッドライトが周囲の明るさの明るさ度合いよって自動的に点灯または消灯に切り替わります。

訂正内容

操作

車外ライト（ヘッドライト）は、エンジンを停止すると自動的に消灯します。

車外ライト（車幅灯）は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- キーが **0** の位置のときに運転席ドアを開く

ヘッドライトのオートモード

- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイでデイタイムドライビングライト機能を設定していない場合は、車幅灯およびロービームヘッドライトの点灯または消灯が周囲の明るさによって自動的に切り替わります。

ルームライト

ルームライトの概要

グリップハンドルのコントロールパネル（後席）

記載内容 訂正内容

記載内容

- ▶ 車両の対応する側を点灯する：スイッチ ② を押します。

  読書灯 ① およびメークアップライトが点灯します。
- ▶ 車両の両側を点灯する：スイッチ ③ を押します。
  読書灯 ① およびメークアップライトが点灯します。

訂正内容

- ▶ 対応する側の後席読書灯およびメークアップライトを点灯する：スイッチ ② を押します。

  読書灯 ① およびメークアップライトが点灯します。
- ▶ 両側の後席読書灯およびメークアップライトを点灯する：スイッチ ③ を押します。
  読書灯 ① およびメークアップライトが点灯します。

エアコンディショナー

エアコンディショナーシステムの操作

エアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え

記載内容 訂正内容

記載内容

コントロールパネルを使用してのフロントエアコンディショナーの作動および停止の切り替え

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。

訂正内容

フロントコントロールパネルを使用してのフロントエアコンディショナーの作動および停止の切り替え

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。

記載内容 訂正内容

記載内容

コントロールパネルを使用してのフロントエアコンディショナーの作動および停止の切り替え

- ▶ エアコンディショナー設定バーで "後席の調整" を選択します（別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください）。

訂正内容

フロントコントロールパネルを使用してのリアエアコンディショナーの作動および停止の切り替え

- ▶ エアコンディショナー設定バーで "後席の設定" を選択します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
コントロールパネルを使用しての後席のエアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え	**リアコントロールパネルを使用しての後席のエアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え**
▶ **停止する：**ロッカースイッチ ⑯ を上または下に押します。 ロッカースイッチ ⑯ の表示灯が消灯します。後席ディスプレイに OFF が表示されます。	▶ **停止する：**ロッカースイッチ ⑯ を上または下に押します。 ロッカースイッチ ⑯ の表示灯が点灯します。

エアコンディショナーを AUTO モードに設定する

フロントコントロールパネルを使用してのリアエアコンディショナーの自動制御

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
オートモードのときに COMAND システムを使用してリアの送風量または送風配分を手動で調整した場合は、リアディスプレイの表示灯 AUTO が消灯します。ただし、手動で変更されなかった機能は自動で制御され続けます。手動で設定した機能がオートモードに切り替わったときは、後席ディスプレイの AUTO 表示が再度表示されます。	オートモードのときに COMAND システムを使用してリアの送風量または送風配分を手動で調整した場合は、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。ただし、手動で変更されなかった機能は自動で制御され続けます。手動で設定した機能がオートモードに切り替わったときは、AUTO スイッチの表示灯が再度点灯します。

リアコントロールパネルを使用してのリアエアコンディショナーの操作

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
オートモードのときに送風量または送風配分を手動で調整した場合は、後席ディスプレイの AUTO ディスプレイが消灯します。ただし、手動で変更されなかった機能は自動で制御され続けます。手動で設定した機能がオートモードに切り替わったときは、後席ディスプレイの AUTO 表示が再度表示されます。	オートモードのときに送風量または送風配分を手動で調整した場合は、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。ただし、手動で変更されなかった機能は自動で制御され続けます。手動で設定した機能がオートモードに切り替わったときは、AUTO スイッチの表示灯が再度点灯します。

フロントウインドウの曇り取り

記載内容

訂正内容

記載内容:

エアコンディショナーが以下のように作動します。

- 高い送風量
- 高い温度
- フロントウインドウおよびフロントサイドウインドウへの送風配分
- 内気循環モードの解除
- フロントウインドウヒーティングの作動

訂正内容:

エアコンディショナーが以下のように作動します。

- 高い送風量
- 高い温度
- フロントウインドウおよびフロントサイドウインドウへの送風配分
- 内気循環モードの解除

ウインドウの曇り取り

フロントウインドウの内側が曇るとき

記載内容

訂正内容

記載内容:

▶ ウインドウが曇り続ける場合は、ロッカースイッチ [MAX] を使用して、" フロントウインドウデフロスター " 機能を作動させます。フロントウインドウヒーティングが作動します。

訂正内容:

▶ ウインドウが曇り続ける場合は、ロッカースイッチ [MAX] を使用して、" フロントウインドウデフロスター " 機能を作動させます。

パフュームアトマイザー

パフュームアトマイザーの操作

記載内容 **訂正内容**

記載内容：

パフュームアトマイザーには、あらかじめ香水が詰められた容器が付属しています。様々な香水が詰められた容器、および自分で満たすことのできる空の容器から選択することもできます。

! メルセデス・ベンツ純正の室内香水を使用しない場合は、香水のパッケージにあるメーカーの安全上の注意事項を遵守してください。

訂正内容：

パフュームアトマイザーには、あらかじめ香水が詰められた容器が付属しています。

i 日本仕様では、様々な香水が詰められた容器、および自分で満たすことのできる空の容器は選択できません。

! メルセデス・ベンツ純正以外の香水容器を使用しないでください。

i 香水容器が空になったときは、容器に補充しないでください。使用後は、使用した容器を廃棄してください。

送風口の調整

中央送風口の調整

記載内容 **訂正内容**

記載内容：

▶ **送風の向きを調整する：**中央のフィンで後席送風口②または⑤を持ち、上または下に、または左または右に動かします。

訂正内容：

▶ **送風の向きを調整する：**中央のフィンで中央送風口②または⑤を持ち、上または下に、または左または右に動かします。

走行と駐車

走行

エンジンの始動

キーレスゴースイッチでの始動手順

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
エンジンスイッチにキーを差し込まずに、キーレスゴースイッチを使用して車両を手動で始動することができます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。エンジン始動のためのこの手順は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン始動機能とは独立して作動します。	エンジンスイッチにキーを差し込まずに、キーレスゴースイッチを使用してエンジンを始動することができます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。エンジン始動のためのこの手順は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン始動機能とは独立して作動します。

給油

給油

燃料給油口フラップを開く

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ 運転席ドアを開きます。 キーの位置 **0**：" キーを抜いた " 状態に相当します。 運転席ドアを再度閉じることができます。	▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。 または ▶ 運転席ドアを開きます。 キーの位置 **0**：" キーを抜いた " 状態に相当します。 運転席ドアを再度閉じることができます。

駐車

重要な安全上の注意事項

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
⚠ 警告 保護者のいない子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。 • パーキングブレーキを解除したとき • オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする • エンジンを始動する	⚠ 警告 保護者のいない子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。 • パーキングブレーキを解除する • オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする • エンジンを始動する

運転のヒント

ブレーキ

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
AMG カーボンセラミックブレーキ	AMG 強化ブレーキシステム
過度に負担があるブレーキ操作は、それに応じたブレーキパッドの高い磨耗につながります。メーターパネルのブレーキ磨耗警告灯に注意し、マルチファンクションディスプレイのブレーキ状況のいかなるメッセージにも注意してください。	過度に負担があるブレーキ操作は、それに応じたブレーキパッドの高い摩耗につながります。マルチファンクションディスプレイのブレーキ状況のいかなるメッセージにも注意してください。

走行システム

ディストロニック・プラス

ディストロニック・プラスでの運転のヒント

記載内容	訂正内容
カーブの走行 / 侵入 / 退出時	カーブの走行 / 進入 / 抜けるとき

ホールド機能

ホールド機能を解除する

記載内容 訂正内容

記載内容

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んで、トランスミッションがポジション **D** または **R** である。

訂正内容

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- トランスミッションがポジション **D** または **R** でアクセルペダルを踏んだ。

AIR マティックサスペンション

車高

記載内容 訂正内容

記載内容

標準の車高の設定

▶ スイッチ①を押します。

表示灯②が消灯します。車高が標準の車高に調整されます。

マルチファンクションディスプレイの車高が下がりますというメッセージが消えます。

訂正内容

標準の車高の設定

▶ スイッチ①を押します。

表示灯②が消灯します。車高が標準の車高に調整されます。

アクティブパーキングアシスト

駐車

駐車スペースからの退出

記載内容		訂正内容
マルチファンクションディスプレイにパーキングアシストオン Yes: OK No: ↩ というメッセージが表示されます。		マルチファンクションディスプレイにパーキングアシスト開始 はい : OK いいえ : ↩ というメッセージが表示されます。

パーキングアシストリアビューカメラ

広角機能

記載内容		訂正内容
パーキングアシストリアビューカメラを使用して広角表示を選択することもできます。		パーキングアシストリアビューカメラを使用して広角表示を選択することもできます。 ▶ 広角機能が選択されていないときに、COMAND コントローラーをまわしてマーク①を選択します。

360°カメラシステム

分割画面または全画面表示を選択する

記載内容		訂正内容
▶ コントローラーをまわして押し、全画面 を選択します。		▶ コントローラーをまわして押し、180° ビュー を選択します。

COMANDディスプレイの表示

フロントカメラからの映像のある上面表示

記載内容 訂正内容

記載内容

① 上面表示とフロントカメラ映像の分割画面の設定アイコン
② 車両後部から約 4.0 m の距離の黄色のガイドライン
③ そのときのステアリング角度での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可動）
④ そのときのステアリング角度での、タイヤの進路を示す黄色のレーンマーク（可動）
⑤ 車両後部から約 0.30 m の距離の赤色のガイドライン
⑥ 車両後部から約 1.0 m の距離の黄色のガイドライン

訂正内容

① 上面表示とフロントカメラ映像の分割画面の設定アイコン
② 車両前部から約 4.0 m の距離の黄色のガイドライン
③ そのときのステアリング角度での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可動）
④ そのときのステアリング角度での、タイヤの進路を示す黄色のレーンマーク（可動）
⑤ 車両前部から約 0.30 m の距離の赤色のガイドライン
⑥ 車両前部から約 1.0 m の距離の黄色のガイドライン

アテンションアシスト

アテンションアシストの設定

記載内容 訂正内容

記載内容

センシティブを選択：感度がより高く設定されます。それに合うように、アテンションアシストにより検知されるアテンションレベルが適合され、運転手がより早く警告されます。

アテンションアシストが解除されているときは、エンジンが停止した後に自動的に再設定されます。選択される感度は、最後に設定した選択に対応します（標準 / センシティブ）。

訂正内容

高感度を選択：感度がより高く設定されます。それに合うように、アテンションアシストにより検知されるアテンションレベルが適合され、運転手がより早く警告されます。

アテンションアシストが解除されているときは、エンジンが停止した後に自動的に再設定されます。選択される感度は、最後に設定した選択に対応します（標準 / 高感度）。

ドライビングアシストプラスパッケージ

アクティブブラインドスポットアシスト

記載内容 訂正内容

記載内容

アクティブブラインドスポットアシストの作動

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。

ドアミラーの警告灯①が約 1.5 秒 赤色に点灯します。後方に発信される灰色のレーダー波がマルチファンクションディスプレイのアシストディスプレイの車両の隣に表示されます。

訂正内容

アクティブブラインドスポットアシストの作動

▶ イグニッション位置を **2** にします。

ドアミラーの警告灯①が赤色に点灯します。後方に発信されるレーダー波がマルチファンクションディスプレイのアシストディスプレイの車両の隣に灰色で表示されます。

マルチファンクションディスプレイと表示

メニューおよびサブメニュー

トリップメニュー

記載内容 訂正内容

記載内容

トリップコンピューター "スタートから" または "リセット後"

① 距離
② 継続時間
③ 平均燃費
④ 平均速度

訂正内容

トリップコンピューター "スタート後" または "リセット後"

① 距離
② 継続時間
③ 平均燃費
④ 平均速度

デジタル版取扱説明書の訂正事項

ラジオメニュー

記載内容 訂正内容

記載内容

① 周波数バンドと放送局リスト番号
② メモリーポジションのある放送局周波数
③ アーティスト名
④ トラック名
⑤ ジャンル

▶ **高速スクロールを使用して放送局リストから放送局を選択する：** ▼ または ▲ スイッチを押して短時間保持します。

訂正内容

① 周波数バンド
② メモリーポジションのある放送局周波数または放送局名
③ 仕様により表示されません
④ 仕様により表示されません
⑤ 仕様により表示されません

ℹ 仕様により、高速スクロールを使用した放送局リストからの放送局の選択は利用できません。

電話メニュー

はじめに

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ ステアリングの ▼ または ▲ を押して、電話 メニューを選択します。

訂正内容

▶ ステアリングの ▼ または ▲ を押して、TEL メニューを選択します。

設定メニュー

アシストサブメニュー

PRE-SAFE® ブレーキの設定 / 解除

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、プレセーフブレーキ を選択します。	▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、PRE-SAFE ブレーキ を選択します。

メーターパネルのサブメニュー

補助スピードメーターの設定 / 解除の切り替え

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、インストルメントクラスタ サブメニューを選択します。	▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、メーター サブメニューを選択します。

工場出荷時の設定に戻す

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、設定初期化 サブメニューを選択します。	▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、初期設定 サブメニューを選択します。

COMAND システム

各部の名称

COMAND システムの基本機能

機能およびメニューの呼び出し

記載内容

▶ MEDIA スイッチ、または NAVI、RADIO、TEL または 🚗 スイッチを押します。

通信：最後に設定した通信機能の基本メニュー（電話、アドレス帳、インターネット）が表示されます。

▶ **メニューを表示する：**ナビゲーションでコントローラーを押します。

地図にメニューが表示されます。下部メニューバーにマークが表示されます。

または他の機能で

▶ コントローラーをスライドします ↑◎↓。

選択した機能のメニューが表示されます。操作によっては、基本機能バー①またはメニューバー②にマークが表示されます。

訂正内容

▶ MEDIA スイッチ、または NAVI、RADIO、TEL または 🚗 スイッチを押します。

電話 / 🌐 ：最後に設定した電話 / 🌐 機能の基本メニュー（電話、アドレス帳、インターネット）が表示されます。

▶ **ナビゲーションでメニューを表示する：**ナビゲーションでコントローラーを押します。

地図にメニューが表示されます。下部メニューバーの項目が選択されます。

または

他の機能でメニューを表示する：

▶ コントローラーをスライドします ↑◎↓。

選択した機能のメニューが表示されます。操作によっては、基本機能バー①またはメニューバー②の項目が選択されます。

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
マルチシートエンターテインメントシステム	**リアシートエンターテインメントシステム**

メディアの概要（記載内容）

以下のメディアから選択することができます。

メディア	機能 / 位置
外部入力	AUX ソケットに接続されている機器 AUX ソケットは後席のセンターコンソールのアームレスト下にあります。
Bluetooth® オーディオ	• Bluetooth® 経由で COMAND システムに接続された機器 • ビジネス電話として COMAND システムに接続された機器

メディアの概要（訂正内容）

以下のメディアから選択することができます。

メディア	機能 / 位置
外部入力	AUX ソケットに接続されている機器。AUX ソケットは前席および後席のセンターコンソールのアームレスト下にあります。
Bluetooth® オーディオ	Bluetooth® 経由で COMAND システムに接続された機器

車両のメディアにアクセスする

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ メニューを表示する：リモコンの [▼] スイッチを押します。

▶ リモコンの [▼][◀][▶] スイッチを使用して、デバイス を選択します。

使用可能なディスク / デバイスが表示されます。ドット • は現在の設定を示しています。

訂正内容

▶ リアエンターテインメントシステムをメディアモードにします。

▶ メニューを表示する：リモコンの [▼] スイッチを押します。

▶ リモコンの [◀][▶] スイッチを使用して、デバイス を選択します。

使用可能なディスク / デバイスが表示されます。ドット • は現在の設定を示しています。

文字の入力

文字バーを使用しての文字入力

文字種類を選択する

記載内容 訂正内容

記載内容:

文字種類	説明
ABC	大文字のアルファベット(全角) (単語の最初の1文字だけが大文字になります)
特別文字	追加文字
特別文字	丸数字やローマ数字
マーク	マーク

訂正内容:

文字種類	説明
ABC全角	大文字のアルファベット(全角)
特殊文字	追加文字
特殊文字	丸数字やローマ数字
記号	記号

ひらがなの入力

記載内容 訂正内容

記載内容:

▶ **行を選択する**：コントローラーをまわして、押して確定します。

「や」のような選択した行の文字が補助の行に表示されます。最初の文字が強調されます。

▶ **文字を選択する**：コントローラーをまわして、押して確定します。

ℹ あるいは、テレフォンキーパッドを使用して文字を入力することもできます(直接入力)。

同じようにしてカタカナを選択することもできます。

訂正内容:

▶ **行を選択する**：コントローラーをまわして行を選択し、押して確定します。

選択した行の文字が補助の行に表示されます。

▶ **文字を選択する**：コントローラーをまわして、押して確定します。

カタカナも同様に入力できます。

システム設定

WLAN

新しいセキュリティキーの作成

記載内容 **訂正内容**

記載内容:

▶ セキュリティキー再発行 を選択します。

セキュリティキーを入力するためのダイアログが表示されます。

▶ 新しいセキュリティキーを入力します。

▶ ok を選択します。

▶ コントローラーを押します 。

セキュリティキー経由で接続が確立されたときは、新しいセキュリティキーが表示され、確認されます。

訂正内容:

▶ セキュリティキー再発行 を選択します。

選択するたびに新たなセキュリティキーが発行されます。

▶ 保存を選択します。

お気に入りスイッチの登録

記載内容 **訂正内容**

記載内容:

ショートカットを変更する

▶ 名前の変更 を選択します。

お気に入りスイッチを選択してください という確認とともにメニューが表示されます。

ⓘ ショートカットには 6 文字まで使用することができます。これより少ない文字の入力も可能です。

お気に入りをリセットする

▶ フェイバリット リセット を選択します。

お気に入りスイッチを選択してください という確認とともにメニューが表示されます。

訂正内容:

ショートカットを変更する

▶ 名前の変更 を選択します。

テンキーを選択してください：メニューが表示されます。

ⓘ ショートカットには半角 6 文字、または全角 5 文字まで使用することができます。これより少ない文字の入力も可能です。

お気に入りをリセットする

▶ フェイバリット リセット を選択します。

初期化メニューが表示されます。

データのインポート / エクスポート

PIN プロテクションの作動 / 解除

記載内容	訂正内容
▶ 4 桁の PIN を入力し、ok を選択する：コントローラーをまわして、押します。 PIN を再度入力するように促されます。	▶ コントローラーをまわして、4 桁の PIN を入力し、ok を選択します。 PIN を再度入力するように促されます。

データのインポート / エクスポート

記載内容	訂正内容
▶ PIN を入力する：コントローラーをまわして、ok を押します。 PIN プロテクションが解除されます。	▶ コントローラーをまわして、PIN を入力し、ok を選択します。 PIN プロテクションが解除されます。

車両機能

車両設定

車両設定の呼び出し

記載内容	訂正内容
▶ コントローラーの 🚗 スイッチを押します。 車両メニューが表示されます。	▶ コントローラー脇の 🚗 スイッチを押します。 車両メニューが表示されます。
▶ 車両設定 を選択する：コントローラーをまわして、押します。 車両設定のメニューが作動します。	▶ 車両設定 を選択する：コントローラーをまわして、押します。 車両設定メニューが表示されます。
▶ 希望する車両設定を選択する：コントローラーをまわして、押します。 設定項目のあるメインエリアが作動します。	▶ 希望する車両設定項目を選択する：コントローラーをまわします。 メインエリアに設定内容が表示されます。

記載内容 訂正内容

他の車両設定の選択：

▶ 車両設定を選択するためのメニューを作動させる：コントローラをスライドします ◎⬆。

車両設定の終了：

▶ ⊡ を選択する：コントローラーをスライドして ◎⬇、押します。

メインメニューが選択されているときに他の車両設定項目を選択する：

▶ コントローラーをスライドしてから◎⬆、まわします。

車両設定メニューを終了する：

▶ ⊡ スイッチを押します。

または

▶ ⊡ を選択する：コントローラーをスライドして ◎⬇、押します。

アンビエントライト

全体的な注意事項

記載内容 訂正内容

ⓘ アンビエントライトの以下を設定することができます：

- ゾーン

  ゾーン設定は、照度の設定が適用されるエリアを決定します。ゾーン全体が 0.5 秒以上で選択されている場合は、フロントゾーンの照度が車両全体に適用されます。
- 明るさ

  この設定は、アンビエントライトの照度の補助的な変更を行ないます。照度の変更は選択したゾーンにのみ影響を与えます。この理由のため、照度の変更を作動させるゾーンを最初に選択しなければなりません。
- 色

  この設定により、アンビエントライトの色が変わります。

ⓘ アンビエントライトの以下を設定することができます：

- 明るさ

  車内のゾーンごとにアンビエントライトの明るさを設定することができます。" 車全体 " を 0.5 秒以上選択している場合は、車内各ゾーンのアンビエントライトの明るさが " 車全体 " で設定した明るさに連動します。
- 色

  この設定により、アンビエントライトの色が変わります。

ゾーンの照度の調整

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ 車両設定を呼び出します。

▶ アンビエントライト：明るさ を選択する：コントローラーをまわして、押します。

左側の設定項目が作動します。現在選択されているゾーンの照度の数値が表示されます。

▶ 照度の数値を変更する：コントローラーをまわします。

▶ ゾーンを選択する：コントローラーをスライドしてから ◎➡、まわします。

さらなる情報は、車両の取扱説明書にあります。

訂正内容

▶ 車両設定メニューを呼び出します。

▶ アンビエントライト：明るさ を選択する：コントローラーをまわして、押します。

▶ 照度の数値を変更する：コントローラーをスライドして ⬅◎➡ 照度のダイヤルを選択し、コントローラーをまわします。

▶ ゾーンを選択する：コントローラーをスライドして ⬅◎➡ ゾーンのダイヤルを選択し、コントローラーをまわします。

パネルヒーターの作動 / 解除

記載内容 訂正内容

記載内容

パネルヒーター機能は、車両乗員が頻繁に接触する表面を暖めます。COMANDシステムを使用してのパネルヒーターの作動は、シートヒーターが作動している場合にのみ、以下に記載されているように行なわれます（車両の取扱説明書をご覧ください）。

訂正内容

パネルヒーター機能は、車両乗員が頻繁に接触する表面を暖めます。暖めるエリアを選択することができます。

パネルヒーターはシートヒーターと連動して作動します。

ロケイターライティングの設定 / 解除の切り替え

記載内容 訂正内容

記載内容

ロケイターライティング（周囲の照明）が設定されている場合は、車両が解錠されたときに方向指示灯とともにヘッドライトも短時間点灯します。

訂正内容

ロケイターライティング（車外ライトの点灯機能）が設定されている場合は、周囲が暗いときに車両を解錠したときに一部の車外ライトが短時間点灯します。

消灯遅延時間の設定

車外ライト消灯遅延時間

記載内容		訂正内容
リモコンキーを使用して車両が解錠されたときに、消灯遅延時間の間、車外ライトが点灯します。		エンジンを停止してドアを開閉した後に、消灯遅延時間の間、一部の車外ライトが点灯します。

シート

調整機能

ドライビングダイナミックシートの設定

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ シート機能を呼び出します。

▶ シートを選択する：コントローラーをスライドします ←◎→。

▶ ダイナミック マルチコントロール シート を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。

以下の選択ができます。

- 0：オフ
- 1：レベル 1（弱い）
- 2：レベル 2（強い）

訂正内容

▶ シート機能を呼び出します。

▶ ダイナミック マルチコントロール シート を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。

▶ シートを選択する：コントローラーをスライドします ←◎→。

以下の選択ができます。

- OFF：オフ
- 1　：レベル 1（弱い）
- 2　：レベル 2（強い）

エアコンディショナーの設定

基本設定

エアコンディショナーの作動 / 停止の切り替え

記載内容		訂正内容
▶ フッターに切り替える：コントローラーをスライドします ◎↓。		▶ 最下段のメニューが選択されるまで、コントローラーをスライドします ◎↓。

さらなる設定

パフュームアトマイザーの作動 / 停止

記載内容

訂正内容

記載内容

▶ ﾊﾟﾌｭｰﾑ・ｱﾄﾏｲｻﾞｰ を選択する：コントローラーをまわして、押します。

前回の状況によって、パフュームアトマイザーが作動または停止します。

▶ 強さを設定する：アトマイザーが作動しているときに、コントローラーをまわします。

メニューを終了する

▶ ⮌ スイッチを押します。

訂正内容

▶ ﾊﾟﾌｭｰﾑ・ｱﾄﾏｲｻﾞｰ を選択する：コントローラーをまわして、押します。

▶ パフュームアトマイザーを作動 / 停止する：コントローラーを押します。

パフュームアトマイザーが作動または停止します。

▶ 強さを設定する：コントローラーをまわします。

記載内容

訂正内容

記載内容

チャイルドプルーフロック

後席ディスプレイのオン / オフの切り替え

▶ 画面設定のオン / オフを切り替える：コントローラーをまわします。

車両設定の終了：

▶ ⮌ を選択する：コントローラーをスライドして ◎⬇、押します。

訂正内容

ペアレンタルコントロール

後席ディスプレイのオン / オフの切り替え

▶ コントローラーをスライドして ⬅◎➡、画面のダイヤルを選択します。

▶ コントローラーを押すたびに、後席ディスプレイのオン / オフが切り替わります。

後席ディスプレイのロック / ロック解除

記載内容

▶ ロックを選択して後席ディスプレイをロック / ロック解除する：コントローラーをスライドして ◎→、押します。

ディスプレイがロックされ、 のある対応するメッセージが画面に表示されます。ロック解除 がディスプレイに表示されます。

車両設定の終了：

▶ を選択する：コントローラーをスライドして ◎↓、押します。

訂正内容

▶ コントローラーをスライドして ←◎→、ロックまたはロック解除のダイヤルを選択します。

▶ コントローラーを押すたびに、後席ディスプレイのロック / ロック解除が切り替わります。

360° カメラシステム

360° カメラシステムからの映像の表示

記載内容

表示の手動切り替え：

▶ を選択する：コントローラーをスライドして ◎↓、押します。

訂正内容

表示を手動で切り替える：

▶ スイッチを押します。

または

▶ を選択する：コントローラーをスライドして ◎↓、押します。

ナビゲーション

基本設定

記載内容 訂正内容

記載内容: 地図の種類の設定		訂正内容: 地図表示形式の設定	
道路標識アシスト	ロードサインアシスト COMAND ディスプレイに最高許容速度および追い越し規制を表示します。	道路標識アシスト	日本仕様では機能しません。

目的地の入力

自宅

記載内容 訂正内容

記載内容

入力および保存

▶ **ナビゲーションモードに切り替える：** NAVI スイッチを押します。

▶ **メニューを表示する：** コントローラーを押します。

▶ 目的地を選択します。

ルート案内非作動：コントローラーを押します。

ルート案内作動：コントローラーをまわして押します。

▶ プライベート を選択します。

▶ セット を選択します。

訂正内容

自宅を入力および保存する

▶ **ナビゲーションモードに切り替える：** NAVI スイッチを押します。

▶ **メニューを表示する：** コントローラーを押します。

▶ 目的地を選択します。

▶ 自宅 を選択します。

▶ 設定 を選択します。

自宅住所の保存

記載内容 訂正内容

記載内容:

▶ 設定 を選択する：コントローラーをまわして押します。

自宅を登録しました というメッセージが表示されます。自宅住所がﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄ の項目に目的地として保存されます。

訂正内容:

▶ ｾｯﾄ を選択する：コントローラーをまわして押します。

自宅を登録しました というメッセージが表示されます。選択された位置が自宅 の項目に保存されます。

記載内容 訂正内容

記載内容:

プリセット 1 - 3

目的地の入力および保存

COMAND システムは頻繁に訪れる目的地として使用できる 3 つのプリセットを提供します。

▶ **ナビゲーションモードに切り替える：** NAVI スイッチを押します。

▶ **メニューを表示する：** コントローラーを押します。

▶ 目的地を選択します。

ルート案内非作動：コントローラーを押します。

ルート案内作動：コントローラーをまわして押します。

▶ 登録地 1、登録地 2 または登録地 3 を選択します。

▶ ｾｯﾄ を選択します。

▶ " 自宅住所の入力および保存 " に記載されているように続けます。

目的地が設定された後に、目的地 <x> を登録しました というメッセージが表示されます。

訂正内容:

登録地

登録地を入力および保存する

3 つまでの地点を登録地に保存できます。

▶ **ナビゲーションモードに切り替える：** NAVI スイッチを押します。

▶ **メニューを表示する：** コントローラーを押します。

▶ 目的地を選択します。

▶ 登録地 1、登録地 2 または登録地 3 を選択します。

▶ 設定 を選択します。

▶ " 自宅を入力および保存する " に記載されているように続けます。

登録地が設定された後に、登録地 <x> を登録しました というメッセージが表示されます。

全ルート図

通過点

通過点の作成

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ 目的地検索を選択します。	▶ 検索方法を選択します。

ルート案内

ナビゲーションの音声案内

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
特別なナビゲーションメッセージのオン / オフの切り替え	**ナビガイダンス設定のオン / オフの切り替え**
▶ 音声を選択します。	▶ ナビガイダンス設定を選択します。
以前の設定によって、機能がオン ☑ またはオフ ☐ のいずれかに切り替わります。	以前の設定によって、機能がオン ☑ またはオフ ☐ のいずれかに切り替わります。

特定のエリアの回避

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
新しいエリアを避ける	**回避エリアを設定する**
▶ **エリアを選択する：**地図がクロスカーソルとともに表示されている場合は、コントローラーを押します。	▶ **エリアを選択する：**コントローラーをスライドして地図をスクロールし、回避エリアの中心地にクロスカーソルを合わせます。
	▶ コントローラーを押します。
赤色の四角が地図に表示されます。	赤色の四角が地図に表示されます。

記載内容 訂正内容

目的地の検索

住所検索

▶ 最初の文字を選択する：コントローラーをスライドします ←◎→。

▶ 場所を選択する：コントローラーをまわして押します。

▶ 千代田区の中心を選択します。

地点検索

住所検索

▶ 50 音順に市区町村を切り替える：コントローラーをスライドします ←◎→。

▶ 市区町村を選択する：コントローラーをまわして押します。

▶ ～主要部を選択します。

その地域の主要部が表示されます。

電話番号を使用して検索する

記載内容 訂正内容

電話番号がデータベースに対応している場合は、対応する住所周辺を目的地に設定できます。

市外局番が使用可能な場合は、市外局番の中心地に目的地を設定できます。

電話番号がデータベースに対応している場合は、対応する住所周辺を目的地に設定できます。

電話番号がデータベースにない場合や電話番号の一部のみを入力した場合は、市外局番または市内局番に対応する地域の主要部が表示されます。

ストリートビューを使用しての目的地周辺の表示

目的地入力の後で直接

記載内容		訂正内容
▶ クロスカーソルのある地図で、セット の左にあるマークを選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。データ接続が作動している場合は、目的地周辺が表示されます。		▶ クロスカーソルのある地図で、目的地に設定 の左にあるマークを選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。データ接続が作動している場合は、目的地周辺が表示されます。

目的地の保存

目的地をアドレス帳に保存する

記載内容		訂正内容
▶ **連絡先に追加する：**Add to contact を選択します。 アドレス帳が表示されます。		▶ **連絡先に追加する：**アドレス帳に追加 を選択します。 アドレス帳が表示されます。

地図機能

ビル情報を表示する

ビル情報の選択

記載内容		訂正内容
▶ 目的地に設定 を選択します。 ▶ 施設に発信する：電話 を選択します。		▶ 施設を目的地に設定する：目的地に設定 を選択します。 ▶ 施設に電話発信する：電話 を選択します。

VICS - 道路交通情報通信システム

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
VICS の交通案内	**ルート上の渋滞を表示する**
▶ **次 / 前の VICS の交通案内を表示する：** 次または次を選択します。	▶ **次 / 前の VICS の交通案内を表示する：** 次または前を選択します。
▶ **縮小する：** 縮小を選択して、前の表示に戻ります。	▶ **縮小する：** 広域を選択して、前の表示に戻ります。
▶ **詳細を表示する：** 詳細を選択します。以下に関する情報が表示されます。 • 交通事象の長さ • 交通事象までの距離 • 影響のある道路の名前 • 交通事象の開始 • 交通事象の終了	▶ **詳細を表示する：** 詳細を選択します。以下に関する情報が表示されます。 • 渋滞の長さ • 渋滞までの距離 • 影響のある道路の名前 • 渋滞の開始地点 • 渋滞の終了地点

電話

全体的な注意事項

はじめに

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
COMAND システムでは、以下の電話機能のモードを使用することができます。 • COMAND システムを使用しての Bluetooth® インターフェース経由での電話機能 • マルチシートエンターテインメントシステム（ハンドセット）の Bluetooth® インターフェース経由でのビジネス電話機能	COMAND システムでは、Bluetooth® インターフェース経由での電話機能を使用することができます。

Bluetooth® インターフェース経由による電話機能

携帯電話を接続する

携帯電話を検索する

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ 接続デバイスを選択し、押して確定します。

▶ 検索開始を選択する：コントローラーをスライドして ◎➡、押して確定します。

Bluetoothデバイス検索 というメッセージが表示されます。COMAND システムは範囲内の携帯電話を検索して、それらを Bluetooth® 電話リストに追加します。

訂正内容

▶ デバイス接続を選択し、押して確定します。

▶ 検索開始を選択する：コントローラーを押して確定します。

COMAND システムは範囲内の携帯電話を検索して、それらを Bluetooth® 電話リストに追加します。

Bluetooth® 電話リストのマーク

記載内容

ⓘ オプションで使用可能な Bluetooth®（SAP プロファイル）付き電話モジュールに接続されている携帯電話は、それぞれの電話リストに表示されます。それらは SAP モジュールの電話 という項目の下にあります。

訂正内容

ⓘ 日本仕様には、左記の機能はありません。

受話および発話音量

記載内容 **訂正内容**

記載内容	訂正内容
▶ 接続デバイスを選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。 電話リストが表示されます。 ▶ 認証された携帯電話をリストから選択する：コントローラーをまわします。 ▶ 項目の右のリストマークを選択する：コントローラーをスライドして ◎➡、押して確定します。	▶ オプションを選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。 オプションメニューが表示されます。 ▶ 音量設定を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。

電話操作

通話中に使用できる機能

後席に通話を転送して、受ける

記載内容 **訂正内容**

記載内容	訂正内容
通話をリアエンターテインメントシステムに転送することができます。通話はリアスピーカーから出力され、リアマイクが使用されます。	ⓘ 日本仕様には、左記の機能はありません。

国際電話

国際電話コードの設定

記載内容 **訂正内容**

記載内容	訂正内容
▶ ok を選択し、押して ◉ 確定します。 保存されました というメッセージが表示されます。 国コードを入力した後に、戻る を選択すると、変更内容を保存しますか？ というメッセージが表示されます。	▶ ok を選択し、押して ◉ 確定します。 変更内容を保存しますか？ というメッセージが表示されます。 または 国コードを入力した後に、⮌ を選択すると、変更内容を保存しますか？ というメッセージが表示されます。

電話帳の使用

電話帳を呼び出す

電話帳を閉じる

記載内容 **訂正内容**

記載内容:

▶ 文字バーから 戻る を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。

訂正内容:

▶ 文字バーから [↩] を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。

アドレス帳の使用

アドレス帳項目の詳細を表示する

サブ項目情報の表示

記載内容 **訂正内容**

記載内容:

▶ 詳細 を選択する：コントローラーをまわして、押します。

全画面で表示されます。

▶ 詳細表示を選択する：[↩] スイッチを押します。

訂正内容:

▶ 詳細 を選択する：コントローラーをまわして、押します。

▶ 詳細表示を閉じる：[↩] スイッチを押します。

アドレス帳項目をお気に入りスイッチに登録する

記載内容		訂正内容
アドレス帳項目をお気に入りスイッチに登録することができます。 ▶ 項目を選択する：コントローラーをまわして押します。 ▶ 希望のデータ欄を選択する（電話番号、住所または E メールアドレス）：コントローラーをまわします。 ▶ テンキーのお気に入りスイッチを押します。 ▶ テンキーの 1 つを 2 秒以上押します。 選択した項目の種類に応じて、以下のためにお気に入りスイッチを使用することができます。 • 通話を開始する • ルート案内を開始する • E メールを書く		アドレス帳項目の電話番号をお気に入りスイッチに登録することができます。 ▶ 項目を選択する：コントローラーをまわして押します。 ▶ 希望の電話番号欄を選択する：コントローラーをまわします。 ▶ テンキーのお気に入りスイッチを押します。 ▶ テンキーの 1 つを 2 秒以上押します。 お気に入りスイッチを使用して、通話を開始することができます。

項目までのルート案内を開始する

記載内容		訂正内容
▶ 地図表示 を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。 ルート案内が開始されます。		▶ 地図表示 を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。 ▶ セットを選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。 ▶ 目的地を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。 ルート案内が開始されます。

電話帳項目のインポート

記載内容 **訂正内容**

記載内容	訂正内容
▶ このデ－タを保存しますか？ を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。 保存しました というメッセージが表示されます。ここで電話帳項目がアドレス帳項目として保存されます。	▶ 保存 を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。 電話帳項目がアドレス帳項目として保存されます。

連絡先をインポートする

連絡先を削除する

記載内容 **訂正内容**

記載内容	訂正内容
▶ 以下のオプションの１つを選択します。 • COMAND システム上で作成した連絡先 • 記憶装置からのインポート • Bluetooth ﾃﾞﾊﾞｲｽからのｲﾝﾎﾟｰﾄ • 電話からﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ	▶ 以下のオプションの１つを選択します。 • COMAND 上で作成した連絡先 • ﾒﾓﾘｰﾃﾞﾊﾞｲｽからﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞしたもの • Bluetooth ﾃﾞﾊﾞｲｽからのｲﾝﾎﾟｰﾄ • 電話からﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ

表示および並び替え条件の変更

記載内容 **訂正内容**

記載内容	訂正内容
表示された連絡先の並び替え方を変更できます。	ⓘ 日本仕様には、左記の機能はありません。

COMAND Online とインターネット

アクセスデータの設定

インターネット機能のための携帯電話の確立および設定

記載内容	訂正内容
携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータの選択	**携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータの選択**
▶ NTT docomo のようなプロバイダーを選択します。 プロバイダー設定の概要が表示されます。	▶ NTT docomo のようなプロバイダーを選択します。 プロバイダー設定の概要が設定確認に表示されます。
▶ 情報が正しい場合は 設定確認。情報が正しくない場合は、設定を編集できます。	▶ 設定確認で情報が正しいことを確認します。情報が正しくない場合は、設定を編集できます。
ⓘ Mobilcom のような携帯電話のネットワークプロバイダーが複数のアクセスデータのオプションを提供している場合は、関連のアクセスデータを選択しなければなりません。これは、例えば使用しているデータパッケージによって異なります。	ⓘ 携帯電話のネットワークプロバイダーが複数のアクセスデータのオプションを提供している場合は、関連のアクセスデータを選択しなければなりません。これは、例えば使用しているデータパッケージによって異なります。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定

記載内容	訂正内容
▶ 設定を選択する：設定確認を選択します。	▶ 設定を選択する：設定が正しい場合は、設定確認を選択します。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを管理する

アクセスデータを編集する

記載内容	訂正内容
▶ 携帯電話のネットワークアクセスリストから携帯電話を選択します。	▶ インターネットデバイスリストから携帯電話を選択します。

すべてのインターネットデバイスの管理

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ インターネットデバイスの管理 を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。

メニューが表示されます。

▶ デバイスの優先度を変更 を選択します。

▶ 希望のインターネットデバイスを上または下に動かします。

インターネットデバイスの優先度が変更されます。

訂正内容

▶ インターネットデバイスの管理 を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。

接続されている携帯電話が表示されます。

▶ 項目の右のマークを選択する：コントローラーをスライドしてから ◎➡、押して確定します。

▶ デバイスの優先度を変更 を選択します。

▶ 希望のインターネットデバイスを上または下に動かします。

インターネットデバイスの優先度が変更されます。

▶ コントローラーを押して確定します。

Google ™ ローカル検索

ローカル検索メニューを呼び出す

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ Google ローカル検索を選択します。

訂正内容

▶ Google Local Search を選択します。

検索結果を使用する

記載内容 **訂正内容**

記載内容

- **詳細を表示する：**詳細を選択します。

  選択した項目の住所が表示されます。
- **検索結果を目的地として使用する：**目的地に設定を選択します。

  次にナビゲーションモードに切り替え、ルート検索を開始できます。
- **目的地に電話する：**電話するを選択します。

  その後に電話機能に切り替え、発信します。
- **アドレス帳に保存する：**インポートを選択します。

  項目がアドレス帳に保存されます。

訂正内容

- **詳細を表示する：**Details を選択します。

  選択した項目の住所が表示されます。
- **検索結果を目的地として使用する：**Navigate to を選択します。

  次にナビゲーションモードに切り替え、ルート検索を開始できます。
- **目的地に電話する：**Call を選択します。

  その後に電話機能に切り替え、発信します。
- **アドレス帳に保存する：**Import を選択します。

  項目がアドレス帳に保存されます。

通常検索

記載内容 **訂正内容**

記載内容

- Google ローカル検索を選択します。
- At current location（現在地）を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- Frequent search queries（よく行なう検索照会）を選択する：コントローラーをまわして、押します。

訂正内容

- Google Local Search を選択します。
- 現在地付近を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- 通常検索を選択する：コントローラーをまわして、押します。

検索履歴

記載内容		訂正内容
▶ Google ローカル検索を選択します。 ▶ At current location (現在地) を選択する：コントローラーをまわして、押します。 ▶ Last search queries (最後の検索照会) を選択する：コントローラーをまわして、押します。		▶ Google Local Search を選択します。 ▶ 現在地付近を選択する：コントローラーをまわして、押します。 ▶ 以前に検索したものを選択する：コントローラーをまわして、押します。

ローカル検索のオプションを選択する

検索履歴のリセット

記載内容		訂正内容
▶ 検索履歴リセットを選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。 検索履歴を本当にリセットしたいかどうかをたずねる確認が表示されます。		▶ 以前に検索した都市名をリセットを選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。 検索履歴を本当にリセットしたいかどうかをたずねる確認が表示されます。

目的地 / ルートのダウンロード

サーバーへの目的地の送信

記載内容		訂正内容
▶ " 車両に送信 " をクリックします。		▶ " 車メーカー " をクリックします。

目的地の使用

サーバーから目的地を削除する

記載内容		訂正内容
▶ 削除を選択します。 本当にリセットしたいかどうかを問う確認が表示されます。		▶ Delete を選択します。 本当にリセットしたいかどうかを問う確認が表示されます。

目的地ダウンロードの設定オプション

ダウンロード用 ID を指定する

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ Destination/route download （目的地 / ルートのダウンロード）アプリ用のオプションメニューを選択します。

メニューは現在の設定を表示しています。

訂正内容

▶ POI のダウンロード アプリ用のオプションメニューを選択します。

メニューは現在の設定を表示しています。

サーバーへインポートした後の目的地の削除

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ Destination/route download （目的地 / ルートのダウンロード）アプリ用のオプションメニューを選択します。

メニューは現在の設定を表示しています。

▶ Delete after importing to the server （サーバーへインポート後に削除）を選択する：コントローラーをまわして、押します。

設定を設定 ☑、または解除 □ に切り替えます。

訂正内容

▶ POI のダウンロード アプリ用のオプションメニューを選択します。

メニューは現在の設定を表示しています。

▶ ｻｰﾊﾞ-から取得後に消去を選択する：コントローラーをまわして、押します。

設定を設定 ☑、または解除 □ に切り替えます。

天気

天気表示のオン / オフを切り替える

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ **5 日間の予報に切り替える：**天気状況を選択します。 メニューが表示されます。	▶ **5 日間の予報に切り替える：**現在を選択します。 メニューが表示されます。
▶ 週間天気 を選択します。 情報チャートは現在選択している場所のこれから 5 日間の予報を表示します。	▶ 5 日間 を選択します。 情報チャートは現在選択している場所のこれから 5 日間の予報を表示します。
▶ **現在の天気情報に戻る：**週間天気を選択します。 メニューが表示されます。	▶ **現在の天気情報に戻る：**5 日間を選択します。 メニューが表示されます。
▶ 天気状況 を選択します。 情報チャートには現在選択した場所の現在の予報が表示されます。	▶ 現在 を選択します。 情報チャートには現在選択した場所の現在の予報が表示されます。
▶ **情報に切り替える：**天気状況を選択します。 メニューが表示されます。	▶ **情報に切り替える：**現在を選択します。 メニューが表示されます。

場所を選択する

情報チャートからの位置の選択

記載内容		訂正内容
▶ 各地の天気メニューを選択する：コントローラーをまわして、押します。 メニューが表示されます。		▶ 場所メニューを選択する：コントローラーをまわして、押します。 メニューが表示されます。
▶ **スキー場：**を選択します。 利用可能なウインタースポーツのエリアが表示されます。 県のリストが表示されます。		▶ **スキー場：**スキー場 を選択します。 利用可能なウインタースポーツのエリアが表示されます。 県のリストが表示されます。
▶ たとえば福建省のような地方を選択します。 利用可能なウインタースポーツのエリアが表示されます。		▶ たとえば北海道のような地方を選択します。 利用可能なウインタースポーツのエリアが表示されます。
▶ **場所を選択する：**別の町を選択します。 入力メニューが表示されます。		▶ **場所を選択する：**住所周辺を選択します。 入力メニューが表示されます。

天気図からの位置の選択

記載内容		訂正内容
▶ 天気表を選択する：コントローラーをスライドしてから ◎⬇、押します。		▶ 天気情報を選択する：コントローラーをまわして、押します。

天気図

地図の天気情報の表示に切り替える

記載内容 **訂正内容**

記載内容:

▶ 天気図にメニューを表示します

▶ Map options（地図オプション）を選択する：コントローラーをまわして押します。

気象特性	地図の表示
気象レーダー	色分けされた地域として地図に雨レーダーを表示します
温度	気温を表示します
雲レーダー	雲の広がりを表示します
風向き・風速	矢印で風向きを、色で風速を表示します

訂正内容:

▶ 天気図にメニューを表示します

▶ 画面を選択する：コントローラーをまわして押します。

気象特性	地図の表示
天気概況	地図に主な都市の天気と気温を表示します
気温	気温を表示します
雲レーダー	雲の広がりを表示します
風向き・風速	矢印で風向きを、数字で風速を表示します

天気表示のオプションを選択する

地図表示の天気データを選択する

記載内容 **訂正内容**

記載内容:

▶ Map view（地図表示）を選択する：コントローラーをまわして押します。

メニューが表示されます。

訂正内容:

▶ 地図初期設定を選択する：コントローラーをまわして押します。

メニューが表示されます。

オプション

利用規約

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ 使用条件を選択する：コントローラーをまわして押します。	▶ 利用規約を選択する：コントローラーをまわして押します。
▶ Mercedes-Benz Apps、Facebook または Google ローカル検索 を選択します。	▶ Mercedes-Benz Apps、Facebook または Google ローカル検索 を選択します。
それぞれのホームページが表示されます。	それぞれの利用規約が表示されます。

追加の Mercedes-Benz Apps（メルセデス・ベンツ アプリ）

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
Facebook 、Google ™ ストリートビュー、Google ™ パノラミオのような追加の Mercedes-Benz Apps（メルセデス・ベンツ アプリ）、または最高速度のような国情報をここで呼び出すことができます。	Facebook 、Google ™ ストリートビュー、Google ™ パノラミオのような追加の Mercedes-Benz Apps（メルセデス・ベンツ アプリ）をここで呼び出すことができます。

インターネットラジオ

放送局検索

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ インターネットラジオメニューで検索を選択する：コントローラーをまわして、押します。	▶ インターネットラジオメニューで放送局サ-チを選択する：コントローラーをまわして、押します。
検索オプションのあるリストが表示されます。	検索オプションのあるリストが表示されます。

その他の機能

記載内容 **訂正内容**

記載内容	訂正内容
▶ 放送局のロゴの読み込みを選択する：コントローラーをまわして、押します。 ボックスをチェックする、またはチェックを外すと、機能の設定 ☑、または解除 ☐ が切り替わります。	▶ 放送局 ﾛｺﾞ 表示を選択する：コントローラーをまわして、押します。 ボックスをチェックする、またはチェックを外すと、機能の設定 ☑、または解除 ☐ が切り替わります。
▶ 開始の自動再生を選択します。 ボックスをチェックする、またはチェックを外すと、機能の設定 ☑、または解除 ☐ が切り替わります。	▶ 今すぐプレイを選択します。 ボックスをチェックする、またはチェックを外すと、機能の設定 ☑、または解除 ☐ が切り替わります。

インターネット

オプションメニュー

新しいウインドウで開く

記載内容 **訂正内容**

記載内容	訂正内容
▶ **メニューを表示する：** ⮌ スイッチを押します。	▶ **メニューを表示する：** ⮌ スイッチを押します。
▶ 新しいｳｲﾝﾄﾞｳで開くを選択する：コントローラーをまわして押します。 ウェブサイトが新しいウインドウで開きます。	▶ コントローラーをまわして、オプションを選択します。
	▶ 新しいｳｲﾝﾄﾞｳで開くを選択する：コントローラーをまわして押します。 ウェブサイトが新しいウインドウで開きます。

ブックマークに追加

記載内容 **訂正内容**

記載内容：

▶ **メニューを表示する：** スイッチを押します。

▶ ブックマークに追加を選択する：コントローラーをまわして押します。

確認が表示されます。

▶ 新しい Add bookmark (all seats)（ブックマークを追加（全シート））または Add bookmark (seat)（ブックマークを追加（シート））を選択します。

The website was added to bookmarks（ウェブサイトがブックマークに追加されました）というメッセージが表示されます。

訂正内容：

▶ **メニューを表示する：** スイッチを押します。

▶ コントローラーをまわして、オプションを選択します。

▶ ブックマークに追加を選択する：コントローラーをまわして押します。

確認が表示されます。

▶ ブックマークに追加（全席で使用可能）またはブックマークに追加（この席でのみ使用可能）を選択します。

ウェブサイトが全席で使用可能なブックマークに追加されましたまたはウェブサイトがこの席でのみ使用可能なブックマークに追加されましたというメッセージが表示されます。

設定

プライベートデータの削除

記載内容 **訂正内容**

記載内容：

▶ 希望の設定を選択します。

ドット • は現在の設定を示します。

または

▶ 全削除を選択します。

設定を作動 ☑ または解除 ☐ に切り替えます。

訂正内容：

▶ コントローラーをまわして、希望の設定を選択します。

または

▶ 終了時にデータをすべて削除を選択します。

設定を作動 ☑ または解除 ☐ に切り替えます。

ラジオ

ラジオモード

ラジオメニューの概要

記載内容	→	訂正内容
ラジオメニューバー		**ラジオメニューバー**
• ｵﾌﾟｼｮﾝ / 周波数入力 周波数の手動入力		• ｵﾌﾟｼｮﾝ / 周波数入力 周波数の手動入力
• ｵﾌﾟｼｮﾝ / 現在の放送局ﾘｽﾄ 使用可能な放送局のリスト		• ｵﾌﾟｼｮﾝ / 現在の放送局ﾘｽﾄ 使用可能な放送局のリスト
• ｵﾌﾟｼｮﾝ / 別の席で開始 他のシートでのラジオの開始		• ｵﾌﾟｼｮﾝ / 別の座席で開始 他のシートでのラジオの開始
• ｵﾌﾟｼｮﾝ / 編集 放送局プリセットの選択および編集		• ｵﾌﾟｼｮﾝ / ﾌﾟﾘｾｯﾄﾘｽﾄ編集 放送局プリセットの選択および編集
• ｵﾌﾟｼｮﾝ 交通案内のオン / オフの切り替え		• 交通情報 交通案内のオン / オフの切り替え
• 周波数バンド ラジオ周波数バンドの選択		• 帯域 ラジオ周波数バンドの選択
• サウンド サウンドの設定		• ｻｳﾝﾄﾞ サウンドの設定

記載内容	→	訂正内容
HD FM または HD AM ラジオモードをオンにする		**FM または AM ラジオモードをオンにする**

放送局の保存

記載内容		訂正内容
マークした放送局の移動 ▶ マークした放送局を新しい位置に移動する：コントローラーをまわし、押して確定します。 保存リストの新しい位置への放送局の転送が終了したことを、確認音によって知らせます。		**保存した放送局の移動** ▶ 保存した放送局を新しい位置に移動する：コントローラーをまわし、押して確定します。

記載内容		訂正内容
マークした放送局の削除 ▶ 追加メニューで 放送局削除 オプションを選択する：コントローラーをまわして、押します。 リストからの放送局の削除が終了したことを、確認音によって知らせます。		**保存した放送局の削除** ▶ 追加メニューで 放送局削除 オプションを選択する：コントローラーをまわして、押します。 ▶ はいを選択します。 放送局が削除されます。

メディア

メディアモードをオンにする

メディアスイッチの使用

記載内容	訂正内容
▶ メディアソースを選択する：希望のメディアソースが設定されるまで、MEDIA スイッチを押し続けます。	▶ メディアソースを選択する：希望のメディアソースが設定されるまで、MEDIA スイッチを繰り返し押します。
メディアソースが以下の順で表示されます。	メディアソースが以下の順で表示されます。
• CD/DVD • メモリーカード • メディアレジスター • USB 1 • ﾒﾃﾞｨｱｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ 1 • USB 2 • ﾒﾃﾞｨｱｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ 2 • BT オーディオ • テレビ（車両にテレビが装備されている場合） • 外部入力	• ディスク • メモリーカード • メディアレジスター • ﾒﾃﾞｨｱｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ 1 • ﾒﾃﾞｨｱｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ 2 • Bluetooth オーディオ • テレビ • 外部入力

他のシートでの開始

記載内容		訂正内容
▶ 別の座席で操作 を選択します。 メディアソースを SplitView（スプリットビュー）、後席 右 または 後席 左に切り替えるオプションのある他のメニューが表示されます。 追加ｵﾌﾟｼｮﾝ を使用して、選択したシートのペアレンタルコントロール画面を操作します。		▶ 別の席でこのｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝを開始 を選択します。 メディアソースを、後席 右 または 後席 左に切り替えるメニューが表示されます。 追加ｵﾌﾟｼｮﾝ を使用して、選択したシートのペアレンタルコントロールの設定を行なうことができます。
▶ 例えばメディアソースを SplitView（スプリットビュー）に切り替える：コントローラーをまわして、押します。		▶ 例えばメディアソースを 後席 右 に切り替える：コントローラーをまわして、押します。

オーディオ / ビデオモード

記載内容		訂正内容
シングル CD/DVD ドライブでのディスクの挿入および取り出し		ℹ 日本仕様には、左記の機能はありません。

記載内容 訂正内容

記載内容

DVD チェンジャーへのディスクの挿入

DVD チェンジャーには 6 つのトレイ付きマガジンがあります。

CD/DVD を挿入する前に、カップホルダーが空で、飛散防止用フラップが開いていることを確認します。

▶ **CD/DVD をマガジントレイに挿入する：** ◉ スイッチを押します。

マガジンメニューが表示されます。

▶ **マガジントレイを選択する：** コントローラーをまわし、押して確定します。DVD チェンジャーは、選択されたマガジントレイに切り替わります。

訂正内容

CD/DVD チェンジャーへのディスクの格納

CD/DVD チェンジャーには 6 つのトレイ付きマガジンがあります。

CD/DVD を格納する前に、カップホルダーに容器がなく、カップホルダーのカバーが閉じていることを確認します。

▶ **マガジントレイを選択してディスクを格納する：** ◉ スイッチを押します。

マガジンメニューが表示されます。

▶ **マガジントレイを選択する：** コントローラーをまわしてマガジントレイを選択し、押して確定します。CD/DVD チェンジャーは、選択されたマガジントレイに切り替わります。

記載内容 訂正内容

記載内容

DVD チェンジャーからのディスクの排出

▶ ディスクを選択する： コントローラーをまわし、押して確定します。

DVD チェンジャーがディスクを排出します。

訂正内容

CD/DVD チェンジャーからのディスクの排出

▶ ディスクを選択する： コントローラーをまわしてディスクを選択し、押して確定します。

CD/DVD チェンジャーがディスクを排出します。

トラックの選択

現在のトラックリストを使用しての選択

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ **現在のトラックリストを表示する：** 基本画面でコントローラーを押します。

作動しているデータメディアのトラックリストが表示されます。

訂正内容

▶ **現在のトラックリストを表示する：** 基本画面でコントローラーを押します。

▶ 現在の曲のリスト を選択します。

作動しているデータメディアのトラックリストが表示されます。

Bluetooth® オーディオの操作

Bluetooth® オーディオ機器を検索・認証する

Bluetooth® オーディオモードに切り替える

記載内容 **訂正内容**

記載内容

- ▶ メニューから Bluetooth ｵｰﾃﾞｨｵ を選択する：コントローラーをまわして、押します。

  メニューが表示されます。

  Bluetooth オーディオ 認証されていません。というメッセージが表示された場合は、最初に Bluetooth® オーディオ機器を認証する必要があります。

- ▶ Bluetooth ｵｰﾃﾞｨｵﾃﾞﾊﾞｲｽ を選択する：コントローラーを押します。

  新しいメニューが表示されます。

訂正内容

- ▶ メニューから Bluetooth ｵｰﾃﾞｨｵ を選択する：コントローラーをまわして、押します。

  メニューが表示されます。

  ｵｰﾃﾞｨｵﾃﾞﾊﾞｲｽが接続されていませんというメッセージが表示された場合は、最初に Bluetooth® オーディオ機器を認証する必要があります。

- ▶ Bluetooth ｵｰﾃﾞｨｵﾃﾞﾊﾞｲｽ を選択する：コントローラーを押します。

  Bluetooth® オーディオデバイスリストが表示されます。

音楽再生オプションを選択する

音楽再生オプションを選択する

記載内容 **訂正内容**

記載内容

- ▶ ｵﾌﾟｼｮﾝ を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ Play back music（音楽再生）を選択します。

  ドット • は現在の設定を示しています。

- ▶ 希望のオプションを選択します。

  ﾗﾝﾀﾞﾑ（曲）を選択した場合は、対応するメッセージが表示 / 選択ウインドウに表示されます。

訂正内容

- ▶ ｵﾌﾟｼｮﾝ を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ プレイモードを選択します。

  ドット • は現在の設定を示しています。

- ▶ 希望のオプションを選択します。

  ﾗﾝﾀﾞﾑ（曲）または ﾗﾝﾀﾞﾑ（音楽ﾒﾃﾞｨｱ）を選択した場合は、対応するメッセージが表示 / 選択ウインドウに表示されます。

メディアインターフェースモード

検索機能

概要

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
Apple® の機器を接続しているときは、“フォルダ”、“リリースされた年” および “写真” のカテゴリーは使用できません。	接続する機器によっては、“フォルダ”、“リリースされた年” および “写真” のカテゴリーは使用できません。

オーディオ AUX モード

オーディオ AUX モードに切り替える

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ AUX を選択します。 オーディオ AUX メニューが表示されます。オーディオソースがオンになっていて、再生が作動している場合は、メディアが再生されます。	▶ 外部入力 を選択します。 オーディオ AUX メニューが表示されます。オーディオソースがオンになっていて、再生が作動している場合は、メディアが再生されます。

オーディオ AUX オプションの設定

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ メニューバーで オプション を選択する：コントローラーをスライドして ◎ ⬇、押します。 メニューが表示されます。モノラル / ステレオ、音量 および TA を設定できます。	▶ メニューバーで オプション を選択する：コントローラーをスライドして ◎ ⬇、押します。 メニューが表示されます。モノラル / ステレオ、音量 を設定できます。

ビデオ AUX の操作

ビデオ AUX モードに切り替える

記載内容	訂正内容
▶ ビデオ を選択します。 ドット • は現在の設定を示します。 ビデオソースが接続され、再生が選択されている場合、ビデオ が選択された場合は、外部ビデオソースからの映像が表示されます。	▶ TV/ 映像を選択します。 ドット • は現在の設定を示します。 ビデオソースが接続され、再生している場合、TV/ 映像を選択すると、外部ビデオソースからの映像が表示されます。

その他のオプションの設定

記載内容	訂正内容
▶ メニューバーで オプション を選択する：コントローラーをスライドして ◎⬇、押します。 メニューが表示されます。画面設定、モノラル / ステレオ、音量 および TA を設定できます。	▶ メニューバーで オプション を選択する：コントローラーをスライドして ◎⬇、押します。 メニューが表示されます。画面設定、モノラル / ステレオ、音量 を設定できます。

テレビモード

概要

テレビ機能

記載内容	訂正内容
• 以下のサービス 受信品質に応じて、テレビチューナーは同じ番組内容で、より受信状態の良い代替チャンネルに自動的に切り替えます。	• 放送局自動切換え 受信品質に応じて、テレビチューナーは同じ番組内容で、より受信状態の良い代替チャンネルに自動的に切り替えます。

テレビモードへの切り替え

記載内容	→	訂正内容
ⓘ 車両が 5km/h 以上で走行している場合は、運転席からのテレビ画像は非表示になり、コントロールメニューが表示され続けます。テレビ映像はスプリットビュー経由で助手席乗員に表示され続け、コントロールメニューが約 8 秒間表示されます。		ⓘ 車両が 5km/h 以上で走行している場合は、テレビ画像は非表示になり、コントロールメニューが表示され続けます。

コントロールメニュー

コントロールメニューの情報

記載内容	→	訂正内容
番組名がディスプレイ上部に表示されます（現在のチャンネル）。利用可能な場合は、その前に番組情報マークが表示されます。		番組名がディスプレイ上部に表示されます（現在のチャンネル）。利用可能な場合は、その後に番組情報マークが表示されます。

テレビメニューの表示 / 非表示

非表示にする

記載内容	→	訂正内容
▶ コントローラーをスライドします ↑◎。 マークがディスプレイの右に表示されます。 ▶ コントローラーを押します。		▶ コントローラーをスライドします ↑◎。 全画面マークがディスプレイの右に表示されます。 ▶ コントローラーを押します。

記載内容	→	訂正内容
スプリットビューでのテレビモード		ⓘ 日本仕様には、左記の機能はありません。

テレビチャンネルの選択

チャンネルリストで

記載内容		訂正内容
▶ 番組プレビューを表示する：コントローラーをスライドします ◎➡。		▶ 次の番組を表示する：コントローラーをスライドします ◎➡。

テレビの基本設定

音声言語 / 字幕 / 追加テキストの設定

記載内容		訂正内容
▶ テレビメニューを表示する：全画面モードの間にコントローラーを押します。		▶ テレビメニューを表示する：全画面モードの間にコントローラーを押します。
▶ オプション を選択する：コントローラーをまわして、押します。		▶ オプション を選択する：コントローラーをまわして、押します。
▶ オーディオ / サブタイトル を選択します。		▶ 音声と字幕 を選択します。

その他の機能

B-CAS カードに関する情報の表示

記載内容	→	訂正内容
ⓘ 使用できるグループ ID がない場合は、未設定 項目をご覧ください。		ⓘ 使用できるグループ ID がない場合は、未設定 が表示されます。

ビデオ DVD モード

メニューオプション

他のシートでの開始

		訂正内容
▶ 別の席で開始 を選択する：コントローラーをまわして、押します。 メニューが表示されます。		▶ 別の席でこのアプリケーションを開始 を選択する：コントローラーをまわして、押します。 メニューが表示されます。

記載内容	訂正内容
DVD 機能	DVD 機能メニュー
停止機能 ▶ **再生の中断** コントローラーをまわして押して、DVD 機能メニューから ■ を選択します。 II の表示が ▶ に変わります。ビデオ映像が消えます。 ▶ **再生を停止する：**再生が中断されている間に、■ を再度選択します。	停止機能 ▶ **再生の中断** コントローラーをまわして押して、DVD 機能メニューから ■ を選択します。 II の表示が ▶ に変わります。 ▶ **再生を停止する：**再生が中断されている間に、■ を再度選択します。 ビデオ映像が消えます。

画像ビューワー

全体的な注意事項

記載内容	訂正内容
ⓘ 車両が動いている間は、運転席側から画像を見ることはできません。	ⓘ 車両が動いている間は、画像を見ることはできません。

画像を表示する

記載内容	訂正内容
▶ メディアの基本画面で、コントローラーを押します。 カテゴリーリストのある 検索 が表示されます。	▶ メディアの基本画面で、コントローラーをスライドして ◎⬇、まわして検索 を選択します。

サウンド

Burmester® サラウンドサウンドシステム

スピーカーソースの変更

記載内容 **訂正内容**

記載内容

スピーカー音源切替え は、それぞれのシートでどのメディアソースがスピーカーシステムに出力されるかを指定します。

例：後席 左 に座っていて、マルチシートエンターテインメントシステム（MSE）経由でラジオを聴いている人がいます。この方は、サウンドシステムを使用するのではなく、ヘッドホンを使用して聴きたくはありません。この場合は、スピーカー音源切替え で 後席 左 を選択します。

- ▶ スピーカー音源切替え のロータリーメニューを作動させます。コントローラーをスライドします ◎⬇。

訂正内容

スピーカー音源切替え は、どのシートのメディアソースがスピーカーシステムに出力されるかを指定します。

例：後席 左 に座っていて、リアエンターテインメントシステム経由でラジオを聴いている人がいるとします。この方がヘッドホンを使用せずにサウンドシステムでこの音源を聴きたい場合は、スピーカー音源切替え で 後席 左 を選択します。

- ▶ コントローラーをスライドして ◎⬇、スピーカー音源切替え を操作できるようにします。

リアエンターテインメント

リアエンターテインメントシステムの概要

全体的な注意事項

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
● 異なるソースからのメディアが使用されている場合は、それぞれの操作位置から個別に使用することができます。例：DVD ドライブからの映像が後席右側の操作位置で再生されています。これは、同じ DVD からの他の映像は後席左側の操作位置で独立して再生できないことを意味します。しかし、後席左側の操作位置ではラジオ、テレビ、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、USB、オンラインおよびインターネット機能または外部入力を使用することができます。	● 異なるソースからのメディアが使用されている場合は、それぞれの操作位置から個別に使用することができます。例：DVD ドライブからの映像が後席右側の操作位置で再生されています。これは、同じ DVD の他の映像は後席左側の操作位置で独立して再生できないことを意味します。しかし、後席左側の操作位置ではラジオ、テレビ、メモリーカード、メディアレジスター、USB、オンラインおよびインターネット機能または外部入力を使用することができます。

後席用ディスプレイ

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
ディスプレイ角度の設定	ⓘ ディスプレイ角度の調整は手動で行ないます。

リモコン

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
サウンドのオン / オフを切り替える（コード付きヘッドホンのみ）	**サウンドのオン / オフを切り替える**

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
USB ポート	ⓘ 日本仕様には、左記の機能はありません。

コードレスヘッドホン

概要

記載内容		訂正内容
ℹ 電池を保護するため、オーディオ信号を約３分間受信していない場合は、ヘッドホンは自動的にオフになります。		ℹ 電池を保護するため、イグニッションスイッチをオフにしてから約５分後に、ヘッドホンは自動的にオフになります。

電池の交換

コードレスヘッドホンの電池の交換

記載内容		訂正内容
▶ **電池収納部を開く：**電池収納部カバー①を時計回りにまわして、取り外します。		▶ **電池収納部を開く：**電池収納部カバー①を反時計回りにまわして、取り外します。
▶ **電池収納部を閉じる：**電池収納カバー①を合わせ、固定されるまで反時計回りにまわします。		▶ **電池収納部を閉じる：**電池収納カバー①を合わせ、固定されるまで時計回りにまわします。

システム設定

表示言語を選択する

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ リモコンの ▼ ◀ ▶ スイッチを使用して 設定 を選択し、OK スイッチを押して確定します。

選択したリアスクリーン用のシステム設定メニューが表示されます。

▶ ▲ ▼ スイッチを使用して 言語 / Language を選択し、OK スイッチを押して確定します。

言語の一覧が表示されます。• は現在の設定を示しています。

▶ ▲ ▼ スイッチを使用して言語を選択し、OK スイッチを押して確定します。

システムが対応する言語を作動させます。

訂正内容

▶ リモコンの ▼ ◀ ▶ スイッチを使用して 言語 を選択し、OK スイッチを押して確定します。

選択したリアスクリーン用のシステム設定メニューが表示されます。

▶ ▲ ▼ スイッチを使用して COMAND と同期、日本語 または English のいずれかを選択し、OK スイッチを押して確定します。

• は現在の設定を示しています。

システムが対応する言語を作動させます。

ディスプレイデザインの変更

記載内容 訂正内容

記載内容

▶ リモコンの ▼ ◀ ▶ スイッチを使用して 設定 を選択し、OK スイッチを押して確定します。

選択したリアスクリーン用のシステム設定メニューが表示されます。

▶ リモコンの ▲ ▼ スイッチを使用して 画面設定 を選択し、OK スイッチを押して確定します。

訂正内容

▶ リモコンの ▼ ◀ ▶ スイッチを使用して 画面設定 を選択し、OK スイッチを押して確定します。

選択したリアスクリーン用の画面設定メニューが表示されます。

画面を非表示 / 表示する

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ リモコンの [▼] スイッチを押します。 メニューが表示されます。 ▶ [▲][▼][◀][▶] スイッチを使用して 画面オフ を選択し、OK スイッチを押して確定します。	▶ リモコンの [▼][◀][▶] スイッチを使用して 画面設定 を選択し、OK スイッチを押して確定します。 ▶ リモコンの [▲][▼] スイッチを使用して 画面オフ を選択し、OK スイッチを押して確定します。

画質の設定

明るさ、コントラスト、色合いを調整する

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ [◀][▶] スイッチを使用して [⌂] を選択し、押して OK 確定します。 メニューが表示されます。 ▶ [▼][◀][▶] スイッチを使用して 画面設定 を選択し、OK スイッチを押して確定します。	▶ DVD ビデオは [◀][▶] スイッチを使用して [⌂] を選択し、押して OK 確定します。 メニューが表示されます。 ▶ [▼][◀][▶] スイッチを使用して 画面設定 または 映像設定（テレビ）を選択し、OK スイッチを押して確定します。

オーディオ / ビデオモード

オーディオ / ビデオモードを切り替える

記載内容 訂正内容

記載内容	訂正内容
▶ **他のメディアに切り替える：**機器を対応するジャック（LINK）に差し込みます。 システムは機器にある再生可能なファイルを検索し、それらを再生します。	▶ **他のメディアに切り替える：**機器を対応する USB ポートに差し込みます。 システムは機器にある再生可能なファイルを検索し、それらを再生します。

ビデオ DVD モード

オーディオフォーマットを設定する

記載内容 → **訂正内容**

記載内容

- ▶ リモコンの OK スイッチを押してメニューを表示します。
- ▶ リモコンの ▲ ▼ ◀ ▶ スイッチを使用して DVD を選択し、OK スイッチを押して確定します。
- ▶ DVD 設定 を選択して、OK スイッチを押して確定します。
- ▶ 音声言語 を選択して、OK スイッチを押して確定します。

  しばらくするとメニューが表示されます。項目の前にあるドット • は、現在選択されている言語を示しています。
- ▶ ▲ ▼ スイッチを使用して言語を選択し、OK スイッチを押して確定します。
- ▶ **メニューを終了する：** ◀ または ▶ スイッチを押します。

訂正内容

- ▶ リモコンの OK スイッチを押してメニューを表示します。
- ▶ リモコンの ▲ ▼ ◀ ▶ スイッチを使用して を選択し、OK スイッチを押して確定します。
- ▶ **メニューを終了する：** スイッチを押します。

記載内容 → **訂正内容**

記載内容	訂正内容
AUX モード	外部入力モード

外部入力モードに切り替える

ドライブ外部入力

記載内容 → **訂正内容**

記載内容

- ▶ リモコンの ▲ ◀ ▶ スイッチを使用して AUX を選択し、OK スイッチを押して確定します。

  外部入力機器が作動すると、外部入力ソースがオンになります。

訂正内容

- ▶ メディアメニューでリモコンの ◀ ▶ スイッチを使用して 外部入力 を選択し、OK スイッチを押して確定します。

  外部入力機器が作動すると、外部入力ソースがオンになります。

デジタル版取扱説明書の訂正事項

収納と機能

機能

電動ブラインド（リアウインドウ）

運転席からの展開 / 格納

記載内容 訂正内容

記載内容：

▶ **停止する**：スイッチ①を再度軽く押します。

電動ブラインドが少し停止し、未使用の位置に格納します。

訂正内容：

▶ **停止する**：スイッチ①を再度軽く押します。

電動ブラインドが少し停止し、反対の方向に作動します。

メンテナンスおよび手入れ

エンジンルーム

エンジンオイル

エンジンオイルの追加

記載内容 訂正内容

記載内容：

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

訂正内容：

! 車両の点検整備のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。メルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

冷却水

冷却水レベルの点検

記載内容 訂正内容

記載内容

- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわします。

または

- ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを外します。
- ▶ キャップ①を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

訂正内容

- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわします。

または

- ▶ キーレスゴースイッチを押してイグニッションをオフにします。
- ▶ クリップを外して、冷却水リザーブタンク上のカバーを取り外します。
- ▶ キャップ①を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

他のサービスプロダクト

ウインドウウォッシャーシステムの補給

記載内容 訂正内容

記載内容

- ▶ **開く：**タブを持ってキャップ①を引き上げます。
- ▶ 補給口の端にキャップ①を置き、その場所に固定します。

訂正内容

- ▶ **開く：**タブを持ってキャップ①を引き上げます。

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

http://www.mercedes-benz.co.jp

編集オフィス

車両メーカー

Daimler AG

Mercedesstrasse 137
70327 Stuttgart
Germany

※この取扱説明書の内容は、2013 年 09 月現在のものです。